

原子力とともに 半世紀

森一久論説・資料目録



訂正版(2018年1月)

訂正箇所は赤字で表示

原子力とともに 半世紀

森一久論説・資料目録



森一久資料編集会

代表／菅野禮司

井上 信、喜多尾憲助、曾我見郁夫、
高田容士夫、藤原章生



森一久氏(2009年9月)

原子力とともに 半世紀

森一久論説・資料目録



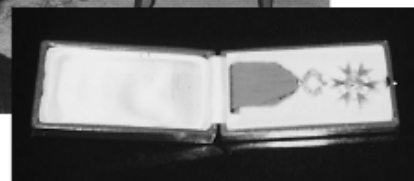
1954年 原子カコロキウム 精進湖畔の小学校
後列右から2人目



1955年頃
中央公論社「自然」編集部時代



1971年フランス
「グラン・ド・シュヴァリエ・ド・ロード・デ・メリット勲章」





1963年頃 12チャンネル兼務時代

左から2人目



前列右から2人目



1989年 浜岡原発見学 左から2人目

1989年 日本原子力産業会議時代





1997年 韓国「大韓民国国民勲章石榴章」



2002年 日本原子力産業会議
北陸原子力懇談会
平成14年度総会



2002年 日本原子力産業会議職員と 前列左から6人目

森一久氏の遺した資料を 保存するにあたり

森一久氏は広島に落とされた原爆でご家族を失い、本人も被爆されたが九死に一生をえた。その後京都大学理学部に復学されて湯川研究室に所属し1948年に卒業した。卒業後、湯川秀樹教授の推薦で、直ちに中央公論社に入社し、科学雑誌『自然』の編集に携わった。この『自然』は戦後の科学教育と啓蒙に大きく貢献した科学誌である。

1953年頃から、原子力の平和利用として原子力発電の計画が日本で動き始めた。政界と先達の科学者の一部からその声上がり、電力経済研究所が原子力調査研究に着手した。その動きに、経団連など産業界も関心を寄せ始めた。

他方、物理・化学の若手研究者のグループが、この原子力利用の計画を重要視して勉強会「原子力コロキウム」を行った。それを引き継いで、1954年に森一久氏らが中心になり自主的組織「原子力談話会」を立ちあげた。この「談話会」では原子力の平和利用の是非と、始めるならその条件などについて熱心な議論が重ねられた。

丁度その頃、電力経済研究所が「原子力発電の着手を急げ」という趣旨の「建議」を発表した。それに対して原子力談話会の代表の数人が反論・抗議に押しかけ「原爆体験からしても、平和利用といえども着手の是非についてまず慎重に議論を尽くすべきだと強く主張した。」応対にでた橋本清之助(元貴族議員)らの常務理事が、「以前軍部の独走を許した戦争責任を痛感すればこそ、日本復興への原子力平和利用の可能性を強く期待するのだ。むしろ君ら若い者こそ開発に参加して間違いない開発を目指し、チェックすべきではないか」と応じ、互いの真意を率直に長時間戦わせた。その結果、談話会側と電力経済研究所側とは、立場の違いに一線を画しながらも、世代の違いを超えて一種の共感を持つにいたった。そして、情報や資料の交換などで具体的な協力を深めていった。これが「原子力界に踏み込む第一歩であった」と、森一久氏は語っている。(『オーラルヒストリー』)。

日本は唯一の原爆被爆国であり、また自らも被爆者として、原子力との関わりはひときわ強いと感じ、森氏は人類が原子力とどう向き合うべきかを真摯に考えていた。

森一久氏は日本の原子力利用の開発の初期からそれに関与し、生涯原子力の平和利用に尽力した。原子力産業会議(原産)の発足から参加し、事務局長を経て最後は副会長まで務めた。その生き方は、日本のみならず国際的にも活動の場を広げ、原子力の平和利用、特に原子力発電とその周辺事業(アイソトープ、温廃水養魚など)に一生を捧げたと言えるものであった。

また、原産を退任された後も、UCN会を設立し原子力や教育・文化などについて多面的な活動を最後まで続けた。

日本の原子力政策、なかでも原子力発電計画の方針については、その出発点から政府(政治家)と学者との間に種々意見の対立があった。そのせめぎ合いの狭間に位置し、現実的に原子力開発を推し進めてきた原産、その中であって実質的に原産を動かしてきた森一久氏の生涯の活動記録は原子力発電史には欠かせないものであろう。それゆえ、氏の遺された資料は、日本の原子力史にとって極めて貴重なものであるばかりでなく、国際的にも価値あるものと思われる。

森一久氏が原子力産業会議を退任された2004年に、原子力産業会議が原子力産業協会に改組され、その後に原産時代の資料の一部が廃棄されたと、元秘書の方から聞き及んでいる。それゆえ、森氏の遺された原発開発記録、著書・論文、講演・記事、日記・メモ類などの各種資料には貴重なものが含まれているであろう。

日本の原子力政策は、原子力の平和利用に徹することを掲げてきた。だが現実には、政府と産業界の経済性優先の施策に押されて原発開発を急ぐ余り、安全性に関しては杜撰なところがあった。それゆえ、政府と原子力業界の体質には批判されるべき点が多々あるだろう。

原子力産業会議の要職にあり、政界や財界に囲まれた「原子カムラ」の中に身を置いた者は、初期の信念を曲げてその渦中に巻き込まれがちであるが、森一久氏は

節を曲げず初心を貫き通したといえるだろう。氏は原子力の平和利用の理想像を求めて、原発推進派の一人として積極的に活動し続けた。そのなかで、批判意見には耳を傾け、原子カムラの体質に抗して苦言を呈してきた。だが今にして思えば、その積極的推進活動には批判される点も少なからずあろう。いずれにせよ、誠実かつ几帳面な人柄と私利私欲を離れた活躍を思えば、氏の遺された記録には粉飾や偽りはないと信じる。それゆえ、他に見られない真実が語られていると思う。これが森氏の資料の整理・保存を思い立った理由である。

不幸にして東日本大震災に伴い福島第一原発の過酷事故が起こり、計り知れぬ被害をもたらした。この事故を境にして、これまでの日本における原子力発電の政策が根本から検討を迫られている。今日までの日本の原子力政策の当否を判断するに当たって、この事故原因をつぶさに検証したうえで結論をだし、今後の原子力発電の方針を立てるべきである。そのためにもこの記録を整理し纏めておくことは有意義なことであると思われる。

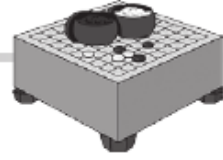
福島第一原発の大事故を契機にして、日本の原子力政策は根本的に検討し直すことが強く求められている。森氏はこの事故の前に逝去されたので、この原発事故とそれまでの原発政策に対する判断を直接聞くことができないのは誠に残念である。存命であったなら、おそらく忸怩たる思いで心痛と怒りを吐露されたことであろう。

私たちの非力ゆえにエネルギーと時間が足りず、残念ながら、取りあえず資料の散逸と破損を防ぐべくこのような形式で目録の作成と整理に止めざるをえなかった。後日に科学史家が日本の原子力史を編纂する上で、これらの資料がそのお役に立てば幸いである。

この生資料を今後とも永く保管することが望まれる。その保存に協力して下さる施設があるならばご連絡頂きたい。(文責 菅野)

目次

森一久氏写真	4
まえがき 森一久氏の遺した資料を保存するにあたり	7
森一久・年譜	13
外部機関委嘱委員等	19
著書・論文・蔵書 資料総目録	21
著書・編書・翻訳書、論文	22
資料リスト利用の手引き	23
年次順資料目録	24
事項別資料目録	93
蔵書目録	148
絶筆 「世界・日本の運命の分かれ道」 森一久	157



回想Ⅰ		
原子力の平和利用を求め続けた生涯	163
森一久氏の急逝を悼む	大塚益比古164
森さんの時代	喜多尾憲助166
原子力に運命的に結ばれた人	菅野禮司172
森一久さんの思い出	曾我見郁夫178
資料整理作業に参加して	高田容士夫181
これからの原子力を考える	井上 信185
回想Ⅱ		
森一久氏の思い出	193
森一久君の思い出—広島高校時代から—	石田 望194
森さん その存在に感動する	藤原章生198
原産時代の森一久氏	木室美生203
師	津田敦子207
平成になってからの事	森 禮子211
あとがき	215



森一久・年譜

森一久・年譜

年	月日	年齢	記事	関連記事
1926(大5)	1/17		広島県広島市で生まれる (父恒三、母カヨの第5子)	
1937(昭2)	7	11		日中戦争始まる
1941(昭16)	12	15		太平洋戦争始まる
1942(昭17)	3	16	県立広島一中4修	
1944(昭19)	9	18	広島高等学校理科甲類卒	
	〃		京都帝国大学理学部物理学科入学	
1945(昭20)	8/6	19	広島市山口町電停前の自宅 (広島市幟町)で就寝中に被爆。 爆心地から1.5km	米、広島を原爆攻撃
	8/9			米、長崎を原爆攻撃
	8末		神戸に移る	
	9		9月初め? 阪大小沢内科で受診。 白血球数700、赤血球数約150万	
	11		体温平熱に戻る(11/3)	
1946(昭21)	5	20	白血球数3000に回復。 広島行き許可される	中央公論社「自然」創刊
1948(昭23)	3	22	京都帝国大学理学部物理学科卒。 湯川研	
	4		(株)中央公論社入社。 「自然」、「婦人公論」編集部勤務。 日本橋八丁堀に住む	
1949(昭24)	12.23			湯川秀樹、ノーベル物理学賞受賞
1950(昭25)	6	24		朝鮮戦争勃発
1951(昭26)	1	25		HDスマイス著「原子爆弾の完成」杉本他訳、 岩波書店刊
	6			電力再編。9 電力足発足
	10			長田新編「原爆の子」、岩波書店刊
	9			対日講和条約調印
	10			伏見康治、学術会議で講和条約に原子力研究の 禁止が含まれないよう提案
1952(昭27)	4	26		講和条約発効。原子力研究解禁
	5			自由党、科学技術庁提案。 核兵器研究を含む原子力開発提案
	7			湯川記念館開館。茅誠司、原子力委員会の 必要性説く
	9			電源開発(株)設立。(財)電力経済研究所設立
	10			学術会議総会で茅・伏見提案 (原子力委設置を審議する委員会の設置)
1953(昭28)	1	27		学術会議、第39委員会設置。原子力問題を検討
	5		飯塚禮子(23歳)と結婚	
	8			ソ連、水爆実験
	12			米大統領アイゼンハワー 「アトムズフォアピース」演説
1954(昭29)	3	28		米、太平洋ビキニ環礁で水爆実験。 ビキニ事件起こる
	〃			保守3党、原子炉予算追加案提出(4.自然成立)
	4			学術会議、原子力平和利用三原則提案
	5			閣議、原子力利用審議会設置 (原子力委員会の前身)

	5			原水爆禁止署名運動全国協、結成
	//			ソ連、世界初の非軍事用原発運転
	8		原子力コロキウム (精進湖 8/10~16)の企画と参加	
	//		原子力談話会に参加	原子力談話会結成
	11		シュアー、マーシャック監修 「原子力発電の経済的影響」を翻訳 (東洋経済刊)	
	12			雑誌「原子力」創刊(みすず書房)。 55/11以降休刊
1955(昭30)	4	29		経団連、原子力平和利用懇談会設置
	//			政府、米ウラン受け入れ
	6		服部学、大塚益比古と共に、 電力経済の建議に抗議	電力経済、新エネルギー研究委員会を 原子力平和調査会に改称。 原子力産業利用促進で建議(6/18)
	7			ラッセル・アインシュタイン宣言
	8			原子力談話会、夏の学校開く (上諏訪、8/10~12)
	//			第1回原子力平和利用国際会議(ジュネーブ) 開催(8/8~20)
	9		第一子啓明誕生(9/15)	
	11			日米原子力(研究)協定調印
	12			原子力基本法他成立
1956(昭31)	1	30	湯川原子力委員の辞意に 翻意を要請	原子力委員会設置(正力松太郎、石川一郎、 藤岡由夫、湯川秀樹*、有澤廣巳*) *非常勤
	3			日本原子力産業会議発足。会長菅禮之助東京電 力社長。電力経済の原子力活動を引き継ぐ
	4		電源開発入社。翌日原産派遣 (電源開発に1965/3まで在籍)	
	5			英コールドーホール1号炉発電開始
	6			日本原子力研究所発足
	8			原子燃料公社発足
	10			政府、IAEA加盟決定
1957(昭32)	1	31		第1回原子力シンポジウム(主催 学術会議)
	3			湯川、原子力委員辞任
	4		K・ジェイ「原子力発電所 —コールドーホール物語」を伏見、 末田と共訳(岩波新書・現在絶版)	
	11			日本原子力発電設立
1958(昭33)	2	32		原産、原子力補償問題特別委・原子力船懇談会 設置
	9		訪欧。ジュネーブ会議に 民間代表顧問として出席	第2回ジュネーブ会議 (政府代表 湯川秀樹、石川一郎)
1959(昭34)	9		政府委託調査「大型原子炉の事故の 理論的可能性および公衆損害に関す る試算」を主導	原産、政府受託調査最終報告(1960/3)
1960(昭35)	1	34	第二子美土誕生(1/11)	
	12		藤沢市鶴沼桜ヶ丘に転居	
1962(昭37)	11	36		原産、日仏原子力技術会議設置
1963(昭38)	1	37		原産、日仏協力委員会設置
	4		東京12chテレビ編成部長(兼務) (~65)	東京12chテレビ開局は1965/4
	8			原子力船開発事業団設立
	10			日本初の原子力発電(発電試験炉JPDR)

1964(昭39)	6	38		(財)原子力安全研究協会設立
	9			原燃公社、茨城県及び東海村に 再処理施設設置申請
1965(昭40)	4	39	原子力安全研究協会理事	
	8			日本原子力普及センター設立。 日本初の原子力展示館(東海村)
	10			原燃、再処理工場詳細設計をSGN(仏)に発注
1966(昭41)	2	40		原産、電算機CDC3600共同利用サービス開始
1967(昭42)	10	41	漁業者調査団員として訪欧	原産、再処理施設環境問題で漁業者調査団
1968(昭43)	4	42	原産電算機室長	
	6			国連総会、核兵器不拡散条約(NPT)支持決議
	11			原子力船むつ着工
1969(昭44)	4	43	原産事務局長	
	7		原子力文化振興財団理事	(財)日本原子力文化振興財団設立
1970(昭45)	3	44		核兵器不拡散条約発効
	4		訪欧米。原産派遣保障措置問題 調査団に同行	
	10			関電美浜原発1号、万博会場に送電
1971(昭46)	3	45		東電福島第一1号、営業運転開始
	10		15年史の企画・編集・執筆	原産、原子力開発史 「日本の原子力—15年のあゆみ」刊
	12		日仏原子力協力で仏勲章 「グラン・ド・シュバリエ・ド・ ロード・デ・メリット」受ける	
1972(昭47)	4	46		核物質管理センター設立
	6		温水養魚開発協会常務理事	(財)温水養魚開発協会設立
1973(昭48)	5	47		日韓原産協力で調印
	6		原産訪ソ原子力視察団に同行	
	10			原産新体制。会長有澤廣巳
	11		原産常任理事(事務局長)	
			(公)第五福竜丸平和協会評議員	
1974(昭49)	1	48	原子力文化振興財団常務理事	
	6			電源三法成立
	8			原子力船むつ、原子炉臨界放射線漏えい事故
	〃			米原子力委、ラスムッセン報告WASH1400公表
1975(昭50)	3	49	核物質管理センター理事	
	12		海洋生物環境研究所理事	(財)海洋生物環境研究所設立
1976(昭51)	3	50	原子力文化振興財団副理事長	
	6			日本、核不拡散条約批准
1977(昭52)	4	51		米カーター新大統領、新原子力政策発表。 再処理凍結・高速炉開発延期
	5			国際核燃料サイクル評価計画(INFCE)の設置 決定
	6		訪ソ。土光原産副会長と共に、日ソ 協力でソ連国家原子力委と会談	原産、ソ連原子力委員会と民間協定調印(11月)
	9		宇野宗佑原子力委員長に同行、訪米 日米、東海再処理施設の運転に合意	
1979(昭53)	3	53		米スリーマイル・アイランド2号炉事故
	6		原産専務理事(事務局長)	
1980(昭55)	4	54		原子力安全委員会発足
	6		訪中。原産訪中放射線利用調査団、 原子炉機器輸出で協力	原産訪中代表団派遣(7月)
	10			放射線安全技術センター (現原子力安全技術センター)設立

1981(昭56)	6	55		イスラエル空軍、イラク研究炉を爆撃
	〃		訪米、日米エネルギー協同行	日米エネルギー協議
	7			橋本清之助死去
1982(昭57)	4	56	訪中、原産派遣代表団に同行	
	6			原産総会、国連軍縮特別総会へのメッセージ採択
	7		橋本清之助氏の遺文「現代文明縁起」まとめる	
1983(昭58)	7	57		原産国際協力センター設置
1984(昭59)	4	58	原子力安全技術センター理事	
	11		動力炉・核燃料開発事業団参与	仏から初の返還Pu陸揚げ
1985(昭60)	3	59	被爆手帳取得	
1986(昭61)	4	60		ソ連チェルノブイリ 4号炉事故
	5		湯川記念財団評議員	
	8		訪ソ。 第5回日ソ原子力協力代表者会議(モスクワ)出席	
	11		日本の原子力開発30年史を編集	原産、「原子力は、いま — 日本の平和利用30年」刊
1988(昭62)	11		訪ソ。 チェルノブイリ3号炉視察	原産、チェルノブイリ調査で、訪ソ原子力安全視察団
1989(平1)	7	63		原産、核不拡散・軍縮問題懇談会設置
1991(平3)	7	65	訪仏。 第1回日仏原子力専門家会合(N-20)(サクレイ)出席	
1992(平4)	1	66		原産、東南アジア原子力協力代表団派遣
1993(平5)	4			六ヶ所村再処理施設着工
	9	67	プルトニウム・シンポジウムを企画 原産、Pu問題でシンポジウム。	原子力資料情報室共催
	10		訪仏(10/2~8)。 N-20出席。10/12 ロンドンの日英原子力産業会談に合流	第3回日仏原子力専門家会合(N-20) (ニーム)
1994(平6)	4	68		原産年次大会、広島宣言発表 核廃絶などアピール
	〃			高速発電炉原型「もんじゅ」臨界
	6		ABCCで検診。広島での推定被ばく線量1.1Gy。別の染色体検査でも、ほぼ1.0Gyと推定される	
			(社)学士会評議員	
1995(平7)	1	69	高槻の住居で震災に遭遇	阪神淡路大震災
	12			高速炉もんじゅ、ナトリウム冷却材漏れ事故
1996(平8)	6	70	訪仏。第5回日仏N-20専門家会合(エベルネ)出席	
	〃		原産副会長(専務理事)	
	〃		核戦争防止国際医師会議(IPPNW)で講演	
	8		第二回京都フォーラムに出席	
	9		訪独。 日独エネルギー専門家会議(ミュンヘン)出席	
	11		前立腺にガン見つかる。 通院で放射線治療	
	12		講演集「原子力にルネッサンスを — 歴史から未来へのカギ」刊	

1997(平9)	3	71		動燃再処理施設事故
	6		訪韓。 日韓原子力協力で韓国勲章 「大韓民国国民勲章石榴章」受ける	
	9		訪中。 第8回日中協力定例会合出席	
	12			地球温暖化防止京都会議、京都議定書採択 (COP20)
1999(平11)	1	73	訪越。 ベトナム原子力発電視察団に同行	原産、日越協力で覚書
	3		訪中、 鳩摩羅什縁の草堂寺(西安)訪問	
	8			JCO(東海)で臨界事故
	11		槌田敦と公開討論	
2000(平12)	2	74		日越協力連絡委員会設置
	5		訪仏。日仏専門家会合N-20出席 (ベルサイユ)	
2001(平13)	5	75		ブッシュ米大統領、原子力発電推進政策承認
	9			米で9.11同時多発テロ
	10		元電源開発原子力部長松本静夫氏の 追悼集を共編	
2002(平14)	5	76	日本原子力産業会議史を編集、 秘話を執筆	原産、「原産半世紀のカレンダー」刊
2003(平15)	8	77	(無痛性)狭心症のためステント埋込 手術	
2004(平16)	7	78	訪仏、N-20出席。 ピエールラット・レーザー・ウラン 濃縮施設見学	日仏専門家会合N-20(仏デジョン)
2005(平17)	6		原産副会長(専務理事)退任	原産改組
	9		UCN(Union of unconcerned)会 設立。代表幹事	
	〃			九電玄海3号炉のプルサーマル計画許可
	〃			新長期計画「原子力政策大綱」、閣議決定
2006(平18)	5	80	重度のヘルペスにかかる	
	9		うつ病症状で入院治療50日	
	11			(財)電力経済研究所解散
	12			米印原子力協定承認
2007(平19)	2	81		中越沖地震。東電柏崎原発破損
	7		(財)電力経済研究所小史編集、 UCN会刊	参議院選挙で民主党圧勝
2008(平20)	1	82	オーラルヒストリー刊(近代日本史 刊行会)(聞き手:伊藤隆)	
	4			電源開発大間原発に設置許可。5月着工
	5		(財)温水養魚開発協会解散に伴い 創立以来の経緯「温水養魚開発協会 小史」を執筆。UCN会刊	
	8			衆議院選挙で民主党大勝。政権交代へ
	9		立花昭追想集「仮想・立花昭記念館」 編集。UCN会刊	
	11		ガン、背中に転移	
2009(平21)	4	83		オバマ米大統領。「核兵器のない世界を目指す」 (ブラハ演説)
2010(平22)	1	84	25日入院	
	2		3日肺炎にて死去	

外部機関委嘱委員等

一部年譜に記載。主に1992年6月作成の履歴書による。

原子力委員会	
核燃料リサイクル専門部会	委員
放射性廃棄物対策専門部会	委員
放射性廃棄物対策総合計画委員会	委員
核種分離・消滅処理技術研究推進委員会	委員
放射線利用専門部会	委員
基盤技術推進専門部会	委員
長期計画専門部会総合企画委員会	委員
〃 第4分科委員会	委員
原子力安全委員会	
原子炉施設解体安全専門部会	委員
科学技術庁	
補償措置問題検討会	委員
国際問題検討会	委員
放射線医学に係る日ソ科学技術協力国内連絡委員会	委員
海洋環境放射能総合評価事業連絡会	委員
通産省 産業技術審議会	専門委員
通産省資源エネルギー庁 高レベル放射性廃棄物処分対策小委員会	委員
経済企画庁 経済審議会	専門委員
総合エネルギー調査会原子力部会	専門委員
〃 HLW処分対策小委員会専門部会	委員
〃 LWR技術高度化小委員会	委員
文部省 大学学術局学術審議会	専門委員
〃 学術国際局	専門委員
動力炉・核燃料開発事業団	参与
〃 地層処分研究開発懇談会	委員
〃 動力炉開発専門委員会	委員
〃 高速増殖炉システム国際会議組織委員会	委員
日本原子力研究所 放射線照射利用研究委員会	委員
(財)原子力安全研究協会	常務理事
〃 企画懇談会	委員
〃 環境問題懇談会	委員
〃 HLW処分対策専門委員会	委員
(財)日本原子力文化振興財団	副理事長
(社)日本原子力学会 「第2回原子力プラントの熱流動と運転」国際会議	運営委員
〃 「新型原子力プラントの設計と安全」国際会議	運営委員
(財)原子力安全技術センター	理事
核物質管理学会	理事
(財)原子力施設デコミッショニング研究協会	理事
エネルギー総合推進委員会 日米エネルギー関係特別委員会	委員
〃 中東調査会	委員
立教大学原子力研究所 第1回アジア地域研究炉シンポジウム諮問委員会	委員
(財)核物質管理センター	理事
(社)火力原子力発電技術協会 原子力発電安全月間推進委員会	委員
(財)電力経済研究所	常務理事

(社)日本動力協会 企画委員会	委員
// 世界エネルギー会議第13回定期大会論文特別委員会	委員
(財)原子力環境整備センター 放射性廃棄物法制検討会	委員
(財)電源地域振興センター	評議員
(財)日本分析センター	評議員
放射線障害防止中央協議会	理事
地球化学研究協会	理事
(社)茨城県原子力協議会	理事
(財)放射線影響協会	理事
(財)アジア人口・開発協会	理事
(財)温水養魚開発協会	常務理事
(財)海洋生物環境研究所	理事
(財)環境科学技術研究所	理事
(財)新エネルギー財団 新エネルギー産業シンポジウム実行委員会	委員
(財)第五福竜丸平和協会	評議員
(社)日本アイソトープ協会 諮問委員会	委員
// 放射線利用将来展望検討委員会	委員
(財)日本科学技術振興財団 科学技術館展示による 原子力の普及啓発に関する企画調査委員会	委員
(社)未踏科学技術協会	理事
(財)湯川記念財団	評議員
電源地域振興センター	評議員
第三者検査機構研究会	運営委員
国際技術振興協会	評議員
エネルギー懇話会(次世代懇話会)	理事
未踏加工技術協会	監事
リンクスリセウム	理事
// 運営委員会	委員
佐々木義武記念資源エネルギー問題研究所	理事
日本仏教徒懇話会	幹事
アジア会館	理事



著書・論文・蔵書
資料総目録

著書・編書・翻訳書

1. H.シュアー、J.マーシャック監修 森一久訳
「原子力発電の経済的影響」(東洋経済新報社 1954)
2. K.ジェイ(著) 伏見康治、森一久、末田守訳
「原子力発電所—コールドホール物語」(岩波新書 1957)
3. 森一久編
「原子力は、いま—日本の平和利用30年」(日本原子力産業会議 1986)
4. 森一久編
「原子力年表(1934-1985)」<「原子力は、いま」別冊>(日本原子力産業会議 1986)
5. 森一久著
「原子力にルネサンスを一歴史から未来へのカギ」(エネルギー政策を考える会 1996)
6. 森一久編著
「原産半世紀のカレンダー—平和利用の理想像を求めて 1956-2001」(日本原子力産業会議 2002)
7. 森一久編
「電力経済研究所小史」(UCN会 2007)
8. 聞き手:伊藤隆
「森一久オーラルヒストリー」(近代日本史刊行会 2008)
9. 森一久編
「温水養魚開発協会小史」(UCN会 2008)
10. 森一久・喜多尾憲助編著
「仮想・立花昭記念館」(UCN会 2008)

論文

1. 「Atombombenabwürfe und die Entwicklung der Kernenergie in Japan」
(atomwirtschaft-atomtechnik 7, 1995)
「原爆体験と日本の原子力開発」(日本原子力学会誌37巻9月号「談話室」1995)(日本語論文には加筆あり)
2. 「原子力の意味を考える」(財統計研究会 2003)
3. 「ビキニ水爆実験と日本の科学者」(財第五福竜丸平和協会 2004)

資料リスト利用の手引き

この資料リストは森一久氏の遺された文書類のうち、利用可能なものの総目録である。ここに収録したもの以外に、UCN会時代にEメールで交信した文書類があるがそれらは割愛せざるをえなかった。また、散逸した多くの親書・書簡類も存在するはずである。

それら資料を「年次順」と「事項別」の二種類のリストにまとめた。「事項別」リストの左端の整理番号は、「年次順」リストで付けた順番号である。「事項別」分類は内容が二つ以上の事項に跨がっているものがある。それらは検索に便利のように該当する項目に重複してリストアップしてある。年次表示は、元の資料では元号表示と西暦表示で書かれているものがあるが、すべて西暦表示に統一して並べた。年次が2年以上に跨がる資料(データ表など)は最後の年に入れた。また、年次が記されていないものについて、内容から確定できるものは明記し、明確ではないが推定できるものはその年次に*印を付けて記した。年次を推定できず不明のものは一括して最後にまとめてある。

「年次順資料目録」の各項には、その資料内容を紹介する短文を付けてあるが、「事項別資料目録」では、紙数削減のため、その説明文を大幅に短縮した。必要な場合は「年次順資料目録」を参照されたい。

リストの右端にある「保存場所」のBox No, Report, Manuscripts, Memoranda ……などは現在森氏宅の「資料室」内にある保管Box名と書類フォルダー名によっている。蔵書リストにある書籍類は同資料室内の書架に展示してある。

年次順資料目録

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
1	1943	昭和18年 理化学研究所案内	Reports06
2	1945	高師附属中昭和14年卒クラス会の刊行冊子用 昭和20年の日記から 三島良績	Box025
3	1945	日本の原爆投下に関し、公表されているメモなど(1944年9月から1945年7月25日の公式投下命令書までの経過メモ)(タイプしたメモと公式命令書のコピー)	Box020
4	1950	Bulletin of the Atomic Scientists 1950 核攻撃防衛の特集号	Box001
5	1950	The Hydrogen Bomb and International Control : Technical and Background Information, July 1950 Joint Committee on Atomic Energy 81st Congress 2d Session	Box002
6	1950	Geology of the Fissionable Materials George W. Bain Economic Geology and the Bulletin of the Society of Economic Geologists, Vol.45, No.4, June-July, 1950	Box004
7	1952	Nucleonics (McGraw-Hill) September 1952 (Physical Changes due to the Radiation in a Reactorに関する特集号)	Box004
8	1953	Newsweek Oct.19, 1953 水爆の記事	Box001
9	1953	Atomes(フランス雑誌)Mars 1953 No.84	Box001
10	1953	東洋経済新報 別冊第15号 昭和28年9月10日 森一久 原子力発電とその経済的影響 原子力発電の施設及原価(原子炉の原理 ウラン プルトニウム 増殖炉トリウム 燃料原価 建設費) 原子力発電の経済的影響(原子力の燃料は化学燃料に比べてごくわずかな質量 エネルギー資源 為替と燃料輸入 電力以外に製鉄や暖房への利用)	Manuscripts02
11	1953	婦人公論 昭和28年8月号 工場の女性の幸福を求めて 乳癌の正しい知識 原爆記念上演台本「原爆の子」など	Manuscripts05
12	1954	Atomic Energy Act of 1954	Box001
13	1954	原子力に関するソ連と米国の協議の記録New Times No.40(1954)	Box001
14	1954	原子力談話会名簿 1954.12.15現在	Box001
15	1954	わが国のエネルギー源としての電力供給力の現状とその将来(昭和29年8月15日)	Box001
16	1954	原子力譯語集(1)昭和29年12月 電力経済研究所	Box001
17	1954	原子灰について(及び諸数値表) 浅田常三郎	Box001
18	1954	長期経済計画と産業構造 電力経済研究所 昭和29年7月	Box001
19	1954	Availability of USAEC Research and Development Reports TID-4550 (Revision No.2) September 1954 USAEC Technical Information Service Oak Ridge, Tennessee	Box004
20	1954	Economic Power from fast Breeder Reactors, C.A.Rennie, J. Nuclear Energy 1954, Vol.1の訳(訳者 通産省公益事業局施設課 武田康) 原発資・専2008、	Box004
21	1954	不思議な国の原子力 エコノミスト(4月21日号~5月26日号)より収録	Box011
22	1954	Hiroshima Atomic Bomb August 1945 and Super-Hydrogen Bomb Test at Bikini Atoll in the mid-Pasific March 1954 Investigation by Scientists of Kyoto University Kyoto Forum ed. Sakae Shimizu July 1995	Box025
23	1954	週刊東洋経済新報 昭和29年5月15日号のコピー 森一久(中央公論社(自然)編集部員) 原子力発電の経済可能性 国によりエネルギー事情が異なること産業が向上すると期待できる国かどうかで異なること	Manuscripts02
24	1954	原子力コロキウム(昭和29年8月10日~16日)の(何かの本の記事のための)資料 昭和29年8月5日現在の参加予定者リストと若き日の立花昭ら原子力コロキウム参加者たちの写真	Reports06
25	1954	原子力発電の経済的影響 湯川秀樹序 森一久訳 Shurr & Marschak Economic Aspects of Atomic Power (東洋経済新報社)	Miscellaneous
26	1954	原子力コロキウム 6ページ コロキウムの案内	Box001
27	1954	アメリカ原子力法の改正をめぐる諸問題 世界経済研究所第71集	Box001

28	1954	社団法人日本アイソトープ協会定款	Box020
29	1954	原子力談話会趣意書	kondankai
30	1954	原子力談話会規約(案)	kondankai
31	1954	原子力談話会規約	kondankai
32	1954	原子力談話会ニュース 創刊号	kondankai
33	1954	原子力談話会ニュース 第2号	kondankai
34	1954	原子力談話会ニュース 第3号	kondankai
35	1954	原子力談話会ニュース 第4号	kondankai
36	1954	原子力談話会ニュース 第5号	kondankai
37	1954	原子力談話会ニュース 第6号	kondankai
38	1954	民主主義科学者協会物理部会 速報No.1「原子力と原子核研究所問題の最近の情勢」	kondankai
39	1954	原子核特別委員会議事要録「原子力問題について」1954.7.17	kondankai
40	1954	Introduction to pile theory chapter 10 (heat transfer)の翻訳	Box001
41	1954	Intro.to N.E. p243の翻訳(原子炉の冷却剤の性質)	Box001
42	1954	各メーカー(エジソン、ベクトル、ほか2社)の原発の仕様リスト	Box001
43	1954	原子炉の熱をなるべく有効に利用することに関するメモ(翻訳?)	Box001
44	1954	8月10日 原子力の現状(大塚益比古の講演?)のメモ	Box001
45	1954	Pile一覧表、1ページ目は研究開発用原子炉	Box001
46	1955	Nuclear power plantsの翻訳(液体金属熱交換と蒸気発生)	Box001
47	1955	原子力(みすず書房) 1955.6-7 世界の原子炉一覧表など	Box002
48	1955	日米原子力協定についての見解 原子力平和利用調査会 昭和30年8月	Box002
49	1955	米、トルコ原子力協定とその問題点 電力経済研究所 昭和30年6月 資料第15号(双務協定シリーズ第1号)	Box002
50	1955	濃縮ウランウムについて 附:泥炭および原子力による電力 電力経済研究所 昭和30年5月	Box002
51	1955	原子力に関する特許制度について 昭和30年12月 原子力資料第24号 原子力平和利用調査会	Box002
52	1955	新原子力法とアメリカ民間企業 昭和30年6月 資料第16号 原子力平和利用調査会	Box002
53	1955	原子力訳語集(3) 昭和30年6月 電力経済研究所	Box002
54	1955	原子力平和的利用海外調査団報告書 昭和30年7月 原子力平和利用調査会	Box002
55	1955	世界の原子炉表 昭和30年11月 資料第24号 原子力平和利用調査会	Box002
56	1955	声明(日米原子力協定に関して)1955年6月22日 東京大学教養学部物理学教室有志	Box002
57	1955	学術情報 No.27 特集 原子力の平和的利用 文部省大学学術局学術情報室 昭和30年4月	Box004
58	1955	フランスの原子力関係法規 原子力平和利用調査会 昭和30年10月	Box004
59	1955	アメリカ、イギリス、フランスの原子力関係法制概要 原子力平和利用調査会 昭和30年10月	Box004
60	1955	Some Economic Aspects of Nuclear Fuel Cycles W.B.Lewis International Conference on the Peaceful Uses of Atomic Energy A/Conf. 8/P/4 Canada 30 June 1955	Box004
61	1955	ストロース原子力委員長の記者会見一米国の原子力平和利用への態度一 財団法人電力経済研究所 昭和30年1月	Box005
62	1955	世界週報 1955年3月21日号 イギリス原子発電計画白書 時事通信社	Box006
63	1955	原子力工業 特集・原子力国際会議発表論文 日刊工業新聞社 Vol.1 No.7 Oct. 1955	Box007
64	1955	原子力予算とその実施の経緯について 昭和30年1月 工業技術院	Box007
65	1955	原子力発電計画 1955年2月 英国政府 燃料・動力省	Box007
66	1955	日米原子力協定についての見解 原子力平和利用調査会 原子力資料第18号 昭和30年9月	Box007

67	1955	原子力平和使節として来日したホプキンス一行と小坂電源総裁との対談 電力経済研究所 昭和30年5月	Box007
68	1955	ジュリスト 原子力問題特集 有斐閣 No.93 11月1日号 1955年	Box007
69	1955	世界週報「水爆実験死の灰報告」1955年3月11日号 第36巻 第8号 時事通信社	Box007
70	1955	週刊エコノミスト 昭和30年9月17日号のコピー(一部コピーが読みにくいところは手書きした物が添えてある) 間弘明(手書きで(森一久)とある)のペンネームでの署名記事 PWRの建設コストと発電コストについてウエディングハウスの見積もりが安すぎると指摘し自分の試算では発電コストは火力の2倍としている 基礎研究をそっちのけにして10年先と考えられる実用化時のコストの議論の無意味なことさらに関電もグルになって日米の原子力双務協定を結ばすための八百長をやっているのではないかの指摘	Manuscripts02
71	1955	週刊エコノミスト 昭和30年8月20日号のコピー 間弘明のペンネームでの署名記事 公開されたソ連原子力発電-54(5千のミスプリントであろう)キロ発電の意味するもの- 8月8日からジュネーブで開催された国連の原子力平和利用国際会議の話題 米国が1951年に発電して見せたのは150キロワット程度であったのに対しソ連が1954年6月27日に発表した発電炉は5000キロワットで世界最初の原子力発電所であった 米国は1955年7月18日潜水艦用原子炉で1万キロワットの発電を始めたというが全く採算度外視のショーである これに対し今回ソ連のプロヒンチェフ博士の発表は安全性にも配慮されコストも火力並みでその分プルトニウムの生産能力を犠牲にしている プロヒンチェフ博士は熱中性子炉で燃料増殖を考えるならウラン233とトリウムが有用であるとも発表した さらに高速中性子炉の場合はウランの濃縮度を20%以上にすべきであろうとも発表した アメリカが協力協定で決めている貸与ウランの濃縮度が20%以下であるは高速炉を作らせたくないのが本心であることが判明したと指摘	Manuscripts02
72	1955	エコノミスト 昭和30年8月20日号(毎日新聞社)14ページ 原子力国際会議の焦点(大河久 間弘明=森一久) ジュネーブ会議の報告 各国のやり方の違い 高速炉と濃縮度 トリウムなどにも言及	Manuscripts05
73	1955	エコノミスト 昭和30年7月2日号 28ページ 座談会 ヒモがついていた原子力協定(上)-これからの問題点を衝く- 小椋広勝 大塚益比古 服部学 森一久	Manuscripts05
74	1955	エコノミスト 昭和30年7月9日号 24ページ 座談会 ヒモがついていた原子力協定(中)-これからの問題点を衝く- 小椋広勝 大塚益比古 服部学 森一久	Manuscripts05
75	1955	エコノミスト 昭和30年7月30日号 18ページ 穴ボコだらけの日米原子力協定 民間では実験できないか(間弘明=森一久) 日米原子力協定のいろいろな落とし穴の指摘	Manuscripts05
76	1955	エコノミスト 昭和30年9月17日号 31ページ 原子力発電売込みを切る(間弘明=森一久) PWRの発電コストが安いということの怪しさを指摘	Manuscripts05
77	1955	エコノミスト別冊 昭和30年6月10日号 原子力の平和利用は何をもたらすか-政治・経済面から見た原子力の問題点-	Manuscripts05
78	1955	エコノミスト 昭和30年9月3日号 武谷三男などの論文	Manuscripts05
79	1955	総理府設置法の一部を改正する法案(原子力委員会設置法関係)	Box001
80	1955	原子力基本法案	Box001
81	1955	アメリカの新原子力法 とくに、いわゆる双務協定を理解するための手引き	Box001
82	1955	発電用原子炉(Nuclear Power Reactor) Foster Wheeler Corporation およびPioneer Service & Engineering Co.両社がAECに提出した報告の全訳	Box002
83	1955	原子力の経済性(Economics of Nuclear Powerの訳) J.A.Lane ORNL、ジュネーブ会議資料No.476 (訳者 電源開発株式会社 川村泰治)	Box004
84	1955	初期の原子力発電所における発電コストとプルトニウムの価値(J.A.Jukes ジュネーブ原子力平和利用国際会議資料 英国No.390の訳) 訳者 佐久間稔	Box004
85	1955	原子力委員会設置法案	Box005
86	1955	英国コールドーホール大型発電所用原子炉導入反対斗争について 日本労働組合総評議会 マル秘	Box005

87	1955	原子力談話会ニュース No.15 1955.11	Box005
88	1955	原子力談話会ニュース 第7号	kondankai
89	1955	原子力談話会ニュース 第8号	kondankai
90	1955	原子力談話会ニュース 第9号	kondankai
91	1955	原子力談話会ニュース速報 第1号	kondankai
92	1955	原子力談話会ニュース 第10号	kondankai
93	1955	東京大学教養学部物理学教室有志声明 日米原子力協定について	kondankai
94	1955	「夏の学校のお知らせ」	kondankai
95	1955	List of Papers for the International Conference on the Peaceful Uses of Atomic Energy	Box004
96	1956	原子力機関車について 昭和31年1月 原子力資料	Box002
97	1956	アメリカの原子炉開発(米国原子力委員会第18次半年報告の一部)昭和31年1月 原子力資料第27号 原子力平和利用調査会	Box002
98	1956	原子力工業 日刊工業新聞社 Vol.2, No.6, Jun.1956(ハンドフットモニタの記事)	Box003
99	1956	Atomic Energy A Financial Times Survey 昭和31年	Box003
100	1956	Nucleonics February 1956 (再処理関係の特集か?)	Box004
101	1956	The Graphite-Moderated Gas-cooled Pile and its place in Power Production Sir Christopher Hinton, F.R.S. 1956	Box004
102	1956	AEREにおける高速中性子炉の実験研究 J.E.R.Holms et al. A/conf s/P/404 の訳 (訳者 電源開発株式会社企画部原子力調査室 平田昭) 原発資 専2159、1956.3.10	Box004
103	1956	天然ウラン黒鉛ガス冷却方式による発電用原子炉について 概要報告 電源開発株式会社企画部原子力調査室 1956年7月11日	Box004
104	1956	長期エネルギー需給想定の問題点—原子力発電の開始時期と規模の見透しに関して— 昭和31年4月17日 総理府原子力局	Box006
105	1956	イギリス原子力発電計画の背景 <原子力メモ> 第4号 昭和31年5月15日 総理府原子力局	Box006
106	1956	天然ウラン・グラファイト炉による発電コスト推定の問題点[附]原子力発電所(熱出力500MW)のコスト試算 昭和31年6月14日 科学技術庁原子力局	Box006
107	1956	原子力工業 日刊工業新聞社 Vol.2 No.3 Mar. 1956	Box007
108	1956	動力協定研究報告(案) (I) 原事資・006-A 1956年12月 日本原子力産業会議 法制委員会	Box007
109	1956	国際原子力協定締結状況<原子力メモ> 第7号 昭和31年7月16日 科学技術庁原子力局	Box007
110	1956	Comparison of Calder Hall and PWR Reactor Types Report S-1 A.Puishes et al. Atomic Radiator and Standard Sanitary Coporation 1 November 1956 (U.S.AEC向けに用意されたレポート)	Box007
111	1956	エコノミスト 昭和31年1月14日号 今年の原子力—座談会	Manuscripts05
112	1956	エコノミスト 昭和31年3月10日号 48ページ 正体見たり 原子力発電 高い現実と安いという宣伝 米国で開発中の原発のコストが宣伝されてきた数字よりかなり高いことがばれた話	Manuscripts05
113	1956	日本における電力の現状と将来についての素描 1956年5月 電気事業連合会	Box003
114	1956	原子力メモ 第2号 世界の原子炉について 昭和31年4月15日 総理府原子力局	Box006
115	1956	ジュネーヴ原子力平和利用国際会議の成果 その一 原子炉理論概観 大塚益比古 科学 Vol.26 No.1 p31	Box006
116	1956	原子爆弾被爆者の医療等に関する法律	Box007
117	1956	手書きメモ:Fusion Newsweek 16. Jan. 56 Periscoping the USのトップ記事 飛行機から投下する水爆実験および原爆をトリガーとしない水爆実験を行ったことなどに関する記事が掲載されていることのメモ	Memoranda
118	1956	手書きメモ:Economics of G.E.'s New Dual Cycle B.R. 原子力と火力の経済性について。火力の方が安い減価償却も考慮すべき。	Memoranda

119	1956	手書きメモ:4月10日室内会議メモ 天然ウラン 濃縮ウラン講習会 報告及び Memoranda 討議	
120	1956	手書きメモ: Editor Walter J. Murphy Industrial and Engineering Chemistry	Memoranda
121	1956	手書きメモ:核分裂 核融合 原爆 水爆 原子炉 等に関する説明メモ	Memoranda
122	1956	手書きメモ:予算に関する大蔵省の考え方3点などのメモ	Memoranda
123	1956	手書きメモ:Chicago Commonwealth-Edison CompanyとNuclear Power Groupが建設を申請したBoiling Water Reactorの仕様と建設費 (この見積もりの問題点を指摘している 要するにアメリカの最も楽観的な予想)	Memoranda
124	1956	手書きメモ:1月11日の動向 原子力局への働きかけ 藤岡は原子力局以外の各省 衆議院法制局の検討(研究法 燃料公社法 放射線取扱法) 有沢(特殊法人 声明) 予算17日	Memoranda
125	1956	手書きメモ:参与25人 原子力白書10万 情報誌月2回48万200部 など関係が分かりにくい事項を数件記述してある	Memoranda
126	1956	手書きメモ:何かの会のメンバーの原案づくり? 経済 法制 原子炉 放射線問題 アイソトープ 重水 石墨(それぞれに候補者の名前が全体で30名程度を挙げてある)その他に参与の候補として茅 伏見 朝永など十数名が挙げてある 前ページと同じ委員会かどうか分からないが20名程度の候補者名が挙げてある 核(理論:中村誠太郎 井上健 実験:服部学 田島英三) 物性 化学 炉(大塚 立花 ..) 経済(森一久) 石墨(佐々木 泰一)敷地候補5つ	Memoranda
127	1956	手書きメモ:前ページと同じ委員会かどうか分からないが20名程度の候補者名が挙げてある 核(理論:中村誠太郎 井上健 実験:服部学 田島英三) 物性 化学 炉(大塚 立花 ..) 経済(森一久) 石墨(佐々木泰一)敷地候補5つ	Memoranda
128	1956	手書きメモ:委員会 有沢氏欠席 神経痛、大蔵省対応策、大臣折衝、藤岡氏問題、核原料開発問題産業会議(人事案 性格 3月1日発足)	Memoranda
129	1956	手書きメモ:Exponential Experiments on D ₂ O-U Lattice E. Richard Cohen からの手書きメモ(重水減速ウラン燃料のPo-Be中性子源による未臨界実験のデータ)	Memoranda
130	1956	手書きメモ:参与と専門委員の名簿参与(杉本朝雄 山崎文雄 伏見康治 茅 誠司 武谷三男 朝永振一郎 嵯峨根遼吉 木村健二郎 千谷利三 安芸皎一 渡辺萬次郎 山県昌夫 都築正男 中泉正徳 田中慎次郎 我妻栄)	Memoranda
131	1956	原子力委員会の100日一何を議論したかー 創設時の記録 村田浩	Box022
132	1956*	手書きメモ:9日に決定した原子力委員会(出席者は正力・石川・藤岡・有澤)の明年度予算案(36億円)に関する新聞記事(正力委員長が一 万田蔵相に10日に申し入れする)	Memoranda
133	1956*	手書きメモ:湯川先生からの伝言(1月7日夜井上さん)11日のツバメ切符 かったこと及び予算に関して藤岡さんに伝えてほしいこと(ウラン探鉱費が 少なすぎる 天然ウラン重水の費用が少なすぎる)これは国産炉の 開発予算を考慮したもの	Memoranda
134	1956*	海外反響いまのところなし 正力のその後の動静 2段構えの譲歩 裏の 動き(動力協定) 藤岡ゆるふん 湯川さんの立腹はこたえた 有沢さんに 予算について先生の考えを伝える 探鉱3億円程度に増えそう内示予算別紙 (14ページ目の新聞記事のことか) 声明 湯川さん藤岡で13日以後にのば したらしい cost 輸入前提 日本の原子力発電を米にかける	Memoranda
135	1957	原子力発電の受入体制について 昭和32年7月 電源開発株式会社	Box002
136	1957	ソ連の原子力 航空幕僚監部調査課 調査資料第21号 昭32.3.20	Box002
137	1957	Theoretical Possibilities and Consequences of Major Accidents in Large Nuclear Power Plants, US AEC Mar.1957	Box003
138	1957	東洋経済 ビジネス 1957.8	Box006
139	1957	原子力工業 Vol.3 No.10、OCT. 1957 日刊工業新聞社(表紙は東大核 研のサイクロトロン(FF)のディー電極・共振器の写真、特集記事は輸入動 力炉の検討)	Box006
140	1957	原子力工業 Vol.3 No.9、SEPT. 1957 日刊工業新聞社(原子力発電の 受入をめぐる電発と九電力の主張)	Box006
141	1957	イギリス動力協定案 原法資-008 1957年5月 日本原子力産業会議 法制委員会	Box007

142	1957	教育科学 特集・理科教育の近代化 Atoms for Peace 昭和32年9月1日 教育科学研究所	Box008
143	1957	Accident at Windscale No.1 Pile in 10th October 1957 (英国首相 議会報告) Atomic Energy Office November 1957	Box008
144	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年4月1日 創刊号のコピー 間弘明 (手書きで(森一久)とある)のペンネームでの記事 前年にできた日本原子力産業会議の多くの企業団体が群がったことやコールドーホール型の他にPWRとBWRが競争している状況や米国の世論調査で原子力はもうからない損害補償の問題公共でやるか民間でやるかなどに関心があることなどを紹介	Manuscripts02
145	1957	アナリスト 昭和32年8月号のコピー 森一久(電源開発KK原子力室) 諸外国における原子力発電開発の現状—テンポが早まったというのは錯覚ではないか— 原子力委員会発足時の基礎研究から始めて約10年後に国産炉をという基本計画が諸外国での開発テンポが急激に早まったので動力炉は輸入路線に変更しようとしているが外国の開発テンポは早まっていないか遅れ気味との指摘 を英国コールドーホール型米国PWR型いずれについても具体的に紹介している	Manuscripts02
146	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年5月 間弘明のペンネームでの署名記事 発電用第1号原子炉の身もと調べ—その政治的経済的技術的な解説— 原子炉の型式は様々であることを述べた後に英国コールドーホール型が濃縮ができなくて天然ウランを選び減速材も安上がりの黒鉛を選び冷却は水は事故時心配なのでガスにしたという事情を紹介 米国で建設中の SHIPPING BOARD のものは航空母艦用の転用である 各国の事情で型式が決まっているので日本は日本として自分の頭で考える必要があると指摘	Manuscripts02
147	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年7月 間弘明のペンネームでの署名記事 日本の研究用原子炉—材料試験炉を輸入しないというのは手落ちではないか— 研究用原子炉の利用分野について列挙した後に日本が輸入する研究炉である湯沸かし型(発電炉の沸騰水型ではなく硫酸ウラニルという液体状の燃料を使うので放射線により水が分解して気泡が発生することから命名)およびCP-5型(金属で被覆した濃縮ウラン棒の集合体を重水につるしたもの)を紹介 発電用の原子炉材料の照射試験用にはこのほかに材料試験炉も必要なのではないかとの指摘	Manuscripts02
148	1957	原子力産業新聞 昭和32年8月5日 森一久 原子力の常識 百万分の一秒で爆発 原爆はごく早いねずみ算 原水爆と原子炉 原爆の原理	Manuscripts02
149	1957	ビジネス 1957年5月号(東洋経済社)106ページ 発電用第一号原子炉の身もと調査(間弘明=森一久) 各国の最初の発電炉の紹介と日本は自分の頭で考えるべきとの指摘	Manuscripts05
150	1957	ビジネス創刊号 昭和32年4月 96ページ 原子力をめぐる三つの話題(間弘明=森一久) もうからない 損害補償 民間か公共か など	Manuscripts05
151	1957	アナリスト 昭和32年8月号 18ページ 諸外国における原子力発電開発の現状—テンポが早まったというのは錯覚ではないか— 森一久	Manuscripts05
152	1957	エコノミスト 昭和32年5月18日号 原子力平和利用の新展開 伏見康治他 昭和34年4月21日号(1959) 不思議な国の原子力新連載よみもの表紙	Manuscripts05
153	1957	資料国際事情 1957. 10. 10 (No.232) 国際事情研究会(限定戦争の幻想)	Box003
154	1957	何のための誰のための原子力 =コールドーホール改良型発電炉の導入について= 安江良夫	Box007
155	1957	原子力発電に対する当社の立場について 内海清温(水力の必要性)	Box001
156	1958	原子兵器便覧(部外秘)情報月報国外篇別冊第3 昭和33年3月 陸上幕僚監部第2部	Box003
157	1958	日英貿易会談の件 第213号電信写 大臣あて ロンドン発 昭和33. 4. 4着	Box003
158	1958	日英貿易会談の経緯(3月13日現在) 市場第1課 Mar.14, 1958	Box003
159	1958	訪英原電調査団の活動状況について 昭和33年通連第488号	Box003
160	1958	The United States Atomic Industry Atomic Industrial Forum Inc.- U.S. Atomic Energy Commission (1958年第2回ジュネーブでの原子力平和利用展示用パンフレット)	Box006
161	1958	コ博士の残したものの英国型発電炉をめぐって(コックロフト来日関連記事) 毎日新聞 昭和33年11月27日	Box008

162	1958	原子炉およびその関連施設の安全性に関する資料 日本学術会議事務局 1958年5月14日	Box008
163	1958	エコノミスト 昭和33年3月29日号 原子力災害は天災か など	Manuscripts05
164	1958	ノートS33 原子力に関する中共要人発言集(1955年頃中心)など	Box005
165	1958	わが国における原子力の研究体制について 東京大学総長 矢内原忠雄 (何かの本?に引用された矢内原の文章の部分のコピー)	Box008
166	1958	Marcoule and Pierrelatte: the Birth of the French Nuclear Industry (CEAのパンフレット?)	Box020
167	1958	昭和33年12月6日図書新聞の記事切り抜き 海潮音 ロンドン目につくま 森一久(日本原子力産業会議調査課長)	Miscellaneous
168	1959	原子力災害補償問題研究報告書 昭和34年7月 日本原子力産業会議 原子力補償問題特別委員会専門委員会	Box002
169	1959	34年度上期外貨予算編成上の問題点 [通予-34-2] 34. 3. 19 通商局予 算課	Box003
170	1959	茨城新聞社「いばらき」昭和34年8月16日トップ記事(原子力発電会社一 本松副社長のコールダーホール改良型原子炉に関する記者会見)	Box004
171	1959	総評議長 太田薫から 原子力委員会委員長 中曽根康弘への申入書 34.10. 29 (コールダーホール型原発導入への反対)	Box005
172	1959	日本社会党の総理大臣岸信介及び原子力委員会委員長中曽根康弘 への申入書 昭和34年10月29日(コールダーホール型への注意喚起)	Box005
173	1959	模擬爆弾投下ならびに墜落事故時の影響について 昭和34年11月9日 日 本原子力発電株式会社	Box005
174	1959	原研労組ニュース No.67 昭和34年11月24日	Box005
175	1959	コールダーホール改良型原子力発電所(英)輸入案(原子力発電KK)に就 いて 電力経済研究所	Box005
176	1959	ガス冷却炉の経済学 電源開発株式会社企画部原子力課 1959.10.31	Box005
177	1959	Financial Times(?)の切り抜き 34.8. (英国の複数の原発建設グループ が共同建設すべきことについての記事)	Box005
178	1959	日本原子力発電株式会社の原子炉の設置の安全性について 原子炉安全 審査専門部会から原子力委員会委員長中曽根康弘への報告書 昭 和34年11月9日	Box007
179	1959	コールダーホール改良型原子力発電所は安全である「原子力発電所の安 全に関する解説」第一集 日本原子力産業会議 昭和34年9月	Box007
180	1959	原子力発電所の敷地として東海村は適している「原子力発電所の安全に 関する解説」第二集 日本原子力産業会議 昭和34年9月	Box007
181	1959	コールダーホール改良型原子炉にコンテナは必要がない「原子力発 電所の安全に関する解説」第三集 日本原子力産業会議 昭和34年10 月	Box007
182	1959	審査意見(6次案) 昭和34年10月15日	Box007
183	1959	時事通信 経済解説版「解説 発電炉の安全と経済性に疑問・注目される 原子力委の評価決 経済部 安江良夫」昭和34年11月27日(金) 第 4221号 時事通信社	Box007
184	1959	原子力災害補償問題研究報告書-第三者保障問題を中心として- 昭和 34年7月 日本原子力産業会議原子力補償問題特別委員会	Box007
185	1959	原研労組ニュース 第3回団交経過報告 No.62号 昭和34年6月5日	Box008
186	1959	Die Presse 18 Maerz 1959 (ソ連の原子炉で事故があったのか? ドイツ 語の写し)	Box008
187	1959	英国型発電炉の経済性について 34. 5. 21	Box008
188	1959	エコノミスト 昭和34年4月21日号 不思議な国の原子力1-安全性は確保 されているか	Manuscripts05
189	1959	原電側の説明は非科学的である-記者会見記事を読んで- 後藤武男 (「いばらき」紙掲載の報道記事[170]に関するコラム記事)	Box004
190	1959	製造者又は供給者一覧表 34年10月 工務課(極秘)	Box005
191	1959	中国要人の発言メモ(便箋に書いたもの)	Box005
192	1959	日本科学技術テレビ趣旨 日本科学技術財	Box006
193	1959	英国型原子力発電設備の経済上の問題点	Box008

194	1959	コールドターホール型原子炉について(原子炉の解説文)(手書き原稿メモ)	Box012
195	1959	原子炉立地と原子炉平常運転、事故状態について(英国ファーナー氏論文解説)日本原子力発電株式会社	Box005
196	1959	コールドターホール関係者写真 S.34.12	Box005
197	1959*	Financial Times7月4日号(何年か不明、1959年頃?)(英国の原発のコールドターホール改良型原子炉からより先進的な炉への転換を述べた記事)	Box005
198	1960	世界(岩波)昭和35年6月号「骨抜きになった原子力災害法」	Box002
199	1960	緊急時災害防止基準設定要項(案)解説 原電災害評価 35.9.19	Box003
200	1960	日本科学技術振興財団の要覧 1960.8	Box004
201	1960	科学朝日 1960年2月号(核融合ヘリオトロン、コールドターホール改良型原子炉の安全性など)	Box004
202	1960	無線局免許申請書(財団法人日本科学技術振興財団より郵政大臣宛)昭和35年7月2日	Box006
203	1960	アメリカのフォーラムについて 国際課資料 竹内宏	Box007
204	1960	原子炉事故に伴う被曝について 青木委員 保物-60-30 11.19. 災60	Box008
205	1960	原油の関税について 45.5 (手書きメモ)	Box010
206	1960	石川一郎原子力委員海外出張記録(1960年9月15日~10月28日)(随行した伊原義徳氏より森一久氏に"参考資料として利用ください"と2002年9月30日に送られてきたもの)	Box020
207	1960	Meet Citizen Atom The New York Timesの広告ページ Dec.11、1960 General Electricの広告	Box002
208	1960	安全性問題(安全審査専門部会の在り方について問題点の指摘)	Box005
209	1960	テレビ局開設の趣旨(財団のテレビ局開設趣旨書の案)	Box006
210	1960	要検討事項の委員分担案(報告書執筆分担案)「緊急時対応など」手書きメモコピー 35.11.2	Box007
211	1960	附帯決議(原子力損害に関する法律の附帯決議)	Box008
212	1960	原子力損害賠償補償契約に関する法律 案	Box008
213	1960	石炭鉱業当面の対策(何かの白書的なものの抜粋)	Box005
214	1960	大型原子炉の事故の理論的可能性及び公衆損害額に関する試算	Box005
215	1961	ソ・米核兵器実験再開をめぐって 1961.10 素粒子論グループKJR	Box002
216	1961	緊急被ばく特別部会報告書 放射線審議会 昭和36年7月28日	Box002
217	1961	産学協同センター '61-62 日本科学技術振興財	Box006
218	1961	学校教育法等の一部を改正する法律	Box006
219	1961	海外科学技術視察記録 衆議院議員 自由民主党 前田正男 山口好一 西村英一 昭和36年11月12月	Box006
220	1961	米原子力委員会の敷地基準案(1961・2・11連邦公報掲載) 日本原子力産業会議調査企画室 1961.3.30	Box007
221	1961	原子力開発利用長期計画 昭和36年2月8日 原子力委員会	Box007
222	1961	AEC to revise Charges for Enriched and Depleted Uranium United States Atomic Energy Commission Monday May 29 1961	Box008
223	1961	常磐共同火力勿来発電所を視察する皇太子夫妻	Box008
224	1961	水戸対地射爆撃場の返還に関する件(決議文) 昭和36年5月18日	Box008
225	1961	あゆみ 原研労組ニュース 安全問題特集号 No.116 昭和36年10月6日	Box008
226	1961	原子力損害の賠償に関する法律案に対する修正案要綱(36.5.9)	Box008
227	1961	原子力施設安全管理専門視察団 チーム計画編成のための必要資料 昭和36年5月	Box008
228	1961	人を喰った原研二号炉 田中六郎 中央公論 1961.1月号	Box014
229	1961	日米原子力産業合同原子動力会議 1961年12月5日-8日	Box003
230	1961	教育関係法令抜粋 日本科学技術テレビ設置準備研究会 昭和36年12月20日	Box006
231	1961	原子力損害の賠償に関する法律案	Box008

232	1961	原子力損害の賠償に関する法律案に対する修正案要綱	Box008
233	1962	大型原子炉事故から生じうる公衆災害の実態と対策-その問題点 災対-26 1962-1-25	Box005
234	1962	原子力に関する安全性の概要とその分類(安全性専門委員会中間報告書) 昭和37年5月 日本原子力学会	Box007
235	1962	Civilian Nuclear Power a Report to the President- 1962 U.S. Atomic Energy Commission S.37	Box008
236	1962	Joint Statement Japan-U.S. Atomic Industrial Forums' Conference on Some Social Problems in Nuclear Power Development 1 December 1962	Box008
237	1962	米国視察とフォーラム出席のメモ(National Reactor Testing Stationの見学など)(フォーラムの会議はニューヨーク1962年12月5、6、7日、見学は12月19日など)	Box008
238	1962	日米原子力会談(Japan-U.S. Atomic Industrial Forums' Conference 1962年12月5日から3日間ニューヨークで開催)の報告	Box008
239	1962	日本原子力産業会議の記事 1962年? 「原子力施設地帯整備に関して要望 2月22日 政府および関係各方面へ」	Box010
240	1962	原子力発電開発の現状について(要旨) 1962年6月1日 日本原子力産業会議(森一久) ウランの値段も下がってきたが石油天然ガスなどの価格が下がったので原子力推進の勢いがなくなってきている しかし準備を怠ってはいは実現がさらに遠のくので世界的に経済ベースに乗る10年後の実用化をも見通して検討を進めるべきである	Manuscripts02
241	1962	1962年9月19日 テレビ準備室 日本科学技術テレビ局設置計画 第一次草案 マル秘	Miscellaneous
242	1962	日仏原子力技術会議	Box002
243	1962	History of Nuclear Power Cooperation between France and Japan (1962年以後の日仏原子力関係の交流史と写真など)	Box020
244	1962	海外との原子力交流の概説 日仏の部分のコピー(何かの本からのコピー)(1961年から1963年頃までの説明)	Box020
245	1963	調査資料原子力特集No.8昭和38年5月 電源開発株式会社	Box002
246	1963	原子力発電開発に伴う外資導入について 日本原子力発電株式会社調査室 38.1.18	Box002
247	1963	ラジオ・アイソトープ工業利用実態調査報告書 科学技術庁原子力局 昭和38年4月	Box002
248	1963	原子力関係防災計画(案) 茨城県原子力事務局 昭和38年8月	Box002
249	1963	日本原子力研究所のJPDR問題に関する労使折衝の経過について(報告) 38.11.19 原子力局	Box004
250	1963	原子炉立地審査指針 原子炉安全基準専門部会報告書 昭和38年11月	Box005
251	1963	原子力発電の現状 原子力産業部会資料4 38.7.18	Box005
252	1963	続・原子力発電とプルトニウム-プルトニウムの日本における生産原価;並びにクレジット価値及び燃料価値との関連等について- 研究メモNo.37高橋 昭和38年8月30日 電力中央研究所	Box005
253	1963	総合エネルギー部会報告書 昭和38年12月 産業構造調査会 総合エネルギー部会	Box005
254	1963	原子力潜水艦の安全性に関する検討(草稿) 日本学術会議原子力特別委員会 1963.	Box005
255	1963	原子力発電とプルトニウム-Pu生成量と可能な利用計画の検討;プルトニウム・クレジットの考え方と問題点;プルトニウムの価値とコストの考え方等に就いて-研究メモNo.38高橋 昭和38年7月10日 電力中央研究所	Box005
256	1963	日本原子力研究所における動力試験炉(JPDR)運転中止をめぐる労使紛争について(その一) 昭和38年11月6日	Box007
257	1963	文藝春秋 63年2月号(テレビ12チャンネル・津野田知重日本科学技術振興財団専務理事に関連した記事・香取史郎)	Box008
258	1963	日米原子力会談の概要 38. 1. 17	Box008
259	1963	フォード財団の首脳あての手紙 科学技術テレビ放送に対して放送設備機械等の寄付をしてほしいとの要請文の下書き?(手書き日本語)	Miscellaneous

260	1963	米国の財団に対する 科学技術テレビ放送への放送設備寄付の要請文(手書き日本語) および 郵政大臣 小金義照殿あて 科学技術テレビジョン放送局開設免許に関するお願い 経団連会長石坂泰三 経済同友会代表幹部岩佐凱実ほか	Miscellaneous
261	1964	日本外交に注文する-日中関係に即して- 岡崎嘉平太 西春彦 松村謙三 松本重治 内田健三の対談(中国の核兵器保有関連部分)	Box008
262	1964	全貌4 昭和39年4月1日(日本原子力研究所の共産党員の記事)	Box002
263	1964	廃棄物処理専門部会報告書(抜粋) 昭和39年6月12日 原子力委員会廃棄物処理専門部会	Box003
264	1964	最近の原子力産業の展望 森一久 日本機械学会誌 第67巻 第540号 6頁-10頁 昭和39年1月	Box010
265	1964	日本の原子力研究 立花昭(電源開発株式会社)(文春の随筆欄のコピー? 昭和39年頃)	Box010
266	1964	科学朝日 昭和39年9月 森一久(23ページ)および原礼之助(36ページ) 森論文は「ゆれ動く世界の原子力発電-ジュネーブ会議への各国の準備-」内容は原子力による発電のコストが火力に匹敵するようになるめどがついたというジョンソン大統領の演説の根拠となっているオイスタークリーク原発を中心としたBWRの改良点およびコールドタービン型の将来が行き詰まるかもしれないことを紹介するとともに海水淡水化への原子炉の応用についても紹介 原論文は「研究用原子炉をめぐる世界の動き-めざましい小国の意欲-」内容はアメリカの援助で非常に多くの小国が研究炉を設置してきているので日本も自国のことだけを考えず協力すべきと指摘	Manuscripts02
267	1964	辞令 森一久 本部長室員(企画担当)を委嘱する(但し無給)昭和39年4月12日日本科学技術振興財団 辞令 教育局次長兼映画部長森一久 就業規則第98条にもとずき譴責に処する昭和40年6月20日日本科学技術振興協会 アサヒ芸能1966年4月3日号誇り高きTV局が全社員首切り(東京12チャンネルここに地獄ありのザンコク巨編)	Miscellaneous
268	1965	原子力発電政策の確立を要望する 第14次レコメンデーション 産業計画会議 1965年2月10日	Box005
269	1965	局長47年 立地安全環境検討会資料 40年 資料用封筒の表書き(原産会議の封筒)	Box010
270	1965	科学技術基本法に関する経緯について 昭和40年4月10日(ガリ版印刷) および 科学技術基本法前文を考えるにあたっての考え方 40.4.28(タイプ印刷)	Box010
271	1965	大型電子計算機の貸借に関する件 日本原子力産業会議会長より科学技術庁原子力局長あての文書 昭和40年9月15日(CDC3600の貸借により国産電子計算機の開発に協力する旨)	Box012
272	1965	COMPUTERS-比較報告 CDC-6600 vs. IBM/360 G75+G50 昭和40年7月 三菱電機株式会社 木村久男 40.7.12	Box012
273	1965	プルトニウム燃料取扱作業等の保健安全管理に関するプロジェクト研究計画(案) 昭和40年11月	Box013
274	1965	原産会議年次大会向けメッセージ?	Box011
275	1965	Day of Trinity Lansing Lamont Atheneum New York 1965(原爆開発のノンフィクション本 香川県立図書館蔵書のコピー)	Box016
276	1965*	学校組織図・教団組織	Box006
277	1965*	全日制と定時制 手書きメ	Box006
278	1965*	私案東京12チャンネル設計図 手書きしたもののコピー 教育に徹するという考えでの再出発案	Miscellaneous
279	1966	コンピュータの月間運転時間の推移グラフ(昭和41年度)	Box012
280	1966	昭和41年度損益計算書(案) 電子計算機室 42.3.3	Box012
281	1966	昭和41年度損益計算書(案) 電子計算機室	Box012
282	1966	原子力工業 1966年6月号 特別記事 MHD発電の研究動向と今後の問題点 Vol.12 No.7 Jul. 1966 日刊工業新聞社	Box012
283	1966	勘定科目内訳書 自昭和41年4月20日 至昭和41年12月31日 原子力普及事業株式会社	Box012
284	1966	昭和41年4月2日号 週刊新潮 デレクター百五十人の覚悟 東京12チャンネル花形職業の敗戦	Miscellaneous
285	1966	第11回原水爆禁止世界大会について 原水爆禁止日本協議会	Box005

286	1966	委員会に関する規程(案)(手書きメモ)(原産会議の総合企画委員会と特別委員会に関する規程案)	Box011
287	1966	導入経緯(CDC3600/3200の導入経緯)	Box012
288	1966	11月(原産会議が運営するコンピュータの利用記録?)	Box012
289	1966	6月分 売掛金額 6/26現在(各利用者の金額表)	Box012
290	1966	CDC3600 電子計算機システムご利用のしおり 日本原子力産業会議電子計算機室 技術協力伊藤忠電子計算サービス株式会社	Box012
291	1966*	(東京12チャンネル)従業員の皆様へ 希望退職を募集することの通知	Miscellaneous
292	1967	動力炉・核燃料開発事業団法案に対する附帯決議 42.7.5	Box011
293	1967	昭和41年度決算見込 42.3.3	Box011
294	1967	List of Anticipated Makers and Construction Companies for AFC Reprocessing Facilities(日本の関連企業のリスト 英文・会社名はローマ字表記)	Box004
295	1967	原子力産業新聞 第400号 昭和42年9月25日(カナダと長期ウラン契約など)	Box004
296	1967	原子力産業新聞 第401号 昭和42年10月5日(動燃充足など)	Box004
297	1967	欧州の放射性廃棄物の漁業への影響調査団の写真の入った封筒(IAEA等訪問の写真) 1967 S42	Box009
298	1967	原子力開発利用長期計画 昭和42年4月13日 原子力委員会	Box009
299	1967	原子燃料公社の再処理工場について(再処理部内資料) 1967.6	Box009
300	1967	昭和60年までの(昭和42年から)開発輸入量獲得に対する探鉱費試算(酸化ウランU3O8の必要量と探鉱費の試算表)	Box010
301	1967	ウラン濃縮について 昭和42年9月 原子燃料公社	Box011
302	1967	動力炉・核燃料開発事業団法案に対する附帯決議 42.7.5 ([292]のコピー)	Box010
303	1967	再処理施設に関する経過&現況及び今後の対策(便せん手書きメモ)	Box011
304	1967	核燃料再処理施設の設置について(回答) 二階堂進科学技術庁長官より 岩上二郎茨城県知事宛 昭和42年8月8日	Box011
305	1967	核燃料再処理施設の設置について 岩上二郎茨城県知事より二階堂進科学技術庁長官・原子力委員長宛 昭和42年6月12日	Box011
306	1967	核燃料再処理施設の設置について 岩上二郎	Box011
307	1967	核燃料再処理施設との関連に関する答申書 茨城県原子力審議会 昭和42年5月	Box011
308	1967	昭和42年度事業計画(電子計算機室)(案) 42.2.2 (手書きメモ)	Box011
309	1967	昭和42年度事業計画(案) 昭和42年2月23日 荒井 仁	Box011
310	1967	42年度事業の実施について(国際的な協同活動) 昭和42年2月23日 国際課 久保克己	Box011
311	1967	放射線開発課 昭和42年度事業計画(案) 42.2.22	Box011
312	1967	昭和42年度事業計画(案) サービス事業部 42.2.23	Box011
313	1967	昭和42年度重要事項別内示額総表(第2次内示分) 42-2-22 科学技術庁	Box011
314	1967	昭和42年度収支予算(案) 42.3.3	Box011
315	1967	昭和42年度事業計画 基本方針 42.3.3	Box011
316	1967	Radioactive Waste Disposal Operation into the Atlantic 1967 European Nuclear Energy Agency Organisation for Economic Co-operation and Development September 1968	Box011
317	1967	放医研ニュース(原子放射線の影響に関する国際連合科学委員会1966年報告) 昭和42年3月25日 Vol.10 No.3 放射線医学総合研究所	Box012
318	1967	主要顧客別売上高一覧 42.4.1~42.11.30(極秘)	Box012
319	1967	電子計算機室業務経過 42.3	Box012
320	1967	JAIF's Computing Center for Atomic Industry October 1967(原産会議の計算機の紹介など)	Box012
321	1967	事務分担表 42.6.1(原産事務局?職員の分担表)	Box012
322	1967	第1回定時株主総会決議通知書 昭和42年2月24日 原子力普及事業株式会社 代表取締役社長 橋本清之助(原産への関りの始)	Box012

323	1967	原子力特許 昭和42年12月末現在 日本の原子力特許公告件数の表	Box013
324	1967	The Coastal Fishery Survey Team for the Contamination Problem of Radioactive Waste in the Sea Sep-Oct. 1967 Japan Fisheries Resource Conservation Association	Box013
325	1967	古い写真を入れた封筒(「こちらお返ししておきます」の張り紙あり)(古い写真、重要、橋本先生訪英、ロンシャンマクラカン、H5と表書き)(内容は1993.10.3および1993.10.4の競馬場での写真、1967年5月佐久間稔氏のドイツからの移動中の様子を知らせるハガキおよび本間茂氏のバリで佐久間氏を迎えロンドンで橋本先生を迎えるとのハガキいずれも森一久氏あて)	Box021
326	1967	航空便 橋本清之助先生あてウイーン在住の苔米地頭氏から(訪欧から帰国した橋本氏への滞欧中のことなどに関する挨拶)	Box021
327	1967	佐久間稔氏から森一久氏への手紙(スケジュールは順調にこなしているが橋本氏と共に滞在したロンドンのホテル代が高いなど)	Box021
328	1967	IAEAのHenry Seligmanから橋本清之助氏あての航空便(所用で会えなかったことのお詫びと手土産をもらったことへのお礼)	Box021
329	1967	本間茂氏より森一久氏へのハガキ(橋本先生がロンドンでの会議を無事終えたこと、自分はロンドンからバリに帰る予定で後日ウイーンで再会を期す) 1967年4月25日	Box021
330	1967	佐久間稔氏より森一久氏への航空便(親展 メンバーとして登録されてなくパーティ等も招待状がなく不便・不快であるとの訴え) 1967年4月23日 ロンドンにて	Box021
331	1967	佐久間稔氏より森一久氏への私信 航空便(ロンドンに橋本先生無事到着のことバリを経て帰国の予定、会議出席メンバーに自分が登録されていなかったことに対する不満) 1967年4月22日	Box021
332	1967	ロンドンでの挨拶草稿(英文)(原産会議の便せんに手書き)	Box021
333	1967	省庁関係組織図(手書き)	Box011
334	1967	トロン壺-人工放射能泉について-説明 販売所 茨城県東海村大字村松 原子力普及事業株式会社	Box011
335	1967	再処理工場の建設について	Box011
336	1967	原産42年度事業関係資料の封筒の表書き 昭和42(原産?封筒)	Box011
337	1967	予算の調整管理 42年度(手書きメモ)	Box011
338	1967	国会、政府機関との連絡の緊密化 企画室(原産としての国会や原子力委員会・科学技術庁・通産省等との連絡組織の構想)(手書きメモ)	Box011
339	1967	原産の電算機CDC3600/3200の写真	Box015
340	1967	関係産業との協調(何かの原稿)	Box011
341	1967	安全性の確立(原子力安全研究協会の活動方針か?)(手書きメモ)	Box011
342	1967*	産業技術普及サービス費一覧表(年月日等不明)	Box011
343	1968	動力炉・核燃料開発事業団と原研と日本原子力船開発事業団と放射線医学総合研究所の目的と業務の比較表(手書きメモ)	Box010
344	1968	動力炉・核燃料開発事業団と原研と日本原子力船開発事業団と放射線医学総合研究所の目的と業務の比較表([343]のコピー)	Box010
345	1968	職場の明朗化に関する要望 昭和43年11月26日	Box009
346	1968	原研体制関係の書類の入った封筒の表書き S43年(原研の封筒)	Box010
347	1968	原子炉多目的利用調査団派遣要綱(案) 43. 6. 20	Box010
348	1968	昭和43年度原子力関係予算政府原案総表 43. 1. 16 原子力局	Box010
349	1968	佐世保問題メモ(タイプしたもの) 1968年7月15日 7月16日原子力局田中次長電話連絡により加筆	Box010
350	1968	佐世保問題に対する反省(嵯峨根遼吉) 1968年7月18日(手書きメモ)	Box010
351	1968	佐世保関連反省すべきことのメモ 1968年7月29日(嵯峨根遼吉?)(手書きメモ)	Box010
352	1968	佐世保問題に対する反省(タイプしたもの) 1968年7月18日 嵯峨根遼吉	Box010
353	1968	佐世保の放射能問題に対する私見 1968年7月21日 嵯峨根遼吉(タイプしたもの)	Box010

354	1968	原子力委員会へのrecommendation 1968年7月18日 外部に対する心構えの発表と中間報告 原子力委員会 (佐世保問題に関連して嵯峨根遼吉が書いたものか?) (タイプしたもの)	Box010
355	1968	体制のあり方一案 昭和43年7月4日 (手書きメモ)	Box011
356	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について(案) 43.3.12 原子力委員会 マル秘文書	Box011
357	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について 43.3.14 原子力委員会	Box011
358	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について 43.3.14 原子力委員会 ([357]の最終タイプ直前のもの?)	Box011
359	1968	現行の原子力開発体制での問題点 43.7.23 (手書きメモ)	Box011
360	1968	再処理関係資料集 昭和43年1月 動力炉・核燃料開発事業団広報室	Box011
361	1968	再処理問題説明参考資料 1968年11月20日	Box011
362	1968	再処理工場敷地問題関連資料 43.4.4 動力炉開発室	Box011
363	1968	「核燃料再処理施設の建設について」鍋島直紹科学技術庁長官あて岩上二郎茨城県知事の照会文書 昭和43年11月4日	Box011
364	1968	第3回定例会付帯案件に対する報告書(東海村議会再処理施設設置に関する特別委員会亀田和久委員長より東海村議会榎井孝議長への報告書) 昭和43年12月16日	Box011
365	1968	東海再処理施設茨城県関係資料封筒の表書き S43 (原産会議?封筒)	Box011
366	1968	原子力に対する安全確保上の措置に関する要望書(写)の送付について 野呂田芳成茨城県開発部長より日本原子力産業会議菅禮之助あて 昭和43年6月24日	Box011
367	1968	原子力に対する安全確保上の措置に関する要望書 昭和43年 月 日	Box011
368	1968	原子力に関する安全確保上の措置に関する答申書 茨城県議会原子力審議会 昭和43年1月	Box011
369	1968	実地検査の結果について 会計検査院事務局より動力炉・核燃料開発事業団理事長宛(実地検査の結果回答を必要とする事項がある) 昭和43年5月4日	Box012
370	1968	43年度売上仕入対応表 S.43.4.1 ~S.43.9.29 現在 (コンピュータの使用料、プログラミング料など)	Box012
371	1968	貸借対照表 昭和43年4月1日~昭和43年9月30日	Box012
372	1968	原子力産業新聞 第429号 昭和43年6月17日 (政府NTP修正案に賛成の記事)	Box012
373	1968	3月7日茨城県会再処理関係質疑応答要旨 43.3.7 メモ丸山正倫	Box013
374	1968	原子力軍艦放射能調査指針大綱 昭和43年9月5日 科学技術庁原子力局	Box013
375	1968	県漁業組合長会議について(漁連篠崎課長の談話) 43.2.12 (2月11日の会議の概要、再処理工場反対再確認)	Box013
376	1968	海域放出特別部会報告書 放射線審議会 昭和43年12月26日	Box013
377	1968	核爆発の平和利用 今井隆吉 日本原子力学会誌 (1968年7月19日受理)	Box013
378	1968	AEC Gaseous Diffusion Plant Operations ORO-658 February 1968	Box013
379	1968	放射線管理組織の基本的問題 -放射線取扱主任者の地位に関する検討- 昭和43年3月 社団法人日本放射性同位元素協会 放射線取扱主任者部会	Box013
380	1968	米国原子力潜水艦(ソードフィッシュ号)寄港関係資料集 昭和43年6月3日 原子力局	Box013
381	1968	昭和43年6月8日佐世保港訪問に関する報告書 衆議院議員 斉藤憲三 6月11日提出 (自民党国民運動本部、自民党広報委員会、自民党科学技術特別委員会より派遣)	Box013
382	1968	原産年次大会の経緯(第1回昭和43年から第33回平成12年まで)	Box015
383	1968	原天懇話会 会則(手書き)、新組織構想1988年2月27日書き初め(〇〇〇〇日本クラブの構想)、2010年1月23日の原天会運営に関するメモ(博田忠邦氏から森一久氏へ伝えてほしいとの津田敦子氏あてFAX)	Box027

384	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について(案) 43.3.13 原子力委員会 マル秘文書	Box010
385	1968	体制関係封筒の表書き S43 (科学技術庁の封筒)	Box011
386	1968	原子力委員会ならびに各開発機関のあり方について(案) 43.6.22 (手書きメモ)	Box011
387	1968	原産会議総合企画の計画案? (手書きメモ)	Box011
388	1968	コンピュータ関連資料の封筒の表書き S43年(原産会議の封筒)	Box012
389	1968	大型電子計算機CDC3600システムの導入と運営に関する経緯について昭和43.6.7	Box012
390	1968	未収金関係 8/8 各社の未収金リスト	Box012
391	1968	ソ号寄港にともなう放射能調査について 科学技術庁便せんに手書きしたメモ	Box013
392	1968	有澤、田中次長、山崎文男、向坊隆、嵯峨根遼吉 佐世保関係意見交換会メモ 1968年7月8日(米国海軍と放射線問題)(手書きメモ)	Box010
393	1968	原子力開発の歴史(年表その1)1895-1968	Reports02
394	1968	原子力施設環境問題漁業者調査団の報告書抜粋 報告書は昭和43年3月(森一久氏も団員の一人)	Reports06
395	1968	米原子力空母の安全性に関する米側よりのファクトシート Fact Sheet on U.S. Nuclear Powered Warship (NPW) Safety	Reports06
396	1968	12月分(原産が運営するコンピュータの各会社の日ごとの利用記録?)	Box012
397	1968	買掛金支払明細(11/10支払)	Box012
398	1968	「佐世保問題メモ」に関する手紙 7月18日 嵯峨根遼吉より橋本清之助あて	Box010
399	1968	今日の問題「こわい」朝日新聞夕刊 5月20日(佐世保の魚が売れないことなど)	Box010
400	1968	原子力委員会及原子力局に第一の責任は何か政府の政治的活動援助は「二の次」であることを申入れるべきである(嵯峨根遼吉?)(手書きメモ)	Box010
401	1969	原子力の平和利用に関する世論調査 昭和44年7月 科学技術庁(世論調査報告書 昭和44年3月調査)	Box012
402	1969	非核兵器国会議の審議概要 外務省国際連合局軍縮室科学課 昭和44年1月	Box013
403	1969	「大学の欠陥に関する考察」向坊隆 増川重彦 研究・組織、その2 1969.12.28 討議資料 No.18 工学部INF班	Box013
404	1969	エネルギー政策調査会 趣意書	Box010
405	1969	東海村地帯整備資金手当の表(41年から44年まで)	Box010
406	1969	ノートブック IAEA等視察ノート	Box012
407	1970	保障措置問題調査団御予定(案) 1970年4月 在仏日本大使館(萩野谷様用)	Box012
408	1970	週刊朝日 1970.2.25 日本万国博 ガイド特集号	Box009
409	1970	官報 昭和45年4月24日 関税込率法等の一部を改正する法律	Box010
410	1970	官報 昭和45年4月27日 関税割当制度に関する政令の一部を改正する政令	Box010
411	1970	「エネルギー開発基金(特別会計)」(仮称)の原子力関係業務について(案) 昭和45年8月20日 原産 森(海外ウラン探鉱助成・ウラン濃縮施設助成)(手書きメモ)	Box010
412	1970	「総合エネルギー対策特別会計」(仮称)の創設について 45.8.26	Box010
413	1970	地帯せいび歴史関係の封筒の表書き 45年(原産会議の封筒)	Box010
414	1970	核防調査団 1970 4/11-27 欧米 関係資料の封筒表書き 昭和45年4月	Box012
415	1970	核防条約に伴う保障措置問題調査団 団員名簿 昭和45年4月1日 日本原子力産業会議	Box012
416	1970	核防条約に伴う保障措置問題調査団 御日程その2 (ワシントン)昭和45年4月22日 日商岩井ニューヨーク事務所	Box012
417	1970	核防条約に伴う保障措置問題調査団 御日程 昭和45年4月22日 在ニューヨーク総領事館	Box012
418	1970	フランクフルトのホテル(1970.4.22)の請求・領収書	Box012

419	1970	核防条約に伴う保障措置問題調査団 1970. 4. 11 在オーストリア大使館 (日程表)	Box012
420	1970	ウイーンの (古い木こり小屋を使った?) ワインの店のチラシを使ってEuratom の関係者の名前をペン書きしたもの	Box012
421	1970	ウイーンのホテルの森さんあての電報 (東京の橋本さんより「妹尾さん (調査団団長) ついに叙勲決定4月29日発表予定、お伝え乞う よろしく」との電報) 1970. 4. 13	Box012
422	1970	核防条約に伴う保障措置問題調査団 団員名簿 昭和45年4月1日 日本原子力産業会議 ([415]と同じものに住所・生年を手書きで書き込んだもの)	Box012
423	1970	Industrial Mission on NPT International Safeguards April 1 1970 Japan Atomic Industrial Forum, INC. (調査団の概要説明文)	Box012
424	1970	「核防条約に伴う保障措置問題調査団」の派遣について 昭和45年4月1日 日本原子力産業会議	Box012
425	1970	Dai-ichi International Travel Co. Ltd Itinerary for Mesars. S.Matsune M.Sueda and M.Sakisaka April 6, 1970 (tentative)	Box012
426	1970	US AEC シーボーグ委員長より原産橋本清之助あて航空便 昭和45年6月2日発信、8日受信 (調査団とのミーティングが有益であったことを喜ぶ内容) (原文と訳文)	Box012
427	1970	日本経済の発展に伴うエネルギー需要と対応する原子力についての予測メモ 1970 (手書き)	Box014
428	1970	四国電力50年史の一部コピー (原子燃料確保に関する部分 四国電力が昭和45年3月にフランスから日本で最初にフランスから天然ウランを購入する契約をしたことなど) 2004年6月17日四国電力本店からFAXで送られてきたもの	Box020
429	1970	Industrial Mission on NPT International Safeguards 訪米調査団メンバー表 (英文)	Box012
430	1970	Schedule of Industrial Mission on International Safeguards in Washington D.C. April 23- 25, 1970 (ワシントンでの日程 英文)	Box012
431	1970	Euratomで質問することを箇条書きしたもの (英文手書きメモ)	Box012
432	1970	団員行動メモ (出国手順、ホテル等での注意事項を記したもの) (タイプしたもの)	Box012
433	1970	団員表 (日本語およびローマ字表記) (原産会議の便せん)	Box012
434	1970	手紙 (調査団で出かけている森一久への贈り物からの私信) (4月14日?)	Box012
435	1970	ことづけ他 ([433]の名簿のコピーを使って何人かへのことづけ土産等のメモ手書き)	Box012
436	1970	Atomic NPT Team Hotel List (調査団の宿泊予定ホテルリスト) 4月12日より26日まで	Box012
437	1970	Industrial Mission on NPT International Safeguards フライト等予定表 09Apr. 1970	Box012
438	1970	エネルギー政策調査会 第4回 9月10日 ニューオータニ (手書きメモ)	Box010
439	1970	Questionnaire to USAEC (米国原子力委員会への質問事項メモ タイプしたもの)	Box012
440	1970	保障措置関係の資料としてどのようなものがあるかを羅列した手書きメモ (三菱金属工業の便せん)	Box012
441	1970	オーストリアでの連絡先 (大使館、住友商事、IAEAなど)	Box012
442	1970	日米、日英協定、safeguard 相違についても手書きメモ	Box012
443	1970	橋本清之助よりSinnassamyへの手紙 (英文) (調査団のバリでの予定を知らせる手紙) 1970. 4. 6	Box012
444	1970	Paris-Turf 1970. 4. 18 (パリのスポーツ新聞 競馬?)	Box012
445	1970	Courses au Bois de Boulogne 1970. 4. 19 (フランス競馬レースのプログラム)	Box012
446	1971	自民党政務調査会から原産事務局長森一久宛封書	Box010
447	1971	自民党政務調査会・総合エネルギー調査会のエネルギー関係業界代表との第1回会合のプログラムと(原子力関係) 46. 8. 12 の予定表	Box010

448	1971	自民党政務調査会・総合エネルギー調査会のエネルギー関係業界代表との第1回会合への出席依頼文(自民党二階堂氏より森氏あて)昭和46年7月31日	Box010
449	1971	電力供給確保上の重要課題に関するメモ 46.8 電気事業連合会	Box010
450	1971	電気事業における公害と原子力 46.8.18 東京電力副社長田中直治郎	Box010
451	1971	エネルギー研交(究?)会 46年8月10日の議事録	Box010
452	1971	昭和47年度原子力関係予算に対する要望 昭和46年8月12日 日本原子力産業会議	Box010
453	1971	海外電力事情 No.16(臨時号) 1971年7月25日 ニクソン大統領の「エネ ルギー教書」財団法人海外電力調査会(通巻第53号)	Box010
454	1971	エネルギー政策調査会第2回会合(46.8.12・ホテルニューオータニ)議事 要旨	Box010
455	1971	原子力着工地点表(昭和46年度長計中電協資料より)	Box010
456	1971	文藝春秋 昭和46年7月8月号 特別手記 私の原爆忌「ヒロシマ」を憎む 岩木重敏	Box010
457	1971	第4回ジュネーブ会議資料の封筒表書き 46年(原産会議の封筒)	Box011
458	1971	This Specific Factual Testimony States a Strong, Clear View on Lake Michigan Thermal Standards AWARE Magazine Issue11, Sep. 1971 Westinghouse Technical Information Reprint 74、	Box012
459	1971	USSR Atom for Peace Scientific and Technical Exhibition Geneva 1971	Box012
460	1971	長期計画専門部会の設置について 46.6.17 原子力委員会	Box013
461	1971	日本の原子力カー15年のあゆみー上 日本原子力産業会議 昭和46年10月1日	Reports06
462	1971	昭和46年2月25日 原子力産業新聞 菅原産会長永眠 2月18日に原産会長の菅禮之助氏が87才で亡くなったことに関する記事	Manuscript04
463	1971	日米エネルギー協議 日本人参加者フライトスケジュール56.6	Box003
464	1971	日米エネルギー協議 米側主要参加者について56.6.9	Box003
465	1971	総合エネルギー部会(二階堂)新エネルギー研究会(岩動)関係資料の封筒の表書き 46年(原産会議の封筒)	Box010
466	1971	岩動道行政管理政務次官(参議院議員)から原産会議森一久事務局長宛封書 46.8.13着 エネルギー研究会(「原子力と公害・科学技術庁長官室 46.8.18)の案内文	Box010
467	1971	ノートブック(第4回ジュネーブ会議に関するノート)	Box011
468	1971	打ち合わせメンバー連絡確認手書きメモ(三菱原子燃料・住友金属鉱山・原子燃料工業・第一化学薬品・原電・原子力局)30日2時会長室	Box010
469	1971	海外ウラン資源開発について一現状と問題点・将来の展望ー 動力炉・核燃料開発事業団理事 神山貞二(電気情報第14巻第154号より抜粋)	Box010
470	1971	現在考慮すべき項目例(燃料濃縮、燃料調達などの国際情勢と日本の対策等)(タイプしたもの)	Box011
471	1972	原子力地帯整備事業財源内訳一覧 47.6.8	Box010
472	1972	韓国原産会議 朴氏あての日本原産会議橋本清之助よりの書簡 昭和47年9月14日(韓国からの再処理事業の韓国での共同建設の提案に対する情報の非公式な問い合わせ)	Box010
473	1972	原子力発電所サイト周辺動向の報告(反対運動を中心として)「内部資料(未定稿取扱注意)」昭和47年5月 日本原子力産業会議 No.5/22 0006	Box010
474	1972	ソ連大使との懇談概要「取扱注意」1972年6月29日 東京プリンスホテル 駐日大使O.A.トロヤノフスキー 原産松根副会長・森事務局長などソ連からのウラン供給 核燃料問題など	Box010
475	1972	米国における原子力発電所の建設許可・運転認可手続き 47.2.25 調査室 科学技術庁の便せん 手書きメモ	Box010
476	1972	西独におけるライセンス手続きについて(IRSとの関係) 47.5 資料3 その1(タイプしたもの)	Box010
477	1972	AEC許認可料金の値上げについて(U.S.AEC News Releases Vol.3 No.18?) 1972年(手書き)	Box010

478	1972	差当たり必要な事項について 47.5.25 三島委員（安全審査会のあり方に関する意見書）	Box010
479	1972	地帯整備関係資料封筒の表書き 柏崎他 47（原産会議の封筒）	Box010
480	1972	原子力施設所在地の地帯整備および税制優遇等の促進に関する要望について（御依頼）昭和47年11月9日（動燃理事長清成迪より原産会議会長安川第五郎への依頼文）	Box010
481	1972	原子力発電所周辺地帯整備計画並びに関連する整備計画の構想 昭47.9 柏崎市	Box010
482	1972	原子力発電所周辺地帯整備計画並びに関連する整備計画の構想 昭和47年10月 敦賀市	Box010
483	1972	原子力開発地域整備促進法（仮称）の制定について「取扱注意（検討用未定稿）」昭和47年12月 日本原子力産業会議	Box010
484	1972	第二回理事会の開催について（温水養魚開発協会藤田巖理事より原産会議森一久専務理事あての開催通知）昭和47年9月25日	Box011
485	1972	財団法人温水養魚開発協会昭和47年度第二回理事会議事録 昭和47年10月12日 大日本水産会 会議場	Box011
486	1972	財団法人温水養魚開発協会の賛助者に関する規則（案）昭和47年	Box011
487	1972	財団法人温水養魚開発協会昭和47年度第1回理事会次第 昭和47年7月20日 東海原子カクラブ	Box011
488	1972	財団法人温水養魚開発協会寄附行為 昭和47年6月15日制定	Box011
489	1972	宿・日直規程（案）昭和47年（温水養魚開発協会関係か？）	Box011
490	1972	核防条約の早期批准を 今井隆吉 中央公論 1972年3月号	Box012
491	1972	原子力開発利用長期計画 昭和47年6月1日 原子力委員会	Box013
492	1972	原子力開発利用長期計画概要 昭和47年5月 原子力局	Box013
493	1972	ウラン濃縮に係わる「機密保持」問題 -その法律的考察と今後の方針立案について- 日本原子力産業会議 昭和47年4月	Box013
494	1972	原子力発電サイト周辺の動向（反対運動を中心として）昭和47年6月 日本原子力産業会議（限定配布資料、取扱注意）	Box013
495	1972	地帯整備開発・自治体財政問題に関する検討会の設置について 昭和47年8月 日本原子力産業会議	Box013
496	1972	第4回地帯整備開発。自治体財政問題に関する検討会 昭和47年10月23日 ホテルグランドパレス（プログラムをタイプしたものに手書きでメモしてある）	Box013
497	1972	安全・環境確保のための体制整備に関する要望書 昭和47年8月 社団法人日本原子力産業会議	Box013
498	1972	原電立地の困難性 -大飯地点の経緯を中心として- 昭和47年9月	Box013
499	1972	共同通信講演 47.4.8 講演メモ（エネルギー見通しと原子力、日本の原子力発電の歴史と将来、問題点、要望）（手書き）	Box014
500	1972	広島県史一原爆資料編 今堀誠二広島大名誉教授編集 昭和47年3月31日発行（[799]の清水榮氏の手紙に同封されていたもの）	Box020
501	1972	放射性廃液の海洋放出調査特別委員会 5カ年研究成果報告書 原安協報告-55 昭和47年6月 原子力安全研究協会	Reports06
502	1972	原子力地帯整備開発問題の論点について（47.10.18 原産・動力開発課）	Box010
503	1972	（付表）主な環境・安全問題（原子力関係と一般環境問題に分類した事故の表）	Box013
504	1972	核防条約の批准について	Box013
505	1972*	養魚試験池建設費当初計画との比較など 温水養魚開発協会 昭和47年？	Box011
506	1973	新会長（選挙）有澤さんにあつたとき S48.9月（電力経済研究所の封筒）	Box009
507	1973	原産の将来体制についての検討報告 昭和48年9月 原産体制特別委員会 座長 有澤廣巳	Box010
508	1973	昭和48年度都市計画事業（うち原子力地帯整備事業）財源内訳	Box010
509	1973	昭和48年度都市計画事業（うち原子力地帯整備事業）財源内訳（[508]と同じ表題内訳内容数字等が若干異なる。18の方が改正版？）	Box010

510	1973	日ソ民間原子力協定 昭和48年6月 訪ソ 関係封筒の表書き (三井航空郵便封筒)	Box012
511	1973	原産森事務局長あて三菱重工よりの封書 1973. 7. 25原産着	Box012
512	1973	ソ連からの訪ソ団の土光敏夫あて礼状(ロシア語原文と和訳) 1973年7月19日付け手紙	Box012
513	1973	コラ半島原子力発電所運転開始情報(APN) 住友商事ソ連東亜室次長伊藤弘より原産会議事務局長あて 昭和48年7月23日	Box012
514	1973	訪ソ時の風景スケッチ 昭和48年6月	Box012
515	1973	シェフチェンコの原子力発電所と極北のピリピン原子力発電所のニュース (APN) 住友商事ソ連東亜室次長伊藤弘より原産会議事務局長あて 昭和48年7月24日	Box012
516	1973	訪ソ団旅行記 (手書きメモ) 昭和48年6月	Box012
517	1973	「原子力開発地域整備促進法」(仮称)の制定についての要望書 昭和48年1月 日本原子力産業会議	Box013
518	1973	49年度科学技術重点施策提案 昭和48年8月14日 衆議院議員科学技術特別委員会理事 前田正男	Box013
519	1973	The causes of nuclear power plant delays Atomic Industrial Forum An AIF Staff Survey (原発建設の遅れに関する調査報告 1973年のforum向けの調査)	Box014
520	1973	1973年の日記帳	Diarys
521	1973	昭和48年5月7日 日本原子力産業会議 訪ソ原子力視察団ハンドブック 日本原子力産業会議 メンバー 連絡先 旅行メモ 資料(質問事項 ソ連原子力事情 ロシア語要覧) 派遣の趣旨 日程(6月3日-15日) 国家原子力委員会との会合 キエフのタービン工場視察 ヘロヤロスク原発視察 クルチャツ原子力研究所視察 エレクトロシラ重電機工場視察 レニングラード観光 モスクワ市内観光 レーニン原子炉研究所 エネルギー物理研究所視察 ノボボロネジ原発視察 国家原子力委員会との会合 各施設の視察メモが万年筆でかなり克明に記述されている ソ連がIAEAの監視下という雰囲気を感じている感想が記されている	1973_USSR
522	1973	原産体制に関する書類の入った封筒の表書き S48. 9 有澤委報告(原産会議の封筒)	Box010
523	1973	発言要旨(エネルギー需給と原子力の必要性・立地・燃料確保・新型動力炉開発・予算枠固定化の問題) 手書きメモ	Box010
524	1973	(参考メモ) 従来の関税収入分と石炭対策特別会計(手書きメモ)	Box010
525	1973	6月25日の伝票(ロシア語の計算書 両替関係?)	Box015
526	1973	6月24日 モスクワでのコンサート?のプログラム	Box015
527	1973	原子力関係用語(ロシア語と対応する日本語の表)	Box015
528	1973	関係機関連絡先 ソ連旅行の注意書きなど	Box015
529	1974	日本原子力産業会議の役員表(S49. 5. 24現在)・活動内容(「原子力年鑑」?)の当該箇所のコピー)	Box009
530	1974	第7回原産年次大会(昭和49年3月5日~7日) 会長有澤廣巳の所信表明	Box010
531	1974	地帯整備特定財源手書きメモ(昭和49年度工事費の一部を関係者で分担する計画案のメモ)(動燃・原研・原電・三菱・住友・古河・富士)	Box010
532	1974	昭和49年度?工事費分担案手書きメモ(動燃・原研・原電・三菱燃料・住友金鉱・古河(原燃)・第一化学薬品)	Box010
533	1974	奥尻島・原子力立地調査の概報と推撰 昭和4?	Box010
534	1974	昭和49年度第一回評議員会および第一回理事会議事録の送付について 財団法人温水養魚開発協会 昭和49年6月17日	Box011
535	1974	米国原子炉安全研究(WASH-1400)専門家会議出張報告(原子炉安全圏九件等調査団) 昭和49年12月 財団法人原子力安全研究協会	Box011
536	1974	Current Trends and Sensitivity to Economic Parameters October 1974 United States Atomic Energy Commission WASH-1345	Box013
537	1974	資源・エネルギー関係の研究体制について(勧告) 日本学術会議越智勇一会長から田中角栄内閣総理大臣への勧告 昭和49年11月20日	Box013
538	1974	Low-Level Radiation 1974 Nuclear INFO series Atomic Industrial Forum Inc.	Box013

539	1974	一ツ橋大学開放講座「原子力発電の功罪」都留重人(一ツ橋大学長) 49. Box013 9. 19 一ツ橋講堂(手書きメモ 原子力安全研究協会の便せん)
540	1974	The Plutonium Decision A Report on the Risk of Plutonium Recycle Box013 J. Gustave Speth Arther R. Tamplin Thomas B. Cochran September 1974
541	1974	日本の総合エネルギー政策-長期的展望に立って- 向坂正男(財団法人日 Box013 本エネルギー経済研究所所長) 1974年10月
542	1974	毎日新聞社説 昭和49年?1月28日 原子力長期計画は全面的改定へ Box021
543	1974	写真 1974年7月12日13日 伊豆大島岡田港 Reports03
544	1974	東 地帯(東京原子力地帯に関する書類の封筒の表書き 49. 5. 30(消 Box010 してある)(原産会議の封筒)
545	1974	49年度収支実行計画(温水養魚開発協会関係か?) Box011
546	1974	読売新聞の記事 日本分析化研デタラメ報告(原潜の放射能測定のず Box021 さんさを指摘する内容) 1月30日
547	1974	奥尻町 地図 Box010
548	1974	朝日新聞の記事(原潜の放射能測定のずさんさを指摘する内容)および毎 Box021 日新聞(発電所の固定資産税の市町村分を増やす)の記事 1月30日
549	1975	日本原子力産業会議役員表 昭和50年10月 Box010
550	1975	茨城センター関係資料の封筒の表書き 昭50- (原産会議の封筒) Box010
551	1975	広報対策について 50. 12. 3 (新財団の創設と会館の建設等の基本方針) Box010
552	1975	科学技術庁・通商産業省告示第1号 昭和50年10月15日 広報対策交 Box010 付金等交付規則の一部改正・広報研修施設補助金の交付対象)
553	1975	原子力関係団体の整理統合要綱(試案) 50. 6. 9 (茨城県環境局より Box010 たつき台として)
554	1975	県の局長、課長、補佐と原産の森および財団の亀田との懇談メモ 昭和 Box010 50年9月18日 第一ホテル(手書きメモ)
555	1975	役員名簿 昭和50年5月26日 茨城県原子力開発協議会 Box010
556	1975	核兵器不拡散条約の早期批准に関する要望書 昭和50年2月21日 日 Box013 本原子力産業会議
557	1975	核防の批准は慎重に 福田信之筑波大学副学長 サンケイ新聞正論欄 Box013 昭和50年3月7日
558	1975	核防条約批准の必要性(原子力平和利用関係) 昭和50年2月 外務省 Box013
559	1975	NPT関係原産活動経過 50. 4. 7 Box013
560	1975	朝日ジャーナル Vol.17 No.40 1975 9.15 あなたは核兵器を知っているか Box014 臨時増刊(森一久らの座談会記事を含む)
561	1975	原子力船「むつ」-遮蔽改修の見通し- 昭和50年6月11日 日本原子力船 Box014 開発事業団(取扱注意)
562	1975	「むつ」放射線漏れ問題調査報告書 昭和50年5月「むつ」放射線漏れ問題 Box014 調査委員会
563	1975	ソ連引合原子力NSSS Componentsの件 昭和50年11月14日 日本原子 Box015 力産業会議
564	1975	「安心のいく世の中」を作るために 昭和50年3月10日 産業計画懇談会 Box015
565	1975	昭和のあゆみ50年 毎日新聞にみる歴史の証言 毎日新聞社 Box014
566	1975	財団法人茨城県原子力センターの設立について Box010
567	1975	茨城県に於ける原子力関係団体の整理統合試案メモ 7月18日 水戸三の丸 Box010 ホテル および財団法人茨城県設立趣意書 10月7日 東海クラブ (局長、課長、村長、原産森、財団亀田)
568	1975	ソ連引合100万KW原子力発電プラント用一次系COMPONENT商談 Box015 の件
569	1976	第4回 S.51. 3. 17 経団連 8F 阿蘇の間 という封筒の表書き(原産会 Box011 議の封筒)
570	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第3回)議事概要(経団連会館にて科学技 Box011 術庁の核燃料サイクルの方針を聞く会) 昭和51年2月23日
571	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第4回)議事概要(経団連会館にて原田日 Box011 本ニュークリア・フュエル会長、森原産会議事務局長作成の「核燃料 サイクルの問題」等を検討) 昭和51年3月17日

572	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第8回)議事概要(経団連会館にて村田原研副理事長からプルトニウムに関して説明) 昭和51年7月20日	Box011
573	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第5回)議事概要(経団連会館にて原産会議作成の「昭和65年に成就されなければならないグランド・スケジュール(案)」の検討 昭和51年5月18日	Box011
574	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第6回)議事概要(ホテルニューオータニにて資源エネルギー庁「核燃料研究委員会」の検討状況) 昭和51年5月21日	Box011
575	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)議事概要(経団連会館にて動燃大山理事からFBRの国際協力について説明) 昭和51年6月10日	Box011
576	1976	海外のFBR開発状況表 51-5-25現在	Box011
577	1976	Natural Sources of Radiation United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation United Nations General Assembly 3 may 1976	Box012
578	1976	放射性個体廃棄物の深海投棄に関するシンポジウム 講演要旨 1976年4月5日 気象庁講堂 共催日本海洋学会 日本放射線影響学会 日本原子力学会 後援日本保健物理学会	Box013
579	1976	米国・カナダ原子力調査団報告書 全国電力労働組合連合会 1976.8	Box014
580	1976	核防条約の批准について 昭和51年2月	Box014
581	1976	核兵器不拡散条約の早期批准のために 外務省情報文化局編集 昭和51年1月 財団法人世界の動き社刊	Box014
582	1976	再処理関連事業確率推進調査報告書(立地調査) 昭和51年1月 財団法人日本工業立地センター	Box015
583	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)の予定(手書きメモ)	Box011
584	1976	核兵器の廃絶と全面軍縮のために -国連事務総長への要請- 1976 ヒロシマ・ナガサキ	Box015
585	1977	核燃料サイクルシステムに関する調査研究(GESMOの検討) 成果報告書 昭和52年4月 株式会社野村総合研究所	Box014
586	1977	52年 6/21-6/25 ソ連行関係封筒表書き(原産会議封筒)	Box015
587	1977	モスクワ(ソ連国家原子力利用委員会との会談)出張精算(昭和52年6月21日~26日)(手書きメモ)	Box015
588	1977	S52 原産会議の封筒	Box015
589	1977	日本の原子力開発の問題 昭和52年3月現在の大日程	Box015
590	1977	日本平和学会レポート 原子力エネルギーの未来(1976年に行われた学会のシンポジウムをまとめて1977年に「世界政経」に掲載されたもの) レポーター(司会) 庄野直美 森一久 報告者 今井隆吉 小野周 岸田純之助 田島英三 服部学 安田八十五 テーマはエネルギー資源の見通し 原子力発電は安全か 平和・住民の立場から	Reports01
591	1977	日ソ民間原子力協定記事 毎日新聞・朝日新聞6月14日 コスイギン首相サハリン原子力発電所日ソ共同建設提案の記事 朝日新聞6月15日	Box012
592	1977	訪ソ団の写真(土光経団連会長などの写真)	Box012
593	1978	遠心分離法開発の現状と成果 53.8.8 動燃の便せんなど(取扱注意)	Box017
594	1978	COGEMA proposal about JAPCO depleted uranium 1978年頃(劣化ウラン428トンの買い取り価格についての提案)	Box018
595	1978	法律時報 昭和53年7月号 森一久 原子力基本法等の改正—その内容と今後の課題 原子力船「むつ」の放射線漏れなどをうけて原子力の在り方の見直し「原子力行政懇談会」で検討され原子力基本法の改正に到った経緯の説明 原子力委員会と原子力安全委員会の二つの委員会に分けたこと 実際の行政を行う通産省等の実務能力を高める必要があることなどが課題であることなどを指摘	Manuscripts02
596	1979	文部省科学研究費補助金 総合研究(B)「溶融塩増殖炉技術の基礎に関する研究」昭和54年3月	Box004
597	1979	何故 溶融塩炉は優れているか(液体燃料原子炉) 産経研MRS-002 1979.6.15 財団法人産業経済研究協会 溶融塩炉研究会	Box004
598	1979	AIF Carl Walskeからの手紙 July 5 1979 同封されているものはReport by the AIF Policy Committee on Follow-up to the Three Mile Island Accident, July 5, 1979、	Box004
599	1979	再処理事業の概要 昭和54年9月 電気事業連合会	Box015

600	1979	スリーマイル島事故の真相 森一久 (邦文タイプしたもの) 事故発生後1週間でのコメントへまなことをやったが放射能的にはそれほど危険なことはなかった しかし謙虚に原因を調べ反省して信頼を回復すべき	Manuscript04
601	1979	掛けがえのない原子力発電・核燃料サイクルの日仏協力-両国はいまや「運命共同体」の感- 森一久 (学会会誌への寄稿論文の原稿)	Box020
602	1979	原子力に関する出来事を羅列したメモ(手書き) (歴史を書くための項目のまとめか?)	Box029
603	1979*	スリーマイル島事故の真相 森一久	Manuscripts
604	1980	日中原子力交流(参考) 中国からの代表団名簿(昭和55年原産の大会など)	Box014
605	1980	原子力発電所周辺の防災対策について 昭和55年6月 原子力安全委員会 原子力発電所等周辺防災対策専門部会	Box015
606	1980	原子力三原則の重要文献集「限定版」原子力三原則25周年記念出版	Box015
607	1981	森専務理事訪米日程(案)改訂版56. 6. 18	Box003
608	1981	PAに影響する社会的ならびに心理的要因に関する調査研究~原子力に関する専門家1000人調査~ 日本原子力文化振興財団 昭和56年6月	Box014
609	1981	エネルギー、特に原子力のPAについての根本的考察 稲葉秀三 昭和56年8月	Box015
610	1981	漁協系統原子力発電所問題 海外研修報告書 昭和56年9月 全国漁業協同組合連合会	Box015
611	1981	Nuclear Physics Nuclear Power GIREP Conference on the Teaching of Physics in Schools GIREP '81 Nuclear Energy Nuclear Power Seminar on the Teaching of Physics in Schools at the Balaton 6th to 12th September 1981 Budapest 1981	Box015
612	1981	1981年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
613	1982	コンセンサス No.18 特集:石油代替エネルギーへの25の質問 電気事業連合会 昭和57年9月発行	Box020
614	1982	1982年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
615	1982	エネルギー問題と学校教育について 昭和57年10月12日 中学および高校で新しく使用される教科書における原子力に関する記述についての意見	Reports01
616	1982	早大100周年記念シンポジウム 核エネルギーと人類の将来 森一久 (和文および英文(Nuclear Energy and the Future of Mankind))	Reports01
617	1982	永野治氏あての森一久氏の私信 昭和57年12月27日 (森氏の知人(余田)が調べたメタノールおよび再生可能エネルギーに関する国際情報3点を添付してある)	Reports01
618	1982	原子力学会誌 24巻9号(1982) これからの原子力開発 森一久 (原子力委員会の原子力新長期計画に関して)	Reports01
619	1982	日本動力協会事務局長 田中幸雄氏にあてた森一久氏の私信 ニューデリーでの国際会議でProf.A.M.Angeliniが発表する予定の高速炉の国際協力に関する見解に対するコメント	Reports01
620	1982	シリーズ・レポート82年原子力のここが知りたい6 盛り上がる反核運動の中で原子力の平和利用をどのように考えるべきなのでしょうか? (岩見隆夫 吉武輝子 森一久への取材を含む記事)	Reports01
621	1982	日本青年会議所テーマ別「理事長サミット」1982年1月24日 京都国際会館 テーマ「原子力発電を考える-原発はエネルギー源のエースとなりうるか-」プログラム 講演者 森一久氏	Reports01
622	1982	日本青年会議所 エネルギー政策委員会 委員長 富田征義氏より森一久氏への礼状 日本青年会議所理事長サミット(1982年2月24日 4月11日 7月24日)における講演に対する礼状	Reports01
623	1982	第2回国連軍縮特別総会へのメッセージ1982年6月2日 日本原子力産業会議 会長 有澤廣巳「核エネルギーの平和利用による人類の未来のために」(和文および英文)	Reports02
624	1982	Message 原産会議有澤会長から国連事務総長あて 核廃絶に関する訴え (英文)	Manuscript04
625	1982	昭和57年9月 原子力船懇談会報告書-原子力船の開発目標について- 日本原子力産業会議 原子力船懇談会	MUTU_File

626	1982	奥尻島 木村茂太郎関係の封筒の表書き (日本環境調査会の封筒)	Box010
627	1982	写真 (奥尻島?)	Box010
628	1982	Historical Sketch of the Scientific Field Survey in Hiroshima Several Days after the Atomic Bombing Sakae SHIMIZU Bulletin of the Institute for Chemical Research Kyoto University Vol.60 No.2 1982 ([799]の手紙に同封されたもの)	Box020
629	1983	IEAの長期エネルギー需給見通し (World Energy Outlook改訂1983年5 月)	Box004
630	1983	「原子炉施設に対する攻撃の影響に関する一考察」(昭和58年度外務省 委託研究報告)「取扱注意」(50部のうち30号) 1984年2月 (報告者名 切り取り)	Box011
631	1983	訪韓記念 1983. 6. 26~29 韓国原子力産業会議	Box016
632	1983	参院選比例代表区政党別得票数・議席数 (第13回(58・6・26) 第14回 (61・7・6)の一覧表)	Box017
633	1983	1983年のビジネス日誌 (行動記録)	Diarys
634	1983	エネルギーフォーラム 1983年11月号「わたしと石油危機」森一久氏を含 む7人の思い出話	Reports01
635	1983	エネルギーレビュー 1983年9月 徹底討論 原発コストダウンにかかる日本 の将来 大神正 森一久 堤佳辰	Reports01
636	1983	電気新聞 1983年6月7日 人欄 森一久 日中原子力協力に手応え	Reports01
637	1983	経団連月報 1983年10月 原子力開発の近況と新たな課題 森一久 (先 進国動向 途上国の期待と輸出 自主技術「むつ」問題など)	Reports01
638	1983	原子力工業 27巻9号 日本原子力の実力診断 森一久氏「成熟期を迎え た原産会議の課題と役割」聞き手近藤駿介	Reports01
639	1983	懇談要旨(メモ) 1983年3月11日 (原子力発電のコストを低減すべき 民 間主体で進めるべき)	Reports01
640	1983	電気関係の雑誌の記事 特別座談会 (昭和58年6月6日帝国ホテル) 原 子力一転換期と21世紀への展望 瀬川正男 成田浩 森一久 小竹即一	Reports01
641	1983	昭和58年9月30日発行 広島高等学校創立60周年記念 青春回想録一広 高その永遠なるもの一 被爆全滅部隊 昭二十理乙2 竹本 孝 原爆投 下時大学のある岡山にいて広島の自宅に帰り着いたこと 父親は勤務で全 滅した中国第七一六部隊で原爆死した	Manuscript04
642	1983	昭和58年11月 原子力船懇談会報告書 原子力委員会原子力懇談会	MUTU_File
643	1983	昭和58年12月14日 オットー・ハーン 赤坂鉄鋼のディーゼル機関にかえて 商業運航 手書きのメモ	MUTU_File
644	1983	サバンナ号の近況 10月15日に海軍博物館で画期的建造物として指名さ れ式典が行われた「オットー・ハーン」のその後は12月に「ノラジア・スーザ ン」というコンテナ船となって12月にロッテルダムに入港 1月には横浜へ	MUTU_File
645	1983	1983年2月24日 ドイツ語の新聞記事 かつての原子力船 Otto Hahnが コンテナ船Norasia Susanとなって就航したことを伝える内容	MUTU_File
646	1983	昭和58年12月23日 原子力委員会 原子力船研究開発事業団の統合に ついて 原子力船研究開発事業団を原研に統合することが適当であるとの 内容	MUTU_File
647	1983*	自民党の政務調査会の原子力船「むつ」に開発方針案 手書き	MUTU_File
648	1983*	原子力船関係予算 手書きメモ (原産会議の用紙) 出資金と補助金を合わ せて77億円余	MUTU_File
649	1984	我が国の供給者別原油輸入量	Box004
650	1984	原子力船「むつ」に関する検討委員会の報告 委員長 三塚博 昭和59年8 月7日	Box014
651	1984	二酸化炭素の蓄積による気候変動と資源問題に関する調査報告 科学技 術庁資源調査会報告第92号 昭和59年1月24日 科学技術庁資源調査 会	Box015
652	1984	1984年のビジネス日誌 (行動記録)	Diarys
653	1984	エネルギーいんふおめいしょん 1984年12月号 エネルギーを考える会 定 例勉強会 原子力平和利用の国際協力 森一久	Reports01
654	1984	北海道政経文化同友会 (PEC) 1984年9月28日札幌での講演 エネルギ ー政策と原子力問題の展望	Reports01

655	1984	ENERGY and HUMANITY2 1984年8月 日本の原子力産業を考える 対 談 森一久 川崎弘	Reports01
656	1984	エネルギー 1984年5月 論壇 次の時代へどう翔ぶのか	Reports01
657	1984	原子力船「むつ」を考えるシンポジウムの記録 1984.3.24 原研労組中央 委員会 パネリスト 山川新二郎 森一久 中島篤之助 服部学 館野淳	MUTU_File
658	1984	昭和59年1月24日 原子力委員会 今後の原子力船研究開発のあり方につ いて 原子力船「むつ」の研究開発で技術を蓄積することは重要であるがそ の後は廃船とする	MUTU_File
659	1985	1985年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
660	1985	電気新聞 1985年6月24日 随筆 森一久 文化の器量	Reports01
661	1985	(手書き草稿)「エネルギーいんふおめいしょん」10月号「今月の焦点」 森一久	Reports01
662	1985	日本工業新聞刊「エネルギー」1985年11月号 論壇 エネルギー問題の行 末 森一久 (2000年頃にはウランの需給が逼迫してくるので変曲点にな る)	Reports01
663	1985	エネルギーフォーラム 1985年4月号 これからの原子力産業政策を探る 近 藤駿介 谷口富裕 森一久 井口治雄	Reports01
664	1985	1985年6月24日 電気新聞 随筆 森一久 文化の器量([660]に同じ)	Miscellaneous
665	1986	写真(森専務理事殿 ソ連キエフS61/8/10-18)写真(森専務理事殿 ソ連 キエフS61/8/10-18)	Box021
666	1986	ソ連引合い原発関係資料 1975 封筒の表書き (第19回原産年次大会(昭 和61年)の封筒)	Box015
667	1986	原爆と差別 中条一雄 1986年7月25日 朝日新聞社発行	Box016
668	1986	いま地球は -広島・長崎を考える旅 監修 庄野直美 1986年7月25日 ヒ ロシマ・ナガサキ平和基金発行	Box016
669	1986	1986年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
670	1986	日本損害保険協会「予防時報」1986年秋 147 座談会 原子力発電所の 安全 猿橋勝子 森一久 吉澤康雄 による座談会の記事(38ページから46 ページまで)	Reports01
671	1986	手書き草稿(最初の草稿とそれを清書したもの) 1986年4月26日のチェ ルノブイリ原発事故をうけて行われることになった討論会での講演に向け た所信	Reports01
672	1986	国際評論社 LA INTERNATIONAL 1986年7月 ソ連原発事故の衝撃 わ が国原発は大丈夫か-文化の総体で捉えるべき安全の思想- 座談会 藤 本陽一 森一久 中村政雄	Reports01
673	1986	IEF ENERGY SALON 国際エネルギー政策フォーラム 昭和61年7月3日 エネルギーの将来 第7回 原子力の将来について 森一久 (チェルノブイリ 事故の後にもかかわらず、暫くは低成長だが日本の原子力は2030年代に は電力の60%程度になると予測しており、技術力も信頼した論調になって いる)	Reports01
674	1986	電気産業新聞 昭和61年6月4日 ソ連原発事故をどう見るか 原産会議専 務理事 森一久氏に聞く	Reports01
675	1986	信濃毎日新聞 昭和61年5月19日 原発問われる安全性 森一久氏へのイ ンタビュー記事	Reports01
676	1986	朝日新聞 昭和61年4月30日夕刊 および 読売新聞 昭和61年5月1日朝 刊 朝日新聞は「ベールの中 ソ連原発」小出昭一郎 森一久 森島敦好の 座談会 読売新聞は「安全対策の弱さを暴露」森島敦好 石野菜 森一久 座 談会	Reports01
677	1986	未踏加工技術 1986年1月 通巻194号 原子力技術のスピンオフと冷凍保 存法 森一久 (濃縮 高速増殖炉 廃棄物など)	Reports01
678	1986	ウラン燃料調達に関する文献のコピー (わが国企業の海外探鉱プロジェク ト、レーザー濃縮技術開発など) (1986年頃の状況)	Box020
679	1986	森一久 昭和61年? (功績調書らしきもの) 履歴 原子力産業の拡充と 基盤強化 原子炉開発の推進 原子燃料サイクル技術とその事業化の推進 立地問題の解決と電源地域振興整備 放射線利用の推進と安全対 策 国際協力の推進(原子力に関する相互交流の推進について ソ連との 交流について 中国との協力について)	Personal_Record
680	1987	ソビエト連邦チェルノブイリ原子力発電所事故に係る食品中の放射能濃 度の暫定限度について(報告) (検討会から厚生省生活衛生局への報告) 昭和62年10月30日	Box004

681	1987	損益計算書 電子計算機室 42. 2. 3	Box012
682	1987	借用証 畑山積 原産森専務宛 50万円の借用証 昭和62年7月9日	Box015
683	1987	日米原爆線量再評価検討委員会報告書について 田島英三 日本原子力学会誌Vol.29 No.8 1987 (DS86についての解説)	Box016
684	1987	森一久氏の卓話写真 広高四木会第77回例会のご案内 昭和62年7月23日 銀座三笠会館本店「原子力から見た世界と日本」という講演の案内	Box016
685	1987	日米原爆線量再評価検討委員会報告書について 田島英三 厚生省「原爆による線量の評価検討委員会」委員長 昭和62年7月	Box016
686	1987	電力新報社からの執筆依頼 昭和62年10月 を受けて執筆した森一久氏の草稿(手書き)「次世紀への構想」世界の資源と環境の損耗を補償する手立て特に資源国との長期的関係が重要	Reports01
687	1987	草堂寺簡介の日本語訳本「草堂寺案内」附「鳩摩羅什法師略伝・主峰定慧禪師略伝」西暦1987年 仏暦2531年 旧暦4月8日 仏誕生節 沢木藤啓子 監修三石善吉(筑波大学教授) 鳩摩羅什が仏教の經典を訳した所である草堂寺についての紹介パンフレット	Buddhism01
688	1987	「運」と答えて若さを保とう 森一久 成功の秘訣について聞かれた時に謙虚に「運がよかった」といううちはいいが日本式経営がいいからなどと言いつつ出したら老化現象 昨年のチェルノブイリ原発事故の原因を考える	Manuscript04
689	1987	広瀬隆「危険な話—チェルノブイリと日本の運命」の概要	Box004
690	1987	寿命調査第11報 第1部 DS86及びT65DRの遮蔽kerma並びに臓器線量に基づく部位別癌死亡リスク係数の比較 清水由紀子、加藤寛夫ほか 財団法人放射線影響研究所 RERF TR 12-87 Nov. 1987	Box016
691	1987	「運」と答えて若さを保とう 森一久 (原稿用紙に手書きの随筆) (もっともらしい勝因を述べるのは老化、運だというのが若さ) ([688]の原稿)	Manuscripts
692	1988	「コロンビア川の放射能の濃縮データ」(原稿の一部内容の吟味)	Box004
693	1988	原子力と産業界 森一久 1988年 [1434]の島村武久氏の勉強会で森一久氏が講演した内容(湯川秀樹が最初の原子力委員会の正力の方針に反対で辞任するというのを森氏がなだめる話や原爆投下直前に米軍が嵯峨根氏あてに投下した手紙などが含まれている)	Box023
694	1988	日本経済新聞 朝日新聞 昭和63年1月4日 総理府「原子力にかする世論調査」原子力が将来の主力電源になるとする一方で不安も86%と増大してる チェルノブイリ事故の影響	Manuscripts01
695	1988	エネルギーフォーラム 昭和63年1月号 84ページ 森一久 次世紀への構想 (21世紀へ向けエネルギー産業に何を期待するか 有識者からの提言)	Manuscripts01
696	1988	週刊碁 昭和63年2月2日 日本棋院中央会館特別棋力認定会1月15日 成績優秀者 6段戦4勝1敗森一久	Manuscripts01
697	1988	Atoms in Japan January 1988 Vol.32 No.1 (原産会議の英文月刊誌) 目次 巻頭言	Manuscripts01
698	1988	Atoms in Japan January 1988 Vol.32 No.1 (原産会議の英文月刊誌) 新春対談 司会森一久 ゲスト関電飯田 動燃石渡 東大近藤	Manuscripts01
699	1988	経団連月報 1988年11月 14ページ 原産会議専務理事 森一久 原子力に関する情報の混乱(スリーマイルやチェルノブイリの事故の本質が正しく報道されずに不安を引き起こしている)	Manuscripts01
700	1988	新聞記事 1988年3月9日 元気象研究所予報研究室長増田善信さんが広島原爆投下後に降った「黒い雨」の地域が従来の定説の4倍であると報告	Manuscripts01
701	1988	日本経済新聞 朝日新聞 読売新聞 昭和63年3月8日 有澤廣巳氏の死亡に関する各界の反応など	Manuscripts01
702	1988	週刊文春 昭和63年5月26日 田原総一郎の主役を撃つ(連載インタビュー—37 森一久との対談) チェルノブイリ後の「広瀬隆現象」に沈黙する推進側を田原総一郎が直撃	Manuscripts01
703	1988	週刊文春 昭和63年6月16日 田原総一郎の主役を撃つ(連載インタビュー—40 広瀬隆との対談) 森氏への反論	Manuscripts01
704	1988	原子力産業新聞 昭和63年3月31日 原産会議会長有澤廣巳氏合同葬	Manuscripts01
705	1988	動力 昭和63年4月号 40ページ 談話室 森一久 有澤廣巳先生の世界(有澤廣巳氏追悼文)	Manuscripts01
706	1988	日刊工業 昭和63年8月2日 原発不安の周辺 検証欄 森一久 世界の先端でチャレンジを(コラム記事)	Manuscripts01

707	1988	エネルギーいんふおめいしょん 1988年6月号 今月の焦点 エネルギー飽食 時代 (KM 森一久のイニシャル入り論説) (エネルギーが自由に手に入ると 安心して良いか?)	Manuscripts01
708	1988	「公明」9月号企画のメモ「特集 日本の原発30年目とこれから」対論「い ま原発を問い直す」(7月13日(水)午後2時から お茶の水の上ホテル本 館) 森一久(原産会議) 植田敦(理研) 安全性 必要性とコスト 跡始末 公 開の原則 行政の現状と今後	Manuscripts01
709	1988	朝日新聞 昭和63年7月28日 二十歳の非核三原則(中) 非核には核兵 器だけか原発の核廃棄物も含むのかが問われている	Manuscripts01
710	1988	森一久 ソ連のヴィザ 1988年11月20日から1988年11月27日	Manuscripts01
711	1988	訪ソ原子力安全調査団 名簿 原産会議1988年11月 田島栄三 垣見俊弘 佐藤一男 浜田達二 山崎魏 森一久 伊藤弘	Manuscripts01
712	1988	公明 昭和63年9月1日 特集日本の原発—30年目とこれから— 14ページか ら30ページ 対論 安全性・コスト・廃棄物をめぐって 森一久 植田敦	Manuscripts01
713	1988	経団連月報 昭和63年11月 森一久 原子力に関する情報の混乱 スリーマイ ルやチェルノブイリの事故などのために脱原子力の雰囲気があるが日本の 原子炉は安全に稼働していて稼働率も高い 極端に危険性をあ おるような記事が多く真相が正しく伝えられていない 関係者と大衆が一体と なった「文明」の形成にはまだいくばくかの年月が必要なのであろう	Manuscripts02
714	1988	日本物理学会編「原子力発電の諸問題」東海大出版 1988年2月25日 森一 久 原子力安全論争の行方 昭和30年頃の議論は具体的であった が今は理念的 重要なことは資料情報の提供と共通のものさしを持つこ と 開発者と批判者との間の対話の欠如が問題 軽水炉の管理についてもこの 数年来日本での設備利用率の向上が著しい スクラム(異常時の緊急停止) 回数も米国に比べ非常に少なくなっている 放射性希ガスの放出 も年々減少してきている スリーマイルの事故調査の結果も分かっていた 放射性廃棄物も火力に比べ使用する質量がはるかに少ないので管理可能で ある 討論後の付記としてチェルノブイリ事故が起こったことに触れ ている スリーマイルもチェルノブイリも基本的なところでのしくみや取り 組み方に問題がある	Manuscripts02
715	1988	森一久 略歴(紳士録用の原稿?) 昭和63年6月1日	Personal_Record
716	1988	森一久 履歴書 昭和63年(昭和53年頃までの略歴をタイプしたものに手 書きで昭和63年頃までのことを追記した草稿)	Personal_Record
717	1988	日本動力協会 動力 昭和63年5月号 談話室 有澤廣巳先生の世界 森一 久(有澤廣巳氏の追悼文)	Reports01
718	1988	動力 昭和63年5月号 No.186 談話室欄 有澤廣巳先生の世界 森一久(2 008年3月27日にコピーしたもの)	Reports06
719	1988	昭和63年5月号「動力」No186 談話室欄 有澤廣巳先生の世界 森一久	Miscellaneous
720	1988	1988年11月 経団連月報 特集今後のエネルギー問題と社会 原子力に 関する情報の混乱 森一久原産専務理事	Miscellaneous
721	1988	昭和63年3月18日 原子力と産業界 講師 森一久 出席者 島村武久 田中 好雄 川島芳郎 後藤正紀 原子力を始めた頃の裏話ウワサ話 末尾に原爆 投下直後に米軍が嵯峨根氏宛に投下した手紙に関する資料	Manuscript04
722	1988	新聞切り抜き チェルノブイリ惨事から2年(ソ連報道)	Box004
723	1988	四番目の恐怖 チェルノブイリ、スリーマイル島、ウィンズケール、そして青森 をつなぐ運命 世界現地取材報告 広瀬隆 広河隆一	Box016
724	1988	朝日新聞の記事 1月29日夕刊1面(原潜の放射能測定でつち上げの疑 い) および毎日新聞1月30日の記事(原潜放射能デタラメ測定関係者の ショック)	Box021
725	1988*	広島で原爆テスト—極秘情報—水田泰次 の文章(昭和63年発行の広島高 等学校の排球部史へ投稿したもの)に手書きで手をいれたものとその英訳 文(京大在学中の水田氏が昭和20年5月に西村教授から米国 の学会から広島に原爆投下試験をすとの情報を得たのですぐ広島に帰省 して親を疎開させるように言われたという秘話)	Reports05
726	1989	原子力産業の曲り角 一日米欧にみる10年の推移と新しい兆し— 桜井淳	Box004
727	1989	表紙 英政府招聘で訪英 英国大使館(在東京)E.J. Fieldより森一久氏に 対する手紙(1989年10月28日から11月4日まで英国に招聘したいとの 内容)	Box021

728	1989	原産会議専務理事 森一久 佐々木義武追想録 (アサヒビジネス) いま 佐々木さんに学ぶ	Manuscripts01
729	1989	毎日新聞 平成元年1月29日 討論(上) 原子力資料情報室代表 高木仁三郎 原発いまがやめどき	Manuscripts01
730	1989	毎日新聞 平成元年2月5日 討論(下) 原産会議専務理事 森一久 原発長 い目では必要 安全運転の実績 ガラス張りも必要	Manuscripts01
731	1989	原子力産業新聞 平成元年1月12日 皇室と原子力 昭和時代に天皇や皇太子が原子力施設を訪問した写真を掲載	Manuscripts01
732	1989	>殯宮祇候参入券 森一久殿 2月6日第8組 モーニングコート(黒ネクタイ喪章着用) (皇宮護衛官に提示するべき参入券)	Manuscripts01
733	1989	昭和天皇大喪の礼の案内状2通 宮内庁長官より 内閣総理大臣より 平成元年2月24日 新宿御苑 新聞記事(平成元年2月24日葬場殿の儀における天皇の言葉)	Manuscripts01
734	1989	読売新聞 平成元年2月11日 愛知版 師友本(コラム欄) 名大プラズマ 研究所長内田岱二郎氏が執筆した核融合への恩師森一久さんという文章 昭和30年頃森さんに「これからは核融合だ」とそそのかされてこの道に入ったという逸話	Manuscripts01
735	1989	ブラウダの記事の切り抜き 1989年4月15日 東京発の記事 原子エネ ルギーについての記事 森一久の名前が見える (ロシア語なので内容不明)	Manuscripts01
736	1989	読売新聞 平成元年7月29日夕刊 各界人の消息欄 森一久氏 地球のウランはごま塩という説(地球のウランは65億年前にできたと考えられるが地球は46億年前にできたのでウランは地球ができてから後にごま塩のように地球に降り注いだのではないか)	Manuscripts01
737	1989	及川さんを偲ぶ 平成元年8月 森一久 科学者の目(及川氏を偲ぶ寄稿文)	Manuscripts01
738	1989	財界 1989年8月8日号 森一久 羅什の顔(鳩摩羅什の像について森氏の菩提寺である広島国前寺のものと中国西安の草堂寺で戦後創った像の違いに違和感を覚えた話)	Manuscripts01
739	1989	ニュークレオニクスウィーク誌 8月3日号 世界各地の原子力関連ニュースの紹介	Manuscripts01
740	1989	週刊碁 平成元年8月22日 日本棋院中央会館第5回特別棋力認定会7月30日 成績優秀者 6段戦4勝1敗森一久	Manuscripts01
741	1989	新聞記事切り抜き 平成元年10月24日 今村光一 栄養療法で末期がんも治る(抗がん剤が体を痛みつけているという主張)	Manuscripts01
742	1989	プロメテウス 平成元年? 森一久氏へのインタビュー記事 チェルノブイル事故後のソ連原子力政策はどう変わったか	Manuscripts01
743	1989	原産会議 外部「会議」委員担当一覧(平成元年8月) 外部団体「総会」担当一覧(平成元年7月) (役員等が外部の会議等に委員などを出す役割分担表)	Personal_Record
744	1989	森一久氏が引き受けている 外部委員会、団体等の役職一覧(手書き原稿) 平成元年	Personal_Record
745	1989	念書(株式会社ミラノ曾我部久哉の森一久あて念書: 実測図の線引きに 関して諸手続完了後、訂正図面を渡すという約束をした念書)	Box021
746	1990	広島被爆建造物-被爆45周年調査報告書- 被爆建造物を考える会 庄野直美監修 1990年(平成2年)12月1日	Box018
747	1990	常勤役員給与規程 平成2年5月20日制定のもの	Box020
748	1990	原産会議森一久専務理事あて 放射線影響協会・放射線疫学調査センターセンター長 細田裕より 原子力発電施設等(等の間違い)放射線業務従事者に係る疫学調査報告書を送るとの手紙 平成7年9月5日(科学技術庁委託調査報告書「原子力発電施設等放射線業務従事者に係る疫学調査(第1期平成2年度~平成6年度)平成7年3月 財団法人 放射線影響協会」を同封)	Box024
749	1990	私信(森一久氏 手書き原稿) 平成2年2月2日(足田・さん(森家菩提寺住職)へ)(慌ただしく森家の墓参をしたことのお詫びとその後広島でイギリスのグリーンパーティのベリンという人を原爆資料館に案内したことを報告する文章)	Manuscripts01
750	1990	Atoms in Japan January 1990 Vol.34 No.1 (原産会議の英文月刊誌) 新春対談 司会森一久 ゲスト遠藤哲也 柳瀬竹子 依田進	Manuscripts01

751	1990	Atoms in Japan January 1990 Vol.34 No.5 (原産会議の英文月刊誌) Manuscripts01 editor (Kazuhiisa Mori) essay Public acceptance of nuclear energy and cerebro-physiology	
752	1990	「日ソ記者」序文 (森一久手書き草稿) 平成2年1月5日 (日ソ原子力 関係者の相互訪問の経緯と参加したジャーナリストによる交流の成果をま とめた報告書ができたことを述べた序文)	Manuscripts01
753	1990	森一久 渡航者カード (東京観光株式会社業務用) (旅券発給日1990年 8月13日)	Personal_Record
754	1990	森一久 訪ソ代表団渡航カード 1990年10月 日本語および英文の身上書 ソ連入国に必要な身上書	Personal_Record
755	1990	森一久専務理事 外部よりの委員委嘱一覧表 平成2年(過去分も含む)	Personal_Record
756	1990	平成2年10月19日 原子力船「むつ」出力上昇試験の進捗状況につい て 日本原子力研究所 7月および9月の洋上試験を経て10月9日には出力 100%を達成 ソ連における原子力船の現状等について 9月に訪ソした調 査報告	MUTU_File
757	1991	庄野氏より森一久氏あて「日本の被爆者の精神的・社会的苦悩」について の執筆連絡 1991年7月29日 FAX連絡文およびノート手書き執筆構想メ モ	Box020
758	1991	海外のプラントでのナトリウム漏洩件数(アメリカは除く) 以前の森副会長 の講演で使用した数値 FR'91 Current Status and Innovations Leading to Promising Plants Oct. 28-Nov.1 1991 Kyoto, Japan Proceedings Vol.1	Box021
759	1991	原産会議発行月刊誌ATOMS IN JAPAN 91年6月号「スコープ」史上最 大の虚構 その本当の被害者は誰か〜チェルノブイリの影響についての報 道〜	Reports02
760	1991	N-20のはじまり(日仏原子力専門家会合(N-20)発足の経緯、開催一覧 など(タイプしたもの)	Box020
761	1991	The Start of N-20 Meeting (1991年のN-20発足の紹介)	Box020
762	1991	ウランの存在量 地殻の量 地殻中のウランは金の500倍などの手書きメモ	Miscellaneous
763	1992	後に駐仏大使になるPamela Harrimanに関する新聞記事(民主党のクリン トンが大統領選挙に勝った直後の新聞記事) The Washington Post November 6 1992	Box014
764	1992	プルトニウム利用 -わが国の実績と計画- 日本原子力文化振興財団 プ レスリリースNo.-103 1992年12月24日	Box015
765	1992	高木仁三郎の暑中見舞い 平成4年(脱原発がうまくいかない述べてい る)	Box018
766	1992	生活環境放射線(国民線量の算定) 平成4年8月 財団法人 原子力安全 研究協会	Box020
767	1992	ロシア核秘密都市概要 1992年8月(読売新聞社が1992年6月にロシア 核秘密都市3カ所を取材した内容の概要)	Box020
768	1992	御視察スケジュール(小林稔京都大学名誉教授および日本原子力産業会 議森一久専務理事が平成4年6月29日に原研を視察するスケジュール表)	Box021
769	1992	This is 読売 1992年1月 森一久 チェルノブイリ事故 誇大報道の欺瞞性を 突く チェルノブイリ型原子炉(チャンネル型大型炉RBMK型炉)は 軍用炉を兼ねている 事故後アメリカの同様な軍用炉も運転を止めた 設計 が悪いのか運転が悪いのかロシアとウクライナとの対立も レガソフ博士の 遺書(設計の悪さテスト計画のお粗末さ発電幹部の思い上がり等何十年に もわたって祖国ソ連に居座ってきた墮落しきった体制と習慣がつもりつも ってここチェルノブイリで頂点に達した) ゴルバチョフにグラスノスチを決断さ せた チェルノブイリ救援の被ばく影響の報道の混乱 国際調査団の調査結 果 被害者を利用する新聞	Manuscripts02
770	1992	森一久 履歴書 平成4年6月1日現在	Personal_Record
771	1992	1992年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
772	1992	10月5日6日読売新聞主催で「冷戦後の核管理と原子力開発—平和利用 の展望」という日米ロ国際シンポジウムが開催された 森一久氏も出 席	Reports02
773	1992	Nuclear News 1992年7月号 原産会議(森一久)と東京電力へのインタ ビュー記事 チェルノブイリの事故はあったが日本の原子力の将来は、そう 悪い状況ではない。	Reports02

774	1992	LA INTERNATIONAL 10月号 森一久氏へのインタビュー記事 原子力発電海外事情 長期低迷からの脱却に曙光—核兵器廃絶を促進し原子力の平和利用を—	Reports02
775	1992	This is 読売 1992年1月号 森一久 寄稿論文 チェルノブイリ事故誇大報道の欺瞞性を突く	Reports02
776	1992	仏教徒フォーラム 平成4年1月30日 仏教講座公開シンポジウム(平成3年12月14日開催)「知識と智慧をめぐって」パネリスト 木村清孝 近角聰信 森一久	Reports02
777	1992	平成4年1月30日 仏教徒フォーラム 仏教講座公開シンポジウム(平成3年12月14日)の記事 知識と智慧をめぐって パネリスト 木村清孝 近角聰信 森一久 提言	Miscellaneous
778	1992	平成4年10月8日 読売新聞 日米国際シンポジウム「冷戦後の核管理と原子力開発—平和利用の展望」の記事 総合司会森一久原産専務理事	Manuscript04
779	1993	進退伺 坂本俊 平成5年3月29日 原産会議森一久専務理事宛(4/13返却と手書きしてある)	Box015
780	1993	季報JARAP創刊号 1999年3月発行 (Japan Association for Radiation Protection放射線防護問題協議会(代表大塚益比古)の季報)	Box020
781	1993	高レベル放射性廃棄物の処分 1993年3月 地層処分研究会 財団法人 政策科学研究所	Box020
782	1993	Atoms in Japan Vol.37 No.3 March 1993 Japan Atomic Industrial Forum Inc.	Box024
783	1993	放射線防護基準の意味するもの 原安協プライマリーNo.1 田島英三 財団法人原子力安全研究協会(平成5年11月26日に開催された第5回原安協シンポジウムで講演したもの)	Box025
784	1993	新聞記事「もんじゅ」臨界を前にして原産会議と原子力資料情報室が共同でプルトニウム利用に関するシンポジウムを9月25日に開催した 1993年9月26日の新聞各紙の記事(毎日、朝日、日経)	Box029
785	1993	森専務 仏出張日程表 平成5年9月16日現在(10月2日から1週間の日程表 第3回日仏原子力専門家会合N-20出席のため)	Reports02
786	1993	朝日新聞 平成5年9月29日 主張解説欄「原発推進・反対両派がシンポ共催」原産会議と原子力資料情報室が25日に大阪で共催したシンポジウム「今なぜプルトニウムか」を取り上げた記事 不振解消への第一歩 多くの論点なお未消化 「もんじゅ」臨界に近いことや政権交代で江田五月氏が科学技術庁長官になったことが開催に影響した	Reports02
787	1993	北海道新聞 平成5年11月6日 潮流93 対談 原産森専務理事と原子力資料情報室高木仁三郎氏との対談 利用の是非 情報の公開 廃棄物の処理	Reports02
788	1993	1993 August 20 Issues on Nuclear Non-Proliferation Treaty and Japan's Attitude towards Them (Resume) Kazuhisa Mori NPTの延長問題への見解の草稿(英文) 1982年6月2日の有澤原産会議会長の国連事務総長へのメッセージ Peaceful Use of Nuclear Energy for the Future of Mankind および 1993年8月6日のAppeal from Hiroshimaが添付されている	Reports02
789	1993	福竜丸だより(第181号) 1993年5月15日 連載3回「チェリアビンスク事件」共同調査の顛末に思う 森一久 40年前にチェリアビンスクで高レベル放射性廃棄物を河川に垂れ流したことから日ソで共同調査を始めることになったいきさつと挫折についての記事	Reports02
790	1993	360 1993年5月号 森一久 寄稿論文 旧ソ連科学技術の現状 粗削りの原子力発電 高速炉都市暖房砕氷船に特色	Reports02
791	1993	平成5年1月20日 Walkerあてのコメント arms control誌に掲載の論文に対するコメント プルトニウムの利用に関する理解があまりにも違いすぎる	Manuscript04
792	1993	平成5年9月16日 森専務理事 仏出張日程表 10月2日から8日までのフランス出張の日程表(第3回日仏原子力専門家会合N-20)	Manuscript04
793	1993	イギリス出張仮払い清算 森	Box021
794	1994	Larry Armstrongの写真 ([795]の手紙に同封されていたもの 広島の実験者たちと)	Box018

795	1994	Larry Armstrongから森一久への礼状 1994年5月4日(4月14日に広島の人々との集まりを用意してもらったことへの礼状 詩と写真が同封されていると記されている)	Box018
796	1994	Larry Armstrongの被爆者たちに捧げる詩など ([795]の手紙に同封されていたもの)	Box018
797	1994	Larry Armstrongから森一久への手紙の封筒(原爆記念ドームの写真付)	Box018
798	1994	原子力をめぐる最近の諸問題 日本原子力産業会議専務理事森一久 平成6年9月 エネルギー総合推進委員会 Jancepp資料 No.123 (講演記録)	Box018
799	1994	清水榮氏より森一久氏への私信 平成6年5月21日(広島原爆調査の頃の思い出を記述した論文のコピーを送るという手紙)	Box020
800	1994	週刊プレイボーイ 1994.11.22 No.47 p.44-50 敦賀湾原発銀座「悪性リンパ腫」多発地帯の恐怖 第1回「ガン患者激増の噂を追って	Box021
801	1994	週刊プレイボーイ 1994.11.29 No.48 p.56-61 敦賀湾原発銀座「悪性リンパ腫」多発地帯の恐怖 第2回「あなたの家にガンの人はいませんか?	Box021
802	1994	週刊プレイボーイ 1994.12.6 No.49 p.75-82 敦賀湾原発銀座「悪性リンパ腫」多発地帯の恐怖 第3回「風下地域で集中的に患者発生という事実	Box021
803	1994	週刊プレイボーイ 1994.12.13 No.50 p.217-221 敦賀湾原発銀座「悪性リンパ腫」多発地帯の恐怖 最終回「福井県庁のみなさん、疫学調査をやってください	Box021
804	1994	軍縮問題資料 1994.2 No.159 特集 核管理と核拡散 Utsunomiya Disarmament Research Institute	Box021
805	1994	打合せ確認書 平成6年10月24日 お客様森一久、鈴木嘉昭 旭化成成長谷川幸隆、本多和秀(森邸の隣の戸川邸工事に伴う森宅への影響の問い合わせに対する回答)	Box021
806	1994	高温冶金再処理は核拡散抵抗技術 平成6年11月 電力中央研究所 服部 禎男	Box024
807	1994	核不拡散条約を考える会規約 核兵器政策に関する公開質問状 内閣総理大臣 細川護熙殿 1994年 核不拡散を考える会・世話人一同(代表 庄野直美)(NPTではなく核廃絶をという主張)	Box025
808	1994	広島総合事務所(核不拡散を考える会の事務所のことか?)からの会員への連絡文 1994年3月31日(総理大臣への公開質問状、海外平和団体との連絡、会の規約・世話人・役員名簿、豊田論文などを同封してあるとの内容)	Box025
809	1994	写真展(原爆の半世紀 目撃者は語る)のチラシ 展示期間 平成6年8月4日~15日 広島平和記念資料館東館地下1階展示室	Box025
810	1994	China-Japan-India Workshop on High Background Radiation Dosimetry and Health May17-19, 1994 Ohtemachi Building 7F 1-6-1 Ohtemachi, Chiyodak-ku Tokyo, Japan 平成6年9月 財団法人 体質研究会	Box025
811	1994	被団協 1994年12月6日 日本原水爆被害者団体協議会発行(原爆被爆者援護法案が衆議院で可決されたという記事)	Box025
812	1994	1994年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
813	1994	原子力をとりまく日本の社会的政治的状況 平成6年10月25日 森一久 日韓セミナー 発表原稿 安全必要と好き嫌い	Reports02
814	1994	第27回原産年次大会「広島市民と語る夕べ」(平成6年4月)の会場8 広島国際会議場「ヒマワリ」の写真 議長は森一久	Reports02
815	1994	第27回原産年次大会 広島宣言	Reports02
816	1994	中国新聞平成6年3月11日 4月に開催される原産会議の年次大会について 森専務理事に聞くという記事	Reports02
817	1994	朝日新聞 柏崎刈羽原発訴訟で平成6年3月24日住民敗訴の判決が出たことを伝える記事 森一久原産専務理事の「一段階越えた」とのコメントも	Reports02
818	1994	日本経済新聞 平成6年3月26日夕刊「IAEAって何」という質問に森一久氏が答える記事「原子力の軍事利用監視」	Reports02

819	1994	1994年6月23日 立花昭氏より服部学氏宛 (タイプ書き) プルトニウム利用の透明性を高め国際的枠組み形成努力は賛成 国際的原子力安全努力にも賛成 核不拡散体制に維持強化は賛成だがNPTの無期限延長は反対	Letters02
820	1994	1994年12月10日 立花昭氏より森一久氏宛 体調が回復しないまま尿管結石にもなり退院はしたが前立腺も不調なのでバグウォッシュ会議の出納責任者の役も辞退するつもり バグウォッシュ会議の募金委員会の早期発足が必要 組織委員会は事務局長を置く必要がある 組織委員長の小沼さんの海外出張が多すぎて問題で彼の甘さについて行けない 事務局を手伝っている菅沼さんも他の仕事があつて週に2日しかできない NPTの件は服部学氏がまとめてくれている	Letters02
821	1994	1994年5月1日 立花昭氏より森一久氏宛 広島での原産大会のことを聞いた 来年のNPT再検討問題への関心 環境問題と持続可能性 バグウォッシュ会議 プルトニウム問題	Letters02
822	1994	1994年12月9日 立花昭氏 解説文「核兵器は関連国際法の精神に違反すると認めざるを得ない」	Letters02
823	1994	1994年12月23日 立花昭氏より小沼通二氏宛 バグウォッシュ会議経理委員長辞任通知 体調不良のため経理委員長を辞任したいとの内容	Letters02
824	1994	平成6年10月25日 日韓共同セミナーのための原稿 原産森一久 原子力をとりまく日本の社会的政治的状況 平和利用と反対運動の歴史など	Miscellaneous
825	1994	平成6年3月11日 中国新聞? 日本原子力産業会議 広島で来月大会 森一久専務理事に聞く 悲劇忘れて平和利用語れぬ 核兵器廃絶策みっちり議論	Manuscript04
826	1994	平成6年6月14日 日本原子力産業会議役員名簿 (案)	Manuscript04
827	1994	原子力損害賠償制度の現状と課題 第65回今井隆吉部会 21世紀フォーラム No.100 p72 (講師下山俊次日本原子力発電(株)参与)	Box019
828	1994	新世界 無秩序 ピエール・ルルーシュ NHK出版	Box024
829	1994	乾式電解精錬再処理について(米国アルゴンヌ国立研究所から共和党 DOEの判断で日本に技術移転された低コスト平和利用再処理 1985~1994) 元電力中央研究所 服部禎男	Box024
830	1994	核燃料リサイクル国際円卓会議 参考資料(石橋弁護士関係、高木仁三郎関係、トーマス・コックラン関係、ウィリアム・ウォーカー関係、その他)(1993年から1995年頃)	Box025
831	1994	向坊隆氏による園城寺次郎氏の追悼文?の草稿らしきもの(森専務に目を通してほしいとの八木さんからの伝言が付箋に書かれている「9月9日(金)中に連絡を」)1994年のことか	Reports02
832	1995	平成7年、8年、9年役員報酬一覧	Box020
833	1995	Proceedings of Plutonium in the Environment ed. Akira Kudo and Dallas C. Santry Applied Radiation and Isotopes Vol.46 No.11 Nov. 1995 Pergamon	Box020
834	1995	UTRと過ごした30余年 三木良太 近畿大学原子力研究所年報 第32号 (平成7年12月) 近畿大学原子力研究所	Box020
835	1995	週刊プレイボーイ 敦賀湾原発銀座「悪性リンパ腫」多発地帯の恐怖 コメント 平成7年1月 財団法人 原子力安全研究協会 放射線影響に関する懇談会(菅原努ほか)(週刊誌記事への反論)	Box021
836	1995	京都フォーラムより原産会議森一久氏への「レントゲンのX線発見100周年記念・京都フォーラム」会議の案内の封書 平成7年10月(手書きメモあり、講演内容か?)	Box023
837	1995	外国出張報告書 平成7年11月9日 大洗研究所田中利幸、国富一彦から理事長あて中国精華大学核能技術研究所との情報交換会議およびIAEA主催の「閉サイクルガスタービン高温ガス炉(MHTGR-GT)の設計及び開発」に関する技術委員会及びワークショップのため北京へ出張した報告書	Box023
838	1995	私の原子力産業における保健問題への取組と今後の課題 安本正 日本原子力学会誌 Vol.37 No.7, pp.593-601 (1995) (著者より森一久氏へ送られてきた別刷り)	Box024
839	1995	「オウム真理教の本質とこれからの仏教」津田真一 1995年10月6日 日本仏教徒懇話会第68回懇談会	Box024
840	1995	チェルノブイリ事故に伴う放射線の健康影響 一健康影響に関する疫学調査の現状— 平成7年3月 財団法人 放射線影響協会	Box024

841	1995	平成7年度 広領域教育研究会事業の視点 平成7年1月30日 広領域教育研究会	Box024
842	1995	Science Society Humanity 科学社会人間 1995年1号(通算51号) 1995年1月1日 立花昭の「核の無い世界を旨ざして一核軍縮を巡る国際情勢の現状」が掲載されている	Box024
843	1995	朝日新聞記事 1995年7月21日 ひと欄 バグウオッシュ会議会長ジョセフ・ロートブラット	Box025
844	1995	第2回世界将来世代京都フォーラムー被爆50周年、バグウオッシュ会議を機転としてー テーマ:将来世代への我々の良心と行動ー 1995年8月3日、4日 会場:国立京都国際会館の森一久氏への招待状と 森氏の当日の講演の手書きメモ	Box025
845	1995	ニューズウィーク HIROSHIMAドキュメント「決断」にいたる道 エバン・トーマス 1995年7月26日 および NEWSWEEK July 24 1995 Silent Bomb (原爆による被爆後の発がんに関する記事)	Box025
846	1995	趣味と人生 特に切手収集について 平成7年7月19日 水戸 東大名誉教授(原子力工学)三島良績(ミンマヨシツグ)	Box025
847	1995	X線発見100周年と放射線防護の歴史 田島英三(原子力安全研究協会) 保健物理 30 98~102 1995	Box025
848	1995	核兵器不拡散条約の延長についての意見 核拡散問題研究会(1995年3月 延長反対の意見を集約したものの伏見康治ほか10名が執筆	Box025
849	1995	今週の日本 平成7年3月3日発行 阪神・淡路大震災 被災者の皆様へ(被災者を支援する法律などの説明)	Box025
850	1995	芳賀氏より森一久氏への手紙(1995年6月12日~16日に開催された国連軍縮長崎会議「過去半世紀における軍縮努力と将来への展望」の芳賀メモ同封	Box025
851	1995	朝日新聞(長崎)記事 1995年6月15日 基調報告ワンポイント(長崎の軍縮会議における海外からの出席者5名の発言要旨を掲載	Box025
852	1995	中国新聞記事 1995年6月24日 ヒロシマ50年被爆者実態調査「被爆者を意識」8	Box025
853	1995	日本原子力産業会議の第27回原産年次大会準備委員会(平成6年4月15日)のNPT再検討に向けて原子力平和利用を訴える宣言文を引用しつつ記述した手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」キノコ雲の下で平和の願い 戦後6年目に出版された「原爆の子」という本で被爆した子供たちが「このすごいエネルギーを戦争に使わないで平和のため産業のために使ってください」といっている 熱気に包まれた船出 初期には安全性を心配する意見はなく原水爆に利用されるかどうか心配事であった 自主民主公開の3原則を中核とする原子力基本法ができた 自分は最初性急な原子力利用に懐疑的 橋本清之助氏(原産中心人物)との議論で単なる反対ではなく着手するために必要なことについて知恵を出してほしいといわれた 正力松太郎と湯川秀樹 試行錯誤の時代」スリーマイル事故チェルノブイリ事故の影響 プルトニウムの是非 NPTに対する原産会議の問題提起 国民合意の必要性	Manuscripts03
854	1995	高速炉のナトリウム漏れに関する資料 海外のナトリウム漏れ件数(合計138件) 核燃料サイクル説明図 世界の原子力発電設備容量(1995年6月現在) ナトリウムの物性等	Manuscripts03
855	1995	原産会議よりatomwirtschaftー atomtechnik Verlagsgruppe Handelsblatt GmbH のEditorであるDr. Eckert Pscheに送った森一久論文(英文)1995年5月31日 Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan[867]の内容に近い日本の原子力の原点からの歴史「原爆の子」平和利用3原則 個人的ためらいと橋本清之助との出会い 原産会議 正力松太郎の方針に失望した湯川秀樹の辞任 国営か民間か スリーマイル後の状況チェルノブイリ後の日本の反応 カーター大統領のプルトニウム政策のショック NPTの問題点原産会議の指摘 日本自身の方針を決めるべき	Manuscripts03
856	1995	[1652]の論文の訂正版を送った森一久氏のFax送付に対するEditorからの返信 1995年7月19日(英文からドイツ語に翻訳されて出版されることが書いてある)	Manuscripts03
857	1995	森一久 一般旅券発給申請書 平成7年	Personal_Record
858	1995	1995年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
859	1995	フランス科学アカデミーの1995年10月報告「低線量放射線の影響に関する諸問題」(英文 ICRP60の勧告に対する議論を含む)	Reports02

860	1995	フランス科学アカデミーの1995年10月報告「低線量放射線の影響に関する諸問題」(859)の和訳 原安協大塚益比古さんのフロッピーとの張り紙あり)	Reports02
861	1995	電離放射線の低線量影響に関する諸問題 報告No34 1995年10月 フランス研究所科学アカデミー(仮訳) 平成8年6月 財団法人原子力安全研究協会	Reports02
862	1995	森一久氏が平成7年10月6日に日本仏教徒懇話会で講演した内容のまとめと講演原稿([905]を参照)	Reports02
863	1995	「人類の脱皮をねがって」森一久 平成7年10月6日の講演([905]および[863])のための草稿(1995年8月に書いたもの) 被爆体験 戦争道徳 京都フォーラム バグウォッシュ会議	Reports02
864	1995	原爆体験と日本の原子力開発 平成7年8月15日 森一久(10月19日最終チェック済み)(ドイツのatomwirtschaft誌の求めに応じて寄稿したものに加筆したもの)(和文)「原爆の子」と平和利用の推進 当初の原子力委員会 自主開発と輸入路線 NPTなど	Reports02
865	1995	日本原子力学会誌1995年Vol37 No9 談話室への寄稿「原爆体験と日本の原子力開発」森一久([872]の校正刷りに対するチェックと根拠となる資料)および平成7年7月20日の森一久氏より小沼氏へのバグウォッシュ会議関連資料の送り状と森一久氏の論文「Logic of the Elimination of Nuclear Weapons」Kazuhiisa Mori	Reports02
866	1995	食品照射とその推進について 平成7年6月16日 日本原子力産業会議 放射線の食品照射についての概説と世界事情	Reports02
867	1995	atomwirtschaft-atomtechnik 7 1995年7月号 447ページから451ページ Kazuhisa Mori Atombombenabwurfe und die Entwicklung der Kernenergie in Japan (Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan) ([868]の内容のもとになるドイツの雑誌への寄稿論文(独文 英文の抄録付き)	Reports02
868	1995	Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan Kazuhisa Mori ([867]の論文の英文原稿 森一久氏が書いたもの これをドイツの雑誌社がドイツ語に翻訳して掲載した)(なお 森氏は原子力学会誌へ寄稿した日本語原稿で湯川秀樹の原子力委員辞職を委員会発足の5年後と書き英文原稿では3年後と書いているが原子力委員会の正式の表では1年後の昭和32年3月となっている 森氏の記憶違いか)	Reports02
869	1995	朝日新聞平成7年6月17日 戦後50年メディアの検証 原子力報道 社内での激論 YES BUTを基本に 1977年7月の社内資料「原子力発電の手引」	Reports02
870	1995	ヒロシマから半世紀 日本の平和利用の意味を考える 森一久 1995年3月28日の日本原子力学会春の年会での講演原稿 森氏の学会講演を報じる原子力産業新聞(1995年3月30日)の記事 および 朝日新聞(1995年4月13日)のアジアの原発ラッシュの記事 原産会議年次大会に海外からも多数参加とも	Reports02
871	1995	1995年1月3日 立花昭氏より森一久氏宛 バグウォッシュ会議準備のこと 事務局長に素粒子の山田氏が決まったようだが小沼さんが海外出張をやめないで山田氏任せになると心配 現地の広島と東京の連絡不十分 辞任届は出したのに返事がなく募金趣意書に経理責任者として自分の名が上がっているので訂正するよう何とかしてほしい	Letters02
872	1995	平成7年 原子力学会誌Vol.37 No.9 (1995) 談話室 原爆体験と日本の原子力開発	Manuscript04
873	1995	森一久「原爆体験と日本の原子力開発」[865]にある原子力学会誌投稿論文の原稿(手書き) 平成7年5月2日 東北大学工学部原子核工学平川直弘氏宛の送り状付き(atwへの原稿を電送するとの内容)	Manuscripts03
874	1995	Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan Kazuhisa Mori ([872]の英語版)	Manuscripts
875	1995	The Atomic Bombings Reconsidered Barton J. Bernstein Foreign Affairs Vol.74 No.1 p.135 (スタンフォード大学の歴史学の教授による日本への原爆投下の正当性の再検討)	Box020
876	1995	原産会議 森一久 色紙(第9回日台原子力安全セミナー特集に寄せて および 第11回安全セミナー特集の為に)	Box023
877	1995	廣高とヒロシマ-被爆50年の回想- 広島高等学校同窓有志の会 森一久(広島で原爆に被爆した時のことと高槻市で阪神淡路大震災に遭い被災した西宮の兄夫妻を探しに行ったこと)	Reports02

878	1995	「目から鱗を取る」努力が肝要 AIJ-Scope 放射線の安全に関する議論 (和文) (Atoms In Japan向けの原稿か?)	Reports04
879	1995	日刊ゲンダイ 6月27日 一流企業・オール官公庁の囲碁部最強者挑戦シリーズ 原産 森一久(4子) 対石田芳夫(9段)	Reports04
880	1995	日本におけるX線研究の揺籃期の二名著「れんとげん投影写真帖」「レントゲン氏X線放射線の話」(京都フォーラム「X線100年」資料)	Box023
881	1995	Intake of Carotenoids and Retinol in Relation to Risk of Prostate Cancer Edward Giovannucci et al. Journal of the National Cancer Institute Vol.87 No.23, Dec. 6, 1995 articles 1767 (前立腺癌に関する論文)	Box021
882	1995	Journal of the National Cancer Institute Vol.87 No.23 December 6 (1995) 1767 Intake of Carotenoids and Retinol in Relation to Risk of Prostate Cancer Edward Giovannucci et al	Reports03
883	1996	平成8年、9年、10年の役員報酬額等(日本アイソトープ協会常勤・非常勤役員報酬表)	Box020
884	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録 平成8年5月14日(平成8年3月21日に経団連会館で行われた委員会の記録、森一久「原子燃料サイクル確立への課題」-もんじゅ事故を中心に-の講演記録)	Box020
885	1996	IPPNW(核戦争防止国際医師会議)講演会 芳賀メモ(平成8年6月29日に広島医師会館で行われた講演会のメモ 黒沢満大教授の「核兵器廃絶への具体的措置」および森一久原産会議副会長「核兵器廃絶を阻むもの-核兵器の特質と廃絶への合意」の講演のメモ)	Box020
886	1996	1996年6月29日のIPPNWでの講演のための草稿メモ([887]にある講演のために作った手書きのメモ)	Box020
887	1996	IPPNW(核戦争防止国際医師会議)講演会平成8年6月29日 広島医師会館 主催IPPNW広島県支部 の記録([885]と同じ講演会の正式記録)	Box020
888	1996	96/9/28-10/2 独と題する封筒(原産会議の封筒) 日独会議の写真 森副会長あて小林雅治より	Box020
889	1996	原子力産業新聞 1996年3月14日 原子炉廃止措置で検討開始、「スーパーフェニックス」炉の温度計溶接部からNa漏洩	Box025
890	1996	社会制度と原子力(その2) Alvin M. WEINBERG 河田東海夫 訳(日本原子力学会誌 Vol.38 No.1 1996年1月号)	Box025
891	1996	「原子燃料サイクル確立への仮題」-「もんじゅ」事故を中心に- 日本原子力産業会議専務理事 森一久(エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会 平成8年3月21日 経団連会館での講演記録・資料)	Manuscripts
892	1996	新国策 平成8年11月15日号 日本原子力産業会議副会長 森一久 21世紀へ向けてのエネルギー 原子力-平和と安全(1996年10月22日会員懇談会での講演) 核兵器廃絶を阻むものは何か-悪魔はプルトニウムではなく人間だ 人間の能力が理性や知性とともにあるならば原子力は人類にすばらしい可能性と明るい未来をもたらす 原子核科学は地動説を超える人知の飛躍 人類最悪の戦争期に発展し今に続く人間精神の荒廃の時代にある 核分裂の爆弾と平和利用 ナチスに先んじるための米国の原爆開発 無差別大量殺戮は在来兵器でも 戦後も続く「戦争道徳」の荒廃 超大国の核疲れとNPT 放射線影響研究の科学的事実をそのままいにくい雰囲気 広島長崎については存在するヒロシマのメッセージの出し方は孤立化を招くこともある 悪魔はプルトニウムではなく人間 核兵器廃絶に関してCTBT(包括的核実験禁止条約)はNPTとともに核大国本位だからインドの主張は日本がいうべき所である 日本が使用済み燃料中のプルトニウムを処理して利用できるように認められているのは貴重な努力の結果 もんじゅのナトリウム漏れのまずさ 原子力関係者は新人類で一般のひとがびっくりするようなものの言い方をするとイレなきマンションという言い方は片手落ち	Manuscripts02
893	1996	エネ政策考原稿 原産会議専務理事 森一久 ナトリウム漏れ事故を契機にもんじゅを考えよう なぜ高速増殖炉とプルトニウム プルトニウム利用の歴史 ナトリウムの特性 もんじゅナトリウム漏れの真相 対応の不適切さと通報の遅れ 問題の温度計を生んだ背景 常陽と「ふげん」の成功が活かされていない もんじゅのバラバラ発注「むつ」の時もバラバラ発注だった	Manuscripts03
894	1996	Kazuhiisa Mori Personal Record (英文) 平成8年頃まで	Personal_Record
895	1996	森一久 履歴書 平成8年7月現在	Personal_Record

896	1996	1996年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
897	1996	第5回日仏原子力専門家会合の概要(メモ) 平成8年6月3日 日本原子力産業会議 5月23日24日にフランスのマルヌ県エベルネで開催された会議の森一久氏のメモ (N-20)出席者名簿 プログラム 共同議長のステートメント	Reports02
898	1996	N-20(第5回日仏原子力専門家会合1996年5月)における森一久氏のコメント草稿(日本ではICRPの勧告にさらに安全係数をかけて低い基準値を定めてきたが今回のICRP60は十分に低い値となっているので安全係数をかけるやり方は行き過ぎだとの議論が出ているなどの紹介とフランスの議論に対する感想)	Reports02
899	1996	「高速増殖炉開発の課題」説明用資料 平成8年4月1日原産会議専務理事 森一久	Reports02
900	1996	日本工業倶楽部 会報 第176号 平成8年3月45ページ 森一久 原子力技術-発達史序章「もんじゅ」のナトリウム漏れは温度計のさや管の設計不良だが海外のは溶接不良である「常陽」が長年漏れを起こしてないことも油断であった 海外と同じ収拾策でいいのか	Reports02
901	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録 平成8年5月14日開催日平成8年3月21日 経団連会館8階「蔵王の間」森一久氏の講演の記録「原子燃料サイクル確立への課題」-「もんじゅ」事故を中心に(高速炉の原理的なこと 6ページまで)	Reports02
902	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録 平成8年5月14日開催日平成8年3月21日 経団連会館8階「蔵王の間」森一久氏の講演の記録「原子燃料サイクル確立への課題」-「もんじゅ」事故を中心に(6ページまでは[901]と同じもの 講演の最後まで記録と質疑応答および資料までの全てを含む)	Reports02
903	1996	1996年2月28日 通産省 塚原大臣訪問事前資料 アジアのエネルギー需要と原子力発電の現状と将来予測など	Reports02
904	1996	朝日新聞 平成8年2月24日 夕刊 日本記者クラブから 森一久 事故隠し「もんじゅ」の事故隠し 動燃が官庁指導の強化で不透明な体質になっただけ	Reports02
905	1996	仏教徒フォーラム 第53号(平成8年2月10日) 日本仏教徒懇話会第68回懇談会(平成7年10月6日に開催されたもの「当面する重要問題の解明へ」)(「オウム真理教について」津田真一「核問題について」森一久) 核兵器と戦争道徳 NPT無期限延長問題 バグウォッシュ会議 脳科学 宗教など	Reports02
906	1996	「技術と人間」特集「もんじゅ」破綻への道「もんじゅ」のナトリウム火災 小林圭二	Reports02
907	1996	1996年7月14日消印の森氏が高槻から原産会議の長嶺正美氏へあてた手紙(速達) 7月16日のエネルギー政策会議で配布する資料を用意しておくよう依頼する内容	Reports02
908	1996	新国策 平成8年11月15日 4ページから18ページおよび26ページ 10月22日会員懇談会での森一久氏の講演 21世紀へ向けてのエネルギー 原子力-平和と安全 人間の能力が理性と知性とともにあるならば原子力は人類にすばらしい可能性と明るい未来をもたらす	Reports03
909	1996	NUKEM Interview August 1996 The Japanese Electric Power Industry 森一久氏へのインタビュー記事 高速増殖炉 使用済み燃料問題など(1996年6月13日のインタビュー)	Reports03
910	1996	広島県医師会速報(第1586号)平成8年7月25日号 IPPNWコーナー 核兵器廃絶への具体的措置 大阪大学教授 黒沢満(講演の記録記事)	Reports03
911	1996	「もんじゅ」事故をどう生(ママ)かすか 原産会議専務理事 森一久「もんじゅ」のナトリウム漏れ事故の解説 事故が起こった背景には分割発注でバラバラの設計だったこともある	Reports03
912	1996	広島県医師会速報(第1590号)平成8年9月5日号 1ページ目 核兵器廃絶を阻むもの 原産副会長 森一久(IPPNW 1996年6月広島) 核兵器の出現とその背景 戦後世界の秩序を保持したもの 核兵器廃絶への道	Reports03
913	1996	読売新聞 平成8年8月9日 21世紀へ届け「ヒロシマの夏」の記事 「チェルノブイリ」と連帯 2歳で原爆孤児となったの山田寿美子が医療ソーシャルワーカーとしてチェルノブイリで活躍している 原産副会長の森一久の被爆経験と原発との関わり	Reports03
914	1996	原子力開発の歴史(年表その1)単行本「原子力にルネサンスを」の資料 1895年から1996年まで	Reports03

915	1996	1996年2月24日朝日新聞 日本記者クラブから(2月14日)事故隠し 森一久さん	Miscellaneous
916	1996	Plutonium No.14 Summer 1996 pp.2-8 Kazuhisa Mori Energy Security and FBR's Role in Future	Manuscript04
917	1996	平成8年5月14日 エネルギー総合推進委員会第321回(平成8年3月21 日開催)常任委員会記録 講師森一久「原子燃料サイクル確立への課題」 ー「もんじゅ」事故を中心にー	Manuscript04
918	1996	The 12th Japanese-German Meeting on Nuclear Energy Munich Hotel Bayerischer Hof Tentative Technical Programme (第12回日 独核エネルギー専門家会議のプログラム、参加者リストなど) 平成8年9月	Box020
919	1996	核戦争防止国際医師会議(IPPNW)日本支部事務局大木佐智代氏よ り森一久氏への手紙 Abolition 2000- Handbook for a World Without Nuclear Weapons(非核世界のための手引き書)の和訳を同封	Box025
920	1996	「もんじゅ」Na漏れ「事件」に思う(チェルノブイリや「もんじゅ」に関する報 道の仕方が非科学的な不安感を与えていることなど)	Reports02
921	1996	原子力にルネサンスを 歴史からの未来へのカギ 森一久 原子力の歴史を 書いたもの	Miscellaneous
922	1996	核廃絶の論理 森一久(タイプされたもの 戦争道徳の回復を訴えている)	Box020
923	1996	「もんじゅ」のナトリウム火災 小林圭二「技術と人間」	Box025
924	1996	千分の一ミリ 後藤茂 原子燃料政策研究会 機関誌原稿(「もんじゅ」のナ トリウム漏れを起こした折れた温度計のさやを製作した職人のことに ふれている随筆)	Box025
925	1996	むすびー「まとめ」に代えて(本のあとがき?) 三つの問題点 軍事利用と の関係 原子力関係者が(結果的に)嘘をついた 外国からの危険情報(チ ェルノブイリなど)	Reports03
926	1997	原子力の利用に関する歴史的解説問題点の整理(表題等不明) 1997年 12月?	Box019
927	1997	社団法人日本アイソトープ協会パンフレット 平成9年6月	Box020
928	1997	日本アイソトープ協会役員名簿 1997年6月29日	Box020
929	1997	会長中尾喜久会長あて(投書)M総務部長、S事務局長、I学術部長に対す る批判文書 平成9年10月19日(日本アイソトープ協会の職員の内 部告発文)	Box020
930	1997	会長中尾喜久会長あて 協会の現状、将来を憂う有志職員の改善案 (平成9年11月?)「社団法人日本アイソトープ協会における問題点と改善 方策について」添付	Box020
931	1997	中尾喜久会長あて 日本アイソトープ協会職員の内部告発文書 平成9 年10月19日	Box020
932	1997	日本アイソトープ協会会長中尾喜久先生あて 職員有志の内部告発文 平 成9年10月	Box020
933	1997	清水榮氏より森一久氏への私信 1997年3月14日(清水榮氏自身の前立 腺癌治療メモと前立腺癌についての論文を同封するとの手紙)	Box020
934	1997	清水榮前立腺癌の手術(両側睾丸摘出)の後10MeV γ raysの照射経過 ([933]の手紙に同封されたもの)	Box020
935	1997	清水榮氏のコメントと前立腺癌治療でノーベル賞を受賞したCharles Hugginsの紹介、ノーベル賞受賞講演のコピー([933]の手紙に同封され たもの)	Box020
936	1997	([933]の手紙に同封されたもの)Human prostate tumor growth in athymic mice: Inhibition by androgens and stimulation by finasteride Y. Umekita et al. Proc. Natl. Acad. Sci. USA Vol.93 PP.11802-11807 October 1996	Box020
937	1997	エネルギーを考える会 平成9年7月11日プレスセンター もんじゅ事故の問 題点などエネルギーを考える会 平成9年7月11日プレスセンター も んじゅ事故の問題点など	Box021
938	1997	海外のプラントにおけるナトリウム漏えい件数に係るご質問について 動燃も んじゅ竹内氏より原産会議広谷殿あてFAX 平成9年7月10日(問い合わ せに対する回答)	Box021

939	1997	Lycopene and Myocardial Infarction Risk in the EURAMIC Study Lenore Kohlmeier et al. American Journal of Epidemiology 1997 Vol. 146 No.8 pp.618-626	Box021
940	1997	A Tomato a Day May Keep Cardiologists Away Jane E. Brody International Herald Tribune October 23 1997 (p.11)	Box021
941	1997	International Herald Tribune November 21 1997の女性の心臓病に関 する記事 November 13 1997の脚の血流障害に対する遺伝子治療の記 事のコピー (1997年12月8日 環境研森茂より原産森副会長あてFAX)	Box021
942	1997	Prooxidant-Antioxidant Shift Induced by Androgen Treatment of Human Prostate Carcinoma Cells Maureen O. Ripple et al. Journal of National Cancer Institute Vol.89 No.1 1997 p.40およ びProstate Cancer Screening 'Not for All' March 18, 1997 (新聞の一 般面の記事) (前立腺ガンのPSAでの診断が過大に出るリスクがあることの 論文と記事)	Box021
943	1997	日中原子力協力代表者会議 中国訪問日程(案) 平成9年9月8日 原産会 議(精華大学HTR、蘭州再処理など見学)	Box023
944	1997	日中原子力協力代表者会議の概要 平成9年9月30日 日本原子力産業 会議(会合の内容の概要をまとめたもの)	Box023
945	1997	第31回原産年次大会の開催準備について(案) 平成9年9月30日 日本 原子力産業会議	Box023
946	1997	外国出張報告書 平成9年3月31日 大洗研究所田中利幸より理事長あて の中国精華大学核能技術研究所(INET)での高温ガス炉に関する情報交 換会に出席した内容の報告(原研側のHTTRの報告、INET側のHTR-10建 設状況の報告があったことなど)	Box023
947	1997	精華大学(高温ガス炉等) 訪問日1997年9月12日(精華大学視察報告 書)	Box023
948	1997	日中原子力協力代表者会議について 開催日1997年9月11日 中国核工 業総公司会議室 懇談内容の報告書	Box023
949	1997	9月11日活動安排(行動スケジュール)(中国訪問のスケジュール、日本 側代表団の名前、中国側対応者の名前)	Box023
950	1997	中国側対応者のリスト履歴(核工業総公司の関係者)	Box023
951	1997	中国外貨交換メモ(森氏が2万円を両替した記録)	Box023
952	1997	東海村動燃の微量放射能事故の健康影響についての見解 日本放射線影 響学会会員有志(代表 菅原努) 平成9年5月26日	Box025
953	1997	原子力に好意的な一見解「一般に流布されている虚偽の意見に対する回 答」エネルギー誌1997年10月21日号(No.6935)寄稿記事(フラン ス原子力学会員ミッシェル・ルング氏からの寄稿文)	Box025
954	1997	エネルギーを考える会定例勉強会 講師原産会議副会長 森一久 動燃問題 の本質は 本当の安全性についての社会合意と研究の積重ねが決め手「も んじゅ」事故と東海村の核燃料再処理工場の燃焼爆発事故 ナトリウム温度 計の「常陽」と「もんじゅ」の形状比較 設計がおかしいしかし頭を下げるば かりの対応はおかしい 改善できる技術 廃液の水を飛ばす作業で廃液の量 を通常より2割減らしていた 再処理を始めたいきさつ(昔話) 通報に当たっ て時間の嘘をついた 放射線管理のずさんさ 日本の研究は畳の上の水練 動燃のままではダメ 絶対安全といわされる社会 リスク問題の難しさ	Manuscripts03
955	1997	森一久 履歴書 平成9年頃まで(著書 公職を含む)	Personal_Record
956	1997	森一久 事務連絡票(旅費謝金支払いのため科学技術庁へ提出) 平成9 年8月20日	Personal_Record
957	1997	1997年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
958	1997	日経産業新聞 直談究論 原産会議副会長 森一久 原産会議30回目の年 次大会 高木仁三郎も呼ぶ	Reports02
959	1997	朝日新聞 平成9年2月 米国側の外交文書が公開されて1955年頃からの 日米原子力協定締結の事情がわかったという記事 自主開発路線から後 退し米国に追従する形で輸入路線へと進む	Reports02
960	1997	平成9年10月20日 統計研究会「内外経済情勢懇話会」講演原稿(草稿 文は無し 世界と日本の原子力発電所の一覧表 高速炉の解説図表 世界 の高速炉一覧表 もんじゅの系統図とナトリウム漏れ事故の説明図 放射線 防衛に関する線量などの資料のみ)	Reports03

961	1997	エネルギーいんふおめいしょん 1997年10月号 2ページ エネルギーを 考える会定例勉強会での森一久氏講演内容の掲載部分「動燃問題の 本質は？」本当の安全性についての社会合意と研究の積重ねがきめ手「も んじゅ」のナトリウム漏れ事故と東海工場での廃液処理施設の爆発 事故のお粗末さと背景にある体質 放射線被ばくに関する理解のなさな ど	Reports03
962	1997	人口と開発 財団法人アジア人口開発協会 (APDA) 夏1997年7月 60号 17ページ 本財団二理事国際的榮譽に輝く 韓国石榴章 森一久氏 韓国はアジア発展のイニシアティブを	Reports03
963	1997	アジア人口開発協会の遠藤正昭氏より 1997年6月27日 手紙「人口と開 発」掲載の記事に使うために借りた森一久氏の写真を返すにあたっ て韓国との交流について記した内容	Reports03
964	1997	エネルギーを考える会平成9年7月定例勉強会開催のお知らせ テーマ「動 燃問題の本質は」7月11日に内幸町のプレスセンターで森一久氏 の講演があること案内文と 森氏が用意した講演の要旨と資料	Reports03
965	1997	エネルギーを考える会平成9年7月定例勉強会での森一久氏の講演の 資料と講演要旨 ([964]の講演資料と要旨とほぼ同じ内容)	Reports03
966	1997	平成8年3月28日付エネルギーレビューセンター編集部より森一久氏あての 「分析」原稿執筆依頼文(「分析」というのは「徹底分析」欄のこと あとの資料は平成9年の30回原産大会のことなので平成8年という日 付は間違いか?)と実際に掲載されたEnergy Review 1997-7 42ページか ら45ページ「徹底分析」森一久 原子カー今 本音で語る時 一30 回記念原産大会の自己点検一 田原総一郎 マクナマラ元長官 森英恵 高木仁三郎など多数の出席者を得た30回記念大会の様子をまとめた 報告 および写真	Reports03
967	1997	動燃の改革と今後の原子力研究開発のあり方 平成9年6月11日 日本原子 力産業会議 不祥事を起こした動燃の改革は避けられないが研究 の継続は必要	Reports03
968	1997	原子力問題情報センターより森一久氏あてのニューズレター「原子力ニュー ス」への寄稿依頼 1997年4月26日	Reports03
969	1997	原子力ニュース第18巻6号 1997年6月30日 巻頭言「動燃問題一その複 眼的アプローチ 森一久 (巻頭言以外のページや会務報告などおよび森氏 の原稿などを含む)	Reports03
970	1997	4月30日TBS社員セミナーの資料 動燃アスファルト固化処理施設火災爆発 事故の放射線管理問題 原子核科学の意味 1895年のX線発見から1996 年までの原子力関連の出来事を並べた表	Reports03
971	1997	韓国の石榴(ザクロ)章を受章したことに関連する資料 1997年4月21 日付け賞状 写真 韓国原産発行の「原子力産業」5月号目次(森氏受賞 の記事) Isotope News1997年6月号30ページ(森氏韓国国民勲章石榴 章受賞記事)	Reports03
972	1997	原子力産業新聞1997年4月24日 森原産副会長が韓国勲章を受賞 日本 人として初	Reports03
973	1997	原産会議午餐会スピーチ(要旨) 4月9日 森英恵「東と西の融合」(原産 30回大会でのスピーチ)	Reports03
974	1997	原子力が嫌われるこれだけの理由 原子力資料情報室 高木仁三郎 危 険性の認識の欠如 金で回避 情報を公開しない 議論を避ける・できない 住 民の意思を尊重しない 唯原発主義「原子力ファミリー」体質(原産 30回大会でのスピーチ)	Reports03
975	1997	A Vision of Global Security and the Role of Nuclear Weapons in the Twenty-first Century by Robert S. MacNamara 1997年4月9 日9時以降に公開(原産30回大会でのスピーチ)	Reports03
976	1997	エネルギーいんふおめいしょん 1997年4月号 1ページ 焦点「付和雷同」か らの脱却 森一久 一人一人が人格を確立し主体的に行動する市 民となってほしい	Reports03
977	1997	人口と開発 財団法人アジア人口開発協会 (APDA) 春1997年4月 59号 64ページ「空気」は変わるかー百家争鳴の「改革」論議 森一久	Reports03
978	1997	日本工業新聞 山崎康志氏より森一久氏への取材に対する礼状と原稿 点検依頼文 および 日本工業新聞平成9年12月12日 激動の97年欄 原子力エネルギーに関して森氏へのインタビュー記事 常識的な安全基 準を 外国メーカー含め競争入札に(動燃が独善的「関東軍」になった 科学的研究の必要性 経営者改革	Reports04

979	1997	”QASGニュース 第21号 平成9年11月 特別寄稿 森一久 長い夜の夢—日本システムの”TQA”” — 不祥事続きの日本システムの総点検”	Reports04
980	1997	第一原子力産業グループ理事会での講演資料 各国の原発 先進国温暖化ガス排出見込み 地球温暖化など	Reports04
981	1997	国際原子力フォーラムシンポジウム — 地球温暖化防止と代替エネルギー — (平成9年11月12日における開催案) 開催日12月5日 場所京都宝ヶ池プリンスホテル プログラム案 質疑応答全体討論の司会は森一久氏 資料(中国および韓国の状況 低線量放射線被ばくの影響など)	Reports04
982	1997	1997年3月11日 立花昭氏より森一久氏宛 体調については脳内髄液の圧力上昇とパーキンソン病 原子力は「もんじゅ」や「再処理工場」の事故で哲学を改めるべき時期 軍用は核廃絶を	Letters02
983	1997	1997年12月 草堂寺と国前寺との友好に関する覚書 日本語文と中国語文をならべたもの 鳩摩羅什に由緒がある両寺が連携して両国の仏教交流を深めるという内容 草堂寺方丈 釈宏林 国前寺三十八世康国院 日華	Buddhism01
984	1997	平成9年3月6日 人口開発 随筆原稿 森一久 「空気」は変わるか— 百家争鳴の「改革」論議 外圧から始まった改革騒ぎの解決をまた外国から得ようとしている	Manuscript04
985	1997	平成9年3月20日 森一久より阿部光幸様あて 手書きの手紙 前立腺ガン	Manuscript04
986	1997	の放射線治療に関する助言に対するお礼と今の状況報告 平成9年3月31日 原産会議プレスリリースの原稿 世界の原子力発電開	Manuscript04
987	1997	発の動向—1996年12月31日現在の—	Manuscript04
988	1997	平成9年5月 田島英三自筆? 喫煙と余命との関係 エネルギー—いんぷおめいしょん 1997年4月号 1ページ 森一久 「付和雷同」	Manuscript04
989	1997	からの脱皮 平成9年5月21日 日経夕刊 フォーカス欄 原子力協力で韓国から勲章 森	Manuscript04
990	1997	一久氏 平成9年4月21日 森一久 韓国原産主催Dinnerでの挨拶 韓国政府から	Manuscript04
991	1997	国民勲章石榴章を受賞したことに対する挨拶	Manuscript04
992	1997	韓国原産発行「原子力産業」5月号 森一久氏の石榴章受章記事 平成9年10月20日第14回内外経済情勢懇談会 講師森一久 わが国の原	Manuscript04
993	1997	子力開発政策をめぐって Isotope News 平成9年6月号 森原産副会長が韓国国民勲章石榴章を	Manuscript04
994	1997	受賞したとの記事 Atoms in Japan (AIJ) 1997 SeptemberのScope欄 COP3 and	Manuscript04
995	1997	Nuclear Energy Editor in Chief 平成9年12月12日 日本工業新聞? 原子力エネルギー欄 森一久氏へのイ	Manuscript04
996	1997	ンタビュー記事 動燃が独善的で閉鎖的な「関東軍」的体質になった 常識的	Manuscript04
997	1997	な安全基準と外国を含めた競争入札の必要性 平成9年6月8日 日経社説の切り抜き 英語ができなければ国が危うい (こ	Manuscript04
998	1997	の記事の側に?を記している) 平成9年8月1日付け 京大物理昭和22年卒 第2回クラス会のご案内 世話	Manuscript04
999	1997	人は隈部功 昭和22年卒の名簿と昭和23年卒の名簿(森氏は23年卒で	Manuscript04
1000	1997	あるが 22年卒の人と同期) 日経新聞 4月1日 直談究論 原産会議30周年会にあたり 原産副会長の	Manuscript04
1001	1997	森一久氏に聞く「もんじゅ」や東海村再処理工場の事故などをうけて原発	Manuscript04
1002	1997	反対派の高木仁三郎氏にも講演してもらう 広高岡基会 成績表 96年3月 6月 9月 12月(以上印刷 この間森氏は欠	Manuscript04
1003	1997	席) 森氏手書き記入97年3月 AIJ Scope Apr. また始まるのか延々と「小田原評定」? 東海村再処理工場	Manuscript04
1004	1997	の火災事故の対応のまずさについての議論 COP3と原子力 AIJ-Scope向けの原稿(日本文)	Manuscript04
1005	1997	原子力船「むつ」の数奇な一生 原産副会長 森一久 「むつ」の計画から実	Reports05
		験成功までの様子を回顧した文章 年表 茨城の原子力・40年総括年表	Box015
		日本アイソトープ協会職員の内部告発文 日付宛先署名なし	Box020
		AIJ Scope Apr. また始まるのか延々と「小田原評定」 動燃アスファルト固	Reports03
		化施設爆発事故後に起こった状況に対する批判	

1006	1997	小林稔先生米寿お祝い記念品贈呈者名簿 森一久 川口修 八谷雅典 藤井三朗 朝岡卓見 中原康明 中島豊 内藤倅孝 千原順三 田次巴吉 水本 元治 古田敏郎	Manuscript04
1007	1998	国際放射線防護委員会ICRP1997年 オックスフォード会議 松平寛通 放 射線科学 Vol.41 No.1 1998	Box016
1008	1998	RI協 鈴木 H10 と記された封筒	Box020
1009	1998	日本アイトープ協会中尾喜久会長あて 鳥塚委員会の中間報告書(役員 の人選及び理事会の運営等に関する改革案) 平成10年4月28日	Box020
1010	1998	某先生に対するお願い文 常務理事会議長 平成10年4月14日(不祥事 を幕引きするために自ら身を処してほしいとの内容)	Box020
1011	1998	原子力の社会的受容—その歴史の変容とリスク・ベネフィット <エネルギー —資源'98. 11号「展望・解説」平成10年9月25日 政策科学研究所 伊 藤慶四郎	Box021
1012	1998	ベトナム原子力発電視察団・団員名簿 平成10年12月22日 これまでの交 流の経緯など	Box026
1013	1998	森一久 渡航手続きのためのデーターお伺書(野村ツーリストビューロー) 平成10年12月18日	Personal_Record
1014	1998	1998年のビジネス日誌(行動日誌)	Diarys
1015	1998	変革の山場に向かって Scope 98 Jan 動燃改革および行政改革について (和文 Atoms In Japan Scope欄の原稿か?)	Reports04
1016	1998	中国新聞平成10年11月22日および 読売新聞平成10年10月25日田島 英三氏(10月10日死去85歳)の追悼記事と朝日深部平成10年11月11 日惜別欄田島英三氏追悼記事	Reports04
1017	1998	毎日新聞 平成10年11月10日 高木仁三郎氏が「高木学校」を始めるとい う記事「科学者は市民の側に」	Reports04
1018	1998	原子力安全研究協会田中和夫氏より原産森副会長あてのFax(平成10年9 月1日)(同協会の実験に関する森氏の問い合わせに対する返事)および実 験の概要 放射性ヨウ素と甲状腺がんに関する実験計画(3カ年 計画)~チェルノブイリ原子力発電所周辺の小児甲状腺がん多発の原 因究明のために~(ラットを用いた実験計画)	Reports04
1019	1998	菅記念研修所 記念館蔵書目録 1998-08-21 調査 和漢洋文学関係など の目録	Reports04
1020	1998	ベルギーで開催予定のミーティングのプログラムの副議長のProf.Kir chmanより原産森一久氏へFAXしてきたもの SCOPE-RADSITE (Radioactivity from Military Installation SITES and Effects on Population Health (このワークショップに原産から出席してほしいとも書 いてある)	Reports04
1021	1998	エネルギー総合推進委員会 第343回常任委員会記録 平成10年7月24 日(平成10年5月20日の委員会の記録) 経団連会館8階富士の間 講師 原産副会長 森一久「世界の原子力情勢~各国政府・国民の意識の潮流」 (各国の原発の普及状況と低線量被ばくの安全性の問題点など)	Reports04
1022	1998	ECOレポート19号 1998年3月 内外経済情勢懇談会(第14回 1997-1 0-20) 講師 森一久 わが国の原子力開発政策をめぐって(国内外の原発 の状況 核分裂の説明 高速増殖炉「もんじゅ」事故 動燃東海事故 低線量 放射線影響など)	Reports04
1023	1998	平成10年3月1日 茨城県立医療大学 加藤和明氏より原産森一久氏への 私信(会談の礼 雑誌Parityの送付 放射線とのつきあいなど)	Reports04
1024	1998	1998年11月18日 日本原産会議副会長森一久より草堂寺釈諦性先生 あて(中国文) [1090]の内容を中国語訳したもの	Buddhism01
1025	1998	1998年12月18日の木藤さんより原産長嶺氏へのFAX(森氏の依頼によ る連絡) 草堂寺方丈釈宏林 監院釈諦性から国前寺正田英親執事長あて の招請状の日本語訳文 正田氏を団長とする10名前後の代表団に1999年 3月26日から30日まで訪問して頂きたい 1998年12月10日付け	Buddhism01
1026	1998	1998年12月18日森一久より木藤啓子あてFAX 中国草堂寺から広島 の国前寺あてに届いた招請状を日本語に訳してFAXしてください 招請状(中 国語文) [1025]の内容の原文	Buddhism01

1027	1998	1998年11月17日 森一久氏より足田英親氏あての手紙 草堂寺訪問に関する段取りの確認 旅行社をそちらで決めてほしい 特になければ日中文化交流協会にでも 参加者としてできたら自分と兄茂夫妻および鳩摩羅什に心がある友人を加えてほしい 別紙として段取り日程	Buddhism01
1028	1998	Scope 98 Jan用原稿 変革の山場に向かって 動燃が改組されること 科学技術庁が文部省と合併し原子力委員会と原子力安全委員会は内閣府に移ることなどに対する心配	Manuscript04
1029	1998	平成10年1月8日 夕刊フジ 企業のトップが大病になった時 渡辺恒雄誌売新聞社長が前立腺がん手術で入院にあたって公表した文章の全文	Manuscript04
1030	1998	第20回韓・日原子力産業Seminar韓国代表团 団員名簿 1998年10月12日-13日 韓国原子力産業会議	Manuscript04
1031	1998	平成10年10月25日 追悼抄 田島英三さん 10月10日死去85歳(前立腺がん)「平和利用」熱く追求 森一久氏のコメントも掲載されている	Manuscript04
1032	1998	平成10年11月22日 中国新聞 東京と一く 原産会議副会長森一久さん(72歳) 問題続きの開発体制 身内に厳しい視線	Manuscript04
1033	1998	98年「原子力の日」ポスターコンクール最優秀賞 埼玉県 滝沢宗茂(3才) 明るい暮らしに原子力 3才やとじぶんででんきがつけられるようになった	Manuscript04
1034	1998	平成10年11月24日決定 平成10年度職員の冬期賞与の支給について	Manuscript04
1035	1998	平成10年11月25日 フランス科学アカデミーの放射線防護についての考えとその生物学的根拠(長嶺) モーリス・テュビアナ氏の講演会の記録 低線量被曝には閾値があり直線仮説は過大評価	Manuscript04
1036	1998	平成10年11月7日 第30回旧制高校同窓会参加者 広島Aチームに森一久氏の名前が見える	Manuscript04
1037	1998	高レベル放射性廃棄物の地層処分～第2次取りまとめに向けて～ PNC CD-ROM	Box028
1038	1998	菅記念研修所 記念館蔵書目録(漢籍を中心とした書籍や机その他の目録)	Reports04
1039	1998*	?新聞家庭欄 21世紀への医療ルネサンス 増える前立腺がん 岡山市備前焼の陶芸家藤原敬介さんの例	Manuscript04
1040	1998*	中国核工業総公司の用紙を使ったFAX 任屹霞より三石様宛 日本の国前寺から西安の草堂寺へ来て頂けることを歓迎 森先生によるしく(日本語手書き文)	Buddhism01
1041	1999	1999年5月6日 国前寺足田英親執事長より草堂寺釈宏林方丈あて招待状(釈宏林を団長とする3名前後の訪日団を招待したい費用は日本負担)および「草堂寺」の日本語訳「日本の日蓮宗と草堂寺の縁」[1069]にあるものと同じ	Buddhism01
1042	1999	生活環境中電磁界における小児の健康リスク評価に関する研究(研究期間:平成11年～13年) 研究代表者 兜真徳(国立環境研究所)(事後評価:データが少なく評価方法も適当でないなどこの研究に対する厳しい評価が記されている)	Box018
1043	1999	巻頭言 異文化の吸収と交流を 内田岱二郎(東大・名大名誉教授)	Box019
1044	1999	日本学術会議に相次ぐ疑問の声 矢田義一 笹森三和子 Asahi Shinbun Weekly AERA 1999.6.21 p.26	Box020
1045	1999	Accelerated discovery Antiangiogenic Activity of Prostate-Specific Antigen Anne H. Fortier et al. Journal of the National Cancer Institute Vol.91, No.19, Oct. 6, 1999 p.1635 (前立腺癌に関する放医研図書室にある雑誌のコピー)	Box021
1046	1999	Natural History of Progression After PSA Elevation Following Radical Prostatectomy Charles H. Pound et al JAMA May 5 1999 Vol.281 No.17 p.1591. (前立腺ガンに関する論文 1999年6月18日放医研図書室よりのFAX)	Box021
1047	1999	Management of Prostate Cancer After Prostatectomy Treating the Patient Noto the PSA Howard I. Scher JAMA, May 5, 1999 Vol.281, No.17 p.1642.	Box021

1048	1999	New Method Gauges Risk of Prostate Cancer Relapse Denise Gragy International Herald Tribune May 6 1999 (p.2) (1999年5月10日環境研から原産会議あてのFAX 前立腺の診断に使うPSAの問題点に関する論文が出たとのコメントが手書きで添えられている)	Box021
1049	1999	JAMA (The Journal of the American Medical Association) May 5 1999, Vol.281, No.17 の表紙 ([1045]および[1046]の論文が掲載されていることを示す) (放医研図書室から1999年6月18日にFAXされたもの)	Box021
1050	1999	低線量電離放射線の細胞影響 国立衛生研究所医療センター原子核医療部により組織、実施 1999年4月27日-30日 DOE/NIH Workshop (米国のDOEとNIHの調査報告の日本語訳)	Box021
1051	1999	1999年1月ベトナム第1回の対応 (1月7日の写真、手書きのメモなど)	Box026
1052	1999	ベトナム原子力発電事情調査団報告書 1999年1月 日本原子力産業会議 国際協力センター (1月6日から11日までのベトナムでの調査の報告書)	Box026
1053	1999	日本原子力産業会議とベトナム原子力委員会の原子力発電導入に係るプレ・フィジビリティ・スタディの実施協力に関する覚書 1999年1月9日 ハノイベトナム側 Tran Huu Phat 原子力委員長、日本側 森一久 原産会議副会長の仮訳	Box026
1054	1999	日本子孫基金 討論会記録 1999年11月20日 食料会館大会議室 森一久 榎田敦 中村政雄 (司会 小若順一) 世紀の対決原子力発電公開討論会 どうする? 日本の原発 JCO の事故の真相 原発事故が起こった時の被害の原産会議による試算がしてあったこと 原子力発電の経済性 代替エネルギー プルトニウム利用と核兵器 核廃棄物 広島長崎 放射線影響	Manuscripts03
1055	1999	森一久 朝日新聞人物データベース調査票 1999年8月	Personal_Record
1056	1999	JCO事故 (1999年9月30日) のあとの1999年10月8日 (金) の森氏の動向メモ	Diarys
1057	1999	1999年のビジネス日誌 (行動記録)	Diarys
1058	1999	朝日ニュースター (番組名はオピニオン) 向けの録画取りに関するやりとり 平成11年11月6日付けなど 朝日新聞岡田幹治論説委員との対談型式 質問内容 (JCO事故 もんじゅナトリウム事故 プルサーマル 燃料サイクルなど) 番組は森一久氏および原子力資料情報室西尾漢氏から別々に話を聞き2日に分けて放映する予定 森氏の録画は11月16日	Reports04
1059	1999	読売新聞 平成11年10月31日 老朽化進む研究用原子炉 課題先送りの「つけ」非器物や安全対策急務 (解説部 知野恵子) 原産会議が11月に欧米に調査団を派遣する 森一久氏のコメントも含まれている	Reports04
1060	1999	朝日新聞 平成11年8月23日 「核兵器に手を染めぬ」ための科学者の「誓約運動」が異論続出で難航 鈴木達治郎氏の提案 森一久氏は「日本では誓約などしなくてもやるわけがない 米国でやるべき」とコメント	Reports04
1061	1999	二十一世紀はどんな世紀か ――序論― エネルギー・原子力問題の背景を占う― AIJ Scope 99 Jan 森一久 資源・環境・供給安定のトリレンマを解くには「文明」とか「哲学」とかがキーワードになる	Reports04
1062	1999	Physics Today September 1999 p.24-29 Radiation Risk and Ethics Zbigniew Jaworowskiとその訳文 (パリティ 2000年9月号) 放射線の危険性と倫理 田島俊之 訳	Reports05
1063	1999	JCO臨界事故に関する資料 10月11日 たんぼぼ舎と市民エネルギー研究所主催の「東海大事故の分析と今後」の資料 (問題提起者 榎田敦 小林圭二 小泉好延ほか) 中国新聞1999年10月4日「臨界事故の衝撃」 10月29日のたんぼぼ舎の集まりのピラ	Reports05
1064	1999	Journal of National Cancer Institute October 6 1999 Vol.91 Number 19 p.1635 (Accelerated Discovery欄) Antiangiogenic Activity of Prostate-Specific Antigen A. H. Fortier et al (放医研からFAXしてもらったもの) がんマーカーのPSAの影響についての論文	Reports05
1065	1999	JCO事故時における那珂研究所のモニタリングデータ 平成11年10月7日 日本原子力研究所 (JCO事故時のデータ図表)	Reports05
1066	1999	日蓮宗新聞 平成11年12月20日 広島国前寺と西安草堂寺が11月6日に広島で鳩摩什三蔵法師の顕彰したとの記事 檀徒の森一久氏が仲介役を果たした	Reports06
1067	1999	1999年3月27日 日本国国前寺と中華人民共和国草堂寺との友好交流に関する覚書 日本語文および中国語文 草堂寺方丈 釈宏林 国前寺三十八世康国院日華 康永院日量	Buddhism01

1068	1999	平成11年2月19日 株式会社ヤマトヤシキ鹿島政彦氏より森一久氏あて 納品書 明珍風鈴特上1個 上2個	Buddhism01
1069	1999	1999年4月26日 木藤氏より原産森副会長あてFAX 中国語の「草堂寺」 の紹介文より日蓮宗との関係があるところを日本語訳したもの「日 本の日蓮宗と草堂寺の縁」を送る 招待状は疋田氏に送ってサインと印 をもらうよう手配した 別紙として草堂寺と日蓮宗との関わりの訳文（中国 南北朝時代の南朝の梁の武帝の普通3年（522年）司馬達が日本に渡って 仏教を伝えたが日本では552年に百済から伝わったとされている 推古天 皇の頃には法華経を信仰していた 13世紀に日蓮が日蓮宗を興す 日蓮宗 は法華経を第一の經典とし草堂寺および鳩摩羅什を尊敬する 1978年中国 仏教協会訪日友好代表団が日本を訪問 1979年2名の日蓮宗代表が訪 華 1980年松井大周を団長とする23名が草堂寺に参拝 帰国後日蓮宗関 係者は日本の費用で草堂寺の改修および鳩摩羅什の像を贈ることなどを 計画して提案した1982年より1986年にかけて改築等が行われた 第一期 修復工事が終わった1982年4月13日に日中関係者が草堂寺において鳩 摩羅什三蔵法師尊像奉納開眼法会を行った）	Buddhism01
1070	1999	1999年4月21日 木藤氏より原産森副会長あてFAX 草堂寺への招待状 の案 中国文と日本語文 国前寺疋田英親執事長より草堂寺釈宏林 方丈および釈諦性監院あて 草堂寺からの釈宏林氏を代表とする2名か3 名の代表団を招待したい 費用はこちらで持つ	Buddhism01
1071	1999	1999年4月20日 木藤氏より原産森副会長あてFAX 香積寺の仏7時間割 表の日本語訳に際して分かりにくいところを疋田氏に問い合わせても良い か	Buddhism01
1072	1999	1999年3月27日 日本国国前寺と中華人民共和国草堂寺との友好交流 に関する覚書の日本語文および中国語文の写真ならびに訪中団と草堂寺 関係者との集合写真	Buddhism01
1073	1999	1999年3月15日の草堂寺釈諦性氏より森一久氏あてのFAXおよびその 日本語訳文を木藤氏が原産長嶺氏宛に送ったFAX（森氏が予定通り訪中 するかどうかの確認）および 釈諦性氏らの名刺のコピーと1997年に訪中 した時のことを森氏が手書きでメモしたもの	Buddhism01
1074	1999	1999年11月1日JTSジャパンツアーシステム広島が作った日程表（訪日団 の日本滞在予定 上海-広島-国前寺-市内観光-宮島-京都-市内観 光-広島-上海）および 日中文化交流協会佐藤祥子氏より森一久氏あて 案内役候補者 包麗Ping女史（西安から同志社大学に留学 中）	Buddhism01
1075	1999	1999年7月19日 国前寺疋田英親執事長より草堂寺釈宏林方丈あて 訪 日招請状（釈宏林方丈 釈諦性監院 釈理証知客の3名の訪日団 費用は 日本側負担）	Buddhism01
1076	1999	平成11年3月15日 出張依頼回議書（森一久および木藤啓子 3月26日よ り30日の5日間 中国西安 費用は先方負担） 日程表 メンバー（疋田英親 森一久 木藤啓子 田岡繁秋 梅田邦雄 並川孝治）	Buddhism01
1077	1999	平成11年4月13日 国前寺「草堂寺」訪問団報告書（木藤啓子氏の書いた ものか？）平成11年3月26日から30日までの訪中団の報告 草堂寺訪問 と友好交流覚書調印 西安旅行（草堂寺 香積寺 興教寺 永泰公主墓 乾陵 博物館 乾陵 法門寺 法門寺博物館 楊貴妃墓 華清池 秦の始皇帝兵馬俑 博物館 大雁塔 碑林博物館）	Buddhism01
1078	1999	1999年5月11日 鳩摩羅什師と国前寺・草堂寺 森一久 国前寺の縁起概 要 草堂寺（「西安の名所旧跡」1992年版より）草堂寺訪問時の写真など	Buddhism01
1079	1999	平成11年12月20日 日蓮宗新聞 国前寺で西安の草堂寺の僧を招いて法 要が行われたことを報じる内容 春には檀徒の森一久氏が仲介役になり草 堂寺で法要が行われたとの記事も	Buddhism01
1080	1999	1999年1月17日 森一久 前立腺ガンとの出会い-生きるとは罪深いこと - 前立腺ガンの診断と放射線治療などの経過を記したもの 治療の結果 1996年から1997年にかけてPSAの値が 154であったのが02に下がっ た いま1年半後の値は0.1以下である	Miscellaneous
1081	1999	平成11年3月26日新聞コラム欄切り抜き 昭和20年8月10日日本政府が スイス政府を通じて米政府に非人道的な兵器（原爆）の使用を非難し使用 の放棄を求める要求書を出していたことの紹介	Manuscript04
1082	1999	平成11年1月 AIJ Scopeの原稿 二十一世紀はどんな世紀か——序論—— —エネルギー・原子力問題の背景を占う—— 資源・環境・供給安定という リレンマにとどまらずマルチレンマの時代にあつて「文明」とか「哲学」という キーワードが重要になる	Manuscript04

1083	1999	Atoms in Japan (AIJ) Vol.43 No.1 January 1999 Scope What will the 21th century be like - Prologue Editor in Chief [1082] を英訳した内容	Manuscript04
1084	1999	平成11年5月 原子力安全問題と社会システム(メモ) スリーマイル原子炉事故 チェルノブイリ原子炉事故「もんじゅ」Na漏洩事故 東海村再処理工場事故 使用済み燃料輸送容器改ざん事件などについて取り上げる予定	Manuscript04
1085	1999	平成11年7月 日本の原子力の原点についての講演と自由討論の会ご案内 原子力安全研究協会 スピーチ予定者 森一久 長瀧重信 池田高良 藤家洋一	Manuscript04
1086	1999	平成11年4月 平成11年度給与改定について	Manuscript04
1087	1999	原子力損害賠償法の問題点に関する報告書	Box019
1088	1999	原子力安全問題と社会システム(メモ) 森一久	Reports04
1089	1999	参考附文 草堂寺より国前寺の疋田英親先生あて 1999年3月26日から30日まで疋田英親氏を団長とする約10名の訪問団の受入を歓迎したい(中国文)	Buddhism01
1090	1999	(日本語原稿 タイプうちしたもの) 昨年7月末に1999年3月26日から30日まで国前寺から草堂寺への訪問は疋田英親執事を団長として私を含めて10名程度とするとしたところ ついては招請状という形のものを送ってほしい 費用等はこちらで持つ 招請状の内容は別紙	Buddhism01
1091	1999	旅行案内書?の草堂寺の項 草堂寺簡介 1999年3月27日の覚書の写真	Buddhism01
1092	1999	平成12年12月20日(平成11年の間違いか?) 日蓮宗新聞社編集部楠山泰延氏より原産会議森一久副会長あて 記事掲載号を送付するとの内容([1079]の新聞のことと思われる)	Buddhism01
1093	1999	訪中団が草堂寺を訪ねた時(1999年3月27日)の写真 草堂寺からの訪日団が国前寺を訪ねた時(平成11年11月6日)の写真など	Buddhism01
1094	1999	The Strategy for Long-term Japan-Vietnam Relation in the field of Nuclear Energy 原子力発電その他について日本とベトナムの協力案件をメモしたもの(手書き)	Box026
1095	1999*	(なみゆり)のお題目の曼荼羅 南無妙法蓮華経 日像師より国前寺に授けられたもの3幅の写真	Buddhism01
1096	1999*	「草堂寺案内 鳩摩羅什法師略伝 圭峰定慧禪師略伝」の日本語訳文の草稿	Buddhism01
1097	1999*	森一久氏より木藤啓子氏あて 国前寺の縁起 および 明珍家の風鈴についての森氏手書きの説明文	Buddhism01
1098	1999*	「草堂寺」目次と「日本の日蓮宗と草堂寺の縁」の部分の日本語訳 [1069]/font>の訳文および[1041]の訳文と同じ内容	Buddhism01
1099	1999*	(9月14日関根さんより)鳩摩羅什と玄奘三蔵の解説のコピー	Buddhism01
1100	1999*	原産森一久より日本アジア交流協会北村理事長あて 中国草堂寺の釈宏林 釈諦性らの名刺などのコピー	Buddhism01
1101	1999*	草堂寺の紹介写真と文および訪問団の交流の様子を示す写真など	Buddhism01
1102	1999*	草堂寺から森一久氏への手紙封筒 草堂寺の建物図面(平面図と立面図)らしいもの	Buddhism01
1103	1999*	国前寺的由来(概略) パンフレット	Reports06
1104	1999*	East-West Bridges基金のMikgail Nosov氏より原産森一久氏宛FAX お尋ねの件はShupakov氏が回答を準備していて数日中にお送りできる 彼は東京に出発する準備をしている	Letters01
1105	2000	科学「石原純をたずねて 第19回 西尾成子」Vol.78 No.11 Nov. 2008 岩波書店	Box007
1106	2000	科学「石原純をたずねて 第20回 西尾成子」岩波書店	Box007
1107	2000	事故処理作業管理の諸問題に関する日本、ウクライナおよびロシアの専門家会議(2000年11月29日~12月1日、東京) ロシア科学センター「クルチヤツフ研究所」ユーリー V. シピンツェフ博士(チェルノブイリ原発事故の放射線問題)	Box020
1108	2000	Experts' Meeting November 29- December 1 2000	Box020
1109	2000	Paper on reguration of the post-accident intervation Vadimir Demin 20 Dec. 2000 (2000年12月の専門家会議の時に約束した論文を森氏に送付するとの内容)	Box020

1110	2000	表彰状 American Nuclear Society Northeastern Sectionから服部禎男 Box021 氏に対して2000年9月26日のWellesley Massachusetts州での発表 Implementing Nuclear Technology in the 21st Century to Save MankindのCertificate of Appreciation	
1111	2000	放射線を正しく怖がろう—少しなら安全である証拠— 近大原子力研究所 Box021 特別研究員・阪大名誉教授 近藤宗平 2000年4月 創造的市民	
1112	2000	月刊誌「水産界」への原稿依頼文(平成12年5月 社団法人日本水産会 Manuscripts03 より) 森一久氏の原稿 2000年8月「平成の乱」序章—日本はどこへ行くの か 山折哲雄のバブル崩壊は応仁の乱に匹敵論 応仁の乱後500年間「巨 大な仲良しクラブ」が続いた 蓮如が日本の心を支えた 日本人は「無常」を 悟った しかるに今は世の「無常」なることを失っている	
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録 平成12年2月 会の Manuscripts03 開催は平成11年12月15日 経団連会館「富士の間」講師原産会議副会 長森一久「JCO臨界事故とその影響」核燃料サイクル機構(旧動燃)の注 文 燃料加工の内容 高速炉「常陽」のための濃縮度20%近い燃料を作らせ ていた 粉末を液に溶かして37%の高濃度の溶液にするという要請であった 作業と連絡 臨界の認識 事故に対する対応 被ばく量の推定	
1114	2000	電気事業審議会基本政策部会 BNFL社製MOX燃料データ問題検討委員 Manuscripts03 会報告 平成12年6月22日 委員名簿(委員長)近藤駿介	
1115	2000	森一久 一般旅券発給申請書(10年用) 平成12年?	Personal_Record
1116	2000	森一久 住民票 神奈川県藤沢市 平成12年	Personal_Record
1117	2000	2000年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1118	2000	2000.9 N-20 (OHP原稿) Cause & Impact of Major Incident in Japan (Lessons) [1665]にある「主な原子力事故(ないし事象)の原因 及び拡大の要因」の表の英訳版	Reports05
1119	2000	水産界 2000.8 巻頭随想「平成の乱」の行方 温水養魚開発協会常務 森 一久(無常について述べている)	Reports05
1120	2000	Foreign Affairs January February 2000 P.30-33(33ページまでで終 わってはいない) The Need for Nuclear Power Richard Rhodes and Dennis Beller	Reports05
1121	2000	[1120]の翻訳文(原文の32ページ以降 抄訳になっている) 石炭火力の問 題点 再生可能エネルギーの問題点 高レベル廃棄物の量は石炭からの有 毒廃棄物より少ない	Reports05
1122	2000	Radiation Standards Scientific Basis Inconclusive and EPA and NRC Reports05 Disagreement Continues June 2000 (安全基準の考え方についての議 論 米国のSenatorのPete DomeniciあてのGeneral Accounting Office からの報告書)	
1123	2000	核兵器廃絶と平和利用——2000年5月以後の世界—— AIJ— Reports05 Scope 2000年8月号の原稿	
1124	2000	「ねこさん」と多くの「惑星」 森一久(「ねこ」さんこと兼子忠義氏の思い出 「追想 兼子忠義1928-97」	Reports05
1125	2000	エネルギー総合推進委員会第356回常任委員会記録 平成12年2月10日 Reports05 平成11年12月15日の会議の記録 経団連界会館富士の間で 原産会議 副会長 森一久氏の講演「JCO臨界事故とその影響」の内容と質疑応答お よび資料	
1126	2000	中国新聞2000年2月17日 18日 19日 連載 被曝と人間 第2部「臨界事 故の土壌」 森一久氏へのインタビュー記事	Reports05
1127	2000	茨城新聞 2000年2月8日から19日までに10回連載 原子力村 第3部 「生い立ち」(原研の敷地が東海村に決まる経緯など)	Reports05
1128	2000	電気新聞平成12年2月14日 観測点欄 [1120]のローズとベラ-のフォーリ ンアフェアーズ(2000年1・2月合併号)に掲載された論文の紹介記事	Reports05
1129	2000	00-10-24森一久氏あて(当院レントゲン室扉のX線透過性ご報告)(手書 きメモ) 24日午後アロカ下瀬博之氏が来て測定してくれた 回転扉の内側 では0.8マイクロシーベルトだが室外はゼロであった	Manuscript04
1130	2000	原通 宇田川氏より森副会長あて 6/5 の封筒(「原通」購読先のリスト)	Box023
1131	2000	2000年、2001年、2002年の3年間の同じ日と同じページに記入できる 日記帳	Diarys

1132	2000	平成12年刊 廣高とヒロシマー被爆50年の回想 廣島高等学校同窓有志の 会 ヒロシマと阪神大震災一五十年後のわたしー森一久(昭19理甲) 広島 での自身の被爆経験と阪神大震災時に高槻にいて西宮の兄 夫妻の被災救助にいった話	Miscellaneous
1133	2000*	11月23日 森氏と中学同級の平田嘉三氏よりの手紙 森氏のことが掲 載されている新聞を見て手紙をよこしたもの(平田氏は教育学者 広島 大学教授などをつとめた 平成20年12月23日83才で死去)	Manuscript04
1134	2001	日本原燃の略史(1955年から1993年まで)(2001年にFAXで送られてき たもの)	Box015
1135	2001	人口と開発 人類と地球の平和的共存を旨として No.74 平成13年1月1日 発行 財団法人 アジア人口・開発協会(APDA)	Box021
1136	2001	原子力エネルギー及びその応用についての質疑応答集 ベトナム原子力委 員会作成 2001年12月	Box026
1137	2001	2001年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1138	2001	人口と開発 夏July 2001 No.6 財団法人アジア人口開発協会 森一久 巻 頭言「調整」からの脱却ー「革命」は不可避免かー	Reports05
1139	2001	二十一世紀の挑戦ー日本そして原子力界が直面するものー 最も重要 なのは権威主義からの脱皮 日本語の文章およびその英訳文 AIJ (Atoms in Japan) Scope The Challenge of the 21st Century -What Japan and the Nuclear Power Industry Face- Editor in Chief (森一久)	Reports05
1140	2001	エネルギーいんふおめいしょん 2001年11月号 焦点欄 対テロ「戦争」の行 方ー 世界はエネルギーはどうなる 森一久 11月6日記	Reports05
1141	2001	菅野礼司氏 物理教育における基礎基本について(物理教育49巻3号?)	Reports06
1142	2001	2001年12月25日手紙 BNFL(英国核燃料会社)Japan K.K. David Powel社長より原産森一久副会長宛 滞日中の歓迎に対するお礼とBNFL の事業展開が順調にしていることの状況報告	Letters01
1143	2001	2001年12月20日 中国原子力学会会長Wang Naiyanより原産森一久氏 宛 2002年10月21日から25日まで中国で開催される第13回Pacific Basin Nuclear Conference(PBNC2002)への招待状	Letters01
1144	2001	茨城原子力協議会の変遷(1956年から1996年までの年表)(2001年に FAXで送られてきたもの)	Box015
1145	2001*	AIJ--Scope 真の原因又も蓋され組織資金の肥大で幕か 安全性でなく信 用されていないことが問題との指摘	Reports05
1146	2002	講演記録 人間の条件 アルバック技術顧問 内田岱二郎(平成14年7月12 日と平成14年10月16日の講演 平成19年3月14日に森一久宛に送られ た別刷)	Box019
1147	2002	第8回原子炉実験・専門研修会参加者感想文集 平成14年1月31日~平 成14年2月1日 近畿大学原子力研究所(2002.3.25に近大柴田俊一より 平岩外四郎あてに送られたもの)	Box019
1148	2002	朝日新聞の記事 平成14年7月17日 原発廃棄物の最終処分場建設 日本、やっと選定着手 年内にも初の公募開始	Box021
1149	2002	2002年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1150	2002	ENERGY 2002-1 エネルギー正論 原子力開発と人材問題の根底にあるも の 原産副会長 森一久「原子力バブルは去った」「量の時代は去った」とい うことを認識すべき 着実な原子核科学の発展を	Reports05
1151	2002	菅野礼司氏 物理教育50巻第3号 2002年 創造性と教育環境について	Reports06
1152	2002	Energy Review 2002-10 書評欄 日本原子力学会事務局次長 垂石 嘉昭「原産半世紀のカレンダー」森一久編著	Reports06
1153	2002	社団法人 日本工業倶楽部 会報第200号 平成14年4月号 鳩摩羅什の髷 森一久 広島国前寺と西安草堂寺との関係を書いたもの 二つの寺にある鳩 摩羅什の像のことなど	Reports06
1154	2002	2002年1月21日FAX VAEC(ベトナム原子力委員会) 委員長Vuong Huu Tanより原産森一久氏宛 ベトナムと日本との原子力に関する協力に ついて森氏へのお礼と森氏からの提案について委員会や政府筋で進行中 の状況について知らせる内容	Letters01
1155	2002	2002年1月28日FAX MOSTE(ベトナム科学技術環境省)副大臣Hoang Van Huayより原産森一久氏宛 昨年の原産からの招待に感謝するとともに 通産省と原子力企業への訪問が出来なかったのが残念	Letters01

		だったので、今度はなるべく早く通産省と原子力企業の代表者にベトナムに来てほしいと考えているとの内容	
1156	2002	2002年2月1日FAX VAEC(ベトナム原子力委員会)委員長Vuong Huu Tanより原産森一久氏宛 3月に1週間日本の原子力の専門家を招待したいので原産会議でアレンジしてほしいとの内容	Letters01
1157	2002	2002年2月5日付け 原産森一久氏よりクルチャトフ研究所 所長 Evgeniy P. Velikhovへの手紙の控え 2月20日にボリソフ氏が持参予定 濃縮ウランおよび環境中のプルトニウムの検出に関して日露間で研究交流を図るのはどうかとの問い合わせをする内容	Letters01
1158	2002	2002年1月31日 フランス サクレーのGilles Bordierより森一久氏宛 レーザ一濃縮法AVLIS(Atomic Vapor Laser Isotope Separation)に 関しての共通の興味について述べ、ワークショップを開いてはどうかと考えていることが述べられている	Letters01
1159	2002	平成14年1月9日 日本工業倶楽部常任理事新野耕一郎より原産森一久氏宛 倶楽部会報への寄稿依頼状	Letters01
1160	2002	2002年1月24日 ISNL(International School of Nuclear Law)のSchool Newsletter(No.2) OECDが開催するISNLの紹介するサーキュラー	Letters01
1161	2002	2002年2月8日手紙 台湾行政院原子能委員会 委員長 欧陽敏盛(Ouyang Min-Shen)より原産森一久氏宛 委員長就任へのお祝い状 に対する返礼	Letters01
1162	2002	2002年1月31日手紙 台湾行政院原子能委員会 委員長 胡錦標(Hu Ching-Piao)より自身の委員長退任と次期委員長に欧陽敏盛(Ouyang Min-Shen)氏が就任することになったことを知らせる内容	Letters01
1163	2002	平成14年1月 前在ウィーン国際機関代表部の阿部信泰氏の在サウディ・アラビア大使就任の挨拶状(2月14日三石氏持参)	Letters01
1164	2002	2002年4月2日FAX ブルックヘブンの高橋博氏より原産森一久氏宛 滞日中に原産に行けなかった詫びと大深度に原子炉を置くアイデアの説明 米国原子力学会で発表するつもり論文を同封するとの内容	Letters01
1165	2002	2002年2月28日手紙 韓国原子力産業会議 副会長 崔記正より原産森一久氏宛 自身の副会長退任の挨拶状	Letters01
1166	2002	平成14年3月27日FAX 日本原子力発電清水氏より木藤氏宛(森副会長に渡してほしい) 宿毛地点の状況について 高知県宿毛市の地理的政治経済的情報を知らせる内容	Letters01
1167	2002	2002年4月4日 原産森一久氏よりフランスCEAの所長Jacques Bouchard への手紙 35回原産年会でプルトニウムレサイクルに関する講演を引き受けてもらったことへのお礼とこれとは別に核燃料サイクル についての講演と意見交換会の依頼提案	Letters01
1168	2002	2002年3月 ジャカルタの原産のオフィスの所長 田村直幸の退任の挨拶状 6年半のインドネシア在任中のお礼と後任が向山武彦であることを述べる内容	Letters01
1169	2002	2002年4月15日手紙 BNFL(英国核燃料会社)日本 社長 David Powellより森一久氏宛 SMP(セラフィールドMOXプラント)の状況やBNFLの取り組み状況などの説明と原産の年会等で日本のプレス等への理解を進める意向を伝える内容	Letters01
1170	2002	2002年3月29日 素粒子学会 会長中村誠太郎 運営委員長小沼通二より原産会議への礼状 原産の寄付(10万円)に対するお礼	Letters01
1171	2002	2002年4月29日 韓国原子力産業会議 Bang Kuk-Jin氏より原産森一久氏宛(コピー) 原産会議の年次大会に出席した韓国代表団に対する歓迎のお礼と来年の韓国原産年次大会で日本代表団との懇談の場を持ちたいとの内容	Letters01
1172	2002	平成14年5月7日 日本原子力文化振興財団 赤間行三氏より原産森一久氏への報告書 故村田理事長の3周忌法要向けに森一久および赤間行三連名で電報を送ったことの報告 並びに原研東海研前のインフォメーションプラザ東海が昨年新設され その一部に「村田文庫」が出来ることになり9日にオープンするという報告	Letters01
1173	2002	2002年4月30日 Cameco(カナダ)社長 Gerald W. Grandeyより原産森一久氏宛 WNA(World Nuclear Association世界原子力協会)議長の立場で大宮コンファレンスのテーマに関して原子力利用により便益が受け入れられるように共に努力することの重要性をもっと強調する点が不十分だと述べている	Letters01

1174	2002	2002年4月11日 INMM (Institute of Nuclear Materials Management) Letters01 事務局Vincent J. DeVitoよりINMMメンバーへ INMMの役員選挙の投票 を5月20日までに行ってほしいとの要請と6月にフロ リダで行われる43回年会の準備状況報告	
1175	2002	2002年5月2日 原産森一久氏より韓国RAWTEC社長Choi Chang-Tong Letters01 宛 Choi氏の助言で35回原産年会に韓国の水力・原子力電力会 社のChoe Tang-Uoo氏を招待して良かったことのお礼とKim Chong- Hwae氏とより緊密な関係を維持したいとの内容	
1176	2002	平成14年4月30日 村田肇氏より森一久氏宛親展 父村田浩の3周忌に際し Letters01 での電報に対するお礼	
1177	2002	2002年3月20日 PNC (Pacific Nuclear Council)のPresident Wang Letters01 Naiyan教授より原産森一久氏宛 PNCの役員人事に関する森氏の提案に感 謝し専任事務局長人事のための委員会を指名したとの報告	
1178	2002	2002年5月19日 ベトナムTran Huu Phat氏より森一久氏宛 ベトナム Letters01 原子力委員会の議論の状況を知らせる内容 長期的にベトナムでも原子力発 電が必要なのでその検討が重要 政府が検討委員会を作った 日本の原発を 視察することが不可欠 日本原産のハノイオフィスの存在が有 意義で岩越氏がその代表として最適	
1179	2002	2002年5月14日 韓国RAWTEC社長Choi Chang-Tongより原産森一 Letters01 久氏宛 5月2日付けの森氏からChoi氏宛の手紙([1175])に対する返 書	
1180	2002	2002年5月10日 台湾行政院原子能委員会 副主任委員 陳国誠氏より原 Letters01 産森一久氏宛(日本語) 第35回原産年次大会に出席した折りの配 慮に対する礼状	
1181	2002	Council on Foreign Relations (New York) からの領収書 原産の寄 Letters01 付(2002年5月1日付け1万ドルの寄付)に対するもの	
1182	2002	2002年5月23日 Council on Foreign Relations (New York) Vice Letters01 President Janice L. Murrayより原産森一久氏宛 エネルギーセキュリテイグ ループのJudith Kipperの仕事への支援金1万ドルの寄付に対する礼状 ([1181]の領収書に対応するもの?)	
1183	2002	2002年4月29日 ロシア科学アカデミーNuclear Safety Institute所長 Letters01 のBolshov(ロシア科学アカデミー会員)から原産の年次大会での歓迎 に感謝するとともにモスクワで会いたいという内容	
1184	2002	平成14年6月3日 政策企画本部 横山宣彦氏より森副会長宛 ロシアク Letters01 ルチャトフおよびアレクサンドロフ生誕100周年記念行事 2003年にク ルチャトフおよびアレクサンドロフ生誕記念行事が行われ原産にも出席 依頼が来ると思われるので情報を知らせるとの内容	
1185	2002	2002年5月23日 コジエマ会長・アレバ会長アンヌ・ローヴェルジョンより原 Letters01 産森一久氏宛 6月1日にコジエマジャパンの社長がロベール・カピティニから ギィ・ブスケに交代するとのお知らせ文(英文および日本語訳文)	
1186	2002	2002年6月2日 Council on Foreign Relations (New York) Vice Letters01 President Janice L. Murrayより原産森一久氏宛 エネルギーセキュリテイグ ループのJudith Kipperの仕事への支援金38819.88ドルに対する礼状と領 収書(入金は5月20日) ([1181]の追加分?)	
1187	2002	2002年7月8日 コジエマジャパンのRobert Capitini氏より森氏宛 原産会 Letters01 議会長の向坊氏の逝去を悼む手紙	
1188	2002	2002年8月9日 KEWESPO (Korea East-West Power Co) のLee Yong Letters01 Oh社長より森氏宛 7月23日付けでKEWESPOの社長に就任し たという挨拶状	
1189	2002	2002年8月20日 原産森一久氏よりKEWESPO社長Lee Yong Oh氏 Letters01 宛 8月9日の手紙([1188])に対する返事 社長就任祝い	
1190	2002	2002年10月14日 韓国原産会議会長 Bang Kuk-Jinより日本原産森 Letters01 一久氏宛 24回日韓原産セミナーに対する感謝 特に高崎のRIセンター 見学などRIに関する多くの知見を得たことに対する感謝が述べられてい る	
1191	2002	2002年11月7日 原産森一久氏よりフランスCEAのJacques Bouchar Letters01 核エネルギーセクション長への手紙 N-20の会議に出席した日本人に 対する厚意に感謝したうえで 植松氏との間で来年早い時期にプルトニ ウムの取扱に関する会合を持つ話が出たことについて時期と場所を問い合 わせている なおBordier氏が森岡氏にコンタクトした件については取 扱に注意してほしいと述べている	

1192	2002	2002年11月5日 BNFL社長?から原産森一久氏宛 先週の会合が有意義であったことのお礼と今後の協力関係 特に日本のプルサーマル政策に関しての前進に期待する内容	Letters01
1193	2002	2002年12月27日 ベトナム原子力委員会 (VAEC) 副委員長Le Van Hongより原産森一久氏宛 VAEC委員長と森氏の会談に基づき2003年にハノイとホーチミン市核エネルギー博覧会を開く計画を政府に提案していること その準備のためにベトナム側の担当者としてLe Chi Dung博士をあてることを知らせる内容	Letters01
1194	2002	2002年12月2日FAXの控 原産森一久氏よりクルチャトフ研究所所長 Evgeniy P. Velikhov宛 外務省の篠原守氏が12月4日から6日までモスクワに滞在する間にVelikhov氏と面談したいが都合つかないかという問い合わせ	Letters01
1195	2002	平成14年11月6日 在日英国大使館のBob Raynerエネルギー担当参事官より離任の挨拶状 10月16日付けで香港英国領事館に転任したことの挨拶状	Letters01
1196	2002	2002年12月2日FAX クルチャトフ研究所Vyacheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛 Velikhovにかわって森氏からの問い合わせ ([1194])に返事する Velikhovは篠原氏と12月5日の8時に会うことができる内容	Letters01
1197	2002	2002年10月3日 原産森一久氏よりクルチャトフ研究所Evgenii P. Velikhov氏宛 日露共同報告書の作成に関する9月26日付けのVelikhovの手紙および原産の植松氏がモスクワで9月10日に交わした覚え書きの確認 Kuznetsov氏がVelikhov氏に先立って来日して報告書の準備をするという提案は非常に結構で10月20日までにドラフトを送ってもらえば好都合 核軍縮と核エネルギーの平和利用との融合という哲学を共有したい	Letters01
1198	2002	平成14年11月22日 BNFLジャパン・ウェスチングハウスジャパン社長 David J. Powellより原産森一久氏宛 社長交代の挨拶	Letters01
1199	2002	2002年12月4日FAXの控 原産森一久氏よりクルチャトフ研究所 Kuznetsov氏への返事 12月2日のFAX[1196]篠原氏とVelikhov氏の面談の手配に対するお礼	Letters01
1200	2002	平成14年5月23日 福井新聞2面 論説 廃炉と増設 原発を処分するも難事業 日本原電の敦賀1号機の廃炉に関して 先に「ふげん」の廃炉が決まったがMOX燃料使用の実績をどうするのか 敦賀3及び4号機増設のための数あわせで2つの炉を廃炉にすることで「ふげん」の研究成果まで廃するのか	Letters01
1201	2002	平成14年6月27日 サイクル機構 副理事長竹内栄治氏より原産森一久氏宛 プルトニウムの使用実績について4月末の敦賀国際フォーラムの報告書を送付すると内容 MOX燃料の使用実績の図表とともに	Letters01
1202	2002	原産半世紀のカレンダー 平和利用の理想像を求めて 1956-2001 活動・組織の騒乱と31の秘話 編者 森一久 日本原子力産業会議	Miscellaneous
1203	2002	ビデオテープVHS中村江里子のフランス・エネルギー探訪、チェルノブイリ被災者医学写真、2002年5月6日TBSニュース23 など	Box028
1204	2002	Deep Underground Reactor (Passive Heat Removal from a LWR with a Hard Neutron Energy Spectrum) Hiroshi Takahashi (高橋博さんの大深度地下に原発を設置する提案論文)	Box010
1205	2002	佐久間富美枝(故佐久間稔氏の夫人)より森一久氏への私信(佐久間稔の「遺言」小田実 西日本版建築ジャーナル 2002-11No.1033 p9と小田実の2003年年賀状が小田実から送られてきたので森氏に見ていただきたい旨の手紙)(小田実の文章と年賀状同封)	Box024
1206	2002	ロシア大統領 V.V. プーチン殿 ロシア研究センター「クルチャトフ研究所」総裁 アカデミー会員 エフゲニー P. ベリホフ(原産会議と共同で提案するレポート「核軍縮と環境保全への貢献-解体核Puの燃焼と原潜解体等の日口協力を中心に-」を添付) 2002年11月	Box025
1207	2002	BNLの高橋博さんより森さんへのFAX 2002. 4. 2 (日本訪問と大深度地下炉のこと、論文Embedding Materials and Economy for Deep Underground Reactor)	Box010
1208	2002	ブルックヘブンの高橋博氏の論文 大深度地下に原子炉を置けば安全であるというもの	Letters01
1209	2003	超低周波磁界と小児白血病及び脳腫瘍に関する我が国の疫学調査(1999-2002) 国立環境研究所 兜真徳 2003年5月文部科学省新(振?)興調整費報告書	Box018

1210	2003	学祭 No.10 November 2003 (エッセイ欄に森一久の「中毒社会論」序説が掲載されている)	Box018
1211	2003	創造 創立30周年記念誌 社団法人未踏科学技術協会 平成15年7月23日 理事長木村茂行より原産森一久への挨拶文(平成15年7月30日)	Box018
1212	2003	ECOレポート No.42 2003年12月 財団法人統計研究会 内外経済情勢懇談会・編 (森一久「原子力の意味を考える-その歴史・現状・問題点-講演記録」)	Box018
1213	2003	化学物質と放射線のリスクについての考え方の対比 日本アイソトープ協会 甲賀研究所長 栗原紀夫 環境と健康 Vol.16 No.3, 2003	Box019
1214	2003	巻頭言 未踏科学技術の警鐘 内田岱二郎(東大・大名名誉教授) 未踏科学技術 通巻386号 平成15年10月15日	Box019
1215	2003	科学的思考の背後にあるもの 高野義郎(横浜国大名誉教授原案提供)「総合工学」2003 p.13-17	Box021
1216	2003	ロシア北方艦隊退役原潜解体事業調査報告書 平成15年6月 日本原子力産業会議	Box025
1217	2003	2002バリーベトナムと手書きした封筒(2003年10月21日~23日ベトナムのハノイで開催のEighth Eurasia Conference on Chemical Sciences (EuAsC2S-8)のfirst circular 森一久氏の成田-ハノイ往復航空券など)	Box026
1218	2003	2003年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1219	2003	2003年、2004年、2005年の3年間の同じ日が同じページに記入できる日記帳	Diarys
1220	2003	KEIZAI 2003-9 特集エネルギーと環境問題「今日のエネルギーと地球環境問題」中島篤之助	Reports06
1221	2003	ECOレポート No.42 2003年12月 財団法人 統計研究会 内外経済情勢懇談会編 第63回(2003年7月24日) 講演 原子力の意味を考える-その歴史現状問題点 森一久	Reports06
1222	2003	2003年2月19日FAX KAERI(韓国原子力研究所) Lee Chang-Kun より原産森一久氏宛 核エネルギー(高温ガス炉)による水素製造に関する著書を韓国語に翻訳することを許諾してもらったことに対する礼状	Letters01
1223	2003	2003年2月13日FAX 在日米国大使館Giulia R. Biscontiの挨拶状(大使館玉田氏より原産上松氏に発信) 3年半の任務を終えて帰国するとの挨拶状	Letters01
1224	2003	2003年3月10日 森一久氏よりTran Huu Phat教授への手紙の控え 昨年12月にハノイで議論したベトナムの原子力に関するビジョンについて予備的検討作業を評価する委員会に日本の専門家が参加するというPhatさんの提案は特定国の政策決定に関与する面でリスクがあるので独立した小さいグループで協力できないかと考えている この件で岩越氏が必要ならハノイに行かせるがどう思うか	Letters01
1225	2003	2003年3月14日 原産森一久氏より クルチャフ研究所所長Vyacheslav Kuznetsov宛 核兵器用のプルトニウムの処分について 最初の34トンのプルトニウムのいくらかはロシアのBN-600原子炉で処分するのが良いと思われるが 次のステージではより大きなBN-800原子炉を建設して処分するのが良いと考える 次のステージへの技術的な面と経済的な面でいくつかの問題点があるかも知れないが解決策はあるだろう	Letters01
1226	2003	2003年4月2日 原禮之助氏より原産森一久氏宛 IAEA RCAプロジェクトの元になった研究用原子炉の利用に関するワークショップの資料を送付するとの内容	Letters01
1227	2003	2003年4月3日FAX 韓国科学文化研究院 理事 金宗会氏より原産森一久氏宛 原産会議の住所移転をしなかったこと e-mailアドレスの問い合わせ	Letters01
1228	2003	2003年4月4日FAX控 原産森一久(秘書木藤啓子発信)より韓国科学文化研究院理事金宗會氏への返信 4月3日付けFAXに対する返信 e-mailアドレスなど	Letters01
1229	2003	2003年4月8日 森一久氏?が書いた手紙(日本が他国と原子力に関して協力する時の条件について説明したもの)にロシア側がペン書きでコメントを記入したもの?	Letters01

1230	2003	2003年1月29日 在日フランス大使館Jean-Jacques LAVIGNE氏より大使館の原子力参事官の任務が終わり東京のフラマトム・エイエムピー株式会社社長となることの挨拶状	Letters01
1231	2003	2003年3月27日 駐日韓国大使館 崔光鶴氏より原産森一久氏宛 韓国広報資料(歴史)を送付することおよび日本原電の「温排水の活用現況」の資料入手方法の問い合わせ	Letters01
1232	2003	2003年4月8日 インドネシア原子力庁チェアマンSoedvartomo Soentono 博士より原産森一久氏宛 在日中の好意に対する礼状	Letters01
1233	2003	2003年1月20日 原産森一久氏よりIAEA使用済み燃料安全セクション Bragg氏宛 2月にウィーンで開催される会合に田中教授が出席することについて1月15日付けの手紙をもらったことに対する感謝	Letters01
1234	2003	平成15年2月3日 BNFL社長 Norman Askew氏より原産森一久氏宛 社長退任の挨拶 そのことを発表するBNFLの広報記事(いずれも英文及び日本語訳文)	Letters01
1235	2003	2003年1月20日 原産森一久氏よりクルチャトフ研究所所長Evgeniy P. Velikhov宛 原子力潜水艦40台の廃棄について ウラジオストックで作業するのであればベテロパブロフスクにある19台か20台の原潜はどうやってウラジオストックに移動するのか 昨年9月の国際会議Ecoflot-2002で発表された論文(添付したプログラムに丸印をつけた論文)を得られれば幸い	Letters01
1236	2003	2003年4月11日 Nuclear Energy Institute (NEI)のJoe F. Colvin氏より原産西澤潤一教授宛 原産会議とNEIの連携事業に関して菊山かおるさんが果たしている役割が非常に大きいことを褒め讃えている内容	Letters01
1237	2003	2003年5月1日 原産森一久氏よりNEI会長Joe F. Colvin宛 菊山かおる博士に関するColvin氏の手紙([1236])へのお礼 4月に開催された原産年次大会でNEIのMichael Comiskey氏の協力があったことに対するお礼 菊山さんの今後の仕事など	Letters01
1238	2003	2003年5月27日 原産森一久氏よりWONUC編集長Andre Maisseu宛 IJNKM(International Journal of Nuclear Knowledge Management)の発行を祝す 4月28日付けの手紙でIJNKMの名誉委員会メンバーに西澤教授をあてたいとのことであったが西澤氏以外のメンバーはどのような人なのか見て決めたいので教えてほしい	Letters01
1239	2003	平成15年5月 序破急出版「花伝」編集人 国分治氏より原産森一久氏宛 電事連小島副会長への後援?依頼	Letters01
1240	2003	2003年6月4日 E&N研究会小藤博子氏より原産森一久氏宛(ペン書き手紙 鳩居堂便箋) 第36回原産年次大会の概要送付に対するお礼とE&N研究会の15周年の会への案内	Letters01
1241	2003	平成15年6月4日 アジア人口・開発協会(APDA)石橋武之氏より森一久氏宛 APDAの活動を紹介するパンフレットに記載する森氏の略歴等の確認依頼	Letters01
1242	2003	2003年6月12日FAX 韓国原子力研究所(KAERI) Lee Chang Kunより森一久氏宛 2月12日付けの手紙で翻訳の許可をもらった「核エネルギーによる水素製造」の韓国語訳が完成し数日前に5部コピーをお送りしたとの内容	Letters01
1243	2003	2003年6月5日付け James Griffin氏からの質問状とそれに対する森一久氏の回答 東電のデータ改ざん事件が及ぼす影響についての質問と回答	Letters01
1244	2003	2003年6月19日 原産森一久より中国国家原子能機構秘書長 馬鴻琳氏宛 4月の原産第36回年次大会への出席のお礼と日中原子力交流の回顧(日本文及び中国語訳文)	Letters01
1245	2003	2003年6月18日 原産森一久より中国の草堂寺釈諦性住職宛(木藤啓子代筆 中国語文) 釈宏林師などの草堂寺の皆様へのご機嫌伺いと近況挨拶 東電の問題で原発が停止して今年の東京は電力不足?	Letters01
1246	2003	2003年6月23日 ベトナム原子力委員会VAEC委員長Vuong Huu Tan氏より原産森一久氏宛 CPV(ベトナム共産党)の原子力に対する理解を得るためにVAECはCPVの科学教育委員会のDo Nguyen Phuong氏を団長とする使節団を日本に派遣したいと思うので原産で対応してほしい 今年の8月か9月はどうか	Letters01
1247	2003	2003年6月20日 フランスCEA核エネルギー部長のJacques Bouchard氏より原産森一久氏宛 これまで原産との連絡役であったJean-Claude Gauthier氏に代わってRobert Capitini氏が窓口となることを知らせる内容	Letters01

1248	2003	2003年6月11日 NEI(Nuclear Energy Insitute)Walter H. Hill氏より原産森一久氏宛 NEIが発行する週刊誌Nuclear Energy Overviewは6月30日付けのものから電子版での発行になることを通知する内容	Letters01
1249	2003	2003年6月11日付けNEIからの通知([1248])に添付されていた?原産森一久氏の連絡先等の情報を書き込んだ確認のためのシート	Letters01
1250	2003	2003年6月27日 OECD Nuclear Energy Agency(NEA) OECD/NEAは2003年6月17日18日に会合を開き Measuring Assessing and Communicating Regulatory Effectiveness(MACRE 2003)をまとめた	Letters01
1251	2003	平成15年7月25日 千代田テクノル社長細田敏和氏より原産森一久氏宛 7月22日に開催した「アイソトープ・放射線利用フォーラム準備委員会」で紹介した本郷美則氏の著書を送るとの内容(前立腺がんのブラキセラピーのことが書いてある)	Letters01
1252	2003	2003年8月13日 原産森一久氏よりMichel P. Lung氏宛FAX WONUC(World Council of Nuclear Workers)とはどういう組織かよく知らないので教えてほしいという内容	Letters01
1253	2003	2003年7月10日 E&N研究会会報 Voice of E.&N. エネルギーと自然環境 第13号 15周年の会(代表世話人 小藤博子)	Letters01
1254	2003	小藤博子氏より原産森一久氏宛 ペン書き手紙([1253]のE&N研究会会報第13号)?ができあがったことを知らせる内容 送付されてきた会報に添えてあったものか?	Letters01
1255	2003	2003-07-09 FAO/IAEAの食物と農業における核技術課のJames D. Dargieから原産森一久氏宛 10月7日から9日までスイスのジュネーブで開催されるInternational Consultative Group on Food Irradiation(ICGFI)の第20回への招待	Letters01
1256	2003	2003年6月24日 OECD Nuclear Energy AgencyのLuis E. Echavarri氏より原産森一久氏宛 日本滞在中の歓待に対するお礼	Letters01
1257	2003	2003年8月22日FAX Michel P. Lung氏より原産森一久氏宛 WONUCに関する8月13日付けの森氏よりの質問([1252])に対する返事	Letters01
1258	2003	2003年12月 米国のJustin & Roslyn Bloom夫妻より原産森一久氏宛 私信 2年間のご無沙汰の詫び 夫妻の病気が原因で今は共同住宅に入居しているなどの説明	Letters01
1259	2003	2003年10月27日 韓国原子力産業会議(KAIF)副会長Bang Kuk-Jin氏より日本原子力産業会議(JAIF)森一久副会長宛 10月20日から24日までソウルで開催された第25回KAIF-JAIFセミナーが成功裏に終わったことに関して協力を感謝する礼状	Letters01
1260	2003	2003年9月15日 韓国原産会議KAIのBang Kuk-Jin氏より日本原産会議森一久氏宛 8月27日のKAIFの理事会で自分が副会長に就任することになったことと後任の副会長秘書長にはSuh Joong-Seok博士が就任することの連絡	Letters01
1261	2003	2003年10月13日FAX ロシア連邦原子力省国際対外経済協力局V.P. Kuchinov長官より原産森一久氏宛 プルトニウム問題等に関する国際セミナーへのロシアのMinatomからの参加要請を受けたことに感謝し D.F. Strelkov氏を代表として派遣したいという提案	Letters01
1262	2003	2003年10月17日 原産森一久氏より北京のDaniel Chavardes氏宛 Chavardes夫妻の離婚について今後原産の会報への記事は受理しないことを決定したこととこれまでの夫妻の協力に感謝する内容	Letters01
1263	2003	2003年9月16日FAX ベトナム共産党科学教育中央委員会議長 Do Nguyen Phuong博士より原産森一久氏宛 9月7日から14日の間の日本訪問にあつてアレンジしてもらったことに対するお礼と非常に有意義であったことを述べている内容	Letters01
1264	2003	2003年9月2日FAX クルチャトフ研究所のVyavheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛 ロシア極東地域の訪問について Velikhovに代わって8月29日の森氏の手紙を喜んでることを述べ この手紙が訪問許可のために必要になるかも知れないと説明する内容	Letters01
1265	2003	2003年10月16日FAX 至急親展 北京のDaniel Chevardes氏より原産森一久氏宛 自分が森氏から受け取りたい手紙の草稿を見てほしいとの内容	Letters01

1266	2003	2003年9月11日FAX ローレンスリバモア国立研究所(LLNL) エネルギー環境担当副所長 C.K.Chou博士より原産森一久氏宛 米国は小型の可搬型原子炉の開発にとりくむが日米のチームが出来れば魅力的であろう9月18日に東京にいるので出来ればお目にかかりたい	Letters01
1267	2003	2003年12月10日 フランスCEAのAlain Bugat氏より原産森一久氏宛 原産の第37回年次大会でフランスの原子力政策について紹介できることを喜んでい その際次回のN-20会合の進め方の打合せをしたい	Letters01
1268	2003	2003年10月16日FAX 北京のDaniel Chevardes氏より原産森一久氏宛FAX([1265])に添付されていた草稿これに夫妻への感謝の言葉を添えて10月17日の原産森一久氏より北京のDaniel Chavardes氏宛の手紙([1262])となった	Letters01
1269	2003	2003年9月12日 森一久氏よりベトナムPhat氏宛手紙の草稿 2つの贈り物をしてい 一つはお香で亡くなったPhongさんの祭壇にあげてほしい もう一つはタイタックでよろしければ使ってほしい 日本とベトナムの原子力分野の協力関係のことについては岩越氏と相談してほしい 原産のハノイの事務所開設についてはもう暫く時間がほしい	Letters01
1270	2003	2003年9月12日FAX ロシアFGUP-DVZ-ZVEZDAのY.P. Shulgan氏より原産森一久氏宛 10月5日から12日日本からの植松氏ほかの代表団を受け入れる許可と準備は整っているとの内容	Letters01
1271	2003	2003年11月20日FAX ロシア連邦原子力省国際対外経済協力局G.F. Nefedov氏より原産森一久氏宛 11月26日に予定されているV.S. Bezzubtsovを団長とする6名のロシアのMinatomの代表団と原産との会談について 11月27日の昼食会で高速増殖炉FBR 解体された核兵器用プルトニウム 日露協力の法的なレベルを上げることなどについて議論したい	Letters01
1272	2003	2003年11月5日 フランスのアレヴァ社のAlain Bucaille氏より原産森一久氏宛 日本滞在中の配慮に感謝する パブリックアクセプタンスを推進するためのコミュニケーションに関する議論が有意義であったこと	Letters01
1273	2003	2003年11月21日 ロシアAlexander N. Schupakov氏より原産森一久氏宛 森氏の質問([1275]で触れている質問か?)への回答 サウジの原油売買など石油の売買に関する状況についての質問に対する回答 (あまりいい回答にはなっていない?)	Letters01
1274	2003	2003年12月10日 ベトナム原子力委員会VAEC委員長Vuong Huu Tan博士より原産森一久氏宛 4月29日から5月4日までホーチミン市で開催された原子力平和利用博覧会を組織するに当たって原産の支援に感謝 59726米ドルをハノイの岩越氏の口座経由で原産から受け取ったことの感謝	Letters01
1275	2003	2003年12月8日 原産森一久氏よりロシアのAlexander N. Schupakov氏宛 [1273]のFAX(2003年11月24日発信)に対する返事 サウジの原油の件がうまくいかなかったのは残念だが日本のバイヤーは別の可能性を検討している ただし日本の石油市場は飽和しているのでメリットがないとバイヤーは乗ってこない 原産会議は非営利団体なので紹介するだけでリスクをとることは出来ない いい返事があれば来日に関して相談にのる	Letters01
1276	2003	2003年12月 Taylor & Francis Group Europa Publications の編集者 Robert J. Elster氏より原産森一久氏宛 The International Who's Who 2005の原稿(森氏の個人情報)の点検を依頼する内容	Letters01
1277	2004	Programme N20 2004年7月5日~9日 Burgundy (Dijonなど)へのtour のプログラム	Box019
1278	2004	日仏 2004年の第11回N-20会議での森の発表関係の封筒 第10回のN-20の会合の写真(2003年10月28日~29日松山)が同封されている	Box020
1279	2004	森一久(原稿) 2004年N-20発表の草稿メモ(手書き)	Box020
1280	2004	当社とフランスとの原子燃料調達における関係 平成16年6月21日([428]の四国電力からの2004年6月17日付けFAXによる資料の追加資料) 平成16年6月22日 四国電力からのFAX	Box020
1281	2004	宗教とエネルギーの地政学から見た21世紀 最首公司 2004年12月14日 日本原産会議講演要旨	Box020
1282	2004	フランスにおける21世紀のGEN-IIからGEN-IV炉への移行シナリオの予備的分析 CEA技術レポート(2004年11月) フランス原子力庁(CEA) 日本原子力産業会議・アクチニドマネジメント戦略検討会 訳	Box020

1283	2004	A-4Sへのステップ 電力中央研究所 名誉特別顧問 服部禎男 2004.1.9	Box021
1284	2004	久野雅也氏より首都大学東京学長西澤潤一氏への手紙 平成16年6月19日 (地球温暖化対策を訴える内容)	Box021
1285	2004	日本原子力産業会議 第500回常任理事会議題 平成16年6月24日 ホテルフロラシオン青山、役員名簿、理事候補名簿、会員名簿、第53回通常総会(平成16年6月24日)特別講演「物質の科学から」伊達宗行 大名誉教授・新世代研究所理事長、向こう10年間に何をすべきか 平成16年4月 日本原子力産業会議 などの資料の入った封筒	Box021
1286	2004	原子力システムニュース ペットボトルファッション 藤家洋一 原子力システム懇話会 Vol.15. No.2. 2004. 9.	Box021
1287	2004	Proceedings of the 9th International Conference on Health Effects of Incorporated Radionuclides Emphasis on Radium Thorium, Uranium and their Daughter Products HEIR 2004 GSF Neuherberg, Germany Nov.29-Dec 1, 2004.	Box024
1288	2004	原子炉開発利用委員会・提言「向こう10年間に何をすべきか」平成16年2月 原子力産業会議	Box025
1289	2004	原禮之助氏の家族の運勢等占い 平成16年11月 原家資料	Box029
1290	2004	ノートブック スケジュール(森一久、遠藤哲也、浜崎一成の3氏それぞれの2004年8月2日より8月6日までの予定表)	Box029
1291	2004	日本エネルギー経済研究所 2004年8月15日 生田豊明さんを偲ぶ 森一久 生田さんの思い出(追悼の挨拶) 亡くなる1ヶ月前に原子力の水素生産への利用をす勧められた つきあいが始まったのは昭和48年森山欽司科学技術庁長官時代生田氏が原子力局次長に就任した時から	Manuscripts02
1292	2004	2004年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1293	2004	Atoms In Japan 2004 June のScope 欄 Atoms in the Earth - The Fuel Cycle Contrvrsy Overlooking the Larger Realities Editor in Chief (Kazuhisa Mori) 日本の原発に関する賛否の議論の状況の批判など	Reports04
1294	2004	"Atoms In Japan 2004 January のScope 欄 Toward the Whole-hearted Involvement in the Potential of Nuclear Energy - dealing with danger of just " "filch & eat" " Editor in Chief (Kazuhisa Mori) ビジネスの短期的成功を求める風潮があるが燃料サイクルの問題のような長期的な問題に取り組む若い世代が望まれる"	Reports04
1295	2004	2004年6月 森一久氏論説 Atoms in Japan Editor in Chief SCOPE Atoms on the Earth -The Fuel Cycle Controversy Overlooking the Larger Realities	Reports06
1296	2004	"2004年1月 森一久氏論説 Atoms in Japan SCOPE Toward the Whole-hearted Involvement in the Potential of Nuclear Energy Dealing with the danger of just " "filch & eat" " "	Reports06
1297	2004	朝日新聞 2004年12月20日 工藤章京大名誉教授が北極(カナダ)の氷河で「死の灰」を計測して核実験の年代ごとの汚染実態を明らかにしたとの記事	Reports06
1298	2004	2004年2月3日FAX インドネシアBAPETEN (Badan Pengawas Tenaga Nuklir) Nuclear Energy Control Boardの議長のAzhar Djalois博士より原産向山武彦会長宛 BAPETENと日本の原子力安全委員会との協力に関する覚書MOUを交わしたいので原産会議に助力してほしい 原子力安全委員会の松浦委員長の手紙に沿って原産が広瀬堅吉氏とコンタクトしてMOUにサインできるようにしてほしい (2004年1月19日付けの原子力安全委員長の松浦祥次郎氏からDjalois氏に対する安全委員会への訪問と協力関係を結ぶことを歓迎するという内容の手紙が添付されている)	Letters01
1299	2004	2004年3月3日FAX ベトナム原子力委員会VAECの副議長Le Van Hong 氏より原産森一久氏宛 3月20日に開催するDalatの研究用原子炉運転再開20周年記念に日本代表団を招待したいこと この機会に開催する3月18日19日の研究用原子炉に関する国際シンポジウムに参加して講演してほしいという内容	Letters01
1300	2004	2004年4月5日 原産森一久氏よりワシントンDCのThe Scowcroft GroupのDaniel B. Poneman氏宛 東京で開催された核不拡散と保証措置国際シンポジウムでのPoneman氏の講演が北朝鮮に焦点を当てた極東の核セキュリティとNPT体制に関しての理解に役立った	Letters01

1301	2004	2004年4月8日 NEI (Nuclear Energy Institute) のKikuyama Kaoru より原産のIshizuka Nobuo宛 (英文) International Association MeetingについてNEIのHowardからの招待状が届いていると思うが現在プログラム作成中で原産にはPAの問題について発表してもらえないかと思っている	Letters01
1302	2004	2004年4月9日 原産森一久氏よりNEI (Nuclear Energy Institute) のAng elina Howard宛 招待頂いているニューオリンズの年会はこちらの会の準備が忙しくて自分は参加できないが代わりの誰かを探すの暫く時間をほしい	Letters01
1303	2004	2004年4月12日 NEI (Nuclear Energy Institute) のAngelina S. Howardより原産森一久氏宛 International Association Discussion meetingに出席できないのは残念だが代わりの人を送ってくださるのは歓迎する 気候変動の問題など原子力関係組織が連携して環境問題に取り組むべき時なのでNEIと原産の共同行動は重要	Letters01
1304	2004	2004年4月7日 Nguyen Van Tanより水田泰次氏宛 日本語に翻訳した手紙のコピー 水田氏の意見を岩越氏の手紙で知って返事する NEDOの事業の報告書に関するベトナム政府の手続的なことのために報告書がほしい プロジェクトが完成した後の財産処理について教えてほしい OM-28合金の製造はベトナム製の品質確認が出来てないのでまずRITMで少量500kg作って大阪合金工業所で検査した後品質が良ければ大量生産するのどうか	Letters01
1305	2004	2004年4月15日FAX The Scowcroft GroupのDaniel Poneman氏より原産森一久氏宛 東京でのシンポジウムに参加した際の歓待に感謝する ([1300])の森氏の礼状に対する返事?	Letters01
1306	2004	2004年4月9日 クルチャフ研究所Vyacheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛 Nicolay Borisov氏に言われてVelikhovから森喜朗氏へ宛てた手紙のコピーを送る Velikhovの手紙が添付されている 4月9日付け日露賢人会議の共同議長森喜朗宛のクルチャフ研究所E.P. Velikhov所長の手紙 (4月14日の日露賢人会議で議題となる核兵器及び電力用プルトニウム処分のためのBN-800原子炉をベースにした速中性子電力用原子炉の建設プログラムについて述べている)	Letters01
1307	2004	2004年3月29日FAX NEI (Nuclear Energy Institute) のAngelina S. Howardより原産 森一久氏宛 NEIのニューオリンズでの大会への3月25日付け招待状 プログラムなど 森氏の返事は4月9日[1302]	Letters01
1308	2004	2004年5月3日 ドイツカールスルーエ研究所のManfred Popp教授より原産森一久氏宛 名古屋で4月26日27日に開催された日独原子力会合での歓待に感謝 特に石塚氏から渡された森氏のギフトにたいする感謝 自分が準備したCDを記念に同封する	Letters01
1309	2004	2004年5月6日 原産森一久氏よりNEI (Nuclear Energy Institute) のAngelina S. Howard宛 4月に開催した第37回原産年次大会のNEIのCharles Dugger氏に来ていただきすばらしい講演をしてもらったことの礼状 NEIの大会には自分の代わりに石塚氏が参加するのでよろしく Dugger氏に持ってきてもらったギフトに感謝 菊山かおるのことをよろしく	Letters01
1310	2004	2004年5月26日 山脇道夫東大名譽教授より森一久氏宛メール インドとの協力の進め方について 原子力分野は国策としてインドと交流できないのか? トリウムや水素化燃料などについて勉強会をやる人はいないか? という山脇氏の質問 これに対する森氏の回答の鉛筆書きメモには 政府ではなく学会ベースなら問題ない (Visaや原子力施設訪問では手こずるかも) トリウムや水素化燃料について日本ではほとんど研究されていない 原産の支援と言う段階ではなく学会で基礎研究する段階ではないかと記入している	Letters01
1311	2004	森一久氏より山脇道夫氏への返事控え ([1310]の鉛筆書きメモを清書してタイプしたもの) 政府ではなく学会ベースなら問題ない (Visaや原子力施設訪問では手こずるかも) トリウムや水素化燃料について日本ではほとんど研究されていない 原産の支援と言う段階ではなく学会で基礎研究する段階ではないか	Letters01
1312	2004	2004年6月3日FAX ベトナム原子力委員会VAEC委員長Vuong Huu Tan教授より原産森一久氏宛 4月26日から29日までハノイで開催された国際原子力技術博覧会への日本の協力に感謝する	Letters01
1313	2004	2004年8月12日 原産森一久氏よりAnn Maclachlan宛 (発信は原産木藤) 先月パリでの議論およびGSIEN (核エネルギーの情報に関わる科学者の協会) についての情報を得たことに感謝 Maclachlan氏の書いた核燃料に関するレポートもよく書けていると思う 自分は今新しいオ	Letters01

		フイスUCNを準備中 開設したらアドレス等を連絡する 関電の不注意による事故のようなことが真の科学的批判なしに限りなく起こることを心配している	
1314	2004	2004年 日仏工業技術 50巻1号 掛けがえのない原子力発電・核燃料サイクルの日仏協力 森一久 日仏では使用済み燃料処理に特徴がある 日本独自技術の不足 特に化学工業界との連携不足が問題	Miscellaneous
1315	2004	写真でたどる第五福竜丸 財団法人第五福竜丸平和協会 平成16年2月	Manuscripts05
1316	2004	UCN会へのアクセス地図	Box029
1317	2004	長田弘「アメリカの61の風景」(みずず書房)の09「フクロウとヘラルド・トリビューン」のコピー	Box023
1318	2004	12月20日 北極の氷河から「死の灰」計測 核実験の年代ごとに 工藤章京 大名誉教授の仕事 カナダの氷河のセシウム137およびプルトニウムの測定結果水爆実験がきれいなものではなかったことが証明された	Manuscript04
1319	2005	高速炉導入の道筋と新法人への期待 日本経済団体連合会資源エネルギー対策委員会委員長(日本原子力産業会議燃料サイクル委員会委員長 秋元勇巳 平成17年9月28日)	Box018
1320	2005	連載 よくわかる核融合のしくみ 第8回トリチウムを扱う燃料循環システム -気体状トリチウム燃料の取り扱い技術 九大 深田智 原研 林巧 日本原子力学会誌 Vol.17 No.9、2005年	Box018
1321	2005	電磁波/衝撃的な国立環境研究所論文と文部科学省の陳腐な評価 2005年12月03日 日経のホームページ?(2008年4月1日にファイルのコピーを送ってもらったものらしい)	Box018
1322	2005	西岡豊弘の礼状(ハガキ オールラヒストリーを送ってもらったことの礼状)	Box019
1323	2005	原爆投下、60年を迎えて(2005 8 6 記)(西岡氏のものか?)	Box019
1324	2005	BMJ再投稿原稿(050905)和訳ver.7 2005年5月12日 取扱注意 表題:低線量電離放射線被爆後のがんリスク-15カ国における後向きコホート研究(田ノ岡氏より森一久に送られてきたもの)	Box019
1325	2005	原子力損害賠償法制主要課題検討会報告書-在り得べき原子力損害賠償システムについて- 2005年5月 日本エネルギー法研究所(主査 谷川久)	Box019
1326	2005	U.S. starts designing sturdy nuclear arms International Herald Tribune Tuesday February 8, 2005	Box021
1327	2005	Laser Enrichment Separation anxiety by Jack Boureston & Charles D. Ferguson Bulletin of the Atomic Scientists March/April 2005 pp14-15	Box023
1328	2005	週間予定表(2005年9月26日10月9日までの予定表)	Box029
1329	2005	朝日新聞 平成17年8月2日 核を追う欄 平和利用不拡散どう両立 森一久 氏に聞く 日本 核の悲惨さ知っている	Reports06
1330	2005	東奥日報 平成17年5月26日の記事のコピー 5月30日に原研の元副理事 長森茂氏から森一久氏へ「ITERがカダラッシュに決まったら凱旋門で焼身自殺すると発言した」ことを述べるコメントとともにFAXしてきたもの	Reports06
1331	2005	原子力eye Vol.51 No.5 (2005年5月号) 仏教界の怒りを越えて-「もんじゅ」への期待 日本仏教徒懇話会 関根瑛應	Reports06
1332	2005	戦前日本の政治と市民意識 寺崎修・玉井清編 多文化世界における市民意識の動態9 慶應義塾大学出版会	Box018
1333	2005	(Press Release) Chernobyl: The True Scale of the Accident 20Years Later a UN Report Provides Definitive Answers and Ways to Repair Lives International Atomic Energy Agency World Health Organization United Nations Sep.5 2005 Development Programme	Box019
1334	2005	私の研究から 日本原子力学会誌 Vol.47 No.9 (2005) (p45の原田、中村、山名(核燃料関係)とp46「挟み込み法」は収束判定の王道(株)ナイス 内藤倣孝)	Box024
1335	2005	UCN会会則	Box029
1336	2006	送電線近傍電磁界影響の疫学調査 加藤和明 SS-119 (2006年9月1日 蓼科での講演資料?)	Box018
1337	2006	ポケット版エネルギー統計表 2006年4月 エネルギー総合推進委員会	Box018

1338	2006	庄野直美から森一久へのFAX 平成18年1月17日(原爆慰霊碑の碑文「あやまちはくりかえしませんから」の英訳文)	Box019
1339	2006	原子力立国計画 総合資源エネルギー調査会電気事業分科会原子力部会報告書(案) 骨子 資源エネルギー庁 平成18年6月	Box019
1340	2006	平成18年度海洋環境放射能総合評価事業成果報告書-温排水等により飼育した海産生物に関する放射能調査および評価-平成19年5月財団法人 温水養魚開発協会	Box020
1341	2006	見えない危険「電磁波汚染!」(2005年ないし2006年の記事)	Box021
1342	2006	小柳卓氏の手紙(放医研臨海実験場での研究に対する森氏の質問に対する返事、関連する資料を同封するとの内容) 平成18年11月30日	Box021
1343	2006	放射性廃液の海洋放出に関する調査研究(原稿用紙に手書きしたもの)([1342]の小柳卓氏が森一久氏への私信で同封したもの)	Box021
1344	2006	放射性廃液の海洋放出に関する調査研究([1343]の続き)(原稿用紙に手書きしたもの)([1342]の小柳卓氏が森一久氏への私信で同封したもの)	Box021
1345	2006	東奥日報 2006.6.18 元原産会議副会長(森一久)が証言「分割発注変更が原因」再処理工場の建設費膨張	Box021
1346	2006	ANTM 10年のあゆみ 2006 財団法人医用原子力技術研究振興財団(パンフレット)	Box022
1347	2006	東奥日報の記事(元原産会議副議長(森一久氏)が証言 奥尻に再処理工場計画 84年の本県(青森県)要請前に水面下交渉 道知事革新系誕生で覆る) 2006年5月29日	Box023
1348	2006	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力政策課長 柳瀬唯夫氏より森一久氏への手紙(「原子力立国計画案」を作成したので送るとの内容(総合資源エネルギー調査会 電気事業分科会 原子力部会 報告書(案)~「原子力立国計画」~ 2006年6月16日 同封)	Box024
1349	2006	北朝鮮の核開発 一北は本当に核を放棄するだろうか(仮題) 2006年6月記 遠藤哲也	Box029
1350	2006	「原子力囲碁大会」事始めの頃 森一久 2006年 チェルノブイリ事故で肩身の狭い頃少しは心の支えにと囲碁大会を始めた話	UCN_Blog
1351	2006	2006年、2007年、2008年の3年間の同じ日が同じページに記入できる日記帳	Diarys
1352	2006	原子力eye vol.52 No.4 (2006年4月号) OPINION ”高速中性子炉”はなさんのため?!—その取り組み方で21世紀原子力の将来が決まる— UCN原子力政策研究会 森一久	Reports06
1353	2006	広領域教育 2006年7月 No.63 巻頭言 森一久「超広領域」の教育基礎学の勧め	Reports06
1354	2006	東奥日報 平成18年5月29日 再処理工場の立地について青森県に決まる前に北海道の奥尻島にほぼ決まっていたが北海道知事選で革新系の横路知事が誕生したため断念したと森一久氏が証言したとの記事	Reports06
1355	2006	東奥日報 平成18年6月18日の記事 森一久氏の証言 再処理工場の建設費が膨張したのは発注先を化学会社から原子炉メーカーに変更したため	Reports06
1356	2006	Isotope News 2006年1月号 講演記録「戦後初のアイソトープ輸入から半世紀—放射線計測の歩み—」原禮之助(講演は2005年7月7日に行われたもの)	Reports06
1357	2006	森武三郎氏より森一久氏への手紙(支援への感謝とトロトラスト晩発障害に関する論文集を送るとの内容)	Box024
1358	2006	Fact Sheet on U.S.Nuclear Powered Warship(NOW) Safety(原子力潜水艦、原子力空母などの日本寄航の際の安全に関すること)	Box018
1359	2007	第14回日仏原子力専門家会合(N-20)の共同声明について 日本原子力産業会議Press Release 2007年6月5日(地球温暖化対策として原子力が必要という声明を出したこと)	Box018
1360	2007	低レベル放射線が人体に及ぼす影響の疫学調査(その1:コホート研究) 加藤和明の放射線一口講義 FB News No.362 ('07.02.1発行)	Box018
1361	2007	EIT Journal 56 November 2007 社団法人エネルギー・情報工学研究会議(「原子力50年」という森一久へのインタビュー記事)	Box018
1362	2007	Draft Recommendations of the International Commission on Radiological Protection 12 January 2007	Box019

1363	2007	原子力関連産業従事者等に関する疫学文献調査検討委員会報告書 平成19年3月 財団法人 原子力安全研究協会（委員長重松逸造）	Box019
1364	2007	日本の条件 内田岱二郎（東大名誉教授）2006年9月11日 トリスタンスク エアZ棟4階フォーラム（建築研究開発コンソーシアム2006年度共同研究 プロジェクト・研究会報告会における特別講演）（平成19年3月14日に森 一久に送られた別刷）	Box019
1365	2007	政治家達（国会議員、地方議員、及び候補者）への提言、発信のなかか ら、……（2005～2006）（西岡豊弘より森一久あて文書 2007.7.27に発 送されたもの）	Box019
1366	2007	平成19年1月24日毎日新聞夕刊 トップ記事（米大統領一般教書演説 イラ ク増派 ガソリン消費量削減など）	Box021
1367	2007	新潟日報 2007年12月11日 トップ記事（東電柏崎刈羽原発の地震事故 に関連しての特集記事）なぜ未開の砂丘地に<1>	Box021
1368	2007	新潟日報 2007年12月12日（東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連して の特集記事）なぜ未開の砂丘地に<2>	Box021
1369	2007	新潟日報 2007年12月13日（東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連して の特集記事）なぜ未開の砂丘地に<3>	Box021
1370	2007	新潟日報 2007年12月14日（東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連して の特集記事）なぜ未開の砂丘地に<4>	Box021
1371	2007	新潟日報 2007年12月16日（東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連して の特集記事）なぜ未開の砂丘地に<5>	Box021
1372	2007	核兵器のない世界にむけて 緊急に新たな行動を（キッシンジャー達のA World Free of Nuclear Weaponsの訳） 藤田俊彦 2007年	Box021
1373	2007	A World Free of Nuclear Weapons George P. Shultz William J. Perry, Henry A. Kissinger and Sam Nunn The Wall Street Journal Thursday, January 4, 2007, Page A15（タイプ印刷）	Box021
1374	2007	「核兵器のない世界」を目指して ジョージ・P・シュルツ、ウィリアム・J・ペリ ー、ヘンリー・A・キッシンジャー、サム・ナン「ウォール・ストリートジャー ナル」2008年1月15日 訳ピースデポ「核兵器・核実験モニター」08/2/1 号	Box021
1375	2007	財団 設立趣意書 日本・モンゴル環境資源開発公社 設立準備室 4S原子 炉からさらに改良したA-4S原子炉を建設する計画 日本側理事の候 補として森一久、佐久田昌昭の名があげてある。服部氏のモンゴル訪問に 対する礼状 2007/4/26)	Box021
1376	2007	原子力利用を着実に進めるために取り組むべきこと（未定稿） 原子力 委員会委員長 近藤駿介 平成19年4月3日	Box021
1377	2007	毎日新聞 夕刊 2007年1月24日 湯川秀樹博士生誕100年（森一久氏、近 藤駿介氏などの談話を紹介）	Box023
1378	2007	ベトナムの原子力発電開発準備状況 2007年8月8日 日本原子力産業会 議（各国の協力状況を含めベトナムの原子力発電計画の状況を図表にま とめたもの）	Box026
1379	2007	TBS報道局より森一久氏へ 放送をコピーしたDVDを送るとの手紙とDVD （島村原子力政策研究会、2007年11月10日TBSブロードキャスター、原子 力の証言者たち、湯川博士の遺したもの など）	Box028
1380	2007	UCN会が電力経済研究所の解散に当たり小史をまとめることになり、この たび完成したので送るとの挨拶状 平成19年9月 UCN会森一久	Box029
1381	2007	The Wall Street Journal January 4 2007 Opinion A World Free of Nuclear Weapons by George P. Shultz William J. Perry Henry A. Kissinger and Sam Nunn（紙面のコピー）	Reports06
1382	2007	平成19年度事業報告書 平成19年度財務諸表（案） 財団法人アジア人口・ 開発協会	Reports06
1383	2007	EIT No.56 2007年 11月号 エネルギー情報工学研究会議発行 原子力50 年 第2回 森一久 後藤茂氏との対談	Reports06
1384	2007	NERIC News No.282 2007年10月号 巻頭言 森一久 原子力の原点と推 進者・批判者の「変身」	Reports06
1385	2007	近現代日本人物史料情報辞典3 平成19年12月10日吉川弘文館発行 菅 禮之助と津野田知重の項目（森一久執筆） 橋本清之助の項目（伊藤隆執 筆）には森一久氏のことが言及されている	Reports06
1386	2007	近現代日本人物史料情報辞典3 平成19年12月10日発行 下村定の 項目	Reports06

1387	2007	エネルギー情報工学研究会EIT発行 レポート No56 2007年11月「原 子力50年」第2回 森一久(81才) 原爆体験「原爆の子」(岩波文庫) 原 子力始まりの頃の熱気 だんだんと責任逃れ体質になっていったこと 長期 的にまじめに取り組むべき	Miscellaneous
1388	2007	平成12年刊 廣高とヒロシマ 廣島高等学校同窓有志の会 水田泰次(昭20 理甲) 広島で原爆テスト極秘情報ー 昭和63年発行の廣島高等学校排 球部史に昭和20年の5月に京大冶金の西村英雄教授に呼び出されて(当 時水田氏は京大工冶金の1年生) 広島で米国が原爆のテストをするから急 いで帰って家族を疎開させよといわれそうしたことを書いた その後朝日の記者に内容を証明できる人がいるかと聞かれて西村教授と 湯川教授の子息に尋ねたが聞いていないといわれた という内容 このコピ ーに注記して森一久氏が手書きで 水田泰次氏本人に確かめたら西村教授 は原爆とはいわず「新型超強力爆弾」と言ったことおよびその場に湯川秀樹 教授が無言で同席していたことを聞き出したと記してある	Miscellaneous
1389	2007	NERIC NEWS No.282 2007年10月号 核・エネルギー情報センター発 行 巻頭言 森一久 原子力の原点と推進者・批判者の「変身」原子力を始 めた頃に比べて推進者は原点の国民との「契約」を忘れ不祥事が起こっ ているし批判者は揚げ足取りになっている	Miscellaneous
1390	2007	森一久あて西岡豊弘の手紙	Box019
1391	2007	二冊の本(砲術学校の思い出の中から)、千葉市地方選挙出陣、ほか 西 岡豊弘	Box019
1392	2007	西岡豊弘の手紙(本を送ったことなど)	Box019
1393	2007	問題提起事項 若手政治家、会員への(西岡豊弘氏の文章?)	Box019
1394	2007	財団 設立趣意書「極秘」「コピー禁止」モンゴル・日本超小型原子炉 開発公社 モンゴル通産局提出用 (super safe small & simple (4S) 超小 型原子炉で電力と水を作る)	Box021
1395	2007	Evolution of Small Reactor Design-Advanced 4S Concept- S. Hattori M. Uotani, N. Ueda (CRIEPI) (A-4Sを紹介する英文論文)	Box021
1396	2007	Nuclear Cell A4S開発計画 電力中央研究所 元原子力担当理事 工学博 士 服部禎男	Box021
1397	2007	財団法人 モンゴル日本環境資源開発公社 役員および支部(モンゴル側 は大臣などの名前があるが日本側は未定となっている)	Box021
1398	2007	原子力開発の当初と今(反省点が列挙してある文章)(年月日、署名なし タイプしたもの)	Box021
1399	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年2月15日号(4) 核兵器をめぐる世 界の動き149	Box021
1400	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年3月15日号(4) 核兵器をめぐる世 界の動き150非核の政府を求める会ニュース 2007年3月15日号(4) 核 兵器をめぐる世界の動き150	Box021
1401	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年7月15日・8月15日合併号(4) 核 兵器をめぐる世界の動き154	Box021
1402	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年11月15日号(3) 鈴木比佐雄さん インタビュー記事、米大統領候補発言など	Box021
1403	2007*	森一久氏略歴 オーラルヒストリーの目次など	Reports06
1404	2007*	モンゴルの地図と世界のウラン鉱床の表	Box021
1405	2008	原子力システム研究懇談会二十年史「原子力開発の光と影を見つめて」 の編纂にあたり、ご寄稿のお願い 森一久、内藤奎爾、石田寛人あて 原子 力システム研究懇談会代表近藤次郎より 平成21年11月4日	Box018
1406	2008	最近における米国原子力発電の現状と課題(米国出張所感) 下山俊次 2008. 6 8 (2008年シカゴでの原子力産業協会年次総会出席の報告)	Box018
1407	2008	高圧送電線の電磁波による被曝量と発病率(2008年4月1日にファイル を送ってもらったもの)	Box018
1408	2008	住宅環境が危ない!~急増する電磁波汚染の恐怖!(2008年4月1日にフ ァイルを送ってもらったもの)	Box018
1409	2008	私の履歴書 原子核の歌 岡井隆 2008年10月25日	Box020
1410	2008	新潟日報 2008年1月1日 トップ記事(東電柏崎刈羽原発の地震事故に 関連しての特集記事) はがれたペール<1> 31面にも特集記事(作家高 村薫)	Box021

1411	2008	新潟日報 2008年1月3日(東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連しての特集記事) はがれたペール<2>	Box021
1412	2008	新潟日報 2008年1月5日 トップ記事(東電逆断層を正断層と誤評価)(東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連しての特集記事) はがれたペール<4>	Box021
1413	2008	新潟日報 2008年1月6日(東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連しての特集記事) はがれたペール<5>	Box021
1414	2008	新潟日報 2008年1月7日(東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連しての特集記事) はがれたペール<6>	Box021
1415	2008	新潟日報 2008年1月8日(東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連しての特集記事) はがれたペール<7>	Box021
1416	2008	新潟日報 2008年1月9日(東電柏崎刈羽原発の地震事故に関連しての特集記事) はがれたペール<8>	Box021
1417	2008	Toward a Nuclear-Free World George P. Shultz William J. Perry, Henry A. Kissinger and Sam Nunn The Wall Street Journal Tuesday, January 15, 2008, Page A13 (タイプ印刷)	Box021
1418	2008	米国でも「核兵器のない世界を」署名運動が始まった 2008/9/18 核問題調査専門委員会	Box021
1419	2008	2008/08/28核問題調査専門委員会資料 米民主党大会で採択される2008年政綱案に関する日米各紙の論評である。しんぶん赤旗、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日経新聞、ニューヨーク・タイムズ紙から	Box021
1420	2008	2008/06/26核問題調査専門委員会 アメリカ次期大統領候補の核軍備戦略は?(6月16日米「軍備管理協会」主催のシンポジウムでのオバマ、マケイン両陣営の報告の訳文 藤田俊彦)	Box021
1421	2008	新しい核兵器廃止論者たち ヒュー・ガスターソン(ジョージメーソン大学教授「ブレティン・オブ・ゼ・アトミック・サイエンティスツ」誌 2008年5月13日)	Box021
1422	2008	米国の科学者、核兵器廃止めざす具体策を提起する生命を発表-ノーベル賞受賞者23氏も参加- U.S. nuclear weapons policy Scientists' Statement on U.S.Nuclear Weapons Policy Toward True Security April 2008 Union of Concerned Scientists	Box021
1423	2008	米国次期大統領が核兵器全面禁止に向けて最初に取りべき10の措置 ([1422]の Toward True Securityの一部抄訳)	Box021
1424	2008	The Age of Diplomacy George P. Shultz International Conference on Achieving the Vision of a World Free of Nuclear Weapons Grand Hotel Oslo Norway February 26, 2008	Box021
1425	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年9月15日号(3) 「米」核の傘」と日米関係」、「米民主党政策要綱」を論議 核問題調査専門委員会開く	Box021
1426	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年5月15日号 ニーナ・タネンウォルドさんとのインタビュー記事など	Box021
1427	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年9月15日号(4) 核兵器をめぐる世界の動き165	Box021
1428	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年5月15日号(4) 核兵器をめぐる世界の動き162	Box021
1429	2008	中嶋先生あて 事務室斉藤俊一よりの手紙(ウォール・ストリートジャーナルに掲載されたキッシンジャー達4名の共同論文2編を同封し、原稿を依頼する内容) 2008年9月27日	Box021
1430	2008	原子力発電と新エネルギーの比較、世界のCO ₂ 排出量削減の試算を示す図表 2008年	Box021
1431	2008	新規導入国等に対する我が国の支援 2008年	Box021
1432	2008	The Logic of Zero Toward a World Without Nuclear Weapons Ivo Daalder and Jan Lodol Foreign Affairs November/December 2008 Vol.87 No.6 (表紙に「global zeroの理論的根拠となる論文」と手書きしてある)	Box021
1433	2008	Can nuclear plants be safer? Edwin S. Lyman Bul. Of the Atom Sci. Sep-Oct/2008 大塚訳(より安全な原子炉も経済性で劣り安全性も少ししか向上しない)	Box021

1434	2008	島村原子力政策研究会資料の印刷・配布について平成20年6月 文部科学省研究開発局原子力計画課(元原子力委員の島村武久氏の勉強会の録音テープを文書化し34テーマを関係者に配布するとの内容。森一久氏も勉強会に講師として関係している)	Box023
1435	2008	新潟日報 2008年7月13日 柏崎刈羽原発と中越地震に関連したコラム 記事 森一久原産会議元副会長に聞く(湯川博士の原子力委員会委員辞任などの話)	Box023
1436	2008	毎日新聞の記事 2008年3月16日「発信箱」というコラム記事 師匠とそ の弟子(水田泰次さんが広島両親を疎開するように主任教授の西村秀雄からいわれた話)	Box023
1437	2008	京都大学原子炉実験所・量子リサイクル工学研究所 Booklet 再処理工場 と放射能 京都大学原子炉実験所 山名元 平成20年2月28日	Box023
1438	2008	公開シンポジウム「新しい原子力利用の時代に向けたUNSCEARと放射線 影響研究の役割」抄録 2008年11月19日 北九州国際会議場 主催原子力委員会 協力放医研	Box023
1439	2008	「2008年を総括する視座——世界潮流と日本の進路を考える基本資 料」寺島実郎 2008年11月25日修正版	Box023
1440	2008	「原天会」名簿 2008年9月16日(原子力関係者の囲碁クラブ 9月27日 の出欠表として使われている)	Box027
1441	2008	新番組提案「環業立国」宣言 報道局 大西裕之 2008年1月28日	Box029
1442	2008	財団法人 温水養魚開発協会・小史 発行 UCN会 編集 森 一久	Writings
1443	2008	アルスの会のウェブページ 伏見康治記念ページに収録されたもの 森 一久(伏見氏が喜寿を超えた頃に書かれたもの出典不明) 曲がり角で 会う人 昭和57年に学術会議の会長室で会った時公明党の副委員長が来 て参議院選挙への出馬を依頼されたと打ち明けられ自分の願ひ事はい わずに引き下がったこと 昭和29年日本の原子力開発の在り方で学術会議 改革が騒がれていた「曲がり角」など曲がり角での出会いが多かった 敵か 味方か分からない議論が多い中敵の敵は味方といった 風情であった	Manuscripts02
1444	2008	The Wall Street Journal January 15 2008 Opinion Toward a Nuclear-Free World by George P. Shultz William J. Perry Henry A. Kissinger and Sam Nunn (紙面のコピー:[1417]と同じ)	Reports06
1445	2008	2008年9月12日 月刊エネルギーレビュー 牧氏から森一久氏宛のFAX 発行日前なので取扱注意との記入あり(発行予定日は9月20日)「私と原子力」石原健彦 原子力アーカイブスの訴え	Reports06
1446	2008	仮想・立花昭記念館 発行 UCN会 編集 森 一久 喜多尾 憲助	Writings
1447	2008	新潟日報 平成20年7月13日 揺らぐ安全神話 柏崎刈羽原発 森一久氏に 聞く 湯川秀樹と有澤廣巳の例を引き人類への責任認識を説く文章	Reports06
1448	2008	毎日新聞 2008年3月16日 発信箱欄 藤原章生(夕刊編集部)の記事 昭和20年京大冶金の西村秀雄教授が弟子の水田泰次に広島に帰って親を疎開させるよう話した場に湯川秀樹教授もいたが弟子の森一久には話さな かったことを後悔して森をかわいがってくれたのかも知れない という逸話	Reports06
1449	2008	お花見平和のつどい2008のチラシ 第五福竜丸から平和を発信する連絡 会主催2008年4月5日	Reports06
1450	2008	2008年2月24日 第五福竜丸平和協会 市民講座レジメいま死の灰を考え る——環境における人工放射能研究50年 気象研究所地球化学研究部 青山道夫	Reports06
1451	2008	かわらばん ふくりゅうまる 号外2008年1月1日 第五福竜丸平和協会 2月 24日にビキニ記念のつどい「いま『死の灰』を考える」を行うという 記事 森一久氏も講演	Reports06
1452	2008	新潟日報 平成20年2月28日～3月7日 揺らぐ安全神話 柏崎刈羽原発 絡み合う思惑 検証東電30億円寄付(1～8)	Reports06
1453	2008	ビキニ水爆実験被災54周年市民講座 2008年3・1ビキニ記念のつどい 「いま『死の灰』を考える」のプログラム 森一久氏および青山道夫氏の講演 [1451]と同じ行事	Reports06
1454	2008	都立第五福竜丸展示館ニュース 福竜丸だより 2008年1月1日 市民が守 った第五福竜丸・保存のよびかけから40年	Reports06
1455	2008	第五福竜丸平和協会 会長川崎昭一郎 賛助会員へのご入会のおねがい	Reports06

1456	2008	2008年9月13日(メール)立花実氏より森一久氏宛 冊子が届いたこと に対するお礼(父親の立花昭氏の記念誌「仮想・立花昭記念館」)	Letters02
1457	2008	9月21日付け(ペン書き手紙)岡本隆一氏よりUCN会森一久氏宛「仮 想・立花記念館」の送付に対するお礼	Letters02
1458	2008	平成20年9月(はがき)武井氏よりUCN会森一久氏宛 森氏よりの冊子 の送付に対する礼と大学の図書館 理学部長 副学長に回覧するよう送付 した	Letters02
1459	2008	2008年9月17日 竹野萬雪氏より森一久氏宛「仮想立花昭記念館」の送 付に感謝 祝迫さんの文章感慨深い	Letters02
1460	2008	平成20年9月21日(はがき)阿部元祐氏よりUCN会森一久氏宛「仮想 立花昭記念館」の送付に感謝	Letters02
1461	2008	平成20年9月29日(はがき)遠藤常在氏よりUCN会森一久氏宛「仮想 立花昭記念館」の送付の礼状と自己紹介	Letters02
1462	2008	平成20年9月21日(はがき)富永五郎(夫人)よりUCN会森一久氏宛 「仮想立花昭記念館」の送付に感謝するとともに富永氏が8月に脳出血で 倒れて入院中との知らせ	Letters02
1463	2008	平成20年9月26日(はがき)武田充司氏よりUCN会森一久氏宛「仮想 立花昭記念館」の送付に感謝	Letters02
1464	2008	平成20年9月2日(絵はがき)石光研二氏よりUCN会森一久氏宛「温水 養魚開発協会小史」の送付に対する礼状	Letters02
1465	2008	2008年9月24日 鈴木龍男氏より森一久氏宛「仮想立花昭記念館」の送 付に感謝	Letters02
1466	2008	平成20年9月24日(はがき)須藤忠和氏より森一久氏宛「仮想立花昭 記念館」の送付に感謝	Letters02
1467	2008	平成20年9月26日(毛筆手紙)宮本昌昭氏より森一久氏宛「仮想立花 昭記念館」の送付に感謝	Letters02
1468	2008	平成20年10月2日 赤間行三氏よりUCN会森一久氏宛「仮想立花昭記 念館」の送付に感謝	Letters02
1469	2008	平成20年10月14日 能澤正雄氏より森一久氏宛「仮想立花昭記念館」の 送付に感謝するとともに 高速炉開発の議論の頃の立花氏との因縁 2008年8月6日に書いた伏見康治とのかかわりで阪大から原研に行くよ うになったエピソードを書いたもの同封 自己紹介(戦時中大阪市立都島工 業学校・大阪臨時教員養成所から阪大理学部へ進むことになった経緯)	Letters02
1470	2008	平成20年9月12日(はがき)服部学氏からUCN会森一久氏宛「仮想立 花昭記念館」の送付に感謝	Letters02
1471	2008	平成20年9月23日(はがき)永原照明氏よりUCN会森一久氏宛「仮想 立花昭記念館」の送付に感謝	Letters02
1472	2008	平成20年9月(はがき)(横浜市港北区大豆戸)武井氏よりUCN会森一 久氏宛 立花氏の記念本に関して森氏の粘り強さに関心 喜多尾さんによ ろしく あと2冊ほどいただけると名経大?へ送ってやりたい	Letters02
1473	2008	平成20年7月31日発行「広領域教育」No69用の原稿と掲載された記事 のコピー「科学する心」の伝承 伏見康治さんとお別れに思う 森一久	Miscellaneous
1474	2008	広領域教育No69 2008年7月号 特別記事「科学する心」の伝承-伏見 康治さんとお別れに思う-	Manuscripts05
1475	2008	アルスの会中井浩二氏より森一久氏あて手紙 みずず書房から出版された 伏見康治著作集に掲載された森氏のエッセイ「曲がり角で出会う人」を転 載させてほしいとの内容と許可した記述およびエッセイのコピー	Manuscripts05
1476	2008	オスロ会議資料No.1 外相による討論のまとめおよび予備的な勧告(ストゥBox021 -レ外相が発表した5つの原則と10項目の勧告の訳 ウォール・ストリートジ ャーナルに掲載されたキッシンジャー達の核軍縮に関する二つの論評を評 価し、オスロ会議の成果をまとめた内容)	
1477	2008	SMTechのCEOであるMun Ik Son氏よりUCN会森一久氏にあてた手紙 (シリコン半導体のビジネスを太陽電池などに拡大したいので助言がほし いという内容)	Box029
1478	2008	菅野礼司氏 総合的自然観を科学教育に	Reports06
1479	2008	菅野礼司氏「総合学習」の意義と方法について	Reports06

1480	2008	湯川先生生誕百周年関係(2007~8) 森一久氏の出演と投稿の記録 T Reports06 BS(2007年7月1日) 毎日新聞(2007年1月24日) 新潟日報(2008年7月13日) 毎日新聞(2008年3月16日)	
1481	2008	ヒロシマ体験の記(オーラルヒストリーの最後の付録1とほぼ同じ文章) (森一久氏がヒロシマで被爆した時のことを記したもの)	Manuscripts02
1482	2008*	赤祖父俊一論文「止まった気温上昇CO ₂ 犯人説の真偽を考える」について 赤祖父論文は一面的であり多面的な総合判断が必要	UCN_Blog
1483	2009	Trying to fight global warming one pig at a time (肉食とCO ₂ 増加について論じたもの)(09-09-01に環境科学技術研究所からFAXしてもらったもの)	Box018
1484	2009	NERIC News No.303/2009年11月号 核・エネルギー情報センター 発行 (世界同時核廃絶(大西広)、トリウム溶融塩炉(古河和男)、FBR(大塚益比古)、再処理(市川富士夫) 国際オンチの日本人(吉田康彦)	Box018
1485	2009	International Herald Tribune のコピー 2009年11月5日(イスラエルが無人機で給水管のパイプの漏れを検出している) 2009年11月7-8日(エルバラダイIAEA事務局長が退任後エジプト大統領選挙に出馬するかも?)	Box018
1486	2009	週間会議・イベント予定表(原産協会行事、関連機関行事など) 平成21年11月9日	Box018
1487	2009	毎日新聞の取材(菅野礼司さんから森一久さんへのFAX) 2009年11月10日	Box018
1488	2009	日本記者クラブ会合のお知らせ 2009年11月11日(田中伸男 IEA事務局長記者会見(11月26日)などの案内FAX) 日本記者クラブより	Box018
1489	2009	Atoms in Japan 2009年11月9日(原産のウェブサイトに新しい記事が掲載されたことを知らせるメール(英文))	Box018
1490	2009	環境と健康(菅原努京大名誉教授代表) Vol.22 No.4(冬号)2009年12月1日発行の最後の頁(投稿規定)	Box018
1491	2009	International Herald Tribune のHealth and Science面のコピー 2009年12月17日(乳がんの抗がん剤の副作用関連記事)(2009年12月18日環境科学技術研究所より森一久あてFAX)	Box018
1492	2009	Remarks of President Barack Obama Hradcancy Square Prague, Czech Republic April 5, 2009、	Box021
1493	2009	世界の原子力発電の拡大、世界的な新規導入予定・検討国の世界的拡がり(世界の原発の図表 2009年1月現在)	Box021
1494	2009	静岡大学 興直孝学長より森一久あて FAX 塩谷敬氏の就職依頼(塩谷氏の経歴と青学へ推薦したときの推薦状の写し同送) 平成21年3月31日	Box021
1495	2009	一般財団法人原子力国際協力センターの設立について 平成21年3月30日 日本原子力産業協会(プレスリリース)	Box021
1496	2009	Speech on nuclear energy and proliferation 英国ブラウン首相の演説草稿(ロンドンでのIAEA各国代表の会議?にて) 2009年3月17日	Box021
1497	2009	橋田レポート 米国経済は政府・FBRが金利高・ドル高を押さえようとしているが・・・ 2009/12/29 (内外政治経済・短期金融市場の動向 橋田週間レポート 12月28日号)	Box021
1498	2009	朝日新聞 2009年(平成21年) 6月13日 オピニオン欄 北朝鮮と交渉せよ 田原総一郎	Box021
1499	2009	原子力安全委員会の改革を 青柳長紀 NERIC News No.304/2009年12月号 核・エネルギー問題情報センター(旧・原子力問題情報センター) 発行人中嶋篤之助	Box021
1500	2009	毎日新聞の記事 2009年8月11日(社民党政権公約:非核3原則を法制化)	Box022
1501	2009	原子力機構における安全研究 平成21年4月頃か? 原研とサイクル機構が統合した後の合理化のため安全研究が弱体化しつつある問題点の検討資料	Box023
1502	2009	NERIC News No.296/2009年2月号(2頁目に森一久氏の「原子炉開発路線の経緯と矛盾」という解説文が掲載されている)	Box023
1503	2009	古田武彦氏から森一久氏への手紙 2009年8月16日 No.128 学問論(第16回) 尺寸の地を我に与えよーヒロシマ記念碑ー 古田武彦氏原稿同封	Box023

1504	2009	分離変換技術に関する研究開発の現状と今後の進め方(案) 2009年3月10日 原子力委員会 研究開発専門部会 分離変換技術検討会 (関係研究者の名前が手書きでメモされている、意図不明?)	Box023
1505	2009	毎日新聞の記事 2009年11月13日夕刊 菅野礼司さんがオバマ大統領に「原爆下の対局」(8月6日の本因坊戦第2局)を伝えたことを紹介する記事	Box023
1506	2009	毎日新聞の記事 2009年8月11日 品格を持ち平和利用を被爆の国からオバマ大統領へのメッセージ「原爆の子」との約束 森一久氏インタビュー記事	Box023
1507	2009	放射線パラダイムの大変革 平成21年7月11日 服部禎男	Box023
1508	2009	総合資源エネルギー調査会電気事業分科会原子力部会国際戦略検討小委員会報告(案) 平成21年4月	Box023
1509	2009	天木直人のブログ2009年1月21日 マハティール前マレーシア首相のオバマ大統領あて公開書簡 2009年4月12日にダウンロードしたもの	Box023
1510	2009	Natureの記事 (Special Report Fusion dreams delayed 遠退く核融合の夢 Nature Vol.45928 May 2009	Box023
1511	2009	伊原義徳氏から森一久氏への手紙(伊原氏の雑誌「原子力eye」への寄稿文「廃墟からの立ち上げ」が編集者の意向で2回に分けて掲載されることに関してどう思うかとの内容、原稿も同封) 2009年12月10日	Box023
1512	2009	東京大学小川雄一教授より森一久氏への手紙 平成21年5月8日(日本物理学会誌2009年Vol.64 No.5に伏見康治の特集記事が掲載されたことを知らせるよう内田岱二郎氏から要請されたので同封するとの内容)	Box023
1513	2009	「小原天会」会員名簿・持ち点表 平成21年4月29日	Box027
1514	2009	UCN会などの写真 2009年3月4日	Box029
1515	2009	田中宇の国際ニュース解説(9/12/2) 地球温暖化巡る歪曲と暗闘(1) (地球温暖化に対する疑問)	Box029
1516	2009	無意味語の氾濫 2009.11 伊原義徳	Box029
1517	2009	NTTコミュニケーションズ請求額・領収通知 日本原子力産業協会UCN会様あて 2009年3月16日	Box029
1518	2009	原稿拝読いたしました 田村和子より津田敦子あてFAX 2009年8月22日(森先生原稿をアップするのが遅れた詫びと原稿に対するコメント)	Box029
1519	2009	事務所使用料請求書 平成21年12月15日UCN会森一久代表あて財団法人原子力安全研究協会より	Box029
1520	2009	毎日新聞 平成21年8月11日 被爆の国からオバマ大統領へのメッセージ 森一久「原爆の子」との約束 品格持ち平和利用をトラブル続きは悔しい「最近の原子力関係者は責任逃ればかり」	UCN_Blog
1521	2009	韓国棋院ニュース 2009年11月19日 オバマ大統領胡锦涛主席に囲碁用品をプレゼント	UCN_Blog
1522	2009	ronbun 森一久 2009年10月9日 何処までやるか出来るか 一新政権への期待と不安ー 地球環境・資源・エネルギーへ本気で取り組みをー 私などは地球環境問題から「原子カルネサンス」などと浮かれて原子力発電の国際的な拡大を単純に喜ぶような風潮を苦々しく思っている 大事故の防止は勿論テロ標的からの回避それにこの雰囲気背後に垣間見られる核兵器がらみの願望を見抜くシステム(核不拡散体制と国家主権の問題など)の三大条件を保証するという容易でない実効ある国際体制を真剣に構築することこそが先決である	UCN_Blog
1523	2009	ronbun 森一久 2009年9月11日 地球環境問題は人類の将来を決めるー従来の「物差し」では測定不可能の事態に直面ー 先進国の責任被害と原因の実態をめぐって	UCN_Blog
1524	2009	ronbun 浜崎一成 2009年8月31日 「持続可能な未来」と原子力の可能性ー 日本は原子力のあるべき姿を国際社会に提唱すべしー	UCN_Blog
1525	2009	UCN会発の問題提起 環境エネルギー原子力に本気で取り組むなら 何処までやるか出来るかー 一新政権への期待と不安 国民の反応は税金の無駄遣い反対と高速道路の無料化反対 原子力が期待されない日本 挙国一致が今や仲良しクラブ その一方でメーカーは内輪もめT社とM社の社長は国益そっちのけで互いに「顔を合わせるのもイヤ」とか	UCN_Blog
1526	2009	UCN会発の問題提起 環境エネルギー原子力に本気で取り組むなら 何処までやるか出来るかー 一新政権への期待と不安 ([1525]の修正版にさらに手書きで加筆しているもの) 国民の反応は税金の無駄遣い反対と高速道路の無料化反対 原子力が期待されない日本 挙国一致が今や	UCN_Blog

		仲良しクラブ その一方でメーカーは内輪もめT社とM社の社長は国益そっちのけで互いに「顔を合わせるのもイヤ」とか 唯一の被爆国だからと世界唯一の例外として認められている再処理に取り組んでいるのに化学工業の参加なく「主契約社無し」という発注形態でトラブル続出 政府の方針だからやっているという電力会社の無責任さ 原子力を一人前の超長期エネルギーに育てる息の長い核燃料サイクル開発の仕事—これを日本国の安全保障の中核事業に位置づけよう JAEAなどの在り方	
1527	2009	森一久 日本人の「体温低下」とはいったい何事か? 2009年夏 選挙戦中 学士会会報第877号の石原結實「薬のいらぬ健康法」の紹介(体温低下が病気の原因) 集団行動(デモなど)が無気力になっている 対米依存の無気力も低体温のためか 覇気のなさ外国人力士ばかりの横綱 創作や感受性も衰えているのは温度のせい	UCN_Blog
1528	2009	間弘明(森一久のペンネーム) 自立性の回復を急ごう 一難しい選良の見つけ方 日米安保戦争体験を巡る国民感情の脱皮— 政権交代が起こりそうな選挙なのに官僚界に事故改革や焦りが無い 選挙の候補者の見極めも難しい 日米安保と日本人の屈曲した心情「守ってもらった」という引け目だけだと自立心の喪失になる 戦争体験のことを避けてきたことで普通の国や核武装フリーハンド論が勢いついている	UCN_Blog
1529	2009	間弘明(森一久のペンネーム) 自立性の回復のみが生き残りの道—この喧噪と雑音の世界の中で— 劇場化記事が判断をゆがめる 快い味や匂いや言葉危ないからご用心 拝金主義は判断を誤らせる 北朝鮮は日本から「金を欲しがっている」という思い上がり	UCN_Blog
1530	2009	森一久 消費税・財源論は問題のすり替え— 政治行政への信頼乏しい国から世界を眺めれば— 消費税が高い国は文化的に成熟度が高くあまり大きくない国で民主主義の国 これは日本とも似ているが日本は消費税が低い国でこれらの国との違いは納めた税金がよく使われるという確信がない国であるという点	UCN_Blog
1531	2009	毎日新聞記事と滝野記者から森一久氏あて私信付きFAX 2009年9月25日 嶋山氏の国連安保理首脳会合での演説(首相演説)の中で「被爆国の道義的責任」という言葉が出てくる これは森氏がかつて「被爆国の道義的責任」といったのを滝野記者が記事にしていたのが首相スタッフの記憶にあったに違いないという滝野記者のコメント	UCN_Blog
1532	2009	2009年、2010年、2011年の3年間の同じ日が同じページに記入できる日記帳(ただし当然ながら2010年に死去したため2011年は記入無し 2010年1月1日には病状の記述あり)	Diarys
1533	2009	囲碁を文化と世界平和の使節に! オバマ大統領宛のメッセージ 広島原爆投下時の本因坊戦にふれて4月にブラハであったオバマ大統領の核兵器廃絶に関する4月の講演に対して(日本文)	Reports06
1534	2009	薬のいらぬ健康法 石原結實 学士会会報No.877 2009年	Reports06
1535	2009	有澤廣巳氏を偲ぶ会(2009年5月15日学士会館)の資料 および佐和隆光氏による有澤氏に関する日経コラム欄記事(2009年4月22日)	Reports06
1536	2009	平成21年2月25日FAX UCN会 森一久より 新潟日報三島氏あての原稿の素稿「原発と地震」についての書評「この混迷からどう抜け出すか— 原子力発電耐震問題の真相に迫る—」	Reports06
1537	2009	NERIC News No.296 2009年2月号 解説 森一久 原子炉開発路線の経緯と矛盾 — 東西対立が生んだ軽水炉の抱える問題(燃料被覆材としてジルコニウムからステンレスへの変更のことなどの指摘も書かれている)	Reports06
1538	2009	Conditions towards Zero-11 Benchmarks for Global Nuclear Disarmament- (核兵器ゼロに向けた議論 4月5日のブラハでのオバマ大統領演説などについて)	Box018
1539	2009	Comment on the Proposal on Japan's Nuclear Development in the 21st Century (System Energy Research Group of Research Center Kuruchatov Institute) : 手書きメモ(11/4に大統領が来るのでそのチームに説明する手配に関するメモ、"もんじゅ"をどうするかなど) : International Herald Tribuneの2010年1月7日の記事(山口つとむ氏(広島・長崎で被ばくし2010年1月4日93歳で死亡)の記事)	Box021
1540	2009	英国防相、核兵器解体の検証技術会議を提案 (イギリスのブラウン国防相の2月5日ジュネーブ軍縮会議での演説の抄訳)	Box021
1541	2009	森一久氏から古田武彦氏への返事 ([1503]の古田氏の原稿内容に対する訂正依頼: 記念碑のための土地の提供は墓地なので森氏一存ではできないことがわかるようにしてほしい)	Box023

1542	2009	公益財団法人第五福竜丸平和協会 代表理事川崎昭一郎氏より森一久氏への財団の顧問への就任依頼	Box023
1543	2009	原天会、小原天会と書いた封筒（原天会運営規定 改定H21年1月23日 原天会幹事（碁会のやり方についての規定）	Box027
1544	2009	「事業仕分け」は禍根を満載 森一久	Box029
1545	2009	森一久 ブログ開設の弁 世界金融危機同時不況の次に来るもの 今回の事態は資本主義の自壊 ほかでかいシステムは扱い方を誤るとエライことになる 原子力は悪用（原爆）から始まったので初めに原子力基本法などの「視」をやった後に着手したが今やその「視」を置き忘れていて原子力関係者への社会評価は惨憺たる状態 厳しい指摘や提言を期待する	UCN_Blog
1546	2009	森一久 斬新で次の時代を見据えた「対策」は無いものか「百年来の経済危機」に「こう変わる」という議論が少なく「元通りになる」という願望を込めた議論が多い 次の時代への展望があれば苦勞のし甲斐がある	UCN_Blog
1547	2009	森一久 原子力施設のセキュリティーをどう考えるか メルマガインターネット版4月25日に石田望氏が「防衛不能の裸国家」として日本の原発は核武装ではなく近隣との友好関係で実現すべしとしている 森氏がかつて試算した原発が攻撃された時の被害想定 通常の爆弾で原子炉容器の破壊は起こりにくい炉心の放射能が放出される可能性はあるので相当な被害になる場合もある 平和利用施設への攻撃禁止条約の再提出や情報開示と冷静な議論が必要	UCN_Blog
1548	2009	森一久 日本人集団のDNAの近年のオンvsオフ症状 一大危機を脱出するヒントを求めてー日本人の事態予知能力が低下している 経済大国などと強者への依存と憧憬に染まっていることからの脱却はトコトン墮ちることしかないのか 大国に滅ぼされる危機意識が聖徳太子の国づくり その後700年で応仁の乱の危機で蓮如が宗教改革 その後700年で金にくらんだ現在の危機 しかし今回は精神構造がやんでいて無宗教だから精神改革は無理 ITが日本を無秩序無原則な社会に変えた	UCN_Blog
1549	2009	森一久 「百年来の経済危機」がもたらすか新「人間像」世界最大の自動車メーカーが一夜にして大赤字に転落し躊躇いも無く首切り減産工場閉鎖に奔る様を目の辺りにして日本人は既に自動車立国などというキャッチフレーズが作られた虚構であったことなど既に気付いている この辺りから人間が変わり「山が動く」可能性を期待しては楽観的過ぎるであろうか	UCN_Blog
1550	2009	森一久 日本人よ人類よ「よいDNA」を何処に置き忘れたの！ 眠っているDNAが危機の時に起きる 人間集団の場合 日露戦争と敗戦後の復興期	UCN_Blog
1551	2009	菅野礼司氏のオピニオン 歴史家と科学史家が協力して歴史教科書をつくろう	Reports06
1552	2009*	環境・エネルギー・原子力に本気で取り組むなら ***何処までやるか、出るかー新政権への期待と不安*** UCN会発の問題提起（鳩山新政権の原子力政策への期待）	Box029
1553	2009*	解説 原子炉開発路線の経緯と矛盾ー東西対立が生んだ軽水炉の抱える問題 森一久（元原子力産業会議専務理事副会長） 東西冷戦と原水爆開発競争ならびに平和利用競争 日本のよろず米国頼み体質の問題点の指摘	Miscellaneous
1554	2010	石田望のメルマガインターネット版（2009年、2010年のメルマガのタイトル表）	Box018
1555	2010	内外政治経済・短期金融市場の動向 橘田週間レポート 2010年1月12日号	Box018
1556	2010	棋道懇談会会報 第138号 4月例会 2010年（会員消息欄に森一久氏が2010年2月3日肺炎のため国立がんセンターで死去 84歳、「思い出を語る会」が3月25日日比谷プレスセンターで行われたとの記事）	Box023
1557	2010	原稿執筆依頼「広領域教育研究会」最終号？（平成22年2月10日発行予定）への原稿依頼（原子力開発の現状は、時限爆弾を抱え始めている（メモ）（可能な行動 軽水炉の改良、安全耐震、放射線基準、研究開発体制と発電体制の抜本改革）（2009年頃の未定稿 人類の脱皮を願って、原爆と戦争道徳）	Box023
1558	2010	堀居太一氏より森一久氏への手紙 平成22年1月8日（碁会の思い出など）（碁会の記事の切り抜き）	Box023
1559	2010	世界・日本の運命の分かれ道ー「寅は千里の藪に棲む」年には既に始まっている 森一久（鳩山首相の発言、地球環境、世界経済など）	Box029

1560	2010	世界・日本の運命の分かれ道-「寅は千里の藪に棲む」年は既に始まっている 森一久 2010年1月7日 ([1559]の原稿に手書きで手を入れたもので、今年最初のブログの原稿の最終稿にしたいと津田さんに宛てた文が書き込まれている。1月7日1100pm)	Box029
1561	2010	会計簿 2010年1月 (UCN会?の出納帳、津田さんが記したもの?)	Box029
1562	2010	地球環境問題がもめ続ける、そこに伏在する真の流れ。-その中からを地球・世界・人類は、今後の千年の運命を選ぶことになる 2010年1月2日	Box029
1563	2010	ヤフー・日本のジオシティーズのサービスと料金表 2010年2月19日	Box029
1564	2010	世界・日本の運命の分かれ道-「寅は千里の藪にすむ」年は既に始まっている 森一久 政権交代 脱石油 途上国の経済発展 先進国の産業の将来 技術開発の限界	Miscellaneous
1565	2010	2010-8-17発信 石田望? あてのFAX (コピー不鮮明で内容が読み取れない)	Box008
1566	2010	N.S.Savannah A Joint Project of the United States Atomic Energy Commission and the Maritime Administration of the United States Department of Commerce (原子力商船計画)	Box008
1567	2010	ウランと地球の不思議な関係 (何かの雑誌か書籍のコラム欄)ウランと地球の不思議な関係 (何かの雑誌か書籍のコラム欄)	Box021
1568	2010	奇抜で殆ど非礼、火傷しそうな提言を渴望する 森一久	Box021
1569	2010	原禮之助「取り戻せ日本のリズムテンポハーモニーを」 民主党政権発足後 半年あまり後 (森さんの原先生稿に対するコメントとともに)	UCN_Blog
1570	2010	森一久「事業仕分け」は禍根を満載 削減率のあまりの低さ	UCN_Blog
1571		2nd annual conference Atomic Energy in Industryの冊子	Box001
1572		死の灰かぐら - 原水爆の農水産業に及ぼす影響 全農労組や民科等共同編集 謹呈版	Box001
1573		英国の原子力法	Box001
1574		Reactorと原子力開発 経済審議庁計画部計画第二課 AE-10	Box002
1575		アメリカの原子力発電資料 原子力平和利用調査会	Box002
1576		体外の線源からの放射線の許容線量 日本放射性同位元素協会	Box002
1577		日英貿易会談に関する件 藤山大臣あて 中川臨時代理大使発 第212号 電信写 ロンドン 4月4日着	Box003
1578		橋本清之助の原稿(週刊朝日「はたして安全か東海村」への反論?)	Box003
1579		Renie's Freeway Map Malibu Beach to Big Bear	Box003
1580		岩波講座物理学I.A. 物理学と数学 小倉金之助	Box004
1581		放出放射能の算定値について	Box004
1582		Nuclear Reactor Data 2 (Raytheon Manufacturing Companyのパンフレット)	Box004
1583		AFC再処理施設予想メーカー及び工事会社リスト マル秘(日本語版)	Box004
1584		現代の産業技術2「電力」川村泰治(雑誌の記事)	Box004
1585		総評の原子力委員長に対する申入書についての反論」日本原子力発電株式会社	Box005
1586		学術会議で議論された主要事項を記したメモ(コールドーホール改良型原子炉についての議論。日本原子力発電株式会社の便箋を使って書いてある)	Box005
1587		鹿児島県立大学放射性同位元素研究会報告 第3号	Box005
1588		宇宙飛行と食料等の問題点 メモ	Box005
1589		米国における原子力政策の方向と原子力発電の発展の可能性 産業構造審議会 小川彰 竹内宏	Box005
1590		海外原子力関係諸会社一覧(アメリカ)	Box005
1591		別表第3(抜粋)(金属加工の機械工を訓練する教科など)	Box006
1592		大手建設3社(大成、清水、鹿島)の比較 手書きメ	Box006
1593		TEMPO Science and Technology in Communist China General Electric	Box006
1594		正式調査書提出(原子炉保険、敷地基準などに関する手書きメモ)	Box007
1595		衆議院商工委員御案内先(議員名リスト)	Box008
1596		地域内24地点の交通 立地調査資料 No.15	Box008

1597	基準・保障などに関する委員の発言メモ(伏見、大屋、真崎)	Box008
1598	災害補償に関する手書きメモ	Box008
1599	発電所の原価項目の乗数算定基礎	Box008
1600	研究主任会の使命について(研究主任会が原研のあり方を批判し改組意見を提出したのに対する反論文?)	Box010
1601	問題点メモ(原子力委員会および原研・動燃・船事業団等のあり方に関する問題点)(原産会議の便せんに書いたメモ)	Box010
1602	財団法人福井原子力センター規程集 財団法人福井原子力センター	Box010
1603	日本科学者会議に関する調査資料	Box010
1604	西独・原子炉安全協会(概要説明)資料3 その2(タイプしたもの)	Box010
1605	デューク・パワー社オコニー原子力発電所1、2、3号炉の運転に関連した最終環境報告書の目次 資料6	Box010
1606	第2回安全環境検討会検討事項(手書きメモ)	Box010
1607	ニューヨーク州原子力発電所所在地の財政について(ニューヨーク州内の原子力発電所所在地の税に関して州の課長が述べたもの)	Box010
1608	新聞記事切り抜き「原子炉の建設中止を」科学者の環境会議が訴え(ノルウェイ・トロントハイムにて「科学の社会責任を追及する協会SFSR」の環境会議)(8月30日の新聞記事)	Box011
1609	原子力委員会等の見直しに関するメモ(手書きメモ)	Box011
1610	動燃、原研等の目的・業務の一覧表	Box011
1611	問題点メモ げんしりょく委員会等(手書きメモ)	Box011
1612	日本における開発体制整備に関する1米人のコメント(タイプしたもの)	Box011
1613	PR事業計画関係費一覧表(日本原子力普及センター)	Box011
1614	朝日新聞 元日号第二部 100人インタビュー	Box012
1615	安全・環境確保のための体制整備に関する要望について(メモ)(手書きのメモ)(原産会議の便せん)	Box013
1616	官庁行事予定表 計画課 10.9(原子炉設置および電気事業申請書改訂関係)(手書きメモ)	Box013
1617	陳述書(当時東京12チャンネルの編成局次長・部長であったため馬場編成課長の当時の行動(「馬場私案」の提出)を弁護するために事情を述べる陳述書)(タイプしたものであるが日付は記入されていない)	Box013
1618	日中原子力関係用語(中国語とそれに対応する日本語を並べた表)	Box014
1619	ソ連と米仏などとの核燃料戦略に関する印象メモ(手書きメモ)	Box015
1620	原子力行政の見直し 参議院議員 玉置和郎	Box015
1621	原子力行政 その見直しII 手書き原稿(原子力の定義、原子炉の種類、ATR、カンドー炉など)	Box015
1622	風の中の葦 第二次世界大戦中の簡単な集約(1) 森居慶子	Box015
1623	リチャード・ローズの本の抜粋 下巻 第18章 トリニティ(三位一体)(トルーマン大統領関連)	Box016
1624	LansingのDay of Trinityに対する当事者の一人のコメント	Box016
1625	Historical Perspectives Willam C. Roesch(原爆影響調査の歴史について記したもの)	Box016
1626	原子力を容認するための条件 ミュンヘン工科大学 森永晴彦(大事故が起こったときの被害を最小化する対策をしておくこと)	Box018
1627	Re-examining the guidelines on key test for prostate cancer Jane E. Brody Health & Science(前立腺がんに対するPSA検査の疑問点)	Box018
1628	民主党のマニフェストのエネルギーに関する部分のコピー	Box018
1629	立地問題ヒアリングまとめ(高レベル廃棄物、高レベル以外の廃棄物、電源立地などに関する質問と森島、川上、田中の回答を表にしたもの)	Box018
1630	Russia ITER Council(メンバー表 4人のロシア人の名前が書かれている)	Box018
1631	地図と名簿(広島市の地図の山根家に印あり)	Box018
1632	「いつの日か」(数億年後に地球にきた宇宙人が消えていった先住生物の跡を見るだろう)	Box019

1633	The Buisness of the Japanese State Energy Markets in Comparative and Historical Perspective Richard J. Samuels Cornell University Press Ithaca and London	Box021
1634	Nuclear Cellの合理化(2万キロワット以下の超小型の静的発熱装置の提案)	Box021
1635	11月と12月の予定表?(競馬場?)	Box021
1636	報告書に示された各技術の達成度の整理(山名報告書から)(核燃料サイクル・核変換技術の一覧表)	Box023
1637	元素、原子量、宇宙と地殻における存在度 岩波の書籍のコピー 付表1 p.277	Box023
1638	手書きメモ(ウラン資源に関する資料についての礼状の原稿?(地球環境のためといつつ長期的展望なく原子力を増加させることには反対)	Box023
1639	手書きメモ(原子力の歴史、国民の心情・植田理論)	Box023
1640	高レベル放射性廃棄物の処分について 経済産業省資源エネルギー庁	Box023
1641	Japan Radiation Association 日本アイソトープ協会 パンフレット	Box024
1642	将来世代 future generationの用紙に書いたメモ 何人かの講演(藤永=海洋科学、西村=禅、牧二郎=オープンハイマー、桐島=性差、小松智光=寂光院、モレシャン=アイデンティティ、西岡=版画、金=現在世代)の内容をメモ書きしたもの(手書き)	Box024
1643	原子力の意味とそれを具現化するための基礎問題(手書きのメモ)(原子力は原子分子と全く違う世界、原子力企業の責任感の欠如、燃料サイクル全部核分裂し尽くすべき動燃のナトリウム高速増殖炉批判、ITERの日本誘致批判、など現状を憂えるメモ)	Box024
1644	ごあいさつ(内容から見て元京大原子炉実験所所長、近大原子炉研究所所長の柴田俊一氏の「原子炉実験研修」一時中止の挨拶と思われる)	Box024
1645	囲碁英語(囲碁で使われる用語の英訳表)	Box027
1646	写真(囲碁会の時のもの?)	Box027
1647	第20回原子力囲碁大会の写真	Box027
1648	コンビさんとの懇談トピックス(原子力の平和利用に関する対談のための準備メモ?)	Box029
1649	世界がこれらのディレンマから脱却して・・・(今年のこれからのブログで順次論ずる予定)(ブログのための草稿の一部)	Box029
1650	現代社会を支えている技術は原子力から一原子力を拒否する人へ 原禮之助	Box029
1651	日本の政治・社会・経済がリズム、テンポ、ハーモニー取り戻すとき!! 原禮之助	Box029
1652	Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan Kazuhisa Mori	Reports02
1653	森一久 写真(ベトナム語?のタイトル)	Personal_Record
1654	森一久 朝日新聞人物データベース調査票のための手書き原稿(原産専務理事時代)	Personal_Record
1655	森専務略歴(200字) 原稿用紙に手書き(原産会議の誰かが書いたもの)	Personal_Record
1656	第2章 わが国の国内的対応策(手書き草稿)(東南アジア途上国との国際協力に関して国内の対応策を述べたもの)	Reports01
1657	Puの等級表(原子炉級は240Puが18%以上のため核兵器(7%以下)に向かないことの説明に使ったものか)	Reports02
1658	脳とはどんなコンピュータか 電子技術総合研究所 松本元 脳と学習 脳と価値 脳科学と宗教	Reports02
1659	?新聞家庭欄 21世紀への医療ルネサンス 子供の心臓病1および2	Manuscript04
1660	人名録 295ページ 森一久 原産会議副会長	Manuscript04
1661	2つの論文(炉のPu生産予想精度、物質の出荷受入者の量の相違など)のメモとH. Gerhard Flaemigのコメント(西独の軍事事情など)のメモ(手書き)(原産会議の便せん)	Box012
1662	原爆体験と日本の原子力 森一久(日本の原子力開発の通史的な論考)(原稿用紙に手書き原稿)	Manuscripts

1663	デッサン会の会報のための原稿 竹内孝(横川駅裏) (おそらく森氏に送られ Box029 できた広島同級生?竹内氏の随筆「悪童の思い出話」)	
1664	長い夜の夢ー日本システムのTQAー 森一久 最近の「不祥事」と「謝罪」に対するコメント 省庁再編等の「改革」などを論じている 日本システムに 関与する人間の品性の品質保証が必要ではないか	Reports03
1665	新しい教育システム機構の概念(例示・素案) および 主な原子力事故(ないし事象)の原因及び拡大の要因(前者は電力・メーカー・研究機関・大学が相互に教育しあう機構の表 後者はもんじゅ事故などいくつかの原因等の並べた表)	Reports05
1666	新教育システムの構築へ 人材確保はすぐれてトータルな「質」の問題 原産副会長 森一久	Reports05
1667	「人口と開発」誌 巻頭言「調整」からの脱却ー「革命」は不可避かー 森一久[1138]の原稿	Reports05
1668	次世代に贈る言葉 広島県立広島第一中学校昭和17年卒業 壬午会「老いの戯言(ざれごと)か」 小林哲郎 ほか	Reports05
1669	第五福竜丸平和協会のパンフレット あなたの町でも第五福竜丸展をひらきませんか	Reports06
1670	夢の島パークのチラシ (第五福竜丸展示館を含む)	Reports06
1671	ウラン資源に関する手書きメモ (木藤氏宛にFAXしたもの?)	Reports06
1672	下山総裁の追憶 能代淵錦作(元大関)「旦那(菅禮之助氏のことか?)と私」 第五福竜丸展示館チラシ (3つの資料の関連性不明)	Reports06
1673	4月13日 ペン書き手紙 田ノ岡 宏 氏より森一久氏宛 放医研に移って近況を知らせる内容	Letters01
1674	クルチャトフ研究所のEvgeniy P. Velikhov所長より原産森一久氏宛 森氏から提案があったアイソトープ分離および環境問題についての共同研究に対する返信	Letters01
1675	4月30日植松氏よりの情報(ペン書きメモ) 森英介(自民)54才 紹介者板野氏 川重関係	Letters01
1676	原産森一久氏よりベトナムエネルギー協会(Institute of Energy)会長 Pham Khanh Toan氏宛 弔電申込用紙 エネルギー協会の原子力火力発電環境部門長Nguyen Huu Thanh氏の逝去を悼む	Letters01
1677	国前寺の自昌院筆の かなの題目(なむめうほうれんげきやう) 細字法華経一巻の見返し図 妙法蓮華経序品第一の巻頭	Buddhism01
1678	地球と火星の比較 原油の生産量と輸入量 顕微鏡液浸法で染色 などの手書きメモ	Miscellaneous
1679	手書きメモ(記事を書くための要点か?) システムこん 団塊の世代 経緯 経験の継承のむつかしさ 原爆経験に立脚して 被爆国の平和利用 能力があるのに平和に徹する日本	Miscellaneous
1680	高速炉開発の現状と問題点(手書きメモ) A炉開発 炉型選択の幅(Naとしたこと)は狭すぎないか 国際協業の問題 B燃料システム Naなら酸化物だろうがガス炉等に対する検討も必要? 酸化物これまでJAEAと日本原燃がバラバラにやってきた 中心になるメーカー? なければ合同体?	Miscellaneous

事項別資料目録

生い立ち 経歴

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
2	1945	高師附属中昭和14年卒クラス会の刊行 昭和20年の日記から 三島良績	Box025
22	1954	Hiroshima Atomic Bomb August 1945	Box025
116	1956	原子爆弾被爆者の医療等に関する法律	Box007
216	1961	緊急被ばく特別部会報告書 放射線審議会 昭和36年7月28日	Box002
500	1972	広島県史一原爆資料編 今堀誠二広島大名誉教授編集	Box020
628	1982	Historical Sketch of the Scientific Field Survey in Hiroshima	Box020
641	1983	昭和58年9月30日発行 広島高等学校創立60周年記念 青春回想録	Manuscript04
700	1988	新聞記事 1988年3月9日	Manuscripts01
715	1988	森一久 略歴(紳士録用の原稿?)昭和63年6月1日	Personal_Record
716	1988	森一久 履歴書 昭和63年	Personal_Record
725	1988*	広島で原爆テスト―極秘情報―水田泰次 の文章	Reports05
738	1989	財界 1989年8月8日号 森一久 羅什の顔	Manuscripts01
744	1989	森一久氏が引き受けている 外部委員会、団体等の役職一覧	Personal_Record
746	1990	広島の被爆建造物―被爆45周年調査報告書―被爆建造物を考える会	Box018
749	1990	私信(森一久氏 手書き原稿)(疋田・さん(森家菩提寺住職)へ)	Manuscripts01
755	1990	森一久専務理事 外部よりの委員委嘱一覧表 平成2年	Personal_Record
757	1991	庄野氏より森一久氏宛	Box020
770	1992	森一久 履歴書 平成4年6月1日現在	Personal_Record
788	1993	1993 August 20 Issues on Nuclear Non-Proliferation Treaty	Reports02
794	1994	Larry Armstrongの写真	Box018
795	1994	Larry Armstrongから森一久への礼状 1994年5月4日	Box018
796	1994	Larry Armstrongの被爆者たちに捧げる詩など	Box018
799	1994	清水榮氏より森一久氏への私信 平成6年5月21日	Box020
808	1994	広島総合事務所からの会員への連絡文 1994年3月31日	Box025
809	1994	写真展(原爆の半世紀 目撃者は語る)のチラシ	Box025
814	1994	第27回原産年次大会「広島市民と語る夕べ」	Reports02
815	1994	第27回原産年次大会 広島宣言	Reports02
821	1994	1994年5月1日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
825	1994	平成6年3月11日 中国新聞?	Manuscript04
844	1995	第2回世界将来世代京都フォーラム―被爆50周年	Box025
845	1995	ニューズウィーク HIROSHIMAドキュメント「決断」にいたる道	Box025
852	1995	中国新聞記事 1995年6月24日 ヒロシマ50年被爆者実態調査	Box025
853	1995	手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」	Manuscripts03
863	1995	「人類の脱皮をねがって」森一久 平成7年10月6日の講演のための草稿	Reports02
871	1995	1995年1月3日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
877	1995	廣高とヒロシマ―被爆50年の回想― 広島高等学校同窓有志の会 森一久	Reports02
885	1996	IPPNW(核戦争防止国際医師会議)講演会 芳賀メモ	Box020
887	1996	IPPNW(核戦争防止国際医師会議)講演会平成8年6月29日	Box020
892	1996	新国策 平成8年11月15日号 日本原子力産業会議副会長 森一久	Manuscripts02
894	1996	Kazuhiisa Mori Personal Record(英文) 平成8年頃まで	Personal_Record
895	1996	森一久 履歴書 平成8年7月現在	Personal_Record
910	1996	広島県医師会速報(第1586号)平成8年7月25日号	Reports03
912	1996	広島県医師会速報(第1590号)平成8年9月5日号 1ページ目	Reports03
913	1996	読売新聞 平成8年8月9日 21世紀へ届け「ヒロシマの夏」の記事	Reports03

955	1997	森一久 履歴書 平成9年頃まで	Personal_Record
961	1997	エネルギーいんふおめいしょん 1997年10月号	Reports03
981	1997	国際原子力フォーラムシンポジウム	Reports04
997	1997	平成9年8月1日付け 京大物理昭和22年卒 第2回クラス会のご案内	Manuscript04
1021	1998	エネルギー総合推進委員会 第343回常任委員会記録	Reports04
1026	1998	1998年12月18日森一久より木藤啓子宛FAX	Buddhism01
1036	1998	平成10年11月7日 第30回旧制高校囲碁会参加者	Manuscript04
1054	1999	日本子孫基金 討論会記録	Manuscripts03
1066	1999	日蓮宗新聞 平成11年12月20日	Reports06
1074	1999	1999年11月1日JTSジャパンツアーシステム広島が作った日程表	Buddhism01
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録	Manuscripts03
1132	2000	平成12年刊 廣高とヒロシマ 被爆50年の回想	Miscellaneous
1133	2000*	11月23日 森氏と中学同級の平田嘉三氏よりの手紙	Manuscript04
1153	2002	社団法人 日本工業倶楽部 会報第200号 平成14年4月号	Reports06
1324	2005	BMJ再投稿原稿(050905)和訳ver.7 2005年5月12日	Box019
1388	2007	平成12年刊 廣高とヒロシマ 広島高等学校同窓有志の会 水田泰次	Miscellaneous
1403	2007*	森一久氏略歴 オーラルヒストリーの目次など	Reports06
1436	2008	毎日新聞の記事 2008年3月16日「発信箱」というコラム記事	Box023
1448	2008	毎日新聞 2008年3月16日 発信箱欄 藤原章生(夕刊編集部)の記事	Reports06
1481	2008	ヒロシマ体験の記	Manuscripts02
1506	2009	毎日新聞の記事 2009年8月11日 品格を持ち平和利用を	Box023
1520	2009	毎日新聞 平成21年8月11日	UCN_Blog
1531	2009	毎日新聞記事と滝野記者から森一久氏宛私信付きFAX	UCN_Blog
1533	2009	囲碁を文化と世界平和の使節に! オバマ大統領宛のメッセージ	Reports06
1539	2009	Comment on the Proposal on Japan's Nuclear Development	Box021
1631		地図と名簿(広島市の地図の山根家に印あり)	Box018
1663		デッサン会の会報のための原稿 竹内孝(横川駅裏)	Box029
1668		次世代に贈る言葉 広島県立広島第一中学校昭和17年卒業 壬午会	Reports05
1679		手書きメモ	Miscellaneous

中央公論社時代

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
10	1953	東洋経済新報 別冊第15号 昭和28年9月10日 森一久	Manuscripts02
11	1953	婦人公論 昭和28年8月号 工場の女性の幸福を求めて	Manuscripts05
21	1954	不思議な国の原子力 エコノミスト(4月21日号~5月26日号)より収録	Box011
23	1954	週刊東洋経済新報 昭和29年5月15日号のコピー 森一久	Manuscripts02
25	1954	原子力発電の経済的影響 湯川秀樹序 森一久訳 Shurr & Marschak	Miscellaneous
70	1955	週刊エコノミスト 昭和30年9月17日号のコピー	Manuscripts02
71	1955	週刊エコノミスト 昭和30年8月20日号のコピー 間弘明	Manuscripts02
72	1955	エコノミスト 昭和30年8月20日号	Manuscripts05
73	1955	エコノミスト 昭和30年7月2日号 座談会(上)	Manuscripts05
74	1955	エコノミスト 昭和30年7月9日号 座談会(中)	Manuscripts05
75	1955	エコノミスト 昭和30年7月30日号 穴ボコだらけの日米原子力協定	Manuscripts05
76	1955	エコノミスト 昭和30年9月17日号 原子力発電売込みを切る	Manuscripts05
77	1955	エコノミスト別冊 昭和30年6月10日号	Manuscripts05
78	1955	エコノミスト 昭和30年9月3日号 武谷三男などの論文	Manuscripts05
94	1955	「夏の学校のお知らせ」	kondankai
111	1956	エコノミスト 昭和31年1月14日号 今年の原子力一座談会	Manuscripts05
112	1956	エコノミスト 昭和31年3月10日号 48ページ 正体見たり 原子力発電	Manuscripts05
117	1956	手書きメモ: Fusion Newsweek 16. Jan.のトップ記事	Memoranda

118	1956	手書きメモ: Economics of G.E.'s New Dual Cycle B.R.	Memoranda
119	1956	手書きメモ: 4月10日室内会議メモ	Memoranda
121	1956	手書きメモ: 核分裂 核融合 原爆 水爆 原子炉 等に関する説明メモ	Memoranda
122	1956	手書きメモ: 予算に関する大蔵省の考え方3点などのメモ	Memoranda
123	1956	手書きメモ: Chicago Commonwealth-Edison Company	Memoranda
124	1956	手書きメモ: 1月11日の動向 原子力局への働きかけ	Memoranda
125	1956	手書きメモ: 参与25人 原子力白書10万 情報誌月2回48万200部 など	Memoranda
126	1956	手書きメモ: 何かの会のメンバーの原案づくり?	Memoranda
127	1956	手書きメモ: 前ページと同じ委員会かどうか分からないが候補者名	Memoranda
128	1956	手書きメモ: 委員会 有澤氏欠席 神経痛、大蔵省対応策、大臣折衝	Memoranda
129	1956	手書きメモ: Exponential Experiments on D ₂ O-U	Memoranda
130	1956	手書きメモ: 参与と専門委員の名簿	Memoranda
132	1956*	手書きメモ: 9日に決定した原子力委員会	Memoranda
133	1956*	手書きメモ: 湯川先生からの伝言	Memoranda
138	1957	東洋経済 ビジネス 1957.8	Box006
144	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年4月1日 創刊号のコピー 間弘明	Manuscripts02
145	1957	アナリスト 昭和32年8月号のコピー 森一久	Manuscripts02
146	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年5月 間弘明	Manuscripts02
147	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年7月 間弘明	Manuscripts02
149	1957	ビジネス 1957年5月号 発電用第一号原子炉の身もと調査	Manuscripts05
150	1957	ビジネス創刊号 昭和32年4月 原子力をめぐる三つの話題(間弘明)	Manuscripts05
151	1957	アナリスト 昭和32年8月号 18ページ	Manuscripts05
152	1957	エコノミスト 昭和32年5月18日号 原子力平和利用の新展開 伏見康治他	Manuscripts05
163	1958	エコノミスト 昭和33年3月29日号 原子力災害は天災か など	Manuscripts05
188	1959	エコノミスト 昭和34年4月21日号 不思議な国の原子力1	Manuscripts05

原子力

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
6	1950	Geology of the Fissionable Materials George W. Bain	Box004
12	1954	Atomic Energy Act of 1954	Box001
13	1954	原子力に関するソ連と米国の協議の記録New Times No.40(1954)	Box001
19	1954	Availability of USAEC Research and Development Reports	Box004
21	1954	不思議な国の原子力 エコノミスト(4月21日号~5月26日号)より収録	Box011
23	1954	週刊東洋経済新報 昭和29年5月15日号のコピー 森一久	Manuscripts02
25	1954	原子力発電の経済的影響 湯川秀樹序 森一久訳 Shurr & Marschak	Miscellaneous
27	1954	アメリカ原子力法の改正をめぐる諸問題 世界経済研究所第71集	Box001
38	1954	民主主義科学者協会物理部会 速報No.1	kondankai
39	1954	原子核特別委員会議事要録「原子力問題について」1954.7.17	kondankai
42	1954	各メーカー(エジソン、ベクトル、ほか2社)の原発の仕様リスト	Box001
44	1954	8月10日 原子力の現状(大塚益比古の講演?)のメモ	Box001
46	1955	Nuclear power plantsの翻訳(液体金属熱交換と蒸気発生)	Box001
56	1955	声明(日米原子力協定)1955年6月22日 東京大学教養学部物理学教室	Box002
57	1955	学術情報 No.27 特集 原子力の平和的利用 文部省大学学術局	Box004
62	1955	世界週報 1955年3月21日号 イギリス原子発電計画白書 時事通信社	Box006
63	1955	原子力工業 特集・原子力国際会議発表論文 日刊工業新聞社 Vol.1 No.7	Box007
64	1955	原子力予算とその実施の経緯について 昭和30年1月 工業技術院	Box007
65	1955	原子力発電計画 1955年2月 英国政府 燃料・動力省	Box007
68	1955	ジュリスト 原子力問題特集 有斐閣 No.93 11月1日号 1955年	Box007
70	1955	週刊エコノミスト 昭和30年9月17日号のコピー	Manuscripts02

73	1955	エコノミスト 昭和30年7月2日号 座談会(上)	Manuscripts05
74	1955	エコノミスト 昭和30年7月9日号 座談会(中)	Manuscripts05
75	1955	エコノミスト 昭和30年7月30日号 穴ボコだらけの日米原子力協定	Manuscripts05
76	1955	エコノミスト 昭和30年9月17日号 原子力発電売込みを切る	Manuscripts05
81	1955	アメリカの新原子力法 とくに、いわゆる双務協定を理解するための手引き	Box001
85	1955	原子力委員会設置法案	Box005
93	1955	東京大学教養学部物理学教室有志声明 日米原子力協定について	kondankai
96	1956	原子力機関車について 昭和31年1月 原子力資料	Box002
98	1956	原子力工業 日刊工業新聞社 Vol.2、No.6、Jun.1956	Box003
99	1956	Atomic Energy A Financial Times Survey 昭和31年	Box003
104	1956	長期エネルギー需給想定の問題点	Box006
105	1956	イギリス原子力発電計画の背景 <原子力メモ> 第4号	Box006
107	1956	原子力工業 日刊工業新聞社 Vol.2 No.3 Mar. 1956	Box007
109	1956	国際原子力協定締結状況<原子力メモ> 第7号 昭和31年7月16日	Box007
111	1956	エコノミスト 昭和31年1月14日号 今年の原子力一座談会	Manuscripts05
112	1956	エコノミスト 昭和31年3月10日号 48ページ 正体見たり 原子力発電	Manuscripts05
118	1956	手書きメモ: Economics of G.E.'s New Dual Cycle B.R.	Memoranda
120	1956	Industrial and Engineering Chemistry	Memoranda
125	1956	手書きメモ: 参与25人 原子力白書10万 情報誌月2回48万200部 など	Memoranda
131	1956	原子力委員会の100日一何を議論したかー 創設時の記録 村田浩	Box022
132	1956*	手書きメモ: 9日に決定した原子力委員会	Memoranda
134	1956*	海外反響いまのところなし 正力のその後の動静 2段構えの譲歩 裏の動き	Memoranda
136	1957	ソ連の原子力 航空幕僚監部調査課 調査資料第21号 昭32.3.20	Box002
137	1957	Theoretical Possibilities and Consequences of Major Accidents	Box003
139	1957	原子力工業 Vol.3 No.10、OCT. 1957 日刊工業新聞社	Box006
140	1957	原子力工業 Vol.3 No.9、SEPT. 1957 日刊工業新聞社	Box006
151	1957	アナリスト 昭和32年8月号 18ページ	Manuscripts05
153	1957	資料国際事情 1957. 10. 10 (No.232) 国際事情研究会	Box003
154	1957	何のための誰のための原子力	Box007
155	1957	原子力発電に対する当社の立場について 内海清温(水力の必要性)	Box001
163	1958	エコノミスト 昭和33年3月29日号 原子力災害は天災か など	Manuscripts05
164	1958	ノートS33 原子力に関する中共要人発言集(1955年頃中心)など	Box005
165	1958	わが国における原子力の研究体制について 東京大学総長 矢内原忠雄	Box008
166	1958	Marcoule and Pierrelatte: the Birth of the French Nuclear Industry	Box020
171	1959	総評議長 太田薫から 原子力委員会委員長 中曽根康弘への申入書	Box005
172	1959	日本社会党の総理大臣及び原子力委員会委員長への申入書	Box005
177	1959	Financial Times(?)の切り抜き 34.8.	Box005
183	1959	時事通信 経済解説版「解説 発電炉の安全と経済性に疑問	Box007
188	1959	エコノミスト 昭和34年4月21日号 不思議な国の原子力1	Manuscripts05
193	1959	英国型原子力発電設備の経済上の問題点	Box008
198	1960	世界(岩波) 昭和35年6月号「骨抜きになった原子力災害法」	Box002
206	1960	石川一郎原子力委員海外出張記録(1960年9月15日~10月28日)	Box020
207	1960	Meet Citizen Atom The New York Timesの広告ページ Dec.11、1960	Box002
211	1960	附帯決議(原子力損害に関する法律の附帯決議)	Box008
212	1960	原子力損害賠償補償契約に関する法律 案	Box008
216	1961	緊急被ばく特別部会報告書 放射線審議会 昭和36年7月28日	Box002
221	1961	原子力開発利用長期計画 昭和36年2月8日 原子力委員会	Box007
226	1961	原子力損害の賠償に関する法律案に対する修正案要綱(36.5.9)	Box008
227	1961	原子力施設安全管理専門視察団 チーム計画編成のための必要資料	Box008
229	1961	日米原子力産業合同原子動力会議 1961年12月5日-8日	Box003
231	1961	原子力損害の賠償に関する法律案	Box008

232	1961	原子力損害の賠償に関する法律案に対する修正案要綱	Box008
234	1962	原子力に関する安全性の概要とその分類	Box007
235	1962	Civilian Nuclear Power a Report to the President- 1962	Box008
236	1962	Joint Statement Japan-U.S. Atomic Industrial Forums' Conference	Box008
238	1962	日米原子力会談	Box008
242	1962	日仏原子力技術会議	Box002
243	1962	History of Nuclear Power Cooperation between France and Japan	Box020
244	1962	海外との原子力交流の概説 日仏の部分のコピー	Box020
247	1963	ラジオ・アイソトープ工業利用実態調査報告書 科学技術庁原子力局	Box002
248	1963	原子力関係防災計画(案) 茨城県原子力事務局 昭和38年8月	Box002
251	1963	原子力発電の現状 原子力産業部会資料4 38.7.18	Box005
258	1963	日米原子力会談の概要 38. 1. 17	Box008
263	1964	廃棄物処理専門部会報告書(抜粋) 昭和39年6月12日	Box003
264	1964	最近の原子力産業の展望 森一久 日本機械学会誌 第67巻 第540号	Box010
268	1965	原子力発電政策の確立を要望する 第14次レコメンデーション	Box005
282	1966	原子力工業 1966年6月号 特別記事	Box012
283	1966	勘定科目内訳書 自昭和41年4月20日 至昭和41年12月31日	Box012
296	1967	原子力産業新聞 第401号 昭和42年10月5日	Box004
298	1967	原子力開発利用長期計画 昭和42年4月13日 原子力委員会	Box009
311	1967	放射線開発課 昭和42年度事業計画(案) 42. 2. 22	Box011
316	1967	Radioactive Waste Disposal Operation into the Atlantic 1967	Box011
317	1967	放医研ニュース	Box012
323	1967	原子力特許 昭和42年12月末現在 日本の原子力特許公告件数の表	Box013
334	1967	トロン壺 -人工放射能泉について-	Box011
341	1967	安全性の確立(原子力安全研究協会の活動方針か?)(手書きメモ)	Box011
348	1968	昭和43年度原子力関係予算政府原案総表 43. 1. 16 原子力局	Box010
356	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について(案) 43. 3. 12	Box011
357	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について 43. 3. 14 原子力委員会	Box011
358	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について 43. 3. 14 原子力委員会	Box011
359	1968	現行の原子力開発体制での問題点 43. 7. 23 (手書きメモ)	Box011
367	1968	原子力に対する安全確保上の措置に関する要望書 昭和43年 月 日	Box011
368	1968	原子力に関する安全確保上の措置に関する答申書 昭和43年1月	Box011
372	1968	原子力産業新聞 第429号 昭和43年6月17日	Box012
374	1968	原子力軍艦放射能調査指針大綱 科学技術庁原子力局	Box013
376	1968	海域放出特別部会報告書 放射線審議会 昭和43年12月26日	Box013
379	1968	放射線管理組織の基本的問題 -放射線取扱主任者の地位に関する検討	Box013
384	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について(案)原子力委員会	Box010
386	1968	原子力委員会ならびに各開発機関のあり方について(案) 43. 6. 22	Box011
391	1968	ソ号寄港にともなう放射能調査について	Box013
393	1968	原子力開発の歴史(年表その1)1895-1968	Reports02
394	1968	原子力施設環境問題漁業者調査団の報告書抜粋 報告書は昭和43年3月	Reports06
395	1968	米原子力空母の安全性に関する米側よりのファクトシート	Reports06
400	1968	原子力委員会及原子力局に第一の責任は何か	Box010
427	1970	日本経済の発展に伴うエネルギー需要と対応する原子力について予測メモ	Box014
439	1970	Questionnaire to USAEC (米国原子力委員会への質問事項メモ)	Box012
447	1971	自民党政務調査会とエネルギー関係業界代表との第1回会合(予定表)	Box010
450	1971	電気事業における公害と原子力 46. 8. 18 東京電力副社長田中直治郎	Box010
455	1971	原子力着工地点表(昭和46年度長計中電協資料より)	Box010
460	1971	長期計画専門部会の設置について 46. 6. 17 原子力委員会	Box013
470	1971	現在考慮すべき項目例	Box011
471	1972	原子力地帯整備事業財源内訳一覧 47. 6. 8	Box010

475	1972	米国における原子力発電所の建設許可・運転認可手続き	Box010
481	1972	原子力発電所周辺地帯整備計画並びに関連する整備計画の構想	Box010
482	1972	原子力発電所周辺地帯整備計画並びに関連する整備計画の構想 敦賀市	Box010
491	1972	原子力開発利用長期計画 昭和47年6月1日 原子力委員会	Box013
492	1972	原子力開発利用長期計画概要 昭和47年5月 原子力局	Box013
499	1972	共同通信講演 47.4.8 講演メモ	Box014
501	1972	放射性廃液の海洋放出調査特別委員会 5カ年研究成果報告書	Reports06
503	1972	(付表) 主な環境・安全問題	Box013
508	1973	昭和48年度都市計画事業(うち原子力地帯整備事業)財源内訳	Box010
509	1973	昭和48年度都市計画事業(うち原子力地帯整備事業)財源内訳	Box010
510	1973	日ソ民間原子力協定 昭和48年6月 訪ソ 関係封筒の表書き	Box012
519	1973	The causes of nuclear power plant delays	Box014
523	1973	発言要旨 手書きメモ	Box010
527	1973	原子力関係用語(ロシア語と対応する日本語の表)	Box015
533	1974	奥尻島・原子力立地調査の概報と推撰 昭和47	Box010
538	1974	Low-Level Radiation 1974 Nuclear INFO series	Box013
539	1974	一ツ橋大学開放講座「原子力発電の功罪」都留重人 49. 9. 19	Box013
542	1974	毎日新聞社説 昭和49年?1月28日 原子力長期計画は全面的改定へ	Box021
553	1975	原子力関係団体の整理統合要綱(試案) 50. 6. 9	Box010
555	1975	役員名簿 昭和50年5月26日 茨城県原子力開発協議会	Box010
566	1975	財団法人茨城県原子力センターの設立について	Box010
568	1975	ソ連引合100万KW原子力発電プラント用一次系商談の件	Box015
578	1976	放射性個体廃棄物の深海投棄に関するシンポジウム 講演要旨	Box013
579	1976	米国・カナダ原子力調査団報告書 全国電力労働組合連合会 1976.8	Box014
587	1977	モスクワ(ソ連国家原子力利用委員会との会談)出張精算	Box015
589	1977	日本の原子力開発の問題 昭和52年3月現在の大日程	Box015
590	1977	日本平和学会レポート 原子力エネルギーの未来	Reports01
591	1977	日ソ民間原子力協定記事 毎日新聞・朝日新聞	Box012
602	1979	原子力に関する出来事を羅列したメモ(手書き)	Box029
605	1980	原子力発電所周辺の防災対策について 昭和55年6月	Box015
608	1981	PAに影響する社会的ならびに心理的要因に関する調査研究	Box014
609	1981	エネルギー、特に原子力のPAについての根本的考察 稲葉秀三	Box015
610	1981	漁協系統原子力発電所問題 海外研修報告書 昭和56年9月	Box015
611	1981	Nuclear Physics Nuclear Power GIREP Conference	Box015
615	1982	エネルギー問題と学校教育について 昭和57年10月12日	Reports01
616	1982	早大100周年記念シンポジウム 核エネルギーと人類の将来 森一久	Reports01
618	1982	原子力学会誌 24巻9号(1982) これからの原子力開発 森一久	Reports01
621	1982	日本青年会議所テーマ別「理事長サミット」1982年1月24日	Reports01
635	1983	エネルギーレビュー 1983年9月 徹底討論	Reports01
636	1983	電気新聞 1983年6月7日 人欄 森一久 日中原子力協力に手応え	Reports01
639	1983	懇談要旨(メモ) 1983年3月11日	Reports01
640	1983	電気関係の雑誌の記事 特別座談会 原子力一転換期と21世紀への展望	Reports01
654	1984	北海道政経文化同友会(PEC) 1984年9月28日札幌での講演	Reports01
655	1984	ENERGY and HUMANITY2 1984年8月 日本の原子力産業を考える	Reports01
663	1985	エネルギーフォーラム 1985年4月号 これからの原子力産業政策を探る	Reports01
670	1986	日本損害保険協会「予防時報」1986年秋 147 座談会	Reports01
672	1986	国際評論社 LA INTERNATIONAL 1986年7月 ソ連原発事故の衝撃	Reports01
675	1986	信濃毎日新聞 昭和61年5月19日 原発問われる安全性	Reports01
676	1986	朝日新聞 昭和61年4月30日夕刊 および 読売新聞 5月1日朝刊	Reports01
680	1987	チェルノブイル原子力発電所事故に係る食品中の放射能濃度の暫定限度	Box004
684	1987	森一久氏の卓話写真 広高四木会第77回例会のご案内	Box016

690	1987	寿命調査第11報 第1部	Box016
692	1988	「コロンビア川の放射能の濃縮データ」(原稿の一部内容の吟味)	Box004
703	1988	週刊文春 昭和63年6月16日 田原総一郎の主役を撃つ	Manuscripts01
706	1988	日刊工業 昭和63年8月2日 原発不安の周辺 検証欄 森一久	Manuscripts01
712	1988	公明 昭和63年9月1日 特集日本の原発—30年目とこれから—	Manuscripts01
726	1989	原子力産業の曲り角 一日米欧にみる10年の推移と新しい兆し— 桜井淳	Box004
729	1989	毎日新聞 平成元年1月29日 討論(上) 高木仁三郎	Manuscripts01
731	1989	原子力産業新聞 平成元年1月12日 皇室と原子力	Manuscripts01
739	1989	ニュークレオニクスウィーク誌 8月3日号	Manuscripts01
742	1989	プロメテウス 平成元年? 森一久氏へのインタビュー記事	Manuscripts01
752	1990	「日ソ記者」序文(森一久手書き草稿) 平成2年1月5日	Manuscripts01
760	1991	N-20のはじまり(日仏原子力専門家会合(N-20)発足の経緯、開催一覧	Box020
765	1992	高木仁三郎の暑中見舞い 平成4年	Box018
766	1992	生活環境放射線(国民線量の算定) 原子力安全研究協会	Box020
785	1993	森専務 仏出張日程表 平成5年9月16日現在	Reports02
792	1993	平成5年9月16日 森専務理事 仏出張日程表	Manuscript04
800	1994	週刊プレイボーイ 1994.11.22 No.47	Box021
801	1994	週刊プレイボーイ 1994.11.29 No.48	Box021
802	1994	週刊プレイボーイ 1994.12.6 No.49	Box021
803	1994	週刊プレイボーイ 1994.12.13 No.50	Box021
813	1994	原子力をとりまく日本の社会的政治的状況 平成6年10月25日 森一久	Reports02
818	1994	日本経済新聞 平成6年3月26日夕刊	Reports02
827	1994	原子力損害賠償制度の現状と課題 21世紀フォーラム No.100 p72	Box019
835	1995	週刊プレイボーイ コメント	Box021
838	1995	私の原子力産業における保健問題への取組と今後の課題 安本正	Box024
846	1995	趣味と人生 特に切手収集について 平成7年7月19日 三島良績	Box025
859	1995	フランス科学アカデミーの1995年10月報告	Reports02
860	1995	フランス科学アカデミーの報告「低線量放射線の影響に関する諸問題」	Reports02
861	1995	電離放射線の低線量影響に関する諸問題 報告No34	Reports02
869	1995	朝日新聞平成7年6月17日 戦後50年メディアの検証 原子力報道	Reports02
880	1995	日本におけるX線研究の揺籃期の二名著	Box023
890	1996	社会制度と原子力(その2) Alvin M. WEINBERG 河田東海夫 訳	Box025
898	1996	N-20(第5回日仏原子力専門家会合)における森一久氏のコメント草稿	Reports02
903	1996	1996年2月28日 通産省 塚原大臣訪問事前資料	Reports02
908	1996	新国策 平成8年11月15日 4ページから18ページおよび26ページ	Reports03
914	1996	原子力開発の歴史(年表その1)単行本「原子力にルネサンスを」の資料	Reports03
918	1996	The 12th Japanese-German Meeting on Nuclear Energy	Box020
921	1996	原子力にルネサンスを 歴史からの未来へのカギ	Miscellaneous
926	1997	原子力の利用に関する歴史的解説問題点の整理	Box019
948	1997	日中原子力協力代表者会議について	Box023
952	1997	東海村動燃の微量放射能事故の健康影響についての見解	Box025
953	1997	原子力に好意的な一見解 エネルプレス誌	Box025
959	1997	朝日新聞 平成9年2月 日米原子力協定	Reports02
968	1997	原子力問題情報センターより森一久氏宛への寄稿依頼	Reports03
969	1997	原子力ニュース第18巻6号 巻頭言 森一久	Reports03
970	1997	4月30日TBS社員セミナーの資料	Reports03
978	1997	日本工業新聞 山崎康志氏より礼状と原稿点検依頼文	Reports04
980	1997	第一原子力産業グループ理事会での講演資料	Reports04
981	1997	国際原子力フォーラムシンポジウム	Reports04
985	1997	平成9年3月20日 森一久より阿部光幸様宛 手書きの手紙	Manuscript04
989	1997	平成9年5月21日 日経夕刊 フォーカス欄	Manuscript04

992	1997	平成9年10月20日第14回内外経済情勢懇談会 講師森一久	Manuscript04
994	1997	Atoms in Japan (AIJ) 1997 SeptemberのScope欄	Manuscript04
995	1997	平成9年12月12日 日本工業新聞? 原子力エネルギー欄	Manuscript04
1001	1997	COP3と原子力 AIJ-Scope向けの原稿(日本語)	Manuscript04
1003	1997	年表 茨城の原子力・40年総括年表	Box015
1011	1998	原子力の社会的受容—その歴史の変容とリスク・ベネフィット	Box021
1012	1998	ベトナム原子力発電視察団・団員名簿	Box026
1028	1998	Scope 98 Jan用原稿 変革の山場に向かって	Manuscript04
1033	1998	98年「原子力の日」ポスターコンクール最優秀賞	Manuscript04
1050	1999	低線量電離放射線の細胞影響	Box021
1061	1999	AIJ Scope 99 Jan 二十一世紀はどんな世紀か 森一久	Reports04
1062	1999	Physics Today September 1999	Reports05
1080	1999	1999年1月17日 森一久 前立腺ガンとの出会い	Miscellaneous
1082	1999	平成11年1月 AIJ Scopeの原稿 二十一世紀はどんな世紀か	Manuscript04
1085	1999	平成11年7月 日本の原子力の原点についての講演	Manuscript04
1087	1999	原子力損害賠償法の問題点に関する報告書	Box019
1088	1999	原子力安全問題と社会システム(メモ) 森一久	Reports04
1094	1999	The Strategy for Long-term Japan-Vietnam Relation	Box026
1110	2000	American Nuclear Society Northeastern Sectionから	Box021
1118	2000	Cause & Impact of Major Incident in Japan (Lessons)	Reports05
1120	2000	Foreign Affairs January February 2000 P.30-33	Reports05
1121	2000	[1120]の翻訳文 石炭火力の問題点 再生可能エネルギーの問題点	Reports05
1136	2001	原子力エネルギー及びその応用についての質疑応答集	Box026
1139	2001	二十一世紀の挑戦 日本語の文章およびその英訳文	Reports05
1144	2001	茨城原子力協議会の変遷	Box015
1148	2002	朝日新聞の記事 平成14年7月17日	Box021
1160	2002	2002年1月24日 ISNLのSchool Newsletter	Letters01
1166	2002	平成14年3月27日FAX 日本原子力発電清水氏より木藤氏宛	Letters01
1174	2002	2002年4月11日 INMM事務局Vincent J. DeVitoよりINMMメンバーへ	Letters01
1212	2003	ECO-レポート No.42 2003年12月 財団法人統計研究会	Box018
1213	2003	化学物質と放射線のリスクについての考え方の対比	Box019
1221	2003	ECO-レポート No.42 2003年12月 財団法人 統計研究会	Reports06
1224	2003	2003年3月10日 森一久氏よりTran Huu Phat教授への手紙の控え	Letters01
1229	2003	2003年4月8日 森一久氏?が書いた手紙	Letters01
1230	2003	2003年1月29日 在日フランス大使館Jean-Jacques LAVIGNE氏より	Letters01
1250	2003	OECD Nuclear Energy Agency (NEA) OECD/NEA	Letters01
1286	2004	原子力システムニュース 藤家洋一 原子力システム懇話会	Box021
1291	2004	日本エネルギー経済研究所 2004年8月15日 生田豊明さんを偲ぶ	Manuscripts02
1293	2004	Atoms In Japan 2004 June のScope 欄 Atoms in the Earth	Reports04
1294	2004	"Atoms In Japan 2004 January のScope 欄	Reports04
1295	2004	2004年6月 森一久氏論説 Atoms in Japan Editor in Chief SCOPE	Reports06
1296	2004	"2004年1月 森一久氏論説 Atoms in Japan SCOPE	Reports06
1310	2004	2004年5月26日 山脇道夫東大名誉教授より森一久氏宛メール	Letters01
1324	2005	BMJ再投稿原稿(050905)和訳ver.7 2005年5月12日	Box019
1325	2005	原子力損害賠償法制主要課題検討会報告書	Box019
1326	2005	International Herald Tribune Tuesday February 8, 2005	Box021
1339	2006	原子力立国計画 資源エネルギー庁 平成18年6月	Box019
1346	2006	ANTM 10年のあゆみ 2006 財団法人医用原子力技術研究振興財団	Box022
1348	2006	資源エネルギー庁原子力政策課長 柳瀬唯夫氏より森一久氏への手紙	Box024
1352	2006	原子力eye vol.52 No.4	Reports06
1356	2006	Isotope News 2006年1月号 講演記録	Reports06

1360	2007	低レベル放射線が人体に及ぼす影響の疫学調査(その1:コホート研究)	Box018
1361	2007	EIT Journal 56 November 2007	Box018
1363	2007	原子力関連産業従事者等に関する疫学文献調査検討委員会報告書	Box019
1367	2007	新潟日報 2007年12月11日	Box021
1368	2007	新潟日報 2007年12月12日	Box021
1369	2007	新潟日報 2007年12月13日	Box021
1370	2007	新潟日報 2007年12月14日	Box021
1371	2007	新潟日報 2007年12月16日	Box021
1373	2007	A World Free of Nuclear Weapons , January 4, 2007[タイプ原稿]	Box021
1376	2007	原子力利用を着実に進めるために取り組むべきこと(未定稿)	Box021
1379	2007	TBS報道局より森一久氏への手紙とDVD	Box028
1381	2007	The Wall Street Journal January 4 2007[紙面コピー]	Reports06
1383	2007	EIT No.56 2007年 11月号	Reports06
1384	2007	NERIC News No.282 2007年10月号 巻頭言	Reports06
1389	2007	NERIC NEWS No.282 2007年10月号	Miscellaneous
1396	2007	Nuclear Cell A4S開発計画 電力中央研究所 服部禎男	Box021
1398	2007	原子力開発の当初と今(反省点が列挙してある文章)	Box021
1405	2008	原子力システム研究懇談会二十年史	Box018
1406	2008	最近における米国原子力発電の現状と課題	Box018
1410	2008	新潟日報 2008年1月1日 トップ記事	Box021
1411	2008	新潟日報 2008年1月3日	Box021
1412	2008	新潟日報 2008年1月5日 トップ記事	Box021
1413	2008	新潟日報 2008年1月6日	Box021
1414	2008	新潟日報 2008年1月7日	Box021
1415	2008	新潟日報 2008年1月8日	Box021
1416	2008	新潟日報 2008年1月9日	Box021
1417	2008	Toward a Nuclear-Free World January 15, 2008[タイプ原稿]	Box021
1424	2008	The Age of Diplomacy George P. Shultz	Box021
1430	2008	原子力発電と新エネルギーの比較	Box021
1432	2008	The Logic of Zero Toward a World Without Nuclear Weapons	Box021
1434	2008	島村原子力政策研究会資料の印刷・配布について	Box023
1438	2008	公開シンポジウム 主催原子力委員会	Box023
1440	2008	「原天会」名簿 2008年9月16日	Box027
1443	2008	アルスの会のウェブページ	Manuscripts02
1444	2008	The Wall Street Journal January 15 2008[紙面コピー]	Reports06
1445	2008	2008年9月12日 月刊エネルギーレビュー	Reports06
1447	2008	新潟日報 平成20年7月13日	Reports06
1452	2008	新潟日報 平成20年2月28日～3月7日	Reports06
1493	2009	世界の原子力発電の拡大、世界的な新規導入予定	Box021
1495	2009	一般財団法人原子力国際協力センターの設立について	Box021
1496	2009	Speech on nuclear energy and proliferation	Box021
1499	2009	原子力安全委員会の改革を 青柳長紀 NERIC News No.304/2009年	Box021
1504	2009	分離変換技術に関する研究開発の現状と今後の進め方(案)	Box023
1507	2009	放射線パラダイムの大変革 平成21年7月11日 服部禎男	Box023
1508	2009	総合資源エネルギー調査会電気事業分科会原子力部会報告	Box023
1510	2009	Natureの記事 Nature Vol.45928 May 2009	Box023
1511	2009	伊原義徳氏から森一久氏への手紙	Box023
1517	2009	NTTコミュニケーションズ請求額・領収通知 2009年3月16日	Box029
1519	2009	事務所使用料請求書	Box029
1524	2009	ronbun 浜崎一成 2009年8月31日	UCN_Blog
1525	2009	UCN会発の問題提起	UCN_Blog

1536	2009	平成21年2月25日FAX UCN会 森一久より 新潟日報三島氏宛	Reports06
1552	2009*	環境・エネルギー・原子力に本気で取り組むなら	Box029
1566	2010	N.S.Savannah	Box008
1571		2nd annual conference Atomic Energy in Industryの冊子	Box001
1573		英国の原子力法	Box001
1576		体外の線源からの放射線の許容線量 日本放射性同位元素協会	Box002
1581		放出放射能の算定値について	Box004
1589		米国における原子力政策の方向と原子力発電の発展の可能性	Box005
1590		海外原子力関係諸会社一覧(アメリカ)	Box005
1602		財団法人福井原子力センター規程集 財団法人福井原子力センター	Box010
1605		デューク・パワー社オコニー原子力発電所の最終環境報告書	Box010
1607		ニューヨーク州原子力発電所所在地の財政について	Box010
1609		原子力委員会等の見直しに関するメモ(手書きメモ)	Box011
1613		PR事業計画関係費一覧表(日本原子力普及センター)	Box011
1618		日中原子力関係用語	Box014
1620		原子力行政の見直し 参議院議員 玉置和郎	Box015
1626		原子力を容認するための条件 ミュンヘン工科大学 森永晴彦	Box018
1639		手書きメモ(原子力の歴史、国民の心情・槌田理論)	Box023
1647		第20回原子力囲碁大会の写真	Box027
1650		現代社会を支えている技術は原子力から 原 禮之助	Box029

原子炉

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
7	1952	Nucleonics (McGraw-Hill) September 1952	Box004
10	1953	東洋経済新報 別冊第15号 昭和28年9月10日 森一久	Manuscripts02
20	1954	Economic Power from fast Breeder Reactors, C.A.Rennie 1954	Box004
40	1954	Introduction to pile theory chapter 10 (heat transfer)の翻訳	Box001
41	1954	Introd. to N.E. p243の翻訳(原子炉の冷却剤の性質)	Box001
43	1954	原子炉の熱をなるべく有効に利用することに関するメモ(翻訳?)	Box001
45	1954	Pile一覧表、1ページ目は研究開発用原子炉	Box001
47	1955	原子力(みすず書房) 1955.6-7 世界の原子炉一覧表など	Box002
55	1955	世界の原子炉表 昭和30年11月 資料第24号 原子力平和利用調査会	Box002
71	1955	週刊エコノミスト 昭和30年8月20日号のコピー 間弘明	Manuscripts02
82	1955	発電用原子炉 Foster Wheeler Corporation	Box002
84	1955	初期の原子力発電所における発電コストとプルトニウムの価	Box004
86	1955	英国コールドーホール大型発電所用原子炉導入反対斗争について	Box005
97	1956	アメリカの原子炉開発(米国原子力委員会第18次半年報告の一部)	Box002
101	1956	The Graphite-Moderated Gas-cooled Pile	Box004
103	1956	天然ウラン黒鉛ガス冷却方式による発電用原子炉について 概要報告	Box004
106	1956	天然ウラン・グラファイト炉による発電コスト推定の問題点	Box006
110	1956	Comparison of Calder Hall and PWR Reactor Types Report S-1	Box007
114	1956	原子力メモ 第2号 世界の原子炉について 昭和31年4月15日	Box006
115	1956	ジュネーブ原子力平和利用国際会議の成果 その一 大塚益比古	Box006
119	1956	手書きメモ:4月10日室内会議メモ	Memoranda
121	1956	手書きメモ:核分裂 核融合 原爆 水爆 原子炉 等に関する説明メモ	Memoranda
123	1956	手書きメモ:Chicago Commonwealth-Edison Company	Memoranda
126	1956	手書きメモ:何かの会のメンバーの原案づくり?	Memoranda
129	1956	手書きメモ:Exponential Experiments on D ₂ O-U	Memoranda
133	1956*	手書きメモ:湯川先生からの伝言	Memoranda

143	1957	Accident at Windscale No.1 Pile in 10th October 1957	Box008
146	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年5月 間弘明	Manuscripts02
147	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年7月 間弘明	Manuscripts02
148	1957	原子力産業新聞 昭和32年8月5日 森一久 原子力の常識	Manuscripts02
149	1957	ビジネス 1957年5月号 発電用第一号原子炉の身もと調査	Manuscripts05
161	1958	コ博士の残したものの英国型発電炉をめぐって	Box008
162	1958	原子炉およびその関連施設の安全性に関する資料 日本学術会議事務局	Box008
170	1959	茨城新聞社「いばらき」昭和34年8月16日トップ記事	Box004
178	1959	日本原子力発電株式会社の原子炉の設置の安全性について	Box007
181	1959	「原子力発電所の安全に関する解説」第三集 日本原子力産業会議	Box007
186	1959	Die Presse 18 Maerz 1959 (ソ連の原子炉で事故があったのか?)	Box008
187	1959	英国型発電炉の経済性について 34. 5. 21	Box008
194	1959	コールドーホール型原子炉について (原子炉の解説文)	Box012
195	1959	原子炉立地と原子炉平常運転、事故状態について	Box005
196	1959	コールドーホール関係者写真 S.34.12	Box005
197	1959*	Financial Times7月4日号(何年か不明、1959年頃?)	Box005
201	1960	科学朝日 1960年2月号	Box004
204	1960	原子炉事故に伴う被曝について 青木委員 保物-60-30 11. 19. 災 60	Box008
214	1960	大型原子炉の事故の理論的可能性及び公衆損害額に関する試算	Box005
222	1961	AEC to revise Charges for Enriched and Depleted Uranium	Box008
233	1962	大型原子炉事故から生じうる公衆災害の実態と対策-その問題点	Box005
237	1962	米国視察とフォーラム出席のメモ	Box008
240	1962	原子力発電開発の現状について(要旨) 1962年6月1日	Manuscripts02
250	1963	原子炉立地審査指針 原子炉安全基準専門部会報告書 昭和38年11月	Box005
252	1963	続・原子力発電とプルトニウム-プルトニウムの日本における生産原価	Box005
255	1963	原子力発電とプルトニウム-Pu生成量と可能な利用計画の検討	Box005
266	1964	科学朝日 昭和39年9月 森一久(23ページ)および原礼之助(36ページ)	Manuscripts02
273	1965	プルトニウム燃料取扱作業等の保健安全管理に関するプロジェクト	Box013
295	1967	原子力産業新聞 第400号 昭和42年9月25日	Box004
300	1967	昭和60年までの(昭和42年から)開発輸入量獲得に対する探鉱費試算	Box010
301	1967	ウラン濃縮について 昭和42年9月 原子燃料公社	Box011
347	1968	原子炉多目的利用調査団派遣要綱(案) 43. 6. 20	Box010
411	1970	「エネルギー開発基金(特別会計)」(仮称)の原子力関係業務について	Box010
428	1970	四国電力50年史の一部コピー	Box020
469	1971	海外ウラン資源開発について一現状と問題点・将来の展望一	Box010
474	1972	ソ連大使との懇談概要「取扱注意」1972年6月29日 東京プリンスホテル	Box010
493	1972	ウラン濃縮に係わる「機密保持」問題	Box013
521	1973	昭和48年5月7日 日本原子力産業会議 訪ソ原子力視察団ハンドブック	1973_USSR
535	1974	米国原子炉安全研究(WASH-1400)専門家会議出張報告	Box011
540	1974	The Plutonium Decision	Box013
572	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第8回)議事概要	Box011
594	1978	COGEMA proposal about JAPCO depleted uranium 1978年頃	Box018
597	1979	何故 熔融塩炉は優れているか(液体燃料原子炉)	Box004
630	1983	「原子炉施設に対する攻撃の影響に関する一考察」	Box011
662	1985	日本工業新聞刊「エネルギー」1985年11月号 論壇	Reports01
678	1986	ウラン燃料調達に関する文献のコピー	Box020
679	1986	森一久 昭和61年? (功績調書らしきもの) 閲歴	Personal_Record
713	1988	経団連月報 昭和63年11月 森一久 原子力に関する情報の混乱	Manuscripts02
736	1989	読売新聞 平成元年7月29日夕刊 各界人の消息欄 森一久氏	Manuscripts01
762	1991	ウランの存在量 地殻の量 地殻中のウランは金の500倍などの手書きメモ	Miscellaneous
764	1992	プルトニウムの利用 -わが国の実績と計画- 日本原子力文化振興財団	Box015

769	1992	This is 読売 1992年1月 森一久 チェルノブイリ事故	Manuscripts02
784	1993	新聞記事「もんじゅ」臨界を前にして	Box029
786	1993	朝日新聞 平成5年9月29日 主張解説欄	Reports02
791	1993	平成5年1月20日 Walker宛のコメント	Manuscript04
819	1994	1994年6月23日 立花昭氏より服部学氏宛	Letters02
821	1994	1994年5月1日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
833	1995	Proceedings of Plutonium in the Environment	Box020
853	1995	手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」	Manuscripts03
855	1995	原産会議よりatomwirtschaftのEditor Dr.Eckert Pscheに送った森論文	Manuscripts03
889	1996	原子力産業新聞 1996年3月14日	Box025
892	1996	新国策 平成8年11月15日号 日本原子力産業会議副会長 森一久	Manuscripts02
893	1996	エネ政策考原稿 ナトリウム漏れ事故を契機にもんじゅを考えよう	Manuscripts03
916	1996	Plutonium No.14 Summer 1996 pp.2-8 Kazuhisa Mori	Manuscript04
1054	1999	日本子孫基金 討論会記録	Manuscripts03
1059	1999	読売新聞 平成11年10月31日	Reports04
1084	1999	平成11年5月 原子力安全問題と社会システム(メモ)	Manuscript04
1147	2002	第8回原子炉実験・専門研修会参加者感想文集	Box019
1157	2002	原産森一久氏よりクルチャフ研究所 所長Evgeniy P. Velikhovへ	Letters01
1164	2002	高橋博氏より原産森一久氏宛	Letters01
1167	2002	原産森一久氏よりフランスCEAの所長Jacques Bouchardへの手紙	Letters01
1191	2002	森一久氏よりフランスCEAの核エネルギーセクション長への手紙	Letters01
1201	2002	平成14年6月27日 サイクル機構 副理事長竹内栄治氏より森一久氏宛	Letters01
1204	2002	Deep Underground Reactor Hiroshi Takahashi	Box010
1207	2002	BNLの高橋博さんより森さんへのFAX 2002. 4. 2	Box010
1208	2002	ブルックヘブンの高橋博氏の論文	Letters01
1225	2003	森一久氏よりクルチャフ研究所所長Vyacheslav Kuznetsov宛	Letters01
1226	2003	2003年4月2日 原禮之助氏より原産森一久氏宛	Letters01
1261	2003	ロシア連邦原子力省国際対外経済協力局V.P. Kuchinovより森一久氏宛	Letters01
1266	2003	ローレンスリバモア国立研究所副所長 C.K.Chou博士より森一久氏宛	Letters01
1271	2003	ロシア連邦原子力省Nefedov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1287	2004	Proceedings of the 9th International Conference	Box024
1288	2004	原子炉開発利用委員会・提言「向こう10年間に何をすべきか」	Box025
1299	2004	ベトナム原子力委員会VAECの副議長Hong氏より原産森一久氏宛	Letters01
1306	2004	クルチャフ研究所Vyacheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1318	2004	12月20日 北極の氷河から「死の灰」計測	Manuscript04
1355	2006	東奥日報 平成18年6月18日の記事	Reports06
1375	2007	財団 設立趣意書 日本・モンゴル環境資源開発公社	Box021
1394	2007	財団 設立趣意書 モンゴル・日本超小型原子炉開発公社	Box021
1395	2007	Evolution of Small Reactor Design-Advanced 4S Concept	Box021
1404	2007*	モンゴルの地図と世界のウラン鉱床の表	Box021
1433	2008	Can nuclear plants be safer? Edwin S. Lyman	Box021
1437	2008	京都大学原子炉実験所・量子リサイクル工学研究所 Booklet	Box023
1502	2009	NERIC News No.296/2009年2月号	Box023
1537	2009	NERIC News No.296 2009年2月号 解説 森一久	Reports06
1547	2009	森一久 原子力施設のセキュリティーをどう考えるか	UCN_Blog
1553	2009*	解説 原子炉開発路線の経緯と矛盾	Miscellaneous
1567	2010	ウランと地球の不思議な関係	Box021
1574		Reactorと原子力開発 経済審議庁計画部計画第二課 AE-10	Box002
1582		Nuclear Reactor Data 2	Box004
1586		学術会議で議論された主要事項を記したメモ	Box005
1594		正式調査書提出(原子炉保険、敷地基準などに関する手書きメモ)	Box007

1604	西独・原子炉安全協会(概要説明) 資料3 その2 (タイプしたもの)	Box010
1608	新聞記事切り抜き「原子炉の建設中止を」	Box011
1616	官庁行事予定表 計画課 10.9 (手書きメモ)	Box013
1621	原子力行政 その見直しII 手書き原稿	Box015
1638	手書きメモ(ウラン資源に関する資料についての礼状の原稿?)	Box023
1644	ごあいさつ	Box024
1657	Puの等級表	Reports02
1671	ウラン資源に関する手書きメモ(木藤氏宛にFAXしたもの?)	Reports06

原子力談話会

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
14	1954	原子力談話会名簿 1954.12.15現在	Box001
24	1954	原子力カコロキウム(昭和29年8月10日~16日)の資料	Reports06
26	1954	原子力カコロキウム 6ページ コロキウムの案内	Box001
29	1954	原子力談話会趣意書	kondankai
30	1954	原子力談話会規約(案)	kondankai
31	1954	原子力談話会規約	kondankai
32	1954	原子力談話会ニュース 創刊号	kondankai
33	1954	原子力談話会ニュース 第2号	kondankai
34	1954	原子力談話会ニュース 第3号	kondankai
35	1954	原子力談話会ニュース 第4号	kondankai
36	1954	原子力談話会ニュース 第5号	kondankai
37	1954	原子力談話会ニュース 第6号	kondankai
87	1955	原子力談話会ニュース No.15 1955.11	Box005
88	1955	原子力談話会ニュース 第7号	kondankai
89	1955	原子力談話会ニュース 第8号	kondankai
90	1955	原子力談話会ニュース 第9号	kondankai
91	1955	原子力談話会ニュース速報 第1号	kondankai
92	1955	原子力談話会ニュース 第10号	kondankai

原子力基本法

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
80	1955	原子力基本法案	Box001
595	1978	法律時報 昭和53年7月号 森一久 原子力基本法等の改正一	Manuscripts02
606	1980	原子力三原則の重要文献集「限定版」原子力三原則25周年記念出版	Box015
709	1988	朝日新聞 昭和63年7月28日 二十歳の非核三原則(中)	Manuscripts01
853	1995	手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」	Manuscripts03
1545	2009	森一久 ブログ開設の弁 世界金融危機同時不況の次に来るもの	UCN_Blog

原子炉事故

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
144	1957	東洋経済新報社「ビジネス」 昭和32年4月1日 創刊号のコピー 間弘明	Manuscripts02
150	1957	ビジネス創刊号 昭和32年4月 原子力をめぐる三つの話題(間弘明)	Manuscripts05
204	1960	原子炉事故に伴う被曝について 青木委員 保物-60-30 11. 19. 災 60	Box008
233	1962	大型原子炉事故から生じうる公衆災害の実態と対策-その問題点	Box005
600	1979	スリーマイル島事故の真相 森一久	Manuscript04
603	1979*	スリーマイル島事故の真相 森一久	Manuscripts

671	1986	手書き草稿(最初の草稿とそれを清書したもの)チェルノブイリ原発事故	Reports01
673	1986	IEF ENERGY SALON 国際エネルギー政策フォーラム 昭和61年7月3日	Reports01
688	1987	「運」と答えて若さを保とう 森一久	Manuscript04
689	1987	広瀬隆「危険な話—チェルノブイリと日本の運命」の概要	Box004
691	1987	「運」と答えて若さを保とう 森一久(原稿用紙に手書きの随筆)	Manuscripts
694	1988	日本経済新聞 朝日新聞 総理府「原子力にかする世論調査」	Manuscripts01
699	1988	経団連月報 1988年11月 森一久 原子力に関する情報の混乱	Manuscripts01
702	1988	週刊文春 昭和63年5月26日 田原総一郎の主役を撃つ	Manuscripts01
713	1988	経団連月報 昭和63年11月 森一久 原子力に関する情報の混乱	Manuscripts02
714	1988	日本物理学会編「原子力発電の諸問題」東海大出版 1988年2月25日	Manuscripts02
722	1988	新聞切り抜き チェルノブイリ惨事から2年(ソ連報道)	Box004
723	1988	四番目の恐怖	Box016
759	1991	原産会議発行月刊誌ATOMS IN JAPAN 91年6月号「スコープ」	Reports02
769	1992	This is 読売 1992年1月 森一久 チェルノブイリ事故	Manuscripts02
773	1992	Nuclear News 1992年7月号	Reports02
775	1992	This is 読売 1992年1月号 森一久 寄稿論文	Reports02
840	1995	チェルノブイリ事故に伴う放射線の健康影響	Box024
853	1995	手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」	Manuscripts03
855	1995	原産会議よりatomwirtschaftのEditor Dr.Eckert Pscheに送った森論文	Manuscripts03
913	1996	読売新聞 平成8年8月9日 21世紀へ届け「ヒロシマの夏」の記事	Reports03
920	1996	「もんじゅ」Na漏れ「事件」に思う	Reports02
925	1996	むすび—「まとめ」に代えて(本のあとがき?) 三つの問題点	Reports03
1018	1998	原子力安全研究協会田中和夫氏より原産森副会長宛のFax	Reports04
1063	1999	JCO臨界事故に関する資料	Reports05
1084	1999	平成11年5月 原子力安全問題と社会システム(メモ)	Manuscript04
1107	2000	事故処理作業管理に関する日本、ウクライナ、ロシアの専門家会議	Box020
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録	Manuscripts03
1122	2000	Radiation Standards Scientific Basis Inconclusive	Reports05
1125	2000	エネルギー総合推進委員会第356回常任委員会記録 経団連界会館	Reports05
1126	2000	中国新聞2000年2月17日 18日 19日 連載 被曝と人間	Reports05
1203	2002	ビデオテープVHS中村江里子のフランス・エネルギー探訪など	Box028
1333	2005	Chernobyl:	Box019
1350	2006	「原子力囲碁大会」事始めの頃 森一久	UCN_Blog

原子炉の安全性

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
71	1955	週刊エコノミスト 昭和30年8月20日号のコピー 間弘明	Manuscripts02
72	1955	エコノミスト 昭和30年8月20日号	Manuscripts05
201	1960	科学朝日 1960年2月号	Box004
208	1960	安全性問題(安全審査専門部会の在り方について問題点の指摘)	Box005
292	1967	動力炉・核燃料開発事業団法案に対する附帯決議 42.7.5	Box011
297	1967	欧州の放射性廃棄物の漁業への影響調査団の写真の入った封筒	Box009
302	1967	動力炉・核燃料開発事業団法案に対する附帯決議([292]のコピー)	Box010
304	1967	核燃料再処理施設の設置について(回答)	Box011
305	1967	核燃料再処理施設の設置について 岩上二郎茨城県知事	Box011
306	1967	核燃料再処理施設の設置について 岩上二郎	Box011
307	1967	核燃料再処理施設との関連に関する答申書 茨城県原子力審議会	Box011
343	1968	動力炉・核燃料開発事業団と原研の目的	Box010
344	1968	日本原子力船開発事業団と放射線医学総合研究所の目的	Box010
360	1968	再処理関係資料集 昭和43年1月 動力炉・核燃料開発事業団広報室	Box011

363	1968	「核燃料再処理施設の建設について」鍋島直紹科学技術庁長官宛	Box011
369	1968	実地検査の結果について 会計検査院事務局より動燃理事長宛	Box012
469	1971	海外ウラン資源開発について一現状と問題点・将来の展望一	Box010
474	1972	ソ連大使との懇談概要「取扱注意」1972年6月29日 東京プリンスホテル	Box010
570	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第3回)議事概要	Box011
571	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第4回)議事概要	Box011
572	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第8回)議事概要	Box011
573	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第5回)議事概要	Box011
574	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第6回)議事概要	Box011
575	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)議事概要	Box011
583	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)の予定(手書きメモ)	Box011
585	1977	核燃料サイクルシステムに関する調査研究(GESMOの検討) 成果報告書	Box014
601	1979	掛けがえのない原子力発電・核燃料サイクルの日仏協力	Box020
619	1982	日本動力協会事務局長 田中幸雄氏に宛た森一久氏の私信	Reports01
679	1986	森一久 昭和61年? (功績調書らしきもの) 履歴	Personal_Record
714	1988	日本物理学会編「原子力発電の諸問題」東海大出版 1988年2月25日	Manuscripts02
758	1991	海外のプラントでのナトリウム漏洩件数	Box021
780	1993	季報JARAP創刊号 1999年3月発行(放射線防護問題協議会)	Box020
781	1993	高レベル放射性廃棄物の処分 1993年3月 地層処分研究会	Box020
783	1993	放射線防護基準の意味するもの 原協プライマリーNo.1	Box025
789	1993	福竜丸だより(第181号) 1993年5月15日	Reports02
790	1993	360 1993年5月号 森一久 寄稿論文 旧ソ連科学技術の現状	Reports02
830	1994	核燃料リサイクル国際円卓会議 参考資料	Box025
847	1995	X線発見100周年と放射線防護の歴史 田島英三	Box025
854	1995	高速炉のナトリウム漏れに関する資料	Manuscripts03
878	1995	「目から鱗を取る」努力が肝要 AIJ-Scope 放射線の安全に関する議論	Reports04
901	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録	Reports02
954	1997	エネルギーを考える会定例勉強会 講師原産会議副会長 森一久	Manuscripts03
960	1997	統計研究会「内外経済情勢懇話会」講演原稿	Reports03
1007	1998	国際放射線防護委員会ICRP1997年 オックスフォード会議	Box016
1035	1998	フランス科学アカデミーの放射線防護についての考え	Manuscript04
1037	1998	高レベル放射性廃棄物の地層処分～第2次取りまとめに向けて～	Box028
1108	2000	Experts' Meeting November 29- December 1 2000	Box020
1109	2000	Paper on reguration of the post-accident intervation	Box020
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録	Manuscripts03
1142	2001	BNFL Japan K.K. David Powel社長より原産森一久副会長宛	Letters01
1145	2001*	AIJ--Scope	Reports05
1167	2002	原産森一久氏よりフランスCEAの所長Jacques Bouchardへの手紙	Letters01
1169	2002	BNFL(英国核燃料会社)日本 社長 David Powellより森一久氏宛	Letters01
1313	2004	2004年8月12日 原産森一久氏よりAnn Maclachlan宛	Letters01
1314	2004	2004年 日仏工業技術 50巻1号	Miscellaneous
1319	2005	高速炉導入の道筋と新法人への期待	Box018
1334	2005	私の研究から 日本原子力学会誌 Vol.47 No.9 (2005)	Box024
1469	2008	平成20年10月14日 能澤正雄氏より森一久氏宛	Letters02
1619		ソ連と米仏などとの核燃料戦略に関する印象メモ(手書きメモ)	Box015
1629		立地問題ヒアリングまとめ	Box018
1636		報告書に示された各技術の達成度の整理	Box023
1640		高レベル放射性廃棄物の処分について 経済産業省資源エネルギー庁	Box023
1680		高速炉開発の現状と問題点(手書きメモ)	Miscellaneous

原子力船

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
254	1963	原子力潜水艦の安全性に関する検討(草稿) 日本学術会議	Box005
343	1968	動力炉・核燃料開発事業団と原研の目的	Box010
344	1968	日本原子力船開発事業団と放射線医学総合研究所の目的	Box010
349	1968	佐世保問題メモ 1968年7月15日 原子力局田中次長	Box010
350	1968	佐世保問題に対する反省(嵯峨根遼吉) 1968年7月18日(手書きメモ)	Box010
351	1968	佐世保関連反省すべきことのメモ 1968年7月29日(嵯峨根遼吉?)	Box010
352	1968	佐世保問題に対する反省(タイプしたもの) 1968年7月18日 嵯峨根遼吉	Box010
353	1968	佐世保の放射能問題に対する私見 1968年7月21日 嵯峨根遼吉	Box010
354	1968	原子力委員会へのrecommendation 1968年7月18日	Box010
380	1968	米国原子力潜水艦(ソードフィッシュ号)寄港関係資料集 原子力局	Box013
381	1968	昭和43年6月8日佐世保港訪問に関する報告書 衆議院議員 齊藤憲三	Box013
392	1968	有澤、田中次長、山崎文男、向坊隆、嵯峨根遼吉 佐世保関係意見交換会	Box010
398	1968	「佐世保問題メモ」に関する手紙 7月18日 嵯峨根遼吉より橋本清之助宛	Box010
399	1968	今日の問題「こわい」朝日新聞夕刊 5月20日	Box010
546	1974	読売新聞の記事 日本分析化研デタラメ報告	Box021
548	1974	朝日新聞の記事および毎日新聞の記事 1月30日	Box021
561	1975	原子力船「むつ」-遮蔽改修の見通し- 昭和50年6月11日	Box014
562	1975	「むつ」放射線漏れ問題調査報告書	Box014
595	1978	法律時報 昭和53年7月号 森一久 原子力基本法等の改正一	Manuscripts02
625	1982	昭和57年9月 原子力船懇談会報告書-原子力船の開発目標について一	MUTU_File
637	1983	経団連月報 1983年10月 原子力開発の近況と新たな課題 森一久	Reports01
642	1983	昭和58年11月 原子力船懇談会報告書 原子力委員会原子力懇談会	MUTU_File
643	1983	昭和58年12月14日 オットーハーン	MUTU_File
644	1983	サバンナ号の近況	MUTU_File
645	1983	1983年2月24日 ドイツ語の新聞記事	MUTU_File
646	1983	原子力委員会 原子力船研究開発事業団の統合について	MUTU_File
647	1983*	自民党の政務調査会の原子力船「むつ」に開発方針案 手書き	MUTU_File
648	1983*	原子力船関係予算 手書きメモ 出資金と補助金を合わせて77億円余	MUTU_File
650	1984	原子力船「むつ」に関する検討委員会の報告 委員長 三塚博	Box014
657	1984	原子力船「むつ」を考えるシンポジウムの記録 原研労組中央委員会	MUTU_File
658	1984	昭和59年1月24日 原子力委員会 今後の原子力船研究開発のあり方	MUTU_File
724	1988	朝日新聞の記事 1月29日夕刊1面 および毎日新聞1月30日の記事	Box021
756	1990	原子力船「むつ」出力上昇試験の進捗状況について 日本原子力研究所	MUTU_File
893	1996	エネ政策考原稿 ナトリウム漏れ事故を契機にもんじゅを考えよう	Manuscripts03
1002	1997	原子力船「むつ」の数奇な一生 原産副会長 森一久	Reports05
1206	2002	ロシア大統領 V.V. プーチン殿 エフゲニー P.ベリホフ	Box025
1216	2003	ロシア北方艦隊退役原潜解体事業調査報告書	Box025
1235	2003	森一久氏よりクルチャフ研究所所長Evgeniy P. Velikhov宛	Letters01
1358	2006	Fact Sheet on U.S.Nuclear Powered Warship	Box018
1679		手書きメモ	Miscellaneous

核燃料サイクル

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
570	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第3回)議事概要	Box011
571	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第4回)議事概要	Box011

572	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第8回)議事概要	Box011
573	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第5回)議事概要	Box011
574	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第6回)議事概要	Box011
575	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)議事概要	Box011
583	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)の予定(手書きメモ)	Box011
585	1977	核燃料サイクルシステムに関する調査研究(GESMOの検討)成果報告書	Box014
601	1979	掛けがえのない原子力発電・核燃料サイクルの日仏協力	Box020
677	1986	未踏加工技術 通巻194号 原子力技術のスピンオフと冷凍保存法	Reports01
784	1993	新聞記事「もんじゅ」臨界を前にして	Box029
786	1993	朝日新聞 平成5年9月29日 主張解説欄	Reports02
854	1995	高速炉のナトリウム漏れに関する資料	Manuscripts03
884	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録 平成8年5月14日	Box020
891	1996	「原子燃料サイクル確立への仮題」-「もんじゅ」事故を中心に-	Manuscripts
892	1996	新国策 平成8年11月15日号 日本原子力産業会議副会長 森一久	Manuscripts02
893	1996	エネ政策考原稿 ナトリウム漏れ事故を契機にもんじゅを考えよう	Manuscripts03
899	1996	「高速増殖炉開発の課題」説明用資料	Reports02
900	1996	日本工業倶楽部 会報 第176号 平成8年3月	Reports02
901	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録	Reports02
902	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録	Reports02
904	1996	朝日新聞 平成8年2月24日 夕刊 日本記者クラブから 森一久	Reports02
906	1996	「技術と人間」特集「もんじゅ」破綻への道 小林圭二	Reports02
909	1996	NUKEM Interview The Japanese Electric Power Industry	Reports03
911	1996	「もんじゅ」事故をどう生(ママ)かすか	Reports03
917	1996	平成8年5月14日 エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録	Manuscript04
920	1996	「もんじゅ」Na漏れ「事件」に思う	Reports02
923	1996	「もんじゅ」のナトリウム火災 小林圭二「技術と人間」	Box025
924	1996	千分の一ミリ 後藤茂 原子燃料政策研究会 機関誌原稿	Box025
937	1997	エネルギーを考える会 平成9年7月11日プレスセンター	Box021
938	1997	海外のプラントにおけるナトリウム漏えい件数	Box021
954	1997	エネルギーを考える会定例勉強会 講師原産会議副会長 森一久	Manuscripts03
960	1997	統計研究会「内外経済情勢懇話会」講演原稿	Reports03
961	1997	エネルギーいんふおめいしょん 1997年10月号	Reports03
982	1997	1997年3月11日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
998	1997	日経新聞 4月1日 直談究論	Manuscript04
1022	1998	ECOレポート 19号 1998年3月 内外経済情勢懇談会	Reports04
1058	1999	朝日ニュースター向けの録画取りに関するやりとり	Reports04
1084	1999	平成11年5月 原子力安全問題と社会システム(メモ)	Manuscript04
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録	Manuscripts03
1167	2002	原産森一久氏よりフランスCEAの所長Jacques Bouchardへの手紙	Letters01
1271	2003	ロシア連邦原子力省Nefedov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1314	2004	2004年 日仏工業技術 50巻1号	Miscellaneous
1331	2005	原子力eye Vol.51 No.5 (2005年5月号)	Reports06
1539	2009	Comment on the Proposal on Japan's Nuclear Development	Box021
1636		報告書に示された各技術の達成度の整理	Box023
1643		原子力の意味とそれを具現化するための基礎問題(手書きのメモ)	Box024
1665		新しい教育システム機構の概念	Reports05

使用済み核燃料

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
100	1956	Nucleonics February 1956 (再処理関係の特集か?)	Box004
292	1967	動力炉・核燃料開発事業団法案に対する附帯決議 42.7.5	Box011
299	1967	原子燃料公社の再処理工場について(再処理部内資料) 1967.6	Box009
302	1967	動力炉・核燃料開発事業団法案に対する附帯決議([292]のコピー)	Box010
303	1967	再処理施設に関する経過&現況及び今後の対策 昭和42年12月?	Box011
304	1967	核燃料再処理施設の設置について(回答)	Box011
305	1967	核燃料再処理施設の設置について 岩上二郎茨城県知事	Box011
306	1967	核燃料再処理施設の設置について 岩上二郎	Box011
307	1967	核燃料再処理施設との関連に関する答申書 茨城県原子力審議会	Box011
335	1967	再処理工場の建設について	Box011
343	1968	動力炉・核燃料開発事業団と原研の目的	Box010
344	1968	日本原子力船開発事業団と放射線医学総合研究所の目的	Box010
360	1968	再処理関係資料集 昭和43年1月 動力炉・核燃料開発事業団広報室	Box011
361	1968	再処理問題説明参考資料 1968年11月20日	Box011
362	1968	再処理工場敷地問題関連資料 43.4.4 動力炉開発室	Box011
363	1968	「核燃料再処理施設の建設について」鍋島直紹科学技術庁長官宛	Box011
364	1968	第3回定例会付帯案件に対する報告書	Box011
365	1968	東海再処理施設茨城県関係資料封筒の表書き S43 (原産会議?封筒)	Box011
369	1968	実地検査の結果について 会計検査院事務局より動燃理事長宛	Box012
373	1968	3月7日茨城県会再処理関係質疑応答要旨 43.3.7 メモ丸山正倫	Box013
375	1968	県漁業組合長会議について(漁連篠崎課長の談話) 43.2.12	Box013
469	1971	海外ウラン資源開発について一現状と問題点・将来の展望一	Box010
472	1972	韓国原産会議 朴氏宛の日本原産会議橋本清之助よりの書簡	Box010
474	1972	ソ連大使との懇談概要「取扱注意」1972年6月29日 東京プリンスホテル	Box010
570	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第3回)議事概要	Box011
571	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第4回)議事概要	Box011
572	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第8回)議事概要	Box011
573	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第5回)議事概要	Box011
574	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第6回)議事概要	Box011
575	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)議事概要	Box011
582	1976	再処理関連事業確率推進調査報告書 昭和51年1月	Box015
583	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)の予定(手書きメモ)	Box011
585	1977	核燃料サイクルシステムに関する調査研究(GESMOの検討) 成果報告書	Box014
599	1979	再処理事業の概要 昭和54年9月 電気事業連合会	Box015
601	1979	掛けがえのない原子力発電・核燃料サイクルの日仏協力	Box020
806	1994	高温冶金再処理は核拡散抵抗技術 電力中央研究所 服部禎男	Box024
829	1994	乾式電解精錬再処理について	Box024
830	1994	核燃料リサイクル国際円卓会議 参考資料	Box025
854	1995	高速炉のナトリウム漏れに関する資料	Manuscripts03
943	1997	日中原子力協力代表者会議 中国訪問日程(案)	Box023
954	1997	エネルギーを考える会定例勉強会 講師原産会議副会長 森一久	Manuscripts03
982	1997	1997年3月11日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
998	1997	日経新聞 4月1日 直談究論	Manuscript04
1000	1997	AIJ Scope Apr また始まるのか延々と「小田原評定」?	Manuscript04
1084	1999	平成11年5月 原子力安全問題と社会システム(メモ)	Manuscript04
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録	Manuscripts03

1142	2001	BNFL Japan K.K. David Powel社長より原産森一久副会長宛	Letters01
1167	2002	原産森一久氏よりフランスCEAの所長Jacques Bouchardへの手紙	Letters01
1169	2002	BNFL(英国核燃料会社)日本 社長 David Powellより森一久氏宛	Letters01
1313	2004	2004年8月12日 原産森一久氏よりAnn Maclachlan宛	Letters01
1314	2004	2004年 日仏工業技術 50巻1号	Miscellaneous
1334	2005	私の研究から 日本原子力学会誌 Vol.47 No.9 (2005)	Box024
1345	2006	東奥日報 2006.6.18	Box021
1347	2006	東奥日報の記事(元原産産議副議長(森一久氏)が証言	Box023
1354	2006	東奥日報 平成18年5月29日	Reports06
1355	2006	東奥日報 平成18年6月18日の記事	Reports06
1437	2008	京都大学原子炉実験所・量子リサイクル工学研究所 Booklet	Box023
1484	2009	NERIC News No.303/2009年11月号 核・エネルギー情報センター 発行	Box018
1583		AFC再処理施設予想メーカー及び工事会社リスト マル秘(日本語版)	Box004
1619		ソ連と米仏などとの核燃料戦略に関する印象メモ(手書きメモ)	Box015
1636		報告書に示された各技術の達成度の整理	Box023

核兵器

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
3	1945	日本の原爆投下に関し、公表されているメモなど	Box020
4	1950	Bulletin of the Atomic Scientists 1950 核攻撃防衛の特集号	Box001
5	1950	The Hydrogen Bomb and International Control	Box002
8	1953	Newsweek Oct.19、1953 水爆の記事	Box001
11	1953	婦人公論 昭和28年8月号 工場の女性の幸福を求めて	Manuscripts05
17	1954	原子灰について(及び諸数値表) 浅田常三郎	Box001
22	1954	Hiroshima Atomic Bomb August 1945	Box025
69	1955	世界週報「水爆実験死の灰報告」1955年3月11日号 第36巻 第8号	Box007
117	1956	手書きメモ:Fusion Newsweek 16. Jan.のトップ記事	Memoranda
121	1956	手書きメモ:核分裂 核融合 原爆 水爆 原子炉 等に関する説明メモ	Memoranda
148	1957	原子力産業新聞 昭和32年8月5日 森一久 原子力の常識	Manuscripts02
156	1958	原子兵器便覧(部外秘)情報月報国外篇別冊第3 昭和33年3月	Box003
215	1961	ソ・米核兵器実験再開をめぐって 1961.10 素粒子論グループKJR	Box002
261	1964	日本外交に注文する-日中関係に即して-	Box008
275	1965	Day of Trinity Lansing Lamont Atheneum New York 1965	Box016
285	1966	第11回原水爆禁止世界大会について 原水爆禁止日本協議会	Box005
402	1969	非核兵器国会議の審議概要 外務省国際連合局軍縮室科学課	Box013
456	1971	文藝春秋 昭和46年7月号 特別手記 私の原爆忌「ヒロシマ」を憎む	Box010
500	1972	広島県史-原爆資料編 今堀誠二広島大名誉教授編集	Box020
556	1975	核兵器不拡散条約の早期批准に関する要望書 日本原子力産業会議	Box013
560	1975	朝日ジャーナル Vol.17 No.40 1975 9.15 臨時増刊	Box014
581	1976	核兵器不拡散条約の早期批准のために 外務省情報文化局編集	Box014
584	1976	核兵器の廃絶と全面軍縮のために -国連事務総長への要請-	Box015
628	1982	Historical Sketch of the Scientific Field Survey in Hiroshima	Box020
641	1983	昭和58年9月30日発行 広島高等学校創立60周年記念 青春回想録	Manuscript04
667	1986	原爆と差別 中条一雄 1986年7月25日 朝日新聞社発行	Box016
683	1987	日米原爆線量再評価検討委員会報告書について 田島英三	Box016
685	1987	日米原爆線量再評価検討委員会報告書について 田島英三	Box016
693	1988	原子力と産業界 森一久 1988年	Box023
700	1988	新聞記事 1988年3月9日	Manuscripts01

709	1988	朝日新聞 昭和63年7月28日 二十歳の非核三原則(中)	Manuscripts01
721	1988	昭和63年3月18日 原子力と産業界 講師 森一久	Manuscript04
725	1988*	広島で原爆テスト極秘情報-水田泰次 の文章	Reports05
749	1990	私信(森一久氏 手書き原稿)(足田・さん(森家菩提寺住職)へ)	Manuscripts01
774	1992	LA INTERNATIONAL 10月号	Reports02
789	1993	福竜丸だより(第181号) 1993年5月15日	Reports02
797	1994	Larry Armstrongから森一久への手紙の封筒	Box018
799	1994	清水榮氏より森一久氏への私信 平成6年5月21日	Box020
807	1994	核不拡散条約を考える会規約 核兵器政策に関する公開質問状	Box025
809	1994	写真展(原爆の半世紀 目撃者は語る)のチラシ	Box025
811	1994	被団協 1994年12月6日 日本原水爆被害者団体協議会発行	Box025
822	1994	1994年12月9日 立花昭氏 解説文	Letters02
825	1994	平成6年3月11日 中国新聞?	Manuscript04
845	1995	ニューズウィーク HIROSHIMAドキュメント「決断」にいたる道	Box025
848	1995	核兵器不拡散条約の延長についての意見 核拡散問題研究会	Box025
853	1995	手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」	Manuscripts03
855	1995	原産会議よりatomwirtschaftのEditor Dr.Eckert Pschetに送った森論文	Manuscripts03
864	1995	原爆体験と日本の原子力開発 平成7年8月15日 森一久	Reports02
865	1995	日本原子力学会誌1995年Vol37 No9 談話室への寄稿 森一久	Reports02
867	1995	atomwirtschaft-atomtechnik 7 1995年7月号	Reports02
868	1995	Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan	Reports02
872	1995	平成7年 原子力学会誌Vol.37 No.9 (1995) 談話室	Manuscript04
873	1995	原爆体験と日本の原子力開発 森一久(手書き)	Manuscripts03
874	1995	Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan	Manuscripts
875	1995	The Atomic Bombings Reconsidered Barton J. Bernstein	Box020
877	1995	廣高とヒロシマ-被爆50年の回想- 広島高等学校同窓有志の会 森一久	Reports02
885	1996	IPPNW(核戦争防止国際医師会議)講演会 芳賀メモ	Box020
887	1996	IPPNW(核戦争防止国際医師会議)講演会平成8年6月29日	Box020
892	1996	新国策 平成8年11月15日号 日本原子力産業会議副会長 森一久	Manuscripts02
905	1996	仏教徒フォーラム 第53号 日本仏教徒懇話会第68回懇談会	Reports02
910	1996	広島県医師会速報(第1586号)平成8年7月25日号	Reports03
912	1996	広島県医師会速報(第1590号)平成8年9月5日号 1ページ目	Reports03
913	1996	読売新聞 平成8年8月9日 21世紀へ届け「ヒロシマの夏」の記事	Reports03
919	1996	核戦争防止国際医師会議日本支部事務局大木佐智代氏より森一久氏へ	Box025
1054	1999	日本子孫基金 討論会記録	Manuscripts03
1060	1999	朝日新聞 平成11年8月23日	Reports04
1081	1999	平成11年3月26日新聞コラム欄切り抜き	Manuscript04
1123	2000	核兵器廃絶と平和利用 AIJ-Scope 2000年8月号の原稿	Reports05
1225	2003	森一久氏より クルチャトフ研究所所長Vyacheslav Kuznetsov宛	Letters01
1271	2003	ロシア連邦原子力省Nefedov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1297	2004	朝日新聞 2004年12月20日	Reports06
1306	2004	クルチャトフ研究所Vyacheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1315	2004	写真でたどる第五福竜丸	Manuscripts05
1318	2004	12月20日 北極の氷河から「死の灰」計測	Manuscript04
1323	2005	原爆投下、60年を迎えて(2005 8 6 記)(西岡氏のものか?)	Box019
1338	2006	庄野直美から森一久氏へのFAX 平成18年1月17日	Box019
1349	2006	北朝鮮の核開発 2006年6月記 遠藤哲也	Box029
1372	2007	核兵器のない世界にむけて 緊急に新たな行動を 藤田俊彦 2007年	Box021
1374	2007	「核兵器のない世界」を目指して	Box021

1387	2007	エネルギー情報工学研究会議EIT発行 レポート No56 2007年11月	Miscellaneous
1388	2007	平成12年刊 廣高とヒロシマ 廣島高等学校同窓有志の会 水田泰次	Miscellaneous
1399	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年2月15日号(4)	Box021
1400	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年3月15日号(4)	Box021
1401	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年7月15日・8月15日合併号	Box021
1418	2008	米国でも「核兵器のない世界を」署名運動が始まった	Box021
1421	2008	新しい核兵器廃止論者たち ヒュー・ガスターソン	Box021
1422	2008	米国の科学者、核兵器廃止めざす具体策を提起する声明を発表	Box021
1423	2008	米国次期大統領が核兵器全面禁止に向けて最初に取りべきべき10の措置	Box021
1427	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年9月15日号(4)	Box021
1428	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年5月15日号(4)	Box021
1449	2008	お花見平和のつどい2008のチラシ	Reports06
1450	2008	2008年2月24日 第五福竜丸平和協会 市民講座レジメ 青山道夫	Reports06
1451	2008	かわらばん ふくりゅうまる 号外2008年1月1日	Reports06
1453	2008	ビキニ水爆実験被災54周年市民講座	Reports06
1454	2008	都立第五福竜丸展示館ニュース 福竜丸だより	Reports06
1455	2008	第五福竜丸平和協会 会長川崎昭一郎 賛助会員へのご入会のおねがい	Reports06
1505	2009	毎日新聞の記事	Box023
1506	2009	毎日新聞の記事 2009年8月11日 品格を持ち平和利用を	Box023
1520	2009	毎日新聞 平成21年8月11日	UCN_Blog
1522	2009	ronbun 森一久 2009年10月9日	UCN_Blog
1533	2009	囲碁を文化と世界平和の使節に! オバマ大統領宛のメッセージ	Reports06
1538	2009	Conditions towards Zero	Box018
1540	2009	英国防相、核兵器解体の検証技術会議を提案	Box021
1542	2009	公益財団法人第五福竜丸平和協会 川崎昭一郎氏より森一久氏へ	Box023
1545	2009	森一久 ブログ開設の弁 世界金融危機同時不況の次に来るもの	UCN_Blog
1553	2009*	解説 原子炉開発路線の経緯と矛盾	Miscellaneous
1557	2010	原稿執筆依頼「広領域教育研究会」への原稿依頼	Box023
1572		死の灰かぐらー 原水爆の農水産業に及ぼす影響	Box001
1625		Historical Perspectives Willam C. Roesch	Box016
1652		Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan	Reports02
1657		Puの等級表	Reports02
1662		原爆体験と日本の原子力 森一久	Manuscripts
1669		第五福竜丸平和協会のパンフレット	Reports06
1670		夢の島パークのチラシ (第五福竜丸展示館を含む)	Reports06
1672		下山総裁の追憶 能代渦錦作(元大関)「旦那と私」	Reports06
1679		手書きメモ	Miscellaneous

原子力平和利用

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
48	1955	日米原子力協定についての見解 原子力平和利用調査会 昭和30年8月	Box002
51	1955	原子力に関する特許制度について 昭和30年12月 原子力資料第24号	Box002
52	1955	新原子力法とアメリカ民間企業 昭和30年6月 資料第16号	Box002
54	1955	原子力平和的利用海外調査団報告書 昭和30年7月	Box002
55	1955	世界の原子炉表 昭和30年11月 資料第24号 原子力平和利用調査会	Box002
58	1955	フランスの原子力関係法規 原子力平和利用調査会 昭和30年10月	Box004
59	1955	アメリカ、イギリス、フランスの原子力関係法制概要	Box004
60	1955	Some Economic Aspects of Nuclear Fuel Cycles W.B.Lewis	Box004

61	1955	ストロース原子力委員長の記者会見	Box005
66	1955	日米原子力協定についての見解 原子力平和利用調査会 原子力資料	Box007
71	1955	週刊エコノミスト 昭和30年8月20日号のコピー 間弘明	Manuscripts02
77	1955	エコノミスト別冊 昭和30年6月10日号	Manuscripts05
84	1955	初期の原子力発電所における発電コストとプルトニウムの価	Box004
95	1955	List of Papers for the International Conference	Box004
97	1956	アメリカの原子炉開発(米国原子力委員会第18次半年報告の一部)	Box002
115	1956	ジュネーブ原子力平和利用国際会議の成果 その一 大塚益比古	Box006
152	1957	エコノミスト 昭和32年5月18日号 原子力平和利用の新展開 伏見康治他	Manuscripts05
160	1958	The United States Atomic Industry Atomic Industrial Forum Inc	Box006
377	1968	核爆発の平和利用 今井隆吉 日本原子力学会誌(1968年7月19日受理)	Box013
401	1969	原子力の平和利用に関する世論調査 昭和44年7月 科学技術庁	Box012
558	1975	核防条約批准の必要性(原子力平和利用関係) 昭和50年2月 外務省	Box013
620	1982	シリーズ・レポート82年原子力のここが知りたい6	Reports01
623	1982	第2回国連軍縮特別総会へのメッセージ1982年6月2日	Reports02
653	1984	エネルギーいんふおめいしょん 1984年12月号	Reports01
772	1992	読売新聞主催「冷戦後の核管理と原子力開発—平和利用の展望」	Reports02
774	1992	LA INTERNATIONAL 10月号	Reports02
778	1992	平成4年10月8日 読売新聞 日米口国際シンポジウム	Manuscript04
824	1994	平成6年10月25日 日韓共同セミナーのための原稿	Miscellaneous
825	1994	平成6年3月11日 中国新聞?	Manuscript04
829	1994	乾式電解精錬再処理について	Box024
853	1995	手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」	Manuscripts03
855	1995	原産会議よりatomwirtschaftのEditor Dr.Eckert Pscheに送った森論文	Manuscripts03
864	1995	原爆体験と日本の原子力開発 平成7年8月15日 森一久	Reports02
870	1995	ヒロシマから半世紀 日本の平和利用の意味を考える 森一久	Reports02
892	1996	新国策 平成8年11月15日号 日本原子力産業会議副会長 森一久	Manuscripts02
1031	1998	平成10年10月25日 追悼抄 田島英三さん 10月10日死去	Manuscript04
1123	2000	核兵器廃絶と平和利用 AIJ—Scope 2000年8月号の原稿	Reports05
1197	2002	原産森一久氏よりクルチャトフ研究所Evgenii P. Velikhov氏宛	Letters01
1202	2002	原産半世紀のカレンダー 平和利用の理想像を求めて	Miscellaneous
1274	2003	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Tan博士より原産森一久氏宛	Letters01
1329	2005	朝日新聞 平成17年8月2日 核を追う欄 平和利用不拡散どう両立	Reports06
1506	2009	毎日新聞の記事 2009年8月11日 品格を持ち平和利用を	Box023
1520	2009	毎日新聞 平成21年8月11日	UCN_Blog
1547	2009	森一久 原子力施設のセキュリティーをどう考えるか	UCN_Blog
1553	2009*	解説 原子炉開発路線の経緯と矛盾	Miscellaneous
1575		アメリカの原子力発電資料 原子力平和利用調査会	Box002
1648		コンビさんとの懇談トピックス	Box029
1679		手書きメモ	Miscellaneous

核廃絶

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
402	1969	非核兵器国会議の審議概要 外務省国際連合局軍縮室科学課	Box013
584	1976	核兵器の廃絶と全面軍縮のために—国連事務総長への要請—	Box015
623	1982	第2回国連軍縮特別総会へのメッセージ1982年6月2日	Reports02
624	1982	Message 原産会議有澤会長から国連事務総長宛 核廃絶に関する訴え	Manuscript04
668	1986	いま地球は—広島・長崎を考える旅 監修 庄野直美 1986年7月25日	Box016

804	1994	軍縮問題資料 1994.2 No.159 特集 核管理と核拡散	Box021
807	1994	核不拡散条約を考える会規約 核兵器政策に関する公開質問状	Box025
842	1995	Science Society Humanity 1995年1号(通算51号)1995年1月1日	Box024
850	1995	芳賀氏より森一久氏への手紙	Box025
851	1995	朝日新聞(長崎)記事 1995年6月15日 基調報告ワンポイント	Box025
922	1996	核廃絶の論理 森一久	Box020
982	1997	1997年3月11日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
1197	2002	原産森一久氏よりクルチャトフ研究所Evgenii P. Velikhov氏宛	Letters01
1206	2002	ロシア大統領 V.V. プーチン殿 エフゲニー P.ベリホフ	Box025
1399	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年2月15日号(4)	Box021
1400	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年3月15日号(4)	Box021
1401	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年7月15日・8月15日合併号	Box021
1402	2007	非核の政府を求める会ニュース 2007年11月15日号(3)	Box021
1425	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年9月15日号(3)	Box021
1426	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年5月15日号	Box021
1427	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年9月15日号(4)	Box021
1428	2008	非核の政府を求める会ニュース 2008年5月15日号(4)	Box021
1476	2008	オスロ会議資料No.1 外相による討論のまとめおよび予備的な勧告	Box021
1484	2009	NERIC News No.303/2009年11月号 核・エネルギー情報センター 発行	Box018
1540	2009	英国防相、核兵器解体の検証技術会議を提案	Box021

核拡散防止条約

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
414	1970	核防調査団 1970 4/11-27 欧米 関係資料の封筒表書き	Box012
415	1970	核防条約に伴なう保障措置問題調査団 団員名簿	Box012
416	1970	核防条約に伴なう保障措置問題調査団 御日程	Box012
417	1970	核防条約に伴なう保障措置問題調査団 御日程	Box012
419	1970	核防条約に伴なう保障措置問題調査団館(日程表)	Box012
422	1970	核防条約に伴なう保障措置問題調査団 団員名簿	Box012
424	1970	「核防条約に伴なう保障措置問題調査団」の派遣について	Box012
490	1972	核防条約の早期批准を 今井隆吉 中央公論 1972年3月号	Box012
504	1972	核防条約の批准について	Box013
557	1975	核防の批准は慎重に 福田信之筑波大学副学長 サンケイ新聞正論欄	Box013
558	1975	核防条約批准の必要性(原子力平和利用関係) 昭和50年2月 外務省	Box013
580	1976	核防条約の批准について 昭和51年2月	Box014
807	1994	核不拡散条約を考える会規約 核兵器政策に関する公開質問状	Box025
808	1994	広島総合事務所からの会員への連絡文 1994年3月31日	Box025
819	1994	1994年6月23日 立花昭氏より服部学氏宛	Letters02
1300	2004	森一久氏よりThe Scowcroft GroupのDaniel B. Poneman氏宛	Letters01
1522	2009	ronbun 森一久 2009年10月9日	UCN_Blog

電源開発株式会社

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
83	1955	原子力の経済性(Economics of Nuclear Power) J.A.Lane ORNL	Box004
102	1956	AEREにおける高速中性子炉の実験研究 J.E.R.Holms et al.	Box004
103	1956	天然ウラン黒鉛ガス冷却方式による発電用原子炉について 概要報告	Box004

135	1957	原子力発電の受入体制について 昭和32年7月 電源開発株式会社	Box002
145	1957	アナリスト 昭和32年8月号のコピー 森一久	Manuscripts02
176	1959	ガス冷却炉の経済学 電源開発株式会社企画部原子力課 1959.10.31	Box005
245	1963	調査資料原子力特集No.8昭和38年5月 電源開発株式会社	Box002
265	1964	日本の原子力研究 立花昭(電源開発株式会社) (文春の随筆欄のコピー)	Box010
428	1970	四国電力50年史の一部コピー	Box020
1280	2004	当社とフランスとの原子燃料調達における関係 平成16年6月21日	Box020

日本原子力発電株式会社

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
159	1958	訪英原電調査団の活動状況について 昭和33年通連第488号	Box003
173	1959	模擬爆弾投下ならびに墜落事故時の影響について 昭和34年11月9日	Box005
178	1959	日本原子力発電株式会社の原子炉の設置の安全性について	Box007
189	1959	原電側の説明は非科学的である一記者会見記事を読んでー 後藤武男	Box004
195	1959	原子炉立地と原子炉平常運転、事故状態について	Box005
199	1960	緊急時災害防止基準設定要項(案)解説 原電災害評価 35.9.19	Box003
246	1963	原子力発電開発に伴う外資導入について 日本原子力発電株式会社	Box002
468	1971	打ち合わせメンバー連絡確認手書きメモ	Box010
498	1972	原電立地の困難性ー大飯地点の経緯を中心としてー 昭和47年9月	Box013
531	1974	地帯整備特定財源手書きメモ	Box010
532	1974	昭和49年度?工事費分担案手書きメモ	Box010
1200	2002	平成14年5月23日 福井新聞2面 論説 廃炉と増設	Letters01
1231	2003	2003年3月27日 駐日韓国大使館 崔光鶴氏より原産森一久氏宛	Letters01
1585		総評の原子力委員長に対する申入書についての反論」	Box005
1586		学術会議で議論された主要事項を記したメモ	Box005

電力経済研究所

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
16	1954	原子力譯語集(1)昭和29年12月 電力経済研究所	Box001
18	1954	長期経済計画と産業構造 電力経済研究所 昭和29年7月	Box001
49	1955	米、トルコ原子力協定とその問題点 電力経済研究所 昭和30年6月	Box002
50	1955	濃縮ウランニウムについて 附:泥炭および原子力による電力 電力経済研究所	Box002
53	1955	原子力訳語集(3)昭和30年6月 電力経済研究所	Box002
61	1955	ストロース原子力委員長の記者会見	Box005
67	1955	原子力平和使節として来日したホプキンス一行と小坂電源総裁との対談	Box007
175	1959	コールドーホール改良型原子力発電所(英)輸入案に就いて	Box005
506	1973	新会長(選挙)有澤さんにあつたとき S48.9月(電力経済研究所の封筒)	Box009
1380	2007	UCN会が電力経済研究所の小史をまとめ完成したので送るとの挨拶状	Box029

原子力研究所

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
173	1959	模擬爆弾投下ならびに墜落事故時の影響について 昭和34年11月9日	Box005
174	1959	原研労組ニュース No.67 昭和34年11月24日	Box005
178	1959	日本原子力発電株式会社の原子炉の設置の安全性について	Box007
185	1959	原研労組ニュース 第3回団交経過報告 No.62号 昭和34年6月5日	Box008

195	1959	原子炉立地と原子炉平常運転、事故状態について	Box005
225	1961	あゆみ 原研労組ニュース 安全問題特集号 No.116 昭和36年10月6日	Box008
228	1961	人を喰った原研二号炉 田中六郎 中央公論 1961.1月号	Box014
246	1963	原子力発電開発に伴う外資導入について 日本原子力発電株式会社	Box002
249	1963	日本原子力研究所のJPDR問題に関する労使折衝の経過について(報告)	Box004
256	1963	日本原子力研究所における動力試験炉運転中止をめぐる労使紛争	Box007
262	1964	全貌4 昭和39年4月1日(日本原子力研究所の共産党員の記事)	Box002
343	1968	動力炉・核燃料開発事業団と原研の目的	Box010
344	1968	日本原子力船開発事業団と放射線医学総合研究所の目的	Box010
346	1968	原研体制関係の書類の入った封筒の表書き S43年(原研の封筒)	Box010
521	1973	昭和48年5月7日 日本原子力産業会議 訪ソ原子力視察団ハンドブック	1973_USSR
531	1974	地帯整備特定財源手書きメモ	Box010
532	1974	昭和49年度?工事費分担案手書きメモ	Box010
572	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第8回)議事概要	Box011
646	1983	原子力委員会 原子力船研究開発事業団の統合について	MUTU_File
657	1984	原子力船「むつ」を考えるシンポジウムの記録 原研労組中央委員会	MUTU_File
756	1990	原子力船「むつ」出力上昇試験の進捗状況について 日本原子力研究所	MUTU_File
768	1992	御視察スケジュール	Box021
834	1995	UTRと過ごした30余年 三木良太 近畿大学原子力研究所年報 第32号	Box020
946	1997	外国出張報告書 平成9年3月31日	Box023
1065	1999	JCO事故時における那珂研究所のモニタリングデータ 平成11年10月7日	Reports05
1111	2000	放射線を正しく怖がろう 近藤宗平 2000年4月 創造的市民	Box021
1127	2000	茨城新聞 2000年2月8日から19日までに10回連載	Reports05
1147	2002	第8回原子炉実験・専門研修会参加者感想文集	Box019
1172	2002	平成14年5月7日 日本原子力文化振興財団 赤間行三氏より	Letters01
1222	2003	FAX 韓国原子力研究所 Lee Chang-Kunより原産森一久氏宛	Letters01
1242	2003	2003年6月12日韓国原子力研究所Lee Chang Kunより森一久氏宛	Letters01
1320	2005	連載 よくわかる核融合のしくみ 第8回 日本原子力学会誌	Box018
1330	2005	東奥日報 平成17年5月26日の記事のコピー	Reports06
1469	2008	平成20年10月14日 能澤正雄氏より森一久氏宛	Letters02
1501	2009	原子力機構における安全研究	Box023
1585		総評の原子力委員長に対する申入書についての反論	Box005
1586		学術会議で議論された主要事項を記したメモ	Box005
1600		研究主任会の使命について	Box010
1601		問題点メモ(原産会議の便せんに書いたメモ)	Box010
1610		動燃、原研等の目的・業務の一覧表	Box011

原子力産業会議

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
108	1956	動力協定研究報告(案) (I) 原事資・006-A 1956年12月	Box007
141	1957	イギリス動力協定案 原法資-008 1957年5月 日本原子力産業会議	Box007
144	1957	東洋経済新報社「ビジネス」 昭和32年4月1日 創刊号のコピー 間弘明	Manuscripts02
167	1958	昭和33年12月6日図書新聞の記事切り抜き 海潮音	Miscellaneous
168	1959	原子力災害補償問題研究報告書 昭和34年7月 日本原子力産業会議	Box002
179	1959	「原子力発電所の安全に関する解説」第一集 日本原子力産業会議	Box007
180	1959	「原子力発電所の安全に関する解説」第二集	Box007
181	1959	「原子力発電所の安全に関する解説」第三集 日本原子力産業会議	Box007

184	1959	原子力災害補償問題研究報告書-第三者保障問題を中心として-	Box007
220	1961	米原子力委員会の敷地基準案(1961・2・11連邦公報掲載)	Box007
239	1962	日本原子力産業会議の記事 1962年?	Box010
240	1962	原子力発電開発の現状について(要旨) 1962年6月1日	Manuscripts02
269	1965	局長47年 立地安全環境検討会資料 40年 資料用封筒の表書き	Box010
271	1965	大型電子計算機の貸借に関する件 日本原子力産業会議会長	Box012
272	1965	COMPUTERS-比較報告 CDC-6600 vs. IBM/360 昭和40年7月	Box012
274	1965	原産会議年次大会向けメッセージ?	Box011
279	1966	コンピュータの月間運転時間の推移グラフ(昭和41年度)	Box012
280	1966	昭和41年度損益計算書(案) 電子計算機室 42.3.3	Box012
281	1966	昭和41年度損益計算書(案) 電子計算機室	Box012
286	1966	委員会に関する規程(案)(手書きメモ)	Box011
287	1966	導入経緯(CDC3600/3200の導入経緯)	Box012
288	1966	11月(原産会議が運営するコンピュータの利用記録?)	Box012
289	1966	6月分 売掛金額 6/26現在(各利用者の金額表)	Box012
290	1966	CDC3600 電子計算機システムご利用のしおり	Box012
293	1967	昭和41年度決算見込 42.3.3	Box011
308	1967	昭和42年度事業計画(電子計算機室)(案) 42.2.2(手書きメモ)	Box011
309	1967	昭和42年度事業計画(案) 昭和42年2月23日 荒井 仁	Box011
310	1967	42年度事業の実施について(国際的な協同活動) 昭和42年2月23日	Box011
312	1967	昭和42年度事業計画(案) サービス事業部 42.2.23	Box011
314	1967	昭和42年度収支予算(案) 42.3.3	Box011
315	1967	昭和42年度事業計画 基本方針 42.3.3	Box011
318	1967	主要顧客別売上高一覧 42.4.1~42.11.30(極秘)	Box012
319	1967	電子計算機室業務経過 42.3	Box012
320	1967	JAIFF's Computing Center for Atomic Industry October 1967	Box012
321	1967	事務分担表 42.6.1(原産事務局?職員の分担表)	Box012
322	1967	第1回定時株主総会決議通知書 昭和42年2月24日	Box012
326	1967	航空便 橋本清之助先生宛ウイーン在住の苔米地頭氏から	Box021
328	1967	IAEAのHenry Seligmanから橋本清之助氏宛の航空便	Box021
332	1967	ロンドンでの挨拶草稿(英文)(原産会議の便せんに手書き)	Box021
336	1967	原産42年度事業関係資料の封筒の表書き 昭和42(原産?封筒)	Box011
338	1967	国会、政府機関との連絡の緊密化 企画室	Box011
339	1967	原産の電算機CDC3600/3200の写真	Box015
345	1968	職場の明朗化に関する要望 昭和43年11月26日	Box009
355	1968	体制のあり方一案 昭和43年7月4日(手書きメモ)	Box011
365	1968	東海再処理施設茨城県関係資料封筒の表書き S43(原産会議?封筒)	Box011
366	1968	原子力に対する安全確保上の措置に関する要望書(写)の送付について	Box011
371	1968	貸借対照表 昭和43年4月1日~昭和43年9月30日	Box012
382	1968	原産年次大会の経緯(第1回昭和43年から第33回平成12年まで)	Box015
387	1968	原産会議総合企画の計画案?(手書きメモ)	Box011
388	1968	コンピュータ関連資料の封筒の表書き S43年(原産会議の封筒)	Box012
389	1968	大型電子計算機CDC3600システムの導入と運営について	Box012
390	1968	未収金関係 8/8 各社の未収金リスト	Box012
396	1968	12月分(原産が運営するコンピュータの各会社の日ごとの利用記録?)	Box012
397	1968	買掛金支払明細(11/10支払)	Box012
398	1968	「佐世保問題メモ」に関する手紙 7月18日 嵯峨根遠吉より橋本清之助宛	Box010
405	1969	東海村地帯整備資金手当の表(41年から44年まで)	Box010
407	1970	保障措置問題調査団御予定(案) 1970年4月 在仏日本大使館	Box012

411	1970	「エネルギー開発基金(特別会計)」(仮称)の原子力関係業務について	Box010
413	1970	地帯せいび歴史関係の封筒の表書き 45年	Box010
415	1970	核防条約に伴なう保障措置問題調査団 団員名簿	Box012
422	1970	核防条約に伴なう保障措置問題調査団 団員名簿	Box012
424	1970	「核防条約に伴なう保障措置問題調査団」の派遣について	Box012
426	1970	US AEC シーボーク委員長より原産橋本清之助宛	Box012
433	1970	団員表(日本語およびローマ字表記)	Box012
443	1970	橋本清之助よりSinnassamyへの手紙(英文) 1970. 4. 6	Box012
446	1971	自民党政務調査会から原産事務局長森一久宛封書	Box010
452	1971	昭和47年度原子力関係予算に対する要望 日本原子力産業会議	Box010
457	1971	第4回ジュネーブ会議資料の封筒表書き 46年(原産会議の封筒)	Box011
461	1971	日本の原子力—15年のあゆみ— 上 日本原子力産業会議 昭和46年	Reports06
462	1971	昭和46年2月25日 原子力産業新聞 菅原産会長永眠	Manuscript04
465	1971	総合エネルギー部会(二階堂)新エネルギー研究会関係資料の封筒	Box010
466	1971	岩動道行政管理政務次官から原産会議森一久事務局長宛封書	Box010
472	1972	韓国原産会議 朴氏宛の日本原産会議橋本清之助よりの書簡	Box010
473	1972	原子力発電所サイト周辺動向の報告(反対運動を中心として)	Box010
474	1972	ソ連大使との懇談概要「取扱注意」1972年6月29日 東京プリンスホテル	Box010
479	1972	地帯整備関係資料封筒の表書き 柏崎他 47	Box010
480	1972	原子力施設所在地の地帯整備および税制優遇等の促進に関する要望	Box010
483	1972	原子力開発地域整備促進法(仮称)の制定について「取扱注意」	Box010
484	1972	第二回理事会の開催について(温水養魚開発協会藤田巖理事より)	Box011
485	1972	財団法人温水養魚開発協会昭和47年度第二回理事会議事録	Box011
486	1972	財団法人温水養魚開発協会の賛助者に関する規則(案) 昭和47年	Box011
487	1972	財団法人温水養魚開発協会昭和47年度第1回理事会次第	Box011
488	1972	財団法人温水養魚開発協会寄附行為 昭和47年6月15日制定	Box011
489	1972	宿・日直規程(案) 昭和47年(温水養魚開発協会関係か?)	Box011
493	1972	ウラン濃縮に係わる「機密保持」問題	Box013
494	1972	原子力発電サイト周辺の動向 昭和47年6月 日本原子力産業会議	Box013
495	1972	地帯整備開発・自治体財政問題に関する検討会の設置について	Box013
497	1972	安全・環境確保のための体制整備に関する要望書 昭和47年8月	Box013
502	1972	原子力地帯整備開発問題の論点について(原産・動力開発課)	Box010
505	1972*	養魚試験池建設費当初計画との比較など 温水養魚開発協会	Box011
507	1973	原産の将来体制についての検討報告 体制特別委員会 座長 有澤廣巳	Box010
511	1973	原産森事務局長宛三菱重工よりの封書 1973. 7. 25原産着	Box012
513	1973	コラ半島原子力発電所運転開始情報 住友商事ソ連東亜室次長より	Box012
515	1973	シェフチェンコの原子力発電所と極北のビリビノ原子力発電所のニュース	Box012
517	1973	「原子力開発地域整備促進法」(仮称)の制定についての要望書	Box013
521	1973	昭和48年5月7日 日本原子力産業会議 訪ソ原子力視察団ハンドブック	1973_USSR
522	1973	原産体制に関する書類の入った封筒の表書き S48. 9 有澤委報告	Box010
529	1974	日本原子力産業会議の役員表(S49. 5. 24現在)・活動内容	Box009
530	1974	第7回原産年次大会(昭和49年) 会長有澤廣巳の所信表明	Box010
534	1974	昭和49年度第一回評議員会および第一回理事会議事録の送付について	Box011
544	1974	東 地帯(東京原子力地帯)	Box010
545	1974	49年度収支実行計画(温水養魚開発協会関係か?)	Box011
549	1975	日本原子力産業会議役員表 昭和50年10月	Box010
550	1975	茨城センター関係資料の封筒の表書き 昭50—(原産会議の封筒)	Box010
554	1975	県の局長、課長、補佐と原産の森および財団の亀田との懇談メモ	Box010
556	1975	核兵器不拡散条約の早期批准に関する要望書 日本原子力産業会議	Box013

559	1975	NPT関係原産活動経過 50.4.7	Box013
563	1975	ソ連引合原子力NSSS Componentsの件 日本原子力産業会議	Box015
567	1975	茨城県に於ける原子力関係団体の整理統合試案メモ 7月18日	Box010
569	1976	第4回 S.51.3.17 経団連 8F 阿蘇の間	Box011
571	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第4回)議事概要	Box011
573	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第5回)議事概要	Box011
586	1977	52年 6/21-6/25 ソ連行関係封筒表書き(原産会議封筒)	Box015
588	1977	S52 原産会議の封筒	Box015
604	1980	日中原子力交流 中国からの代表団名簿	Box014
623	1982	第2回国連軍縮特別総会へのメッセージ1982年6月2日	Reports02
624	1982	Message 原産会議有澤会長から国連事務総長宛 核廃絶に関する訴え	Manuscript04
625	1982	昭和57年9月 原子力船懇談会報告書-原子力船の開発目標について一	MUTU_File
631	1983	訪韓記念 1983.6.26~29 韓国原子力産業会議	Box016
638	1983	原子力工業 27巻9号 日本原子力の実力診断 森一久氏	Reports01
648	1983*	原子力船関係予算 手書きメモ 出資金と補助金を合わせて77億円余	MUTU_File
666	1986	ソ連引合い原産関係資料 1975 封筒の表書き	Box015
674	1986	電気産業新聞 昭和61年6月4日 ソ連原発事故をどう見るか	Reports01
681	1987	損益計算書 電子計算機室 42.2.3	Box012
682	1987	借用証 畑山積 原産森専務宛 50万円の借用証 昭和62年7月9日	Box015
697	1988	Atoms in Japan January 1988 Vol.32 No.1 目次 巻頭言	Manuscripts01
698	1988	Atoms in Japan January 1988 Vol.32 No.1 新春対談 司会森一久	Manuscripts01
699	1988	経団連月報 1988年11月 森一久 原子力に関する情報の混乱	Manuscripts01
704	1988	原子力産業新聞 昭和63年3月31日 原産会議会長有澤広巳氏合同葬	Manuscripts01
708	1988	「公明」9月号企画のメモ「特集 日本の原発30年目とこれから」	Manuscripts01
711	1988	訪ソ原子力安全調査団 名簿 原産会議1988年11月	Manuscripts01
720	1988	1988年11月 経団連月報 特集今後のエネルギー問題と社会	Miscellaneous
728	1989	原産会議専務理事 森一久 佐々木義武追想録 いま佐々木さんに学ぶ	Manuscripts01
730	1989	毎日新聞 平成元年2月5日 討論(下) 森一久	Manuscripts01
737	1989	及川さんを偲ぶ 平成元年8月 森一久 科学者の目	Manuscripts01
743	1989	原産会議 外部「会議」委員担当一覧 外部団体「総会」担当一覧	Personal_Record
747	1990	常勤役員給与規程 平成2年5月20日制定のもの	Box020
748	1990	原産会議森一久専務理事宛 放射線疫学調査センター センター長より	Box024
750	1990	Atoms in Japan January 1990 Vol.34 No.1 新春対談 司会森一久	Manuscripts01
751	1990	Atoms in Japan January 1990 Vol.34 No.5	Manuscripts01
753	1990	森一久 渡航者カード	Personal_Record
759	1991	原産会議発行月刊誌ATOMS IN JAPAN 91年6月号「スコープ」	Reports02
768	1992	御視察スケジュール	Box021
773	1992	Nuclear News 1992年 7月号	Reports02
778	1992	平成4年10月8日 読売新聞 日米口国際シンポジウム	Manuscript04
779	1993	進退伺 坂本俊 平成5年3月29日 原産会議森一久専務理事宛	Box015
784	1993	新聞記事「もんじゅ」臨界を前にして	Box029
786	1993	朝日新聞 平成5年9月29日 主張解説欄	Reports02
787	1993	北海道新聞 平成5年11月6日 潮流93	Reports02
788	1993	1993 August 20 Issues on Nuclear Non-Proliferation Treaty	Reports02
798	1994	原子力をめぐる最近の諸問題	Box018
814	1994	第27回原産年次大会「広島市民と語る夕べ」	Reports02
815	1994	第27回原産年次大会 広島宣言	Reports02
816	1994	中国新聞平成6年3月11日 4月に開催される原産会議の年次大会	Reports02
817	1994	朝日新聞 平成6年3月24日住民敗訴の判決が出たことを伝える記事	Reports02

821	1994	1994年5月1日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
824	1994	平成6年10月25日 日韓共同セミナーのための原稿	Miscellaneous
825	1994	平成6年3月11日 中国新聞?	Manuscript04
826	1994	平成6年6月14日 日本原子力産業会議役員名簿(案)	Manuscript04
832	1995	平成7年、8年、9年役員報酬一覧	Box020
836	1995	京都フォーラムより原産会議森一久氏へ	Box023
853	1995	手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」	Manuscripts03
855	1995	原産会議よりatomwirtschaftのEditor Dr.Eckert Pscheに送った森論文	Manuscripts03
866	1995	食品照射とその推進について 平成7年6月16日 日本原子力産業会議	Reports02
870	1995	ヒロシマから半世紀 日本の平和利用の意味を考える 森一久	Reports02
876	1995	原産会議 森一久 色紙	Box023
879	1995	日刊ゲンダイ 一流企業・オール官公庁の囲碁部最強者挑戦シリーズ	Reports04
885	1996	IPPNW(核戦争防止国際医師会議)講演会 芳賀メモ	Box020
888	1996	96 9/28-10/2 独 と題する封筒 日独会議の写真 森副会長宛	Box020
891	1996	「原子燃料サイクル確立への仮題」-「もんじゅ」事故を中心に-	Manuscripts
892	1996	新国策 平成8年11月15日号 日本原子力産業会議副会長 森一久	Manuscripts02
893	1996	エネ政策考原稿 ナトリウム漏れ事故を契機にもんじゅを考えよう	Manuscripts03
897	1996	第5回日仏原子力専門家会合の概要(メモ)	Reports02
899	1996	「高速増殖炉開発の課題」説明用資料	Reports02
907	1996	森氏が高槻から原産会議の長嶺正美氏へ宛た手紙(速達)	Reports02
911	1996	「もんじゅ」事故をどう生(ママ)かすか	Reports03
912	1996	広島県医師会速報(第1590号)平成8年9月5日号 1ページ目	Reports03
913	1996	読売新聞 平成8年8月9日 21世紀へ届け「ヒロシマの夏」の記事	Reports03
938	1997	海外のプラントにおけるナトリウム漏えい件数	Box021
941	1997	International Herald Tribune November21	Box021
943	1997	日中原子力協力代表者会議 中国訪問日程(案)	Box023
944	1997	日中原子力協力代表者会議の概要	Box023
945	1997	第31回原産年次大会の開催準備について(案)	Box023
954	1997	エネルギーを考える会定例勉強会 講師原産会議副会長 森一久	Manuscripts03
958	1997	日経産業新聞 直談究論 原産会議副会長 森一久	Reports02
966	1997	エネルギーレビューセンター編集部より森一久氏宛	Reports03
967	1997	動燃の改革と今後の原子力研究開発のあり方	Reports03
971	1997	韓国の石榴(ザクロ)章を受章したことに関連する資料	Reports03
972	1997	原子力産業新聞1997年4月24日	Reports03
973	1997	原産会議午餐会スピーチ(要旨)	Reports03
974	1997	原子力が嫌われるこれだけの理由 原子力資料情報室 高木仁三郎	Reports03
975	1997	A Vision of Global Security	Reports03
986	1997	平成9年3月31日 プレスリリースの原稿 世界の原子力発電開発	Manuscript04
990	1997	平成9年4月21日 森一久 韓国原産主催Dinnerでの挨拶	Manuscript04
991	1997	韓国原産発行「原子力産業」5月号 森一久氏の石榴章受章記事	Manuscript04
993	1997	Isotope News 平成9年6月号	Manuscript04
998	1997	日経新聞 4月1日 直談究論	Manuscript04
1002	1997	原子力船「むつ」の数奇な一生 原産副会長 森一久	Reports05
1018	1998	原子力安全研究協会田中和夫氏より原産森副会長宛のFax	Reports04
1020	1998	ベルギーでのミーティングのプログラム	Reports04
1021	1998	エネルギー総合推進委員会 第343回常任委員会記録	Reports04
1023	1998	茨城県立医療大学 加藤和明氏より森一久氏への私信	Reports04
1024	1998	日本原産会議副会長森一久より草堂寺釈諦性先生宛	Buddhism01
1025	1998	1998年12月18日の木藤さんより原産長嶺氏へのFAX	Buddhism01

1030	1998	第20回韓・日原子力産業Seminar韓国代表团 団員名簿	Manuscript04
1032	1998	平成10年11月22日 中国新聞 東京と一く	Manuscript04
1048	1999	New Method Gauges Risk of Prostate Cancer	Box021
1052	1999	ベトナム原子力発電事情調査団報告書 1999年1月	Box026
1053	1999	日本原子力産業会議とベトナム原子力委員会の覚書	Box026
1054	1999	日本子孫基金 討論会記録	Manuscripts03
1059	1999	読売新聞 平成11年10月31日	Reports04
1069	1999	1999年4月26日 木藤氏より原産森副会長宛FAX	Buddhism01
1070	1999	1999年4月21日 木藤氏より原産森副会長宛FAX	Buddhism01
1071	1999	1999年4月20日 木藤氏より原産森副会長宛FAX	Buddhism01
1073	1999	1999年3月15日の草堂寺釈諦性氏より森一久氏宛のFAX	Buddhism01
1092	1999	日蓮宗新聞社編集部楠山泰延氏より原産森副会長宛	Buddhism01
1100	1999*	原産森一久より日本アジア交流協会北村理事長宛	Buddhism01
1104	1999*	East-West Bridges基金のMikgail Nosov氏より原産森一久氏宛FAX	Letters01
1112	2000	月刊誌「水産界」への原稿依頼文	Manuscripts03
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録	Manuscripts03
1119	2000	水産界 2000.8 巻頭随想「平成の乱」の行方	Reports05
1125	2000	エネルギー総合推進委員会第356回常任委員会記録 経団連界会館	Reports05
1142	2001	BNFL Japan K.K. David Powel社長より原産森一久副会長宛	Letters01
1143	2001	2001年12月20日 中国原子力学会会長Wang Naiyanより森一久氏宛	Letters01
1150	2002	ENERGY 2002-1 エネルギー正論 原産副会長 森一久	Reports05
1152	2002	Energy Review 2002-10 書評欄	Reports06
1154	2002	ベトナム原子力委員会委員長Vuong Huu Tanより森一久氏宛	Letters01
1155	2002	ベトナム科学技術環境省副大臣Hoang Van Huayより森一久氏宛	Letters01
1156	2002	ベトナム原子力委員会委員長Vuong Huu Tanより原産森一久氏宛	Letters01
1157	2002	原産森一久氏よりクルチャトフ研究所 所長Evgeniy P. Velikhovへ	Letters01
1159	2002	日本工業倶楽部常任理事新野耕一郎より原産森一久氏宛	Letters01
1161	2002	台湾行政院原子能委員会 委員長 歐陽敏盛より原産森一久氏宛	Letters01
1164	2002	高橋博氏より原産森一久氏宛	Letters01
1165	2002	韓国原子力産業会議 副会長 崔記正より原産森一久氏宛	Letters01
1167	2002	原産森一久氏よりフランスCEAの所長Jacques Bouchardへの手紙	Letters01
1168	2002	ジャカルタの原産のオフィスの所長 田村直幸の退任の挨拶状	Letters01
1169	2002	BNFL(英国核燃料会社)日本 社長 David Powellより森一久氏宛	Letters01
1170	2002	素粒子奨学会より原産森一久氏宛への礼状	Letters01
1171	2002	韓国原子力産業会議 Bang Kuk-Jin氏より原産森一久氏宛	Letters01
1172	2002	平成14年5月7日 日本原子力文化振興財団 赤間行三氏より	Letters01
1173	2002	2002年4月30日 Cameco社長 Gerald W. Grandeyより森一久宛	Letters01
1175	2002	2002年5月2日 森一久氏より韓国RAWTEC社長Choi Chang-Tong宛	Letters01
1177	2002	2002年3月20日 PNCのPresident Wang Naiyan教授より森一久氏宛	Letters01
1178	2002	ベトナムTran Huu Phat氏より森一久氏宛	Letters01
1179	2002	韓国RAWTEC社長Choi Chang-Tongより原産森一久氏宛	Letters01
1180	2002	台湾行政院原子能委員会 副主任委員 陳国誠氏より森一久氏宛	Letters01
1181	2002	Council on Foreign Relations (New York) からの領収書	Letters01
1182	2002	Council on Foreign Relations Janice L. Murrayより	Letters01
1183	2002	2002年4月29日 ロシア科学アカデミーのBolshovから	Letters01
1184	2002	平成14年6月3日 政策企画本部 横山宣彦氏より森副会長宛	Letters01
1185	2002	コジエマ会長・アレバ会長アンヌ・ローヴェルジョンより原産森一久氏宛	Letters01
1186	2002	Council on Foreign Relations Janice L.Murrayより森氏宛	Letters01
1187	2002	コジエマジパンのRobert Capitini氏より森氏宛	Letters01

1189	2002	2002年8月20日 原産森一久氏よりKEWESPO社長Lee Yong Oh氏宛	Letters01
1190	2002	2002年10月14日 韓国原産会議会長 Bang Kuk-Jinより森一久氏宛	Letters01
1191	2002	森一久氏よりフランスCEAの核エネルギーセクション長への手紙	Letters01
1192	2002	2002年11月5日 BNFL社長?から原産森一久氏宛	Letters01
1193	2002	ベトナム原子力委員会副委員長Le Van Hongより原産森一久氏宛	Letters01
1194	2002	2002年12月2日森一久氏よりクルチャトフ研究所所長E.P. Velikhov宛	Letters01
1196	2002	クルチャトフ研究所Vyacheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1197	2002	原産森一久氏よりクルチャトフ研究所Evgenii P. Velikhov氏宛	Letters01
1198	2002	平成14年11月22日 BNFL社長 David J. Powellより原産森一久氏宛	Letters01
1199	2002	2002年12月4日森一久氏よりクルチャトフ研究所Kuznetsov氏への返事	Letters01
1201	2002	平成14年6月27日 サイクル機構 副理事長竹内栄治氏より森一久氏宛	Letters01
1202	2002	原産半世紀のカレンダー 平和利用の理想像を求めて	Miscellaneous
1206	2002	ロシア大統領 V.V. プーチン殿 エフゲニー P.ベリホフ	Box025
1211	2003	創造 創立30周年記念誌 社団法人未踏科学技術協会	Box018
1216	2003	ロシア北方艦隊退役原潜解体事業調査報告書	Box025
1222	2003	FAX 韓国原子力研究所 Lee Chang-Kunより原産森一久氏宛	Letters01
1223	2003	2003年2月13日在日米国大使館Giulia R. Biscontiの挨拶状	Letters01
1225	2003	森一久氏より クルチャトフ研究所所長Vyacheslav Kuznetsov宛	Letters01
1226	2003	2003年4月2日 原禮之助氏より原産森一久氏宛	Letters01
1227	2003	韓国科学文化研究院 理事 金宗会氏より原産森一久氏宛	Letters01
1228	2003	原産森一久より韓国科学文化研究院理事金宗會氏への返信	Letters01
1231	2003	2003年3月27日 駐日韓国大使館 崔光鶴氏より原産森一久氏宛	Letters01
1232	2003	インドネシアSoedvartomo Soentono博士より原産森一久氏宛	Letters01
1233	2003	森一久氏よりIAEA使用済み燃料安全セクションBragg氏宛	Letters01
1234	2003	平成15年2月3日 BNFL社長 Norman Askew氏より原産森一久氏宛	Letters01
1235	2003	森一久氏よりクルチャトフ研究所所長Evgeniy P. Velikhov宛	Letters01
1236	2003	Nuclear Energy Institute (NEI)のJoe F. Colvin氏より	Letters01
1237	2003	2003年5月1日 原産森一久氏よりNEI会長Joe F. Colvin宛	Letters01
1238	2003	2003年5月27日 原産森一久氏よりWONUC編集長Andre Maisseu宛	Letters01
1239	2003	平成15年5月 序破急出版「花伝」編集人 国分治氏より原産森一久氏宛	Letters01
1240	2003	2003年6月4日 E&N研究会小藤博子氏より原産森一久氏宛	Letters01
1244	2003	2003年6月19日 森一久より中国国家原子能機構秘書長 馬鴻琳氏宛	Letters01
1245	2003	2003年6月18日 原産森一久より中国の草堂寺釈諦性住職宛	Letters01
1246	2003	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Vuong Huu Tan氏より森一久氏宛	Letters01
1247	2003	フランスCEA核エネルギー部長のJacques Bouchard氏より森一久氏宛	Letters01
1248	2003	NEI (Nuclear)Walter H. Hill氏より原産森一久氏宛	Letters01
1249	2003	2003年6月11日付けNEIからの通知	Letters01
1251	2003	千代田テクノル社長細田敏和氏より原産森一久氏宛	Letters01
1252	2003	2003年8月13日 原産森一久氏よりMichel P. Lung氏宛FAX	Letters01
1254	2003	小藤博子氏より原産森一久氏宛 ペン書き手紙	Letters01
1255	2003	FAO/IAEAの食物と農業における核技術課のDargieから森一久氏宛	Letters01
1256	2003	OECDのLuis E. Echavarri氏より原産森一久氏宛	Letters01
1257	2003	2003年8月22日FAX Michel P. Lung氏より原産森一久氏宛	Letters01
1258	2003	米国のJustin & Roslyn Bloom夫妻より原産森一久氏宛 私信	Letters01
1259	2003	韓国原子力産業会議副会長Bang Kuk-Jin氏より森一久副会長宛	Letters01
1260	2003	2003年9月15日 韓国原産会議KAIのBang Kuk-Jin氏より森一久氏宛	Letters01
1261	2003	ロシア連邦原子力省国際対外経済協力局V.P. Kuchinovより森一久氏宛	Letters01
1262	2003	2003年10月17日 原産森一久氏より北京のDaniel Chavardes氏宛	Letters01
1263	2003	ベトナム共産党科学教育中央委員会議長より森一久氏宛	Letters01

1264	2003	クルチャトフ研究所のVyavheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1265	2003	北京のDaniel Chevardes氏より原産森一久氏宛	Letters01
1266	2003	ローレンスリバモア国立研究所副所長 C.K.Chou博士より森一久氏宛	Letters01
1267	2003	2003年12月10日 フランスCEAのAlain Bugat氏より原産森一久氏宛	Letters01
1268	2003	北京のDaniel Chevardes氏より森一久氏宛FAX	Letters01
1269	2003	2003年9月12日 森一久氏よりベトナムPhat氏宛	Letters01
1270	2003	ロシアFGUP-DVZ-ZVEZDAのY.P. Shulgan氏より原産森一久氏宛	Letters01
1271	2003	ロシア連邦原子力省Nefedov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1272	2003	2003年11月5日 フランスのアレヴァ社Bucaille氏より原産森一久氏宛	Letters01
1273	2003	2003年11月21日 ロシアSchupakov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1274	2003	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Tan博士より原産森一久氏宛	Letters01
1275	2003	2003年12月8日 森一久氏よりロシアのAlexander N. Schupakov氏宛	Letters01
1276	2003	Taylor&Frabcis Group Europa Publication Elster氏より森一久氏宛	Letters01
1281	2004	宗教とエネルギーの地政学から見た21世紀 最首公司	Box020
1282	2004	フランスにおけるGEN-IIからGEN-IV炉への移行シナリオの予備的分析	Box020
1285	2004	日本原子力産業会議 第500回常任理事会議題	Box021
1288	2004	原子炉開発利用委員会・提言「向こう10年間に何をすべきか」	Box025
1298	2004	2004年2月3日FAX インドネシアBAPETEN議長のDjaloeis博士より	Letters01
1299	2004	ベトナム原子力委員会VAECの副議長Hong氏より原産森一久氏宛	Letters01
1300	2004	森一久氏よりThe Scowcroft GroupのDaniel B. Poneman氏宛	Letters01
1301	2004	Nuclear Energy InstituteのKikuyamaより原産のIshizuka Nobuo宛	Letters01
1302	2004	森一久氏よりNEI(Nuclear Energy Institute)のAngelina Howard宛	Letters01
1303	2004	NEI(Nuclear Energy Institute)のAngelina S. Howardより森一久氏宛	Letters01
1305	2004	The Scowcroft GroupのDaniel Poneman氏より原産森一久氏宛	Letters01
1306	2004	クルチャトフ研究所Vyacheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1307	2004	NEI(Nuclear Energy Institute)のAngelina S. Howardより森一久氏宛	Letters01
1308	2004	ドイツカールスルーエ研究所のPopp教授より原産森一久氏宛	Letters01
1309	2004	森一久氏よりNEIのAngelina S. Howard宛	Letters01
1311	2004	森一久氏より山脇道夫氏への返事控え	Letters01
1312	2004	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Tan教授より原産森一久氏宛	Letters01
1313	2004	2004年8月12日 原産森一久氏よりAnn Maclachlan宛	Letters01
1319	2005	高速炉導入の道筋と新法人への期待	Box018
1340	2006	平成18年度海洋環境放射能総合評価事業成果報告書	Box020
1345	2006	東奥日報 2006.6.18	Box021
1347	2006	東奥日報の記事(元原産会議副議長(森一久氏)が証言	Box023
1359	2007	第14回日仏原子力専門家会合(N-20)の共同声明について	Box018
1378	2007	ベトナムの原子力発電開発準備状況 日本原子力産業会議	Box026
1385	2007	近現代日本人物史料情報辞典3	Reports06
1435	2008	新潟日報 2008年7月13日	Box023
1464	2008	平成20年9月2日(絵はがき) 石光研二氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1486	2009	週間会議・イベント予定表(原産協会行事、関連機関行事など)	Box018
1489	2009	Atoms in Japan 2009年11月9日	Box018
1553	2009*	解説 原子炉開発路線の経緯と矛盾	Miscellaneous
1578		橋本清之助の原稿(週刊朝日「はたして安全か東海村」への反論?)	Box003
1601		問題点メモ(原産会議の便せんに書いたメモ)	Box010
1615		安全・環境確保のための体制整備に関する要望について(メモ)	Box013
1654		森一久 朝日新聞人物データベース調査票のための手書き原稿	Personal_Record
1655		森専務略歴(200字) 原稿用紙に手書き	Personal_Record
1660		人名録 295ページ 森一久 原産会議副会長	Manuscript04

1661	2つの論文のメモとH. Gerhard Flaemigのコメントのメモ（手書き）	Box012
1666	新教育システムの構築へ 原産副会長 森一久	Reports05
1674	クルチャトフ研究所のEvgeniy P. Velikhov所長より原産森一久氏宛	Letters01
1676	原産森一久氏よりベトナムエネルギー協会会長Pham Khanh Toan氏宛	Letters01

原子燃料公社

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
124	1956	手書きメモ:1月11日の動向 原子力局への働きかけ	Memoranda
299	1967	原子燃料公社の再処理工場について(再処理部内資料) 1967.6	Box009
301	1967	ウラン濃縮について 昭和42年9月 原子燃料公社	Box011

エネルギー問題

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
15	1954	わが国のエネルギー源としての電力供給力の現状とその将来	Box001
113	1956	日本における電力の現状と将来についての素描 1956年5月	Box003
404	1969	エネルギー政策調査会 趣意書	Box010
412	1970	「総合エネルギー対策特別会計」(仮称)の創設について 45.8.26	Box010
438	1970	エネルギー政策調査会 第4回 9月10日 ニューオータニ(手書きメモ)	Box010
448	1971	自民党政務調査会とエネルギー関係業界代表との第1回会合(依頼分)	Box010
451	1971	エネルギー研交(究?)会 46年8月10日の議事録	Box010
454	1971	エネルギー政策調査会第2回会合(46.8.12)議事要旨	Box010
541	1974	日本の総合エネルギー政策-長期的展望に立つて- 向坂正男	Box013
613	1982	コンセンサス No.18 特集:石油代替エネルギーへの25の質問	Box020
615	1982	エネルギー問題と学校教育について 昭和57年10月12日	Reports01
622	1982	日本青年会議所 エネルギー政策委員会 委員長 富田征義氏より	Reports01
634	1983	エネルギーフォーラム 1983年11月号「わたしと石油危機」	Reports01
653	1984	エネルギーいんふおめいしょん 1984年12月号	Reports01
654	1984	北海道政経文化同友会(PEC) 1984年9月28日札幌での講演	Reports01
656	1984	エネルギー 1984年5月 論壇 次の時代へどう翔ぶのか	Reports01
661	1985	(手書き草稿)「エネルギーいんふおめいしょん」10月号「今月の焦点」	Reports01
662	1985	日本工業新聞刊「エネルギー」1985年11月号 論壇	Reports01
663	1985	エネルギーフォーラム 1985年4月号 これからの原子力産業政策を探る	Reports01
673	1986	IEF ENERGY SALON 国際エネルギー政策フォーラム 昭和61年7月3日	Reports01
695	1988	エネルギーフォーラム 昭和63年1月号 84ページ 森一久 次世紀への構想	Manuscripts01
707	1988	エネルギーいんふおめいしょん 1988年6月号 今月の焦点	Manuscripts01
720	1988	1988年11月 経団連月報 特集今後のエネルギー問題と社会	Miscellaneous
798	1994	原子力をめぐる最近の諸問題	Box018
884	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録 平成8年5月14日	Box020
891	1996	「原子燃料サイクル確立への仮題」-「もんじゅ」事故を中心に-	Manuscripts
901	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録	Reports02
902	1996	エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録	Reports02
907	1996	森氏が高槻から原産会議の長嶺正美氏へ宛た手紙(速達)	Reports02
917	1996	平成8年5月14日 エネルギー総合推進委員会第321回常任委員会記録	Manuscript04
961	1997	エネルギーいんふおめいしょん 1997年10月号	Reports03
965	1997	エネルギーを考える会平成9年7月定例勉強会での講演の資料	Reports03
976	1997	エネルギーいんふおめいしょん 1997年4月号	Reports03

981	1997	国際原子力フォーラムシンポジウム	Reports04
988	1997	エネルギーいんふおめいしょん 1997年4月号	Manuscript04
1021	1998	エネルギー総合推進委員会 第343回常任委員会記録	Reports04
1054	1999	日本子孫基金 討論会記録	Manuscripts03
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録	Manuscripts03
1125	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録 経団連界会館	Reports05
1140	2001	エネルギーいんふおめいしょん 2001年11月号 焦点欄	Reports05
1337	2006	ポケット版エネルギー統計表 2006年4月 エネルギー総合推進委員会	Box018
1499	2009	原子力安全委員会の改革を 青柳長紀 NERIC News No.304/2009年	Box021

地球温暖化

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
980	1997	第一原子力産業グループ理事会での講演資料	Reports04
981	1997	国際原子力フォーラムシンポジウム	Reports04
1220	2003	KEIZAI 2003-9 特集エネルギーと環境問題 中島篤之助	Reports06
1284	2004	久野雅也氏より首都大学東京学長西澤潤一氏への手紙	Box021
1359	2007	第14回日仏原子力専門家会合(N-20)の共同声明について	Box018
1430	2008	原子力発電と新エネルギーの比較	Box021
1482	2008*	赤祖父俊一論文「止まった気温上昇CO ₂ 犯人説の真偽を考える」について	UCN_Blog
1483	2009	Trying to fight global warming one pig at a time	Box018
1515	2009	田中宇の国際ニュース解説(9/12/2)	Box029
1522	2009	ronbun 森一久 2009年10月9日	UCN_Blog
1523	2009	ronbun 森一久 2009年9月11日	UCN_Blog
1559	2010	世界・日本の運命の分かれ道	Box029
1562	2010	地球環境問題がもめ続ける、そこに伏在する真の流れ。	Box029
1638		手書きメモ(ウラン資源に関する資料についての礼状の原稿?)	Box023

NERIC: Nuclear and Energy-Related Information Center

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
1384	2007	NERIC News No.282 2007年10月号 巻頭言	Reports06
1389	2007	NERIC NEWS No.282 2007年10月号	Miscellaneous
1484	2009	NERIC News No.303/2009年11月号 核・エネルギー情報センター 発行	Box018
1499	2009	原子力安全委員会の改革を 青柳長紀 NERIC News No.304/2009年	Box021
1502	2009	NERIC News No.296/2009年2月号	Box023
1537	2009	NERIC News No.296 2009年2月号 解説 森一久	Reports06

UCN会: Union of Unconcerned:

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
1313	2004	2004年8月12日 原産森一久氏よりAnn Maclachlan宛	Letters01
1316	2004	UCN会へのアクセス地図	Box029
1335	2005	UCN会会則	Box029
1350	2006	「原子力囲碁大会」事始めの頃 森一久	UCN_Blog
1352	2006	原子力eye vol.52 No.4	Reports06
1380	2007	UCN会が電力経済研究所の小史をまとめ完成したので送るとの挨拶状	Box029
1442	2008	財団法人 温水養魚開発協会・小史 発行 UCN会 編集 森一久	Writings

1446	2008	仮想・立花昭記念館 行 UCN会 編集 森 一久 喜多尾 憲助	Writings
1457	2008	9月21日付け(ペン書き手紙) 岡本隆一氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1458	2008	平成20年9月(はがき) 武井氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1460	2008	平成20年9月21日(はがき) 阿部元祐氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1461	2008	平成20年9月29日(はがき) 遠藤常在氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1462	2008	平成20年9月21日(はがき) 富永五郎(夫人)よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1463	2008	平成20年9月26日(はがき) 武田充司氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1464	2008	平成20年9月2日(絵はがき) 石光研二氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1468	2008	平成20年10月2日 赤間行三氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1470	2008	平成20年9月12日(はがき) 服部学氏からUCN会森一久氏宛	Letters02
1471	2008	平成20年9月23日(はがき) 永原照明氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1472	2008	平成20年9月(はがき) 武井氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1477	2008	SMTechのCEOであるMun Ik Son氏よりUCN会森一久氏に宛た手紙	Box029
1482	2008*	赤祖父俊一論文「止まった気温上昇CO ₂ 犯人説の真偽を考える」について	UCN_Blog
1509	2009	天木直人のブログ マハティール前マレーシア首相のオバマ大統領宛書簡	Box023
1514	2009	UCN会などの写真 2009年3月4日	Box029
1517	2009	NTTコミュニケーションズ請求額・領収通知 2009年3月16日	Box029
1519	2009	事務所使用料請求書	Box029
1520	2009	毎日新聞 平成21年8月11日	UCN_Blog
1521	2009	韓国棋院ニュース 2009年11月19日	UCN_Blog
1522	2009	ronbun 森一久 2009年10月9日	UCN_Blog
1523	2009	ronbun 森一久 2009年9月11日	UCN_Blog
1524	2009	ronbun 浜崎一成 2009年8月31日	UCN_Blog
1525	2009	UCN会発の問題提起	UCN_Blog
1526	2009	UCN会発の問題提起	UCN_Blog
1527	2009	森一久 日本人の「体温低下」とはいったい何事か? 2009年夏	UCN_Blog
1528	2009	間弘明 自立性の回復を急ごう	UCN_Blog
1529	2009	間弘明 自立性の回復のみが生き残りの道	UCN_Blog
1530	2009	森一久 消費前財政論は問題のすり替え	UCN_Blog
1531	2009	毎日新聞記事と滝野記者から森一久氏宛私信付きFAX	UCN_Blog
1536	2009	平成21年2月25日FAX UCN会 森一久より 新潟日報三島氏宛	Reports06
1545	2009	森一久 ブログ開設の弁 世界金融危機同時不況の次に来るもの	UCN_Blog
1546	2009	森一久 斬新で次の時代を見据えた「対策」は無いものか	UCN_Blog
1547	2009	森一久 原子力施設のセキュリティーをどう考えるか	UCN_Blog
1548	2009	森一久 日本人集団のDNAの近年のオンvsオフ症状	UCN_Blog
1549	2009	森一久 「百年来の経済危機」がもたらすか新「人間像」	UCN_Blog
1550	2009	森一久 日本人よ人類よ「よいDNA」を何処に置き忘れたの!	UCN_Blog
1552	2009*	環境・エネルギー・原子力に本気で取り組むなら	Box029
1559	2010	世界・日本の運命の分かれ道	Box029
1560	2010	世界・日本の運命の分かれ道- 2010年1月7日	Box029
1561	2010	会計簿 2010年1月	Box029
1564	2010	世界・日本の運命の分かれ道	Miscellaneous
1569	2010	原禮之助「取り戻せ日本のリズムテンポハーモニーを」	UCN_Blog
1570	2010	森一久 「事業仕分け」は禍根を満載 削減率のあまりの低さ	UCN_Blog
1649		世界がこれらのディレンマから脱却して・・・	Box029

動力炉・核燃料開発事業団

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
65	1955	原子力発電計画 1955年2月 英国政府 燃料・動力省	Box007
108	1956	動力協定研究報告(案) (I) 原事資・006-A 1956年12月	Box007
134	1956*	海外反響いまのところなし 正力のその後の動静 2段構えの譲歩 裏の動き	Memoranda
139	1957	原子力工業 Vol.3 No.10、OCT. 1957 日刊工業新聞社	Box006
141	1957	イギリス動力協定案 原法資-008 1957年5月 日本原子力産業会議	Box007
145	1957	アナリスト 昭和32年8月号のコピー 森一久	Manuscripts02
229	1961	日米原子力産業合同原子動力会議 1961年12月5日-8日	Box003
256	1963	日本原子力研究所における動力試験炉運転中止をめぐる労使紛争	Box007
292	1967	動力炉・核燃料開発事業団法案に対する附帯決議 42. 7. 5	Box011
296	1967	原子力産業新聞 第401号 昭和42年10月5日	Box004
302	1967	動力炉・核燃料開発事業団法案に対する附帯決議([292]のコピー)	Box010
343	1968	動力炉・核燃料開発事業団と原研の目的	Box010
344	1968	日本原子力船開発事業団と放射線医学総合研究所の目的	Box010
360	1968	再処理関係資料集 昭和43年1月 動力炉・核燃料開発事業団広報室	Box011
362	1968	再処理工場敷地問題関連資料 43. 4. 4 動力炉開発室	Box011
369	1968	実地検査の結果について 会計検査院事務局より動燃理事長宛	Box012
469	1971	海外ウラン資源開発について一現状と問題点・将来の展望一	Box010
480	1972	原子力施設所在地の地帯整備および税制優遇等の促進に関する要望	Box010
502	1972	原子力地帯整備開発問題の論点について(原産・動力開発課)	Box010
523	1973	発言要旨 手書きメモ	Box010
531	1974	地帯整備特定財源手書きメモ	Box010
532	1974	昭和49年度?工事費分担案手書きメモ	Box010
575	1976	核燃料サイクルに関する懇談会(第7回)議事概要	Box011
593	1978	遠心分離法開発の現状と成果 53. 8. 8 動燃の便せんなど(取扱注意)	Box017
619	1982	日本動力協会事務局長 田中幸雄氏に宛た森一久氏の私信	Reports01
698	1988	Atoms in Japan January 1988 Vol.32 No.1 新春対談 司会森一久	Manuscripts01
705	1988	動力 昭和63年4月号 談話室 森一久 有澤廣巳先生の世界	Manuscripts01
717	1988	日本動力協会 動力 昭和63年5月号 談話室 有澤廣巳先生の世界	Reports01
718	1988	動力 No.186 談話室欄 有澤廣巳先生の世界 森一久	Reports06
719	1988	昭和63年5月号「動力」No186 談話室欄 有澤廣巳先生の世界 森一久	Miscellaneous
904	1996	朝日新聞 平成8年2月24日 夕刊 日本記者クラブから 森一久	Reports02
938	1997	海外のプラントにおけるナトリウム漏えい件数	Box021
952	1997	東海村動燃の微量放射能事故の健康影響についての見解	Box025
954	1997	エネルギーを考える会定例勉強会 講師原産会議副会長 森一久	Manuscripts03
961	1997	エネルギーいんぷおめいしょん 1997年10月号	Reports03
964	1997	エネルギーを考える会平成9年7月定例勉強会開催のお知らせ	Reports03
967	1997	動燃の改革と今後の原子力研究開発のあり方	Reports03
969	1997	原子力ニュース第18巻6号 巻頭言 森一久	Reports03
970	1997	4月30日TBS社員セミナーの資料	Reports03
978	1997	日本工業新聞 山崎康志氏より礼状と原稿点検依頼文	Reports04
995	1997	平成9年12月12日 日本工業新聞? 原子力エネルギー欄	Manuscript04
1005	1997	AJ Scope Apr. また始まるのか延々と「小田原評定」	Reports03
1015	1998	変革の山場に向かって Scope 98 Jan 動燃改革および行政改革について	Reports04
1022	1998	ECOレポート 19号 1998年3月 内外経済情勢懇談会	Reports04
1028	1998	Scope 98 Jan用原稿 変革の山場に向かって	Manuscript04
1113	2000	エネルギー総合推進委員会 第356回常任委員会記録	Manuscripts03

1601	問題点メモ（原産会議の便せんに書いたメモ）	Box010
1610	動燃、原研等の目的・業務の一覧表	Box011
1643	原子力の意味とそれを具現化するための基礎問題（手書きのメモ）	Box024

アイソトープ協会

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
28	1954	社団法人日本アイソトープ協会定款	Box020
126	1956	手書きメモ：何かの会のメンバーの原案づくり？	Memoranda
247	1963	ラジオ・アイソトープ工業利用実態調査報告書 科学技術庁原子力局	Box002
883	1996	平成8年、9年、10年の役員報酬額等	Box020
927	1997	社団法人日本アイソトープ協会パンフレット 平成9年6月	Box020
928	1997	日本アイソトープ協会役員名簿 1997年6月29日	Box020
929	1997	会長中尾喜久会長宛（投書）	Box020
930	1997	会長中尾喜久会長宛 協会の現状、将来を憂う有志職員の改善案	Box020
931	1997	中尾喜久会長宛 日本アイソトープ協会職員の内告発文書	Box020
932	1997	日本アイソトープ協会会長中尾喜久先生宛 職員有志の内告発文	Box020
1004	1997	日本アイソトープ協会職員の内告発文	Box020
1009	1998	日本アイソトープ協会中尾喜久会長宛 鳥塚委員会の中間報告書	Box020
1010	1998	某先生に対するお願い文 常務理事会議長 平成10年4月14日	Box020
1213	2003	化学物質と放射線のリスクについての考え方の対比	Box019
1251	2003	千代田テクノル社長細田敏和氏より原産森一久氏宛	Letters01
1356	2006	Isotope News 2006年1月号 講演記録	Reports06
1641		Japan Radiation Association 日本アイソトープ協会 パンフレット	Box024
1674		クルチャトフ研究所のEvgeniy P. Velikhov所長より原産森一久氏宛	Letters01

科学技術庁

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
106	1956	天然ウラン・グラファイト炉による発電コスト推定の問題点	Box006
109	1956	国際原子力協定締結状況＜原子力メモ＞ 第7号 昭和31年7月16日	Box007
247	1963	ラジオ・アイソトープ工業利用実態調査報告書 科学技術庁原子力局	Box002
271	1965	大型電子計算機の貸借に関する件 日本原子力産業会議会長	Box012
304	1967	核燃料再処理施設の設置について（回答）	Box011
305	1967	核燃料再処理施設の設置について 岩上二郎茨城県知事	Box011
313	1967	昭和42年度重要事項別内示額総表（第2次内示分）科学技術庁	Box011
338	1967	国会、政府機関との連絡の緊密化 企画室	Box011
363	1968	「核燃料再処理施設の建設について」鍋島直紹科学技術庁長官宛	Box011
374	1968	原子力軍艦放射能調査指針大綱 科学技術庁原子力局	Box013
385	1968	体制関係封筒の表書き S43（科学技術庁の封筒）	Box011
391	1968	ソ号寄港にともなう放射能調査について	Box013
401	1969	原子力の平和利用に関する世論調査 昭和44年7月 科学技術庁	Box012
466	1971	岩動道行政管理政務次官から原産会議森一久事務局長宛封書	Box010
475	1972	米国における原子力発電所の建設許可・運転認可手続き	Box010
552	1975	科学技術庁・通商産業省告示第1号 昭和50年10月15日	Box010
570	1976	核燃料サイクルに関する懇談会（第3回）議事概要	Box011
651	1984	二酸化炭素の蓄積による気候変動と資源問題に関する調査報告	Box015
748	1990	原産会議森一久専務理事宛 放射線疫学調査センター センター長より	Box024

786	1993	朝日新聞 平成5年9月29日 主張解説欄	Reports02
956	1997	森一久 事務連絡票 平成9年8月20日	Personal_Record
1028	1998	Scope 98 Jan用原稿 変革の山場に向かって	Manuscript04
1291	2004	日本エネルギー経済研究所 2004年8月15日 生田豊明さんを偲ぶ	Manuscripts02

日本学術会議

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
39	1954	原子核特別委員会議事要録「原子力問題について」1954.7.17	kondankai
162	1958	原子炉およびその関連施設の安全性に関する資料 日本学術会議事務局	Box008
254	1963	原子力潜水艦の安全性に関する検討(草稿) 日本学術会議	Box005
537	1974	資源・エネルギー関係の研究体制について(勧告) 日本学術会議	Box013
1044	1999	Asahi Shinbun Weekly AERA 1999.6.21	Box020
1443	2008	アルスの会のウェブページ	Manuscripts02
1586		学術会議で議論された主要事項を記したメモ	Box005

文部科学省・文部省

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
57	1955	学術情報 No.27 特集 原子力の平和的利用 文部省大学学術局	Box004
596	1979	文部省科学研究費補助金 総合研究(B) 昭和54年3月	Box004
1028	1998	Scope 98 Jan用原稿 変革の山場に向かって	Manuscript04
1209	2003	超低周波磁界と小児白血病及び脳腫瘍	Box018
1321	2005	電磁波/衝撃的な国立環境研究所論文と文部科学省の陳腐な評価	Box018
1434	2008	島村原子力政策研究会資料の印刷・配布について	Box023

原子力委員会

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
85	1955	原子力委員会設置法案	Box005
97	1956	アメリカの原子炉開発(米国原子力委員会第18次半年報告の一部)	Box002
131	1956	原子力委員会の100日一何を議論したかー 創設時の記録 村田浩	Box022
132	1956*	手書きメモ:9日に決定した原子力委員会	Memoranda
145	1957	アナリスト 昭和32年8月号のコピー 森一久	Manuscripts02
171	1959	総評議長 太田薫から 原子力委員会委員長 中曽根康弘への申入書	Box005
172	1959	日本社会党の総理大臣及び原子力委員会委員長への申入書	Box005
178	1959	日本原子力発電株式会社の原子炉の設置の安全性について	Box007
220	1961	米原子力委員会の敷地基準案(1961・2・11連邦公報掲載)	Box007
221	1961	原子力開発利用長期計画 昭和36年2月8日 原子力委員会	Box007
263	1964	廃棄物処理専門部会報告書(抜粋) 昭和39年6月12日	Box003
298	1967	原子力開発利用長期計画 昭和42年4月13日 原子力委員会	Box009
338	1967	国会、政府機関との連絡の緊密化 企画室	Box011
354	1968	原子力委員会へのrecommendation 1968年7月18日	Box010
356	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について(案) 43.3.12	Box011
357	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について 43.3.14 原子力委員会	Box011
358	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について 43.3.14 原子力委員会	Box011
384	1968	原子力関係機関体制問題懇談会の開催について(案)原子力委員会	Box010
386	1968	原子力委員会ならびに各開発機関のあり方について(案) 43.6.22	Box011

400	1968	原子力委員会及原子力局に第一の責任は何か	Box010
439	1970	Questionnaire to USAEC (米国原子力委員会への質問事項メモ)	Box012
460	1971	長期計画専門部会の設置について 46. 6. 17 原子力委員会	Box013
491	1972	原子力開発利用長期計画 昭和47年6月1日 原子力委員会	Box013
521	1973	昭和48年5月7日 日本原子力産業会議 訪ソ原子力視察団ハンドブック	1973_USSR
595	1978	法律時報 昭和53年7月号 森一久 原子力基本法等の改正一	Manuscripts02
618	1982	原子力学会誌 24巻9号(1982) これからの原子力開発 森一久	Reports01
642	1983	昭和58年11月 原子力船懇談会報告書 原子力委員会原子力懇談会	MUTU_File
646	1983	原子力委員会 原子力船研究開発事業団の統合について	MUTU_File
658	1984	昭和59年1月24日 原子力委員会 今後の原子力船研究開発のあり方	MUTU_File
693	1988	原子力と産業界 森一久 1988年	Box023
864	1995	原爆体験と日本の原子力開発 平成7年8月15日 森一久	Reports02
868	1995	Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan	Reports02
1028	1998	Scope 98 Jan用原稿 変革の山場に向かって	Manuscript04
1053	1999	日本原子力産業会議とベトナム原子力委員会の覚書	Box026
1136	2001	原子力エネルギー及びその応用についての質疑応答集	Box026
1154	2002	ベトナム原子力委員会委員長Vuong Huu Tanより森一久氏宛	Letters01
1156	2002	ベトナム原子力委員会委員長Vuong Huu Tanより原産森一久氏宛	Letters01
1178	2002	ベトナムTran Huu Phat氏より森一久氏宛	Letters01
1193	2002	ベトナム原子力委員会副委員長Le Van Hongより原産森一久氏宛	Letters01
1246	2003	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Vuong Huu Tan氏より森一久氏宛	Letters01
1274	2003	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Tan博士より原産森一久氏宛	Letters01
1299	2004	ベトナム原子力委員会VAECの副議長Hong氏より原産森一久氏宛	Letters01
1312	2004	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Tan教授より原産森一久氏宛	Letters01
1376	2007	原子力利用を着実に進めるために取り組むべきこと(未定稿)	Box021
1435	2008	新潟日報 2008年7月13日	Box023
1438	2008	公開シンポジウム 主催原子力委員会	Box023
1504	2009	分離変換技術に関する研究開発の現状と今後の進め方(案)	Box023
1601		問題点メモ(原産会議の便せんに書いたメモ)	Box010
1609		原子力委員会等の見直しに関するメモ(手書きメモ)	Box011

原子力安全委員会

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
595	1978	法律時報 昭和53年7月号 森一久 原子力基本法等の改正一	Manuscripts02
605	1980	原子力発電所周辺の防災対策について 昭和55年6月	Box015
1028	1998	Scope 98 Jan用原稿 変革の山場に向かって	Manuscript04
1298	2004	2004年2月3日FAX インドネシアBAPETEN議長のDjaloeis博士より	Letters01
1499	2009	原子力安全委員会の改革を 青柳長紀 NERIC News No.304/2009年	Box021

湯川秀樹

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
25	1954	原子力発電の経済的影響 湯川秀樹序 森一久訳 Shurr & Marschak	Miscellaneous
133	1956*	手書きメモ:湯川先生からの伝言	Memoranda
134	1956*	海外反響いまのところなし 正力のその後の動静 2段階への譲歩 裏の動き	Memoranda
693	1988	原子力と産業界 森一久 1988年	Box023
853	1995	手書き草稿 平成7年 森一久「原爆体験と日本の原子力開発」	Manuscripts03

855	1995	原産会議よりatomwirtschaftのEditor Dr.Eckert Pschekeに送った森論文	Manuscripts03
868	1995	Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan	Reports02
1377	2007	毎日新聞 夕刊 2007年1月24日 湯川秀樹博士生誕100年	Box023
1379	2007	TBS報道局より森一久氏への手紙とDVD	Box028
1388	2007	平成12年刊 廣高とヒロシマ 廣島高等学校同窓有志の会 水田泰次	Miscellaneous
1435	2008	新潟日報 2008年7月13日	Box023
1447	2008	新潟日報 平成20年7月13日	Reports06
1448	2008	毎日新聞 2008年3月16日 発信箱欄 藤原章生(夕刊編集部)の記事	Reports06
1480	2008	湯川先生生誕百周年関係(2007~8)	Reports06

パグウォッシュ会議

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
820	1994	1994年12月10日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
821	1994	1994年5月1日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
823	1994	1994年12月23日 立花昭氏より小沼通二氏宛	Letters02
843	1995	朝日新聞記事 1995年7月21日 ひと欄	Box025
844	1995	第2回世界将来世代京都フォーラムー被爆50周年	Box025
863	1995	「人類の脱皮をねがって」森一久 平成7年10月6日の講演のための草稿	Reports02
865	1995	日本原子力学会誌1995年Vol37 No9 談話室への寄稿 森一久	Reports02
871	1995	1995年1月3日 立花昭氏より森一久氏宛	Letters02
905	1996	仏教徒フォーラム 第53号 日本仏教徒懇話会第68回懇談会	Reports02

国際原子力協力

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
9	1953	Atomes(フランス雑誌) Mars 1953 No.84	Box001
13	1954	原子力に関するソ連と米国の協議の記録New Times No.40(1954)	Box001
27	1954	アメリカ原子力法の改正をめぐる諸問題 世界経済研究所第71集	Box001
48	1955	日米原子力協定についての見解 原子力平和利用調査会 昭和30年8月	Box002
52	1955	新原子力法とアメリカ民間企業 昭和30年6月 資料第16号	Box002
56	1955	声明(日米原子力協定)1955年6月22日 東京大学教養学部物理学教室	Box002
58	1955	フランスの原子力関係法規 原子力平和利用調査会 昭和30年10月	Box004
59	1955	アメリカ、イギリス、フランスの原子力関係法制概要	Box004
61	1955	ストロース原子力委員長の記者会見	Box005
62	1955	世界週報 1955年3月21日号 イギリス原子発電計画白書 時事通信社	Box006
66	1955	日米原子力協定についての見解 原子力平和利用調査会 原子力資料	Box007
70	1955	週刊エコノミスト 昭和30年9月17日号のコピー	Manuscripts02
71	1955	週刊エコノミスト 昭和30年8月20日号のコピー 間弘明	Manuscripts02
75	1955	エコノミスト 昭和30年7月30日号 穴ボコだらけの日米原子力協定	Manuscripts05
81	1955	アメリカの新原子力法 とくに、いわゆる双務協定を理解するための手引き	Box001
93	1955	東京大学教養学部物理学教室有志声明 日米原子力協定について	kondankai
97	1956	アメリカの原子炉開発(米国原子力委員会第18次半年報告の一部)	Box002
105	1956	イギリス原子力発電計画の背景 <原子力メモ> 第4号	Box006
112	1956	エコノミスト 昭和31年3月10日号 48ページ 正体見たり 原子力発電	Manuscripts05
123	1956	手書きメモ:Chicago Commonwealth-Edison Company	Memoranda
136	1957	ソ連の原子力 航空幕僚監部調査課 調査資料第21号 昭32.3.20	Box002
141	1957	イギリス動力協定案 原法資-008 1957年5月 日本原子力産業会議	Box007

144	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年4月1日 創刊号のコピー 間弘明	Manuscripts02
145	1957	アナリスト 昭和32年8月号のコピー 森一久	Manuscripts02
146	1957	東洋経済新報社「ビジネス」昭和32年5月 間弘明	Manuscripts02
157	1958	日英貿易会談の件 第213号電信写 大臣宛 ロンドン発 昭和33.4.4着	Box003
158	1958	日英貿易会談の経緯(3月13日現在)市場第1課 Mar.14、1958	Box003
159	1958	訪英原電調査団の活動状況について 昭和33年通連第488号	Box003
186	1959	Die Presse 18 Maerz 1959 (ソ連の原子炉で事故があったのか?)	Box008
191	1959	中国要人の発言メモ(便箋に書いたもの)	Box005
203	1960	アメリカのフォーラムについて 国際課資料 竹内宏	Box007
229	1961	日米原子力産業合同原子動力会議 1961年12月5日-8日	Box003
237	1962	米国視察とフォーラム出席のメモ	Box008
238	1962	日米原子力会談	Box008
242	1962	日仏原子力技術会議	Box002
243	1962	History of Nuclear Power Cooperation between France and Japan	Box020
244	1962	海外との原子力交流の概説 日仏の部分のコピー	Box020
258	1963	日米原子力会談の概要 38. 1. 17	Box008
260	1963	米国の財団に対する 科学技術テレビ放送への放送設備寄付	Miscellaneous
261	1964	日本外交に注文する-日中関係に即して-	Box008
266	1964	科学朝日 昭和39年9月 森一久(23ページ)および原礼之助(36ページ)	Manuscripts02
295	1967	原子力産業新聞 第400号 昭和42年9月25日	Box004
297	1967	欧州の放射性廃棄物の漁業への影響調査団の写真の入った封筒	Box009
325	1967	古い写真を入れた封筒(「こちらお返しておきます」の張り紙あり)	Box021
328	1967	IAEAのHenry Seligmanから橋本清之助氏宛の航空便	Box021
380	1968	米国原子力潜水艦(ソードフィッシュ号)寄港関係資料集 原子力局	Box013
392	1968	有澤、田中次長、山崎文男、向坊隆、嵯峨根遼吉 佐世保関係意見交換会	Box010
406	1969	ノートブック IAEA等視察ノート	Box012
419	1970	核防条約に伴なう保障措置問題調査団館(日程表)	Box012
423	1970	Industrial Mission on NPT International Safeguards April 1 1970	Box012
428	1970	四国電力50年史の一部コピー	Box020
429	1970	Industrial Mission on NPT International Safeguards 訪米調査団	Box012
430	1970	Schedule of Industrial Mission on International Safeguards	Box012
437	1970	Industrial Mission on NPT International Safeguards 09Apr. 1970	Box012
439	1970	Questionnaire to USAEC (米国原子力委員会への質問事項メモ)	Box012
441	1970	オーストリアでの連絡先(大使館、住友商事、IAEAなど)	Box012
442	1970	日米、日英協定、safeguard 相違についても手書きメモ	Box012
445	1970	Courses au Bois de Boulogne 1970. 4. 19	Box012
463	1971	日米エネルギー協議 日本人参加者フライトスケジュール56.6	Box003
464	1971	日米エネルギー協議 米側主要参加者について56.6.9	Box003
474	1972	ソ連大使との懇談概要「取扱注意」1972年6月29日 東京プリンスホテル	Box010
475	1972	米国における原子力発電所の建設許可・運転認可手続き	Box010
510	1973	日ソ民間原子力協定 昭和48年6月 訪ソ 関係封筒の表書き	Box012
512	1973	ソ連からの訪ソ団の土光敏夫宛礼状(ロシア語原文と和訳)	Box012
513	1973	コラ半島原子力発電所運転開始情報 住友商事ソ連東亜室次長より	Box012
514	1973	訪ソ時の風景スケッチ 昭和48年6月	Box012
515	1973	シェフチェンコの原子力発電所と極北のビリビノ原子力発電所のニュース	Box012
516	1973	訪ソ団旅行記(手書きメモ) 昭和48年6月	Box012
521	1973	昭和48年5月7日 日本原子力産業会議 訪ソ原子力視察団ハンドブック	1973_USSR
525	1973	6月25日の伝票(ロシア語の計算書 両替関係?)	Box015
527	1973	原子力関係用語(ロシア語と対応する日本語の表)	Box015

528	1973	関係機関連絡先 ソ連旅行の注意書きなど	Box015
535	1974	米国原子炉安全研究(WASH-1400)専門家会議出張報告	Box011
563	1975	ソ連引合原子力NSSS Componentsの件 日本原子力産業会議	Box015
568	1975	ソ連引合100万KW原子力発電プラント用一次系商談の件	Box015
579	1976	米国・カナダ原子力調査団報告書 全国電力労働組合連合会 1976.8	Box014
586	1977	52年 6/21-6/25 ソ連行関係封筒表書き(原産会議封筒)	Box015
587	1977	モスクワ(ソ連国家原子力利用委員会との会談)出張精算	Box015
591	1977	日ソ民間原子力協定記事 毎日新聞・朝日新聞	Box012
592	1977	訪ソ団の写真(土光経団連会長などの写真)	Box012
601	1979	掛けがえのない原子力発電・核燃料サイクルの日仏協力	Box020
604	1980	日中原子力交流 中国からの代表团名簿	Box014
607	1981	森専務理事訪米日程(案)改訂版56. 6. 18	Box003
636	1983	電気新聞 1983年6月7日 人欄 森一久 日中原子力協力に手応え	Reports01
641	1983	昭和58年9月30日発行 広島高等学校創立60周年記念 青春回想録	Manuscript04
645	1983	1983年2月24日 ドイツ語の新聞記事	MUTU_File
665	1986	写真(森専務理事殿 ソ連キエフS61/8/10-18)写真	Box021
666	1986	ソ連引合い原産関係資料 1975 封筒の表書き	Box015
672	1986	国際評論社 LA INTERNATIONAL 1986年7月 ソ連原発事故の衝撃	Reports01
674	1986	電気産業新聞 昭和61年6月4日 ソ連原発事故をどう見るか	Reports01
676	1986	朝日新聞 昭和61年4月30日夕刊 および 読売新聞 5月1日朝刊	Reports01
679	1986	森一久 昭和61年? (功績調書らしきもの) 閲歴	Personal_Record
683	1987	日米原爆線量再評価検討委員会報告書について 田島英三	Box016
685	1987	日米原爆線量再評価検討委員会報告書について 田島英三	Box016
687	1987	草堂寺簡介の日本語訳本「草堂寺案内」附「鳩摩羅什法師略伝	Buddhism01
710	1988	森一久 ソ連のヴィザ 1988年11月20日から1988年11月27日	Manuscripts01
711	1988	訪ソ原子力安全調査団 名簿 原産会議1988年11月	Manuscripts01
714	1988	日本物理学会編「原子力発電の諸問題」東海大出版 1988年2月25日	Manuscripts02
722	1988	新聞切り抜き チェルノブイリ惨事から2年(ソ連報道)	Box004
725	1988*	広島で原爆テスト一極秘情報一水田泰次 の文章	Reports05
726	1989	原子力産業の曲り角 一日米欧にみる10年の推移と新しい兆しー 桜井淳	Box004
727	1989	英政府招聘で訪英 英国大使館 E.J. Fieldより森一久氏に対する手紙	Box021
735	1989	プラウダの記事の切り抜き 1989年4月15日 東京発の記事	Manuscripts01
738	1989	財界 1989年8月8日号 森一久 羅什の顔	Manuscripts01
742	1989	プロメテウス 平成元年? 森一久氏へのインタビュー記事	Manuscripts01
749	1990	私信(森一久氏 手書き原稿)(疋田・さん(森家菩提寺住職)へ)	Manuscripts01
752	1990	「日ソ記者」序文(森一久手書き草稿)平成2年1月5日	Manuscripts01
754	1990	森一久 訪ソ代表団渡航カード 1990年10月	Personal_Record
756	1990	原子力船「むつ」出力上昇試験の進捗状況について 日本原子力研究所	MUTU_File
758	1991	海外のプラントでのナトリウム漏洩件数	Box021
760	1991	N-20のはじまり(日仏原子力専門家会合(N-20)発足の経緯、開催一覧	Box020
767	1992	ロシア核秘密都市概要 1992年8月	Box020
769	1992	This is 読売 1992年1月 森一久 チェルノブイリ事故	Manuscripts02
772	1992	読売新聞主催「冷戦後の核管理と原子力開発ー平和利用の展望」	Reports02
778	1992	平成4年10月8日 読売新聞 日米ロ国際シンポジウム	Manuscript04
785	1993	森専務 仏出張日程表 平成5年9月16日現在	Reports02
789	1993	福竜丸だより(第181号) 1993年5月15日	Reports02
790	1993	360 1993年5月号 森一久 寄稿論文 旧ソ連科学技術の現状	Reports02
792	1993	平成5年9月16日 森専務理事 仏出張日程表	Manuscript04
793	1993	イギリス出張仮払い清算 森	Box021

810	1994	China-Japan-India Workshop on High Background Radiation	Box025
816	1994	中国新聞平成6年3月11日 4月に開催される原産会議の年次大会	Reports02
818	1994	日本経済新聞 平成6年3月26日夕刊	Reports02
825	1994	平成6年3月11日 中国新聞?	Manuscript04
829	1994	乾式電解精錬再処理について	Box024
837	1995	外国出張報告書 平成7年11月9日	Box023
852	1995	中国新聞記事 1995年6月24日 ヒロシマ50年被爆者実態調査	Box025
856	1995	訂正版を送った森一久氏のFax送付に対するEditorからの返信	Manuscripts03
859	1995	フランス科学アカデミーの1995年10月報告	Reports02
860	1995	フランス科学アカデミーの報告「低線量放射線の影響に関する諸問題」	Reports02
861	1995	電離放射線の低線量影響に関する諸問題 報告No34	Reports02
864	1995	原爆体験と日本の原子力開発 平成7年8月15日 森一久	Reports02
867	1995	atomwirtschaft-atomtechnik 7 1995年7月号	Reports02
868	1995	Atomic Bombing and Nuclear Energy Development in Japan	Reports02
888	1996	96 9/28-10/2 独 と題する封筒 日独会議の写真 森副会長宛	Box020
892	1996	新国策 平成8年11月15日号 日本原子力産業会議副会長 森一久	Manuscripts02
897	1996	第5回日仏原子力専門家会合の概要(メモ)	Reports02
898	1996	N-20(第5回日仏原子力専門家会合)における森一久氏のコメント草稿	Reports02
918	1996	The 12th Japanese-German Meeting on Nuclear Energy	Box020
939	1997	Lycopene and Myocardial Infarction Risk	Box021
943	1997	日中原子力協力代表者会議 中国訪問日程(案)	Box023
944	1997	日中原子力協力代表者会議の概要	Box023
946	1997	外国出張報告書 平成9年3月31日	Box023
948	1997	日中原子力協力代表者会議について	Box023
949	1997	9月11日活動安排(行動スケジュール)	Box023
950	1997	中国側対応者のリスト履歴(核工業総公司の関係者)	Box023
951	1997	中国外貨交換メモ(森氏が2万円を両替した記録)	Box023
953	1997	原子力に好意的な一見解 エネルプレス誌	Box025
959	1997	朝日新聞 平成9年2月 日米原子力協定	Reports02
981	1997	国際原子力フォーラムシンポジウム	Reports04
983	1997	1997年12月 草堂寺と国前寺との友好に関する覚書	Buddhism01
1012	1998	ベトナム原子力発電視察団・団員名簿	Box026
1016	1998	中国新聞平成10年11月22日および 読売新聞平成10年10月25日	Reports04
1024	1998	日本原産会議副会長森一久より草堂寺釈諦性先生宛	Buddhism01
1026	1998	1998年12月18日森一久より木藤啓子宛FAX	Buddhism01
1027	1998	1998年11月17日 森一久氏より疋田英親氏宛の手紙	Buddhism01
1032	1998	平成10年11月22日 中国新聞 東京と一く	Manuscript04
1035	1998	フランス科学アカデミーの放射線防護についての考え	Manuscript04
1040	1998*	中国核工業総公司の用紙を使ったFAX 任屹霞より三石様宛	Buddhism01
1049	1999	JAMA May 51999, Vol.281, No.17 の表紙	Box021
1050	1999	低線量電離放射線の細胞影響	Box021
1051	1999	1999年1月ベトナム第1回の対応	Box026
1052	1999	ベトナム原子力発電事情調査団報告書 1999年1月	Box026
1053	1999	日本原子力産業会議とベトナム原子力委員会の覚書	Box026
1060	1999	朝日新聞 平成11年8月23日	Reports04
1063	1999	JCO臨界事故に関する資料	Reports05
1094	1999	The Strategy for Long-term Japan-Vietnam Relation	Box026
1100	1999*	原産森一久より日本アジア交流協会北村理事長宛	Buddhism01
1104	1999*	East-West Bridges基金のMikhail Nosov氏より原産森一久氏宛FAX	Letters01

1107	2000	事故処理作業管理に関する日本、ウクライナ、ロシアの専門家会議	Box020
1110	2000	American Nuclear Society Northeastern Sectionから	Box021
1122	2000	Radiation Standards Scientific Basis Inconclusive	Reports05
1126	2000	中国新聞2000年2月17日 18日 19日 連載 被曝と人間	Reports05
1136	2001	原子力エネルギー及びその応用についての質疑応答集	Box026
1142	2001	BNFL Japan K.K. David Powel社長より原産森一久副会長宛	Letters01
1143	2001	2001年12月20日 中国原子力学会会長Wang Naiyanより森一久氏宛	Letters01
1154	2002	ベトナム原子力委員会委員長Vuong Huu Tanより森一久氏宛	Letters01
1155	2002	ベトナム科学技術環境省副大臣Hoang Van Huayより森一久氏宛	Letters01
1156	2002	ベトナム原子力委員会委員長Vuong Huu Tanより原産森一久氏宛	Letters01
1158	2002	フランス サクレーのGilles Bordierより森一久氏宛	Letters01
1164	2002	高橋博氏より原産森一久氏宛	Letters01
1167	2002	原産森一久氏よりフランスCEAの所長Jacques Bouchardへの手紙	Letters01
1173	2002	2002年4月30日 Cameco社長 Gerald W. Grandeyより森一久宛	Letters01
1178	2002	ベトナムTran Huu Phat氏より森一久氏宛	Letters01
1183	2002	2002年4月29日 ロシア科学アカデミーのBolshovから	Letters01
1184	2002	平成14年6月3日 政策企画本部 横山宣彦氏より森副会長宛	Letters01
1191	2002	森一久氏よりフランスCEAの核エネルギーセクション長への手紙	Letters01
1193	2002	ベトナム原子力委員会副委員長Le Van Hongより原産森一久氏宛	Letters01
1195	2002	在日英国大使館のRaynerエネルギー担当参事官より離任の挨拶状	Letters01
1203	2002	ビデオテープVHS中村江里子のフランス・エネルギー探訪など	Box028
1206	2002	ロシア大統領 V.V. プーチン殿 エフゲニー P.ペリホフ	Box025
1216	2003	ロシア北方艦隊退役原潜解体事業調査報告書	Box025
1217	2003	2002パリーベトナムと手書きした封筒	Box026
1223	2003	2003年2月13日在日米国外務省Giulia R. Biscontiの挨拶状	Letters01
1224	2003	2003年3月10日 森一久氏よりTran Huu Phat教授への手紙の控え	Letters01
1225	2003	森一久氏よりクルチャトフ研究所所長Vyacheslav Kuznetsov宛	Letters01
1226	2003	2003年4月2日 原禮之助氏より原産森一久氏宛	Letters01
1229	2003	2003年4月8日 森一久氏?が書いた手紙	Letters01
1230	2003	2003年1月29日 在日フランス大使館Jean-Jacques LAVIGNE氏より	Letters01
1232	2003	インドネシアSoedvartomo Soentono博士より原産森一久氏宛	Letters01
1233	2003	森一久氏よりIAEA使用済み燃料安全セクションBragg氏宛	Letters01
1244	2003	2003年6月19日 森一久より中国国家原子能機構秘書長 馬鴻琳氏宛	Letters01
1245	2003	2003年6月18日 原産森一久より中国の草堂寺釈諦性住職宛	Letters01
1246	2003	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Vuong Huu Tan氏より森一久氏宛	Letters01
1247	2003	フランスCEA核エネルギー部長のJacques Bouchard氏より森一久氏宛	Letters01
1255	2003	FAO/IAEAの食物と農業における核技術課のDargieから森一久氏宛	Letters01
1258	2003	米国のJustin & Roslyn Bloom夫妻より原産森一久氏宛 私信	Letters01
1261	2003	ロシア連邦原子力省国際対外経済協力局V.P. Kuchinovより森一久氏宛	Letters01
1263	2003	ベトナム共産党科学教育中央委員会議長より森一久氏宛	Letters01
1264	2003	クルチャトフ研究所のVyavheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1266	2003	ローレンスリバモア国立研究所副所長 C.K.Chou博士より森一久氏宛	Letters01
1267	2003	2003年12月10日 フランスCEAのAlain Bugat氏より原産森一久氏宛	Letters01
1269	2003	2003年9月12日 森一久氏よりベトナムPhat氏宛	Letters01
1270	2003	ロシアFGUP-DVZ-ZVEZDAのY.P. Shulgan氏より原産森一久氏宛	Letters01
1271	2003	ロシア連邦原子力省Nefedov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1272	2003	2003年11月5日 フランスのアレヴァ社Bucaille氏より原産森一久氏宛	Letters01
1273	2003	2003年11月21日 ロシアSchupakov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1274	2003	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Tan博士より原産森一久氏宛	Letters01

1275	2003	2003年12月8日 森一久氏よりロシアのAlexander N. Schupakov氏宛	Letters01
1278	2004	日仏 第10回のN-20の会合の写真	Box020
1280	2004	当社とフランスとの原子燃料調達における関係 平成16年6月21日	Box020
1282	2004	フランスにおけるGEN-IIからGEN-IV炉への移行シナリオの予備的分析	Box020
1297	2004	朝日新聞 2004年12月20日	Reports06
1299	2004	ベトナム原子力委員会VAECの副議長Hong氏より原産森一久氏宛	Letters01
1304	2004	2004年4月7日 Nguyen Van Tanより水田泰次氏宛	Letters01
1308	2004	ドイツカールスルーエ研究所のPopp教授より原産森一久氏宛	Letters01
1312	2004	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Tan教授より原産森一久氏宛	Letters01
1314	2004	2004年 日仏工業技術 50巻1号	Miscellaneous
1317	2004	長田弘「アメリカの61の風景」(みすず書房)	Box023
1318	2004	12月20日 北極の水河から「死の灰」計測	Manuscript04
1359	2007	第14回日仏原子力専門家会合(N-20)の共同声明について	Box018
1375	2007	財団 設立趣意書 日本・モンゴル環境資源開発公社	Box021
1378	2007	ベトナムの原子力発電開発準備状況 日本原子力産業会議	Box026
1388	2007	平成12年刊 廣高とヒロシマ 広島高等学校同窓有志の会 水田泰次	Miscellaneous
1394	2007	財団 設立趣意書 モンゴル・日本超小型原子炉開発公社	Box021
1397	2007	財団法人 モンゴル日本環境資源開発公社 役員および支部	Box021
1404	2007*	モンゴルの地図と世界のウラン鉱床の表	Box021
1406	2008	最近における米国原子力発電の現状と課題	Box018
1418	2008	米国でも「核兵器のない世界を」署名運動が始まった	Box021
1419	2008	2008/08/28核問題調査専門委員会資料	Box021
1420	2008	2008/06/26核問題調査専門委員会	Box021
1422	2008	米国の科学者、核兵器廃止めざす具体策を提起する声明を発表	Box021
1423	2008	米国次期大統領が核兵器全面禁止に向けて最初に取りべき10の措置	Box021
1425	2008	非核の政府を求めるとニューズ 2008年9月15日号(3)	Box021
1485	2009	International Herald Tribune のコピー 2009年11月5日	Box018
1496	2009	Speech on nuclear energy and proliferation	Box021
1497	2009	橘田レポート	Box021
1528	2009	間弘明 自立性の回復を急ごう	UCN_Blog
1540	2009	英国防相、核兵器解体の検証技術会議を提案	Box021
1553	2009*	解説 原子炉開発路線の経緯と矛盾	Miscellaneous
1575		アメリカの原子力発電資料 原子力平和利用調査会	Box002
1577		日英貿易会談に関する件 藤山大臣宛 中川臨時代理大使宛	Box003
1589		米国における原子力政策の方向と原子力発電の発展の可能性	Box005
1590		海外原子力関係諸会社一覧(アメリカ)	Box005
1593		TEMPO Science and Technology in Communist China	Box006
1618		日中原子力関係用語	Box014
1619		ソ連と米仏などとの核燃料戦略に関する印象メモ(手書きメモ)	Box015
1630		Russia ITER Council	Box018
1653		森一久 写真(ベトナム語?のタイトル)	Personal_Record
1656		第2章 わが国の国内的対応策(手書き草稿)	Reports01
1676		原産森一久氏よりベトナムエネルギー協会会長Pham Khanh Toan氏宛	Letters01

英語の手紙

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
259	1963	フォード財団の首脳宛の手紙 科学技術テレビ放送に対するの寄付	Miscellaneous
327	1967	佐久間稔氏から森一久氏への手紙	Box021

398	1968	「佐世保問題メモ」に関する手紙 7月18日 嵯峨根遠吉より橋本清之助宛	Box010
434	1970	手紙 (調査団で出かけている森一久への禮子からの私信) (4月14日?)	Box012
443	1970	橋本清之助よりSinnassamyへの手紙 (英文) 1970. 4. 6	Box012
472	1972	韓国原産会議 朴氏宛の日本原産会議橋本清之助よりの書簡	Box010
500	1972	広島県史一原爆資料編 今堀誠二広島大名誉教授編集	Box020
512	1973	ソ連からの訪ソ団の土光敏夫宛礼状 (ロシア語原文と和訳)	Box012
598	1979	AIF Carl Walskeからの手紙 July 5 1979	Box004
628	1982	Historical Sketch of the Scientific Field Survey in Hiroshima	Box020
693	1988	原子力と産業界 森一久 1988年	Box023
721	1988	昭和63年3月18日 原子力と産業界 講師 森一久	Manuscript04
727	1989	英政府招聘で訪英 英国大使館 E.J. Fieldより森一久氏に対する手紙	Box021
748	1990	原産会議森一久専務理事宛 放射線疫学調査センター センター長より	Box024
794	1994	Larry Armstrongの写真	Box018
796	1994	Larry Armstrongの被爆者たちに捧げる詩など	Box018
797	1994	Larry Armstrongから森一久への手紙の封筒	Box018
799	1994	清水榮氏より森一久氏への私信 平成6年5月21日	Box020
850	1995	芳賀氏より森一久氏への手紙	Box025
907	1996	森氏が高槻から原産会議の長嶺正美氏へ宛た手紙 (速達)	Reports02
919	1996	核戦争防止国際医師会議日本支部事務局大木佐智代氏より森一久氏へ	Box025
933	1997	清水榮氏より森一久氏への私信 1997年3月14日	Box020
934	1997	清水榮前立腺癌の手術の後10MeV γ raysの照射経過	Box020
935	1997	清水榮氏のコメントとCharles Hugginsの紹介	Box020
936	1997	Human prostate tumor growth in athymic mice: Inhibition	Box020
963	1997	アジア人口開発協会の遠藤正昭氏より手紙	Reports03
985	1997	平成9年3月20日 森一久より阿部光幸様宛 手書きの手紙	Manuscript04
1027	1998	1998年11月17日 森一久氏より疋田英親氏宛の手紙	Buddhism01
1102	1999*	草堂寺から森一久氏への手紙封筒 草堂寺の建物図面	Buddhism01
1133	2000*	11月23日 森氏と中学同級の平田嘉三氏よりの手紙	Manuscript04
1142	2001	BNFL Japan K.K. David Powel社長より原産森一久副会長宛	Letters01
1157	2002	原産森一久氏よりクルチャトフ研究所 所長Evgeniy P. Velikhovへ	Letters01
1161	2002	台湾行政院原子能委員会 委員長 歐陽敏盛より原産森一久氏宛	Letters01
1162	2002	台湾行政院原子能委員会 委員長 胡錦標 (Hu Ching-Piao) より	Letters01
1165	2002	韓国原子力産業会議 副会長 崔記正より原産森一久氏宛	Letters01
1167	2002	原産森一久氏よりフランスCEAの所長Jacques Bouchardへの手紙	Letters01
1169	2002	BNFL (英国核燃料会社) 日本 社長 David Powellより森一久氏宛	Letters01
1179	2002	韓国RAWTEC社長Choi Chang-Tongより原産森一久氏宛	Letters01
1187	2002	コジェマジパンのRobert Capitini氏より森氏宛	Letters01
1189	2002	2002年8月20日 原産森一久氏よりKEWESPO社長Lee Yong Oh氏宛	Letters01
1191	2002	森一久氏よりフランスCEAの核エネルギーセクション長への手紙	Letters01
1197	2002	原産森一久氏よりクルチャトフ研究所Evgenii P. Velikhov氏宛	Letters01
1205	2002	佐久間富美枝 (故佐久間稔氏の夫人) より森一久氏への私信	Box024
1224	2003	2003年3月10日 森一久氏よりTran Huu Phat教授への手紙の控え	Letters01
1229	2003	2003年4月8日 森一久氏?が書いた手紙	Letters01
1233	2003	森一久氏よりIAEA使用済み燃料安全セクションBragg氏宛	Letters01
1237	2003	2003年5月1日 原産森一久氏よりNEI会長Joe F. Colvin宛	Letters01
1238	2003	2003年5月27日 原産森一久氏よりWONUC編集長Andre Maisseu宛	Letters01
1240	2003	2003年6月4日 E&N研究会小藤博子氏より原産森一久氏宛	Letters01
1242	2003	2003年6月12日韓国原子力研究所Lee Chang Kunより森一久氏宛	Letters01
1254	2003	小藤博子氏より原産森一久氏宛 ペン書き手紙	Letters01

1264	2003	クルチャトフ研究所のVyavheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1265	2003	北京のDaniel Chevardes氏より原産森一久氏宛	Letters01
1268	2003	北京のDaniel Chevardes氏より森一久氏宛FAX	Letters01
1269	2003	2003年9月12日 森一久氏よりベトナムPhat氏宛	Letters01
1284	2004	久野雅也氏より首都大学東京学長西澤潤一氏への手紙	Box021
1298	2004	2004年2月3日FAX インドネシアBAPETEN議長のDjaloeis博士より	Letters01
1304	2004	2004年4月7日 Nguyen Van Tanより水田泰次氏宛	Letters01
1306	2004	クルチャトフ研究所Vyacheslav Kuznetsov氏より原産森一久氏宛	Letters01
1342	2006	小柳卓氏の手紙(森氏の質問に対する返事)	Box021
1348	2006	資源エネルギー庁原子力政策課長 柳瀬唯夫氏より森一久氏への手紙	Box024
1357	2006	森武三郎氏より森一久氏への手紙	Box024
1379	2007	TBS報道局より森一久氏への手紙とDVD	Box028
1390	2007	森一久宛西岡豊弘の手紙	Box019
1392	2007	西岡豊弘の手紙(本を送ったことなど)	Box019
1429	2008	中嶋先生宛 事務室斉藤俊一よりの手紙	Box021
1457	2008	9月21日付け(ペン書き手紙) 岡本隆一氏よりUCN会森一久氏宛	Letters02
1467	2008	平成20年9月26日(毛筆手紙) 宮本昌昭氏より森一久氏宛	Letters02
1475	2008	アルスの会中井浩二氏より森一久氏宛手紙	Manuscripts05
1477	2008	SMTechのCEOであるMun Ik Son氏よりUCN会森一久氏に宛た手紙	Box029
1503	2009	古田武彦氏から森一久氏への手紙 2009年8月16日 No.128	Box023
1509	2009	天木直人のブログ マハティール前マレーシア首相のオバマ大統領宛書簡	Box023
1511	2009	伊原義徳氏から森一久氏への手紙	Box023
1512	2009	東京大学小川雄一教授より森一久氏への手紙 平成21年5月8日	Box023
1558	2010	堀居太一氏より森一久氏への手紙	Box023
1673		4月13日 ペン書き手紙 田ノ岡 宏氏より森一久氏宛	Letters01

東京12チャンネル

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
192	1959	日本科学技術テレビ趣旨 日本科学技術財	Box006
200	1960	日本科学技術振興財団の要覧 1960.8	Box004
202	1960	無線局免許申請書(財団法人日本科学技術振興財団より郵政大臣宛)	Box006
209	1960	テレビ局開設の趣旨(財団のテレビ局開設趣旨書の案)	Box006
230	1961	教育関係法令抜粋 日本科学技術テレビ設置準備研究会	Box006
241	1962	1962年9月19日 テレビ準備室 日本科学技術テレビ局設置計画	Miscellaneous
257	1963	文藝春秋 63年2月号(テレビ12チャンネル)	Box008
259	1963	フォード財団の首脳宛の手紙 科学技術テレビ放送に対するの寄付	Miscellaneous
260	1963	米国の財団に対する 科学技術テレビ放送への放送設備寄付	Miscellaneous
267	1964	辞令 森一久 本部長室員(企画担当)を委嘱する(但し無給)	Miscellaneous
278	1965*	私案東京12チャンネル設計図 手書きしたもののコピー 教育に徹する	Miscellaneous
284	1966	昭和41年4月2日号 週刊新潮 デイレクター百五十人の覚悟	Miscellaneous
291	1966*	(東京12チャンネル)従業員の皆様へ 希望退職を募集することの通知	Miscellaneous
1617		陳述書	Box013

教育

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
142	1957	教育科学 特集・理科教育の近代化 Atoms for Peace 教育科学研究所	Box008

218	1961	学校教育法等の一部を改正する法律	Box006
230	1961	教育関係法令抜粋 日本科学技術テレビ設置準備研究会	Box006
267	1964	辞令 森一久 本部長室員(企画担当)を委嘱する(但し無給)	Miscellaneous
276	1965*	学校組織図・教団組織	Box006
277	1965*	全日制と定時制 手書きメ	Box006
278	1965*	私案東京12チャンネル設計図 手書きしたもののコピー 教育に徹する	Miscellaneous
403	1969	「大学の欠陥に関する考察」向坊隆 増川重彦	Box013
611	1981	Nuclear Physics Nuclear Power GIREP Conference	Box015
615	1982	エネルギー問題と学校教育について 昭和57年10月12日	Reports01
841	1995	平成7年度 広領域教育研究会事業の視点	Box024
1133	2000*	11月23日 森氏と中学同級の平田嘉三氏よりの手紙	Manuscript04
1141	2001	菅野礼司氏 物理教育における基礎基本について	Reports06
1151	2002	菅野礼司氏 物理教育50巻第3号 2002年	Reports06
1215	2003	科学的思考の背後にあるもの 高野義郎	Box021
1246	2003	ベトナム原子力委員会VAEC委員長Vuong Huu Tan氏より森一久氏宛	Letters01
1263	2003	ベトナム共産党科学教育中央委員会議長より森一久氏宛	Letters01
1353	2006	広領域教育 2006年7月 No.63 巻頭言	Reports06
1473	2008	平成20年7月31日発行「広領域教育」No69用の原稿	Miscellaneous
1474	2008	広領域教育No69 2008年7月号	Manuscripts05
1478	2008	菅野礼司氏 総合的自然観を科学教育に	Reports06
1479	2008	菅野礼司氏「総合学習」の意義と方法について	Reports06
1551	2009	菅野礼司氏のオピニオン 歴史家と科学史家が協力して歴史教科書を	Reports06
1557	2010	原稿執筆依頼「広領域教育研究会」への原稿依頼	Box023
1665		新しい教育システム機構の概念	Reports05
1666		新教育システムの構築へ 原産副会長 森一久	Reports05

囲碁

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
383	1968	原天懇話会 会則(手書き)、新組織構想1988年2月27日書き初め	Box027
696	1988	週刊碁 昭和63年2月2日 日本棋院中央会館特別棋力認定会1月15日	Manuscripts01
740	1989	週刊碁 平成元年8月22日 日本棋院中央会館第5回特別棋力認定会	Manuscripts01
879	1995	日刊ゲンダイ 一流企業・オール官公庁の囲碁部最強者挑戦シリーズ	Reports04
999	1997	広高囲碁会 成績表 96年3月 6月 9月 12月	Manuscript04
1036	1998	平成10年11月7日 第30回旧制高校囲碁会参加者	Manuscript04
1350	2006	「原子力囲碁大会」事始めの頃 森一久	UCN_Blog
1440	2008	「原天会」名簿 2008年9月16日	Box027
1513	2009	「小原天会」会員名簿・持ち点表 平成21年4月29日	Box027
1521	2009	韓国棋院ニュース 2009年11月19日	UCN_Blog
1533	2009	囲碁を文化と世界平和の使節に! オバマ大統領宛のメッセージ	Reports06
1543	2009	原天会、小原天会と書いた封筒	Box027
1558	2010	堀居太一氏より森一久氏への手紙	Box023
1645		囲碁英語(囲碁で使われる用語の英訳表)	Box027
1646		写真(囲碁会の時のもの?)	Box027
1647		第20回原子力囲碁大会の写真	Box027

仏教

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
687	1987	草堂寺簡介の日本語訳本「草堂寺案内」附「鳩摩羅什法師略伝	Buddhism01
738	1989	財界 1989年8月8日号 森一久 羅什の顔	Manuscripts01
776	1992	仏教徒フォーラム 平成4年1月30日「知識と智慧をめぐって」	Reports02
777	1992	平成4年1月30日 仏教徒フォーラム 仏教講座公開シンポジウム	Miscellaneous
839	1995	「オウム真理教の本質とこれからの仏教」津田真一	Box024
862	1995	日本仏教徒懇話会で講演した内容のまとめと講演原稿	Reports02
905	1996	仏教徒フォーラム 第53号 日本仏教徒懇話会第68回懇談会	Reports02
983	1997	1997年12月 草堂寺と国前寺との友好に関する覚書	Buddhism01
1024	1998	日本原産会議副会長森一久より草堂寺釈諦性先生宛	Buddhism01
1025	1998	1998年12月18日の木藤さんより原産長嶺氏へのFAX	Buddhism01
1026	1998	1998年12月18日森一久より木藤啓子宛FAX	Buddhism01
1027	1998	1998年11月17日 森一久氏より疋田英親氏宛の手紙	Buddhism01
1040	1998*	中国核工業総公司の用紙を使ったFAX 任屹霞より三石様宛	Buddhism01
1041	1999	国前寺疋田英親執事長より草堂寺釈宏林方丈あて招待状	Buddhism01
1066	1999	日蓮宗新聞 平成11年12月20日	Reports06
1067	1999	1999年3月27日 日本国国前寺と中華人民共和国草堂寺との覚書	Buddhism01
1069	1999	1999年4月26日 木藤氏より原産森副会長宛FAX	Buddhism01
1070	1999	1999年4月21日 木藤氏より原産森副会長宛FAX	Buddhism01
1072	1999	1999年3月27日 国前寺と草堂寺との友好交流覚書	Buddhism01
1073	1999	1999年3月15日の草堂寺釈諦性氏より森一久氏宛のFAX	Buddhism01
1074	1999	1999年11月1日JTSジャパンツアーステム広島が作った日程表	Buddhism01
1075	1999	1999年7月19日 国前寺疋田英親執事長より草堂寺釈宏林方丈宛	Buddhism01
1076	1999	平成11年3月15日 出張依頼回議書 日程表	Buddhism01
1077	1999	平成11年4月13日 国前寺「草堂寺」訪問団報告書	Buddhism01
1078	1999	1999年5月11日 鳩摩羅什師と国前寺・草堂寺 森一久	Buddhism01
1079	1999	平成11年12月20日 日蓮宗新聞	Buddhism01
1089	1999	参考附文 草堂寺より国前寺の疋田英親先生宛	Buddhism01
1090	1999	(日本語原稿)	Buddhism01
1091	1999	旅行案内書?の草堂寺の項 草堂寺簡介1999年3月27日の覚書の写真	Buddhism01
1093	1999	訪中団が草堂寺を訪ねた時の写真など	Buddhism01
1095	1999*	(なみゆり)のお題目の曼荼羅3幅の写真	Buddhism01
1096	1999*	「草堂寺案内 鳩摩羅什法師略伝 圭峰定慧禪師略伝」	Buddhism01
1097	1999*	森一久氏より木藤啓子氏宛	Buddhism01
1098	1999*	「草堂寺」目次と「日本の日蓮宗と草堂寺の縁」の部分の日本語訳	Buddhism01
1099	1999*	(9月14日関根さんより)鳩摩羅什と玄奘三蔵の解説のコピー	Buddhism01
1100	1999*	原産森一久より日本アジア交流協会北村理事長宛	Buddhism01
1101	1999*	草堂寺の紹介写真と文および訪問団の交流の様子を示す写真など	Buddhism01
1102	1999*	草堂寺から森一久氏への手紙封筒 草堂寺の建物図面	Buddhism01
1103	1999*	国前寺的由来(概略)パンフレット	Reports06
1153	2002	社団法人 日本工業倶楽部 会報第200号 平成14年4月号	Reports06
1245	2003	2003年6月18日 原産森一久より中国の草堂寺釈諦性住職宛	Letters01
1331	2005	原子力eye Vol.51 No.5 (2005年5月号)	Reports06
1677		国前寺の自昌院筆の かなの題目	Buddhism01

癌

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
11	1953	婦人公論 昭和28年8月号 工場の女性の幸福を求めて	Manuscripts05
690	1987	寿命調査第11報 第1部	Box016
741	1989	新聞記事切り抜き 今村光一 栄養療法で末期がんも治る	Manuscripts01
800	1994	週刊プレイボーイ 1994.11.22 No.47	Box021
801	1994	週刊プレイボーイ 1994.11.29 No.48	Box021
845	1995	ニューズウィーク HIROSHIMAドキュメント「決断」にいたる道	Box025
881	1995	Intake of Carotenoids and Retinol	Box021
882	1995	Journal of the National Cancer Institute Vol.87 No.23	Reports03
933	1997	清水榮氏より森一久氏への私信 1997年3月14日	Box020
934	1997	清水榮前立腺癌の手術の後10MeV γ raysの照射経過	Box020
935	1997	清水榮氏のコメントとCharles Hugginsの紹介	Box020
942	1997	Prooxidant-Antioxidant Shift	Box021
985	1997	平成9年3月20日 森一久より阿部光幸様宛 手書きの手紙	Manuscript04
1018	1998	原子力安全研究協会田中和夫氏より原産森副会長宛のFax	Reports04
1029	1998	平成10年1月8日 夕刊フジ	Manuscript04
1031	1998	平成10年10月25日 追悼抄 田島英三さん 10月10日死去	Manuscript04
1039	1998*	?新聞家庭欄 21世紀への医療ルネサンス 増える前立腺がん	Manuscript04
1045	1999	Accelerated discovery Antiangiogenic Activity	Box021
1046	1999	Natural History of Progression	Box021
1047	1999	Management of Prostate Cancer	Box021
1048	1999	New Method Gauges Risk of Prostate Cancer	Box021
1064	1999	Journal of National Cancer Institute October 6 1999 Vol.91	Reports05
1080	1999	1999年1月17日 森一久 前立腺ガンとの出会い	Miscellaneous
1251	2003	千代田テクノル社長細田敏和氏より原産森一久氏宛	Letters01
1324	2005	BMJ再再投稿原稿(050905)和訳ver.7 2005年5月12日	Box019
1491	2009	International Herald Tribune のHealth and Science	Box018
1556	2010	棋道懇談会会報 第138号 4月例会 2010年	Box023
1627		Re-examining the guidelines on key test for prostate cancer	Box018

その他

資料番号	発行年	文書名・説明	保存場所
1	1943	昭和18年 理化学研究所案内	Reports06
79	1955	総理府設置法の一部を改正する法案(原子力委員会設置法関係)	Box001
169	1959	34年度上期外貨予算編成上の問題点 34.3.19 通商局予算課	Box003
182	1959	審査意見(6次案) 昭和34年10月15日	Box007
190	1959	製造者又は供給者一覧表 34年10月 工務課(極秘)	Box005
205	1960	原油の関税について 45.5(手書きメモ)	Box010
210	1960	要検討事項の委員分担案(報告書執筆分担案)「緊急時対応など」	Box007
213	1960	石炭鉱業当面の対策(何かの白書的なものの抜粋)	Box005
217	1961	産学協同センター'61-62 日本科学技術振興財	Box006
219	1961	海外科学技術視察記録	Box006
223	1961	常磐共同火力勿来発電所を視察する皇太子夫妻	Box008
224	1961	水戸対地射爆撃場の返還に関する件(決議文) 昭和36年5月18日	Box008
253	1963	総合エネルギー部会報告書 昭和38年12月 産業構造調査会	Box005
270	1965	科学技術基本法に関する経緯について 昭和40年4月10日(ガリ版印刷)	Box010

294	1967	List of Anticipated Makers and Construction Companies for AFC	Box004
324	1967	The Coastal Fishery Survey Team for the Contamination Problem	Box013
329	1967	本間茂氏より森一久氏へのハガキ	Box021
330	1967	佐久間稔氏より森一久氏への航空便	Box021
331	1967	佐久間稔氏より森一久氏への私信 航空便	Box021
333	1967	省庁関係組織図(手書き)	Box011
337	1967	予算の調整管理 42年度(手書きメモ)	Box011
340	1967	関係産業との協調(何かの原稿)	Box011
342	1967*	産業技術普及サービス費一覧表(年月日等不明)	Box011
370	1968	43年度売上仕入対応表 S.43.4.1 ~S.43.9.29 現在	Box012
378	1968	AEC Gaseous Diffusion Plant Operations ORO-658 February 1968	Box013
408	1970	週刊朝日 1970. 2. 25 日本万国博 ガイド特集号	Box009
409	1970	官報 昭和45年4月24日 関税込率法等の一部を改正する法律	Box010
410	1970	官報 昭和45年4月27日 関税割当制度に関する政令の一部を改正する	Box010
418	1970	フランクフルトのホテル(1970.4.22)の請求・領収書	Box012
420	1970	ウイーンのホテルのチラシを使ってEuratomの関係者の名前をペン書き	Box012
421	1970	ウイーンのホテルの森さん宛の電報	Box012
425	1970	Dai-ichi International Travel Co. Ltd Itinerary for Mesars.	Box012
431	1970	Euratomで質問することを箇条書きしたもの(英文手書きメモ)	Box012
432	1970	団員行動メモ	Box012
435	1970	ことづけ他	Box012
436	1970	Atomic NPT Team Hotel List (調査団の宿泊予定ホテルリスト)	Box012
440	1970	保障措置関係の資料としてどのようなものがあるかを羅列した手書きメモ	Box012
444	1970	Paris-Turf 1970. 4. 18 (パリのスポーツ新聞 競馬?)	Box012
449	1971	電力供給確保上の重要課題に関するメモ 46. 8 電気事業連合会	Box010
453	1971	海外電力事情 No.16(臨時号) 1971年7月25日	Box010
458	1971	This Specific Factual Testimony States a Strong, Clear View	Box012
459	1971	USSR Atom for Peace Scientific and Technical Exhibition Geneva	Box012
467	1971	ノートブック(第4回ジュネーブ会議に関するノート)	Box011
476	1972	西独におけるライセンス手続きについて(IRSとの関係) 47. 5 資料3	Box010
477	1972	AEC許認可料金の値上げについて(U.S.AEC News Rekeases Vol.3	Box010
478	1972	差当たり必要な事項について 47. 5. 25 三島委員	Box010
496	1972	第4回地帯整備開発。自治体財政問題に関する検討会	Box013
518	1973	49年度科学技術重点施策提案 昭和48年8月14日	Box013
520	1973	1973年の日記帳	Diarys
524	1973	(参考メモ) 従来の関税収入分と石炭対策特別会計(手書きメモ)	Box010
526	1973	6月24日 モスクワでのコンサート?のプログラム	Box015
536	1974	Current Trends and Sensitivity to Economic Parameters 1974	Box013
543	1974	写真 1974年7月12日13日 伊豆大島岡田港	Reports03
547	1974	奥尻町 地図	Box010
551	1975	広報対策について 50. 12. 3	Box010
564	1975	「安心のいく世の中」を作るために 昭和50年3月10日 産業計画懇談会	Box015
565	1975	昭和のあゆみ50年 毎日新聞にみる歴史の証言 毎日新聞社	Box014
576	1976	海外のFBR開発状況表 51-5-25現在	Box011
577	1976	Natural Sources of Radiation United Nations Scientific Committee	Box012
612	1981	1981年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
614	1982	1982年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
617	1982	永野治氏宛の森一久氏の私信 昭和57年12月27日	Reports01
626	1982	奥尻島 木村茂太郎関係の封筒の表書き(日本環境調査会の封筒)	Box010

627	1982	写真(奥尻島?)	Box010
629	1983	IEAの長期エネルギー需給見通し(World Energy Outlook改訂)	Box004
632	1983	参院選比例代表区政党別得票数・議席数	Box017
633	1983	1983年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
649	1984	我が国の供給者別原油輸入量	Box004
652	1984	1984年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
659	1985	1985年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
660	1985	電気新聞 1985年6月24日 随筆 森一久 文化の器量	Reports01
664	1985	1985年6月24日 電気新聞 随筆 森一久 文化の器量	Miscellaneous
669	1986	1986年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
686	1987	電力新報社からの執筆依頼 昭和62年10月 を受けて執筆した草稿	Reports01
701	1988	日本経済新聞 朝日新聞 読売新聞 有澤広巳氏の死亡	Manuscripts01
732	1989	殯宮祇候参入券 森一久殿 2月6日第8組	Manuscripts01
733	1989	昭和天皇大喪の礼の案内状2通 宮内庁長官より 内閣総理大臣より	Manuscripts01
734	1989	読売新聞 平成元年2月11日 愛知版 師友本(コラム欄)	Manuscripts01
745	1989	念書(株式会社ミラノ曾我部久哉の森一久宛念書)	Box021
761	1991	The Start of N-20 Meeting (1991年のN-20発足の紹介)	Box020
763	1992	後に駐仏大使になるPamela Harrimanに関する新聞記事	Box014
771	1992	1992年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
782	1993	Atoms in Japan Vol.37 No.3 March 1993	Box024
805	1994	打合せ確認書 平成6年10月24日	Box021
812	1994	1994年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
828	1994	新世界 無秩序 ビエール・ルルーシュ NHK出版	Box024
831	1994	向坊隆氏による園城寺次郎氏の追悼文?の草稿らしきもの	Reports02
849	1995	今週の日本 平成7年3月3日発行 阪神・淡路大震災 被災者の皆様へ	Box025
857	1995	森一久 一般旅券発給申請書 平成7年	Personal_Record
858	1995	1995年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
886	1996	1996年6月29日のIPPNWでの講演のための草稿メモ	Box020
896	1996	1996年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
915	1996	1996年2月24日朝日新聞 日本記者クラブから	Miscellaneous
940	1997	A Tomato a Day May Keep Cardiologists Away Jane E. Brody	Box021
947	1997	精華大学(高温ガス炉等) 訪問日1997年9月12日	Box023
957	1997	1997年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
962	1997	人口と開発 財団法人アジア人口開発協会(APDA)	Reports03
977	1997	人口と開発 財団法人アジア人口開発協会(APDA)	Reports03
979	1997	"QASGニュース 第21号 平成9年11月 特別寄稿 森一久 長い夜の夢	Reports04
984	1997	平成9年3月6日 人口開発 随筆原稿 森一久「空気」は変わるか	Manuscript04
987	1997	平成9年5月 田島英三自筆? 喫煙と余命との関係	Manuscript04
996	1997	平成9年6月8日 日経社説の切り抜き	Manuscript04
1006	1997	小林稔先生米寿お祝い記念品贈呈者名簿 森一久	Manuscript04
1008	1998	RI協 鈴木 H10 と記された封筒	Box020
1013	1998	森一久 渡航手続きのためのデータお伺書	Personal_Record
1014	1998	1998年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1017	1998	毎日新聞 平成10年11月10日	Reports04
1019	1998	菅記念研修所 記念館蔵書目録 1998-08-21 調査	Reports04
1034	1998	平成10年度職員の冬期賞与の支給について	Manuscript04
1038	1998	菅記念研修所 記念館蔵書目録	Reports04
1042	1999	生活環境中電磁界における小児の健康リスク評価に関する研究	Box018
1043	1999	Business Research 1999.6 巻頭言 内田岱二郎	Box019

1055	1999	森一久 朝日新聞人物データベース調査票 1999年8月	Personal_Record
1056	1999	JCO事故のあとの1999年10月8日(金)の森氏の動向メモ	Diarys
1057	1999	1999年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1068	1999	平成11年2月19日 株式会社ヤマトヤシキ鹿島政彦氏より森一久氏宛	Buddhism01
1083	1999	Atoms in Japan(AIJ) Vol.43 No.1 January 1999 Scope	Manuscript04
1086	1999	平成11年4月 平成11年度給与改定について	Manuscript04
1105	2000	科学「石原純をたずねて 第19回 西尾成子」Vol.78 No.11 Nov. 2008	Box007
1106	2000	科学「石原純をたずねて 第20回 西尾成子」岩波書店	Box007
1114	2000	BNFL社製MOX燃料データ問題検討委員会報告	Manuscripts03
1115	2000	森一久 一般旅券発給申請書(10年用) 平成12年?	Personal_Record
1116	2000	森一久 住民票 神奈川県藤沢市 平成12年	Personal_Record
1117	2000	2000年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1124	2000	「ねこさん」と多くの「惑星」 森一久	Reports05
1128	2000	電気新聞平成12年2月14日 観測点欄	Reports05
1129	2000	00-10-24森一久氏宛	Manuscript04
1130	2000	原通 宇田川氏より森副会長宛	Box023
1131	2000	2000年、2001年、2002年の3年間の日記帳	Diarys
1134	2001	日本原燃の略史(1955年から1993年まで)	Box015
1135	2001	人口と開発 人類と地球の平和的共存を旨として No.74	Box021
1137	2001	2001年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1138	2001	人口と開発 夏July 2001 No.6	Reports05
1146	2002	講演記録 人間の条件 アルバック技術顧問 内田岱二郎	Box019
1149	2002	2002年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1163	2002	平成14年1月 前在ウィーン国際機関代表部の阿部信泰氏の挨拶状	Letters01
1176	2002	平成14年4月30日 村田肇氏より森一久氏宛親展	Letters01
1188	2002	2002年8月9日 KEWESPOのLee Yong Oh社長より森氏宛	Letters01
1210	2003	学祭 No.10 November 2003	Box018
1214	2003	巻頭言 未踏科学技術の警鐘 内田岱二郎	Box019
1218	2003	2003年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1219	2003	2003年、2004年、2005年の3年間の日記帳	Diarys
1241	2003	平成15年6月4日 アジア人口・開発協会(APDA) 石橋武之氏より森氏宛	Letters01
1243	2003	James Griffin氏からの質問状とそれに対する森一久氏の回答	Letters01
1253	2003	2003年7月10日 E&N研究会会報 Voice of E.&N.	Letters01
1277	2004	Programme N20 2004年7月5日~9日 Burgundyへのtour	Box019
1279	2004	森一久(原稿) 2004年N-20発表の草稿メモ(手書き)	Box020
1283	2004	A-4Sへのステップ 電力中央研究所 名誉特別顧問 服部禎男 2004.1.9	Box021
1289	2004	原禮之助氏の家族の運勢等占い 平成16年11月 原家資料	Box029
1290	2004	ノートブック スケジュール	Box029
1292	2004	2004年のビジネス日誌(行動記録)	Diarys
1322	2005	西岡豊弘の礼状(ハガキ オーラルヒストリーを送ってもらったことの礼状)	Box019
1327	2005	Bulletin of the Atomic Scientists March/April 2005 pp14-15	Box023
1328	2005	週間予定表(2005年9月26日10月9日までの予定表)	Box029
1332	2005	戦前日本の政治と市民意識 寺崎修・玉井清編	Box018
1336	2006	送電線近傍電磁界影響の疫学調査 加藤和明 SS-119	Box018
1341	2006	見えない危険「電磁波汚染!」(2005年ないし2006年の記事)	Box021
1343	2006	放射性廃液の海洋放出に関する調査研究	Box021
1344	2006	放射性廃液の海洋放出に関する調査研究([1343]の続き)	Box021
1351	2006	2006年、2007年、2008年の3年間の日記帳	Diarys
1362	2007	Draft Recommendations of the International Commission	Box019

1364	2007	日本の条件 内田岱二郎(東大名誉教授)	Box019
1365	2007	政治家達(国会議員、地方議員、及び候補者)への提言	Box019
1366	2007	平成19年1月24日毎日新聞夕刊	Box021
1382	2007	平成19年度事業報告書 平成19年度財務諸表(案)	Reports06
1386	2007	近現代日本人物史料情報辞典3 下村定の項目	Reports06
1391	2007	二冊の本 西岡豊弘	Box019
1393	2007	問題提起事項 若手政治家、会員への(西岡豊弘氏の文章?)	Box019
1407	2008	高圧送電線の電磁波による被曝量と発病率	Box018
1408	2008	住宅環境が危ない!～急増する電磁波汚染の恐怖!	Box018
1409	2008	私の履歴書 原子核の歌 岡井隆 2008年10月25日	Box020
1431	2008	新規導入国等に対する我が国の支援 2008年	Box021
1439	2008	「2008年を総括する視座」寺島実郎 2008年11月25日修正版	Box023
1441	2008	新番組提案 ”環業立国”宣言 報道局 大西裕之 2008年1月28日	Box029
1456	2008	2008年9月13日(メール) 立花実氏より森一久氏宛	Letters02
1459	2008	2008年9月17日 竹野萬雪氏より森一久氏宛	Letters02
1465	2008	2008年9月24日 鈴木龍男氏より森一久氏宛	Letters02
1466	2008	平成20年9月24日(はがき) 須藤忠和氏より森一久氏宛	Letters02
1487	2009	毎日新聞の取材	Box018
1488	2009	日本記者クラブ会合のお知らせ 2009年11月11日	Box018
1490	2009	環境と健康(菅原努京大名名誉教授代表) Vol.22 No.4(冬号)	Box018
1492	2009	Remarks of President Barack Obama	Box021
1494	2009	静岡大学 興直孝学長より森一久宛 FAX 塩谷敬氏の就職依頼	Box021
1498	2009	朝日新聞 2009年(平成21年) 6月13日 オピニオン欄	Box021
1500	2009	毎日新聞の記事 2009年8月11日	Box022
1516	2009	無意味語の氾濫 2009.11 伊原義徳	Box029
1518	2009	原稿拝読いたしました 田村和子より津田敦子宛FAX 2009年8月22日	Box029
1532	2009	2009年、2010年、2011年の3年間の日記帳	Diarys
1534	2009	薬のいらない健康法 石原結實 学士会会報No.877 2009年	Reports06
1535	2009	有澤廣巳氏を偲ぶ会の資料	Reports06
1541	2009	森一久氏から古田武彦氏への返事	Box023
1544	2009	「事業仕分け」は禍根を満載 森一久	Box029
1554	2010	石田望のメルマガインターネット版	Box018
1555	2010	内外政治経済・短期金融市場の動向 橘田週間レポート	Box018
1563	2010	ヤフージャパンのジオシティーズのサービスと料金表	Box029
1565	2010	2010-8-17発信 石田望? 宛のFAX	Box008
1568	2010	奇抜で殆ど非礼、火傷しそうな提言を渴望する 森一久	Box021
1579		Renie's Freeway Map Malibu Beach to Big Bear	Box003
1580		岩波講座物理学I.A. 物理学と数学 小倉金之助	Box004
1584		現代の産業技術2「電力」川村泰治(雑誌の記事)	Box004
1587		鹿児島県立大学放射性同位元素研究会報告 第3号	Box005
1588		宇宙飛行と食料等の問題点 メモ	Box005
1591		別表第3(抜粋)(金属加工の機械工を訓練する教科など	Box006
1592		大手建設3社(大成、清水、鹿島)の比較 手書きメ	Box006
1595		衆議院商工委員御案内先(議員名リスト)	Box008
1596		地域内24地点の交通 立地調査資料 No.15	Box008
1597		基準・保障などに関する委員の発言メモ(伏見、大屋、真崎)	Box008
1598		災害補償に関する手書きメモ	Box008
1599		発電所の原価項目の乗数算定基礎	Box008
1603		日本科学者会議に関する調査資料	Box010

1606	第2回安全環境検討会検討事項（手書きメモ）	Box010
1611	問題点メモ げんしりょく委員会等（手書きメモ）	Box011
1612	日本における開発体制整備に関する1米人のコメント（タイプしたもの）	Box011
1614	朝日新聞 元日号第二部 100人インタビュー	Box012
1622	風の中の葦 第二次世界大戦中の簡単な集約(1) 森居慶子	Box015
1623	リチャード・ローズの本の抜粋 下巻 第18章 トリニティ(三位一体)	Box016
1624	LansingのDay of Trinityに対する当事者の一人のコメント	Box016
1628	民主党のマニフェストのエネルギーに関する部分のコピー	Box018
1632	「いつの日か」	Box019
1633	The Buisiness of the Japanese State Energy Markets	Box021
1634	Nuclear Cellの合理化	Box021
1635	11月と12月の予定表?(競馬場?)	Box021
1637	元素、原子量、宇宙と地殻における存在度	Box023
1642	将来世代 future generationの用紙に書いたメモ	Box024
1651	日本の政治・社会・経済がリズム、テンポ、ハーモニー・・・ 原 禮之助	Box029
1658	脳とはどんなコンピュータか 電子技術総合研究所 松本元	Reports02
1659	?新聞家庭欄 21世紀への医療ルネサンス 子供の心臓病1および2	Manuscript04
1664	長い夜の夢ー日本システムのTQAー 森一久	Reports03
1667	「人口と開発」誌 巻頭言「調整」からの脱却	Reports05
1675	4月30日植松氏よりの情報(ペン書きメモ)	Letters01
1678	地球と火星の比較 手書きメモ	Miscellaneous

蔵書目録

原子力

書名	編集者名	出版社名	発行年
Economic Aspects of Atomic Power	Sam H. Schurr & Jacob Marrshak	Princeton University Press	1951
産業における原子力の応用	杉本朝雄 山崎文男著	東洋経済新報社	1953
日本の原子力問題	民主主義科学者協会 物理部会 (株)理論社		1953
驚異の原子力	岸本康著	偕成社	1954
原子力	武谷三男著	毎日新聞社	1954
原子力 教養の科学	武谷三男 中川重雄著	教学社	1954
原子力の平和への利用・写真集	早川淳一 編	電力経済研究所	1954
原子力発電 その経済的社会的分析	村田浩著	(株)丸善	1954
原子力発電の経済的影響	Schurr & Marschak著 森一久訳	東洋経済新聞社	1954
死の灰から原子力発電	民主主義科学者協会編著	蒼樹社	1954
イギリスの原子力	原子力平和利用調査会編	読売新聞社	1955
ソヴェットの原子力	陸井三郎 野中昌夫 編訳	三一書房	1955
英連邦とその原子力開発		ロンドンWIIにある中央情報局	1955
原子力の挑戦	バーホップ著 陸井三郎訳	中央公論社	1955
原子力問題事典	小椋広勝 伏見康治 監修	福音館書店	1955
世界原子炉めぐり	千谷利三著	(株)技報堂	1955
原子力画報		大阪書籍株式会社	1956
原子記事の見方	渡辺誠毅 阿部滋忠著	商工出版社	1957
原子力記事のみかた	渡辺誠毅 阿部滋忠著	商工出版社	1957
原子力経済学	植村福七	法政大学出版局	1957
原子力燃料に関する諸問題		原子燃料公社(非売品)	1957
新版 原子力読本	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1957
原子力の知識	中村誠太郎著	要書房	1963
実録関西原子炉物語	門上登史夫著	日本輿論社	1964
アトム記者世界道中記	木村繁著	朝日新聞社	1965
原子力にルネッサンスを	森一久著	エネルギー政策を考える会	1966
原子力発電の経済	武井満男著	東洋経済新報社	1967
原子力問題の歴史	吉羽和夫著	(株)河出書房新社	1969
東海原子力発電所物語	一本松珠譏著	東洋経済新報社	1971
原子力と人間の環境	今井隆吉・板倉哲郎著	日刊工業新聞社	1972
原子力産業の史的考察 I	川上幸一著	商経論叢 第七巻第3号	1972
原子力産業の史的考察 II	川上幸一著	商経論叢 第八巻第1号	1972
原子力発電をどう考えるか	三宅泰雄・中島篤之助著	(株)時事通信社	1974
原子力と環境	日本原子力文化振興財団	読売新聞社	1975
米国原子力発電所事故調査報告書	米国原子力発電所事故調査特別委員会	原子力安全委員会	1976
ぼくの町に原子力船が来た	中村亮嗣著	岩波書店	1977
われわれは原発と共存できるか	マツキンレーC.オルソン著,	講談社	1977
原子力論争の背景	小野周 長尾正良訳		
核燃料 探査から廃棄物処理まで	大熊由紀子著	朝日新聞社	1977
原子力発電 その必要性と安全性	通商産業省資源エネルギー庁 編	(財)日本原子力文化振興財団	1978

プルトニウムの未来ー2041年からのメッセージー	高木仁三郎著	岩波書店	1981
原子力とその周辺 知られざる側面	岡村和人	(株)ナショナル ピーアール	1981
原子力船懇談会報告書	日本原子力産業会議原子力船懇談会	日本原子力産業会議	1982
切手でつづる原子力	三島良績著	サンケイ出版	1983
原子力船「むつ」を考えるシンポジウムの記録	原子力研究所労働組合	原子力研究所労働組合	1984
原子力産業	武井満男著	同文書院	1988
原子力発電の諸問題	日本物理学会	東海大学出版会	1988
原子力発電の諸問題	日本物理学会	東海大学出版会	1989
誰も知らなかったソ連の原子力日ソジャーナリストは証言する	中村政雄 V.グーバレフほか著	(株)電力新報社	1990
平和国家 日本の原子力	岸田純之助著	(株)電力新報社	1990
21世紀社会と原子力文明 宇宙エネルギーをつくる	藤家洋一著	(社)日本電気協会新聞部	1992
原子力の光と影 20世紀を演出した技術	川上幸一著	(株)電力新聞社	1993
核解体	吉田文彦著	岩波書店	1995
原子炉を眠らせ太陽を呼び覚ませ	森永晴彦著	(株)草思社	1997
原子力がひらく世紀	「原子力教育・研究」特別専門委員会」編集	社団法人日本原子力学会	1998
原子力が開く世紀	「原子力教育・研究特別専門委員会	日本原子力学会	1998
原子力とどうつきあうか	住田健二著	筑摩書房	2000
「原発」革命	古川和男著	文藝春秋社	2001
原子力と日本病	村田光平著	朝日新聞社	2002
核燃料サイクルーエネルギーのからくりを実現するー	藤家洋一 石井保著	ERC出版	2003
人類が歩む原子力文明への道	エネルギー・環境政策を考える会	エネルギー・環境政策を考える会	2005
原子力講座シリーズ 1 原子力発電の現状と展望 原子力発電の安全性 放射線と生物	西中真一郎 坂倉哲郎 栗冠正利著	日本原子力文化振興財団	
原子力産業	西村厚著	日本長期信用銀行産業研究会	
南太平洋の探検とチリ津波 ビキニ・津波・うらみ	三好寿	(株)研文書院	1963
チェルノブイリ アメリカ人医師の体験(上)	吉本普一郎	岩波書店	1988
危険な話 チェルノブイリと日本の運命	広瀬隆著	(株)八月書翰	1988
ドキュメント「もんじゅ」事故	読売新聞科学部	(株)ミオミン出版	1996
青い閃光 ドキュメント 東海臨界事故	読売新聞社編集局	中央公論新社	2004

核兵器

書名	編集者名	出版社名	発行年
絶後の記録ー亡き妻への手紙ー	小倉貴文著	(株)中央社	1949
ヒロシマ原爆展 原爆ドーム保存工事完成記念	朝日新聞社 東京本社	朝日新聞社	1967
ヒロシマ・ノート	大江健三郎著	岩波新書	1968
黒い雨	井伏鱒二著	新潮社	1970

日本原爆詩集	大原三八雄 木下順二 堀田善衛著	(株)太平出版社	1970
ヒロシマ会議収支決算書1970年	ヒロシマ会議委員会事務局		1971
ヒロシマ8時16分(上)	中上守訳	角川文庫	1973
広島昭和二十年	大佐古一郎著	中央公論社	1975
広島高等学校創立60年記念 青春回想録		東方出版	1983
もうひとつのヒロシマ	恩田重宝著	(株)社会思想社	1987
ヒロシマは昔話か 一原水禁の写 真と記録一	庄野直美編	(株)新潮社	1989
医師たちのヒロシマ 原爆災害調 査の記録	「医師たちのヒロシマ」刊行委 員会	(株)機関紙共同出版	1991
核兵器と外交政策	H.A.キッシンジャー著 田中武克 桃井真訳	日本外政学会	1958
核兵器と放射能 日本の安全保障 IV	三宅泰雄著	(株)新日本出版社	1963
核拡散は防げるか	木村繁著	共立出版株式会社	1980
核廃絶は可能か	飯島宗一 豊田利幸 牧二郎著 岩波書店		1984
核兵器とは何か 核廃絶のために	今井隆吉著	エネルギー政策を考える会	1996
核軍縮への新しい構想	湯川秀樹 朝永振一郎 豊田利幸 編	岩波書店	1997
日本の軍縮・不拡散外交	外務省軍備管理科学審議官組 織監修	外務省軍備管理軍縮課	2004
イアブック 核軍縮・平和 市民と自 治体のために 2006	監修:梅林宏道	NPO法人ピースデポ	2006
原爆か原子平和か	谷口二郎編	新時代社	1952
原爆・水爆とビキニ死の灰まで	福田信之著	ラジオ科学社	1954
死の灰	武谷三男編	岩波書店	1954
死の灰と闘う科学者	三宅泰雄著	岩波書店	1954
原水爆実験	武谷三男著	岩波書店	1957
千の太陽よりも明るく	ロベルト・ユンク著 菊森英夫訳 文芸春秋新社		1958
原爆展	朝日新聞西部本社企画部編集 朝日新聞社		1968
原爆爆心地 付:広島市原爆爆心 地復元市街図	志水清 編	日本放送出版協会	1969
破滅への道程 原爆と第二次世界 大戦	マーティン・J・シャーウィン著 加藤幹雄訳	(株)ディービーエス・ブリタニカ	1978
被曝の実相と被爆者の実情 1977NGO被爆問題シンポジウム 報告書 東京・広島・長崎	ISDA JNPC編集出版委員会編 朝日イブニングニュース社		1978
原爆投下前夜	戦史研究会	角川書店	1980
人間に未来はあるのか 一ある物 理学者の問い一	庄野直美著	勁草書房	1982
昭和史の天皇 原爆投下	読売新聞社編	角川書店	1983
原爆乙女 Hiroshima Maidens	中条一雄著 Kazuo Chujo	朝日新聞社	1984
核の冬	M.ロワン・ロビンソン著 高榎堯訳	岩波書店	1985
わが職業は死の灰の運び屋	佐久間稔著	(株)厚済堂	1986
原爆をつくった科学者たち	J.ウイルソン著 中村誠太郎 奥地幹雄訳	岩波書店	1990
原爆は本当に8時15分に落ちた のか 歴史をわずかに塗り替えよう とする力たち	中条一雄著	(株)三五館	2001
写真でたどる第五福龍丸	財団法人 第五福龍丸平和協 会	財団法人 第五福龍丸平和協 会	2004
わたしとビキニ事件 ビキニ水爆 実験被災50周年記念手記集	財団法人 第五福龍丸平和協 会編集	財団法人 第五福龍丸平和協 会	2005

炎の記憶 1945空襲・狂気の果て 近藤信行		(株)新潮社	2005
核を追う テロと闇社会に揺れる世界	吉田文彦編	朝日新聞社	2005
原爆の秘密(国外編) 殺人兵器と狂気の錬金術	鬼塚英昭著	(株)成甲書房	2008
原爆の秘密(国内編) 昭和天皇は知っていた	鬼塚英昭著	(株)成甲書房	2008

エネルギー資源

書名	編集者名	出版社名	発行年
新編 火力発電	吉村氏吉著	オーム社書店	1953
火から原子力まで エネルギー物語	崎川範行著	東洋経済新報社	1954
あすのエネルギー	朝日新聞社科学部	朝日新聞社	1974
エネルギー危機との戦い アメリカからの警告	一本松幹雄著	(株)至誠堂	1976
核新時代とエネルギー戦略	今井隆吉著	電力新報社	1979
日本の危機:エネルギー「油断」か「枯渇」か	堺屋太一著	社団法人 社会経済国民会議	1979
戦後エネルギー産業史	日本エネルギー経済研究所編	東洋経済新報社	1986
エネルギー・自然・地域社会 戦後エネルギー地域政策xの史的考察	笹生仁著	ERC	2000
二十一世紀のエネルギー選択 将来世代エネルギーの理工学シンポジウム集録	京都フォーラム	京都フォーラム	2002
発電所所在地における社会的経済的環境の変遷に関する調査研究報告書	財団法人 電源地域振興センター		2003
原子力に関する講座(報道関係者対象)実施記録	財団法人 日本原子力文化振興財団	日本原子力文化振興財団	2004

原子・核・素粒子物理

書名	編集者名	出版社名	発行年
極微の世界	湯川秀樹著	岩波書店	1932
新粒子論	湯川秀樹 仁科芳雄編輯 量子物理学 第3巻	共立社	1939
目に見えないもの	湯川秀樹著	甲文社	1946
原子核工学	Raymond L.Murray著 杉本朝雄訳	丸善	1955
原子核の物理	ハイゼンベルク著 佐々木宗雄訳	みすず書房	1957
量子論の物理的基礎	ハイゼンベルク著 玉木英彦 遠藤真二 小出昭一郎訳	(株)みすず書房	1964
物理学の再発見 I	高野義郎著	講談社	1978
物理学の再発見 II	高野義郎著	講談社	1978
素粒子の世界	鈴木真彦 釜江常好著	岩波書店	1981
物質の究極は何だろうか	本間三郎著	岩波書店	1989
四次元の世界	都筑卓司著	講談社	2006
光る原子 波うつ電子	伏見康治著	丸善株式会社	2008
核	岸田純之助著	学陽書房	1975
灼熱の水惑星	高橋実著	原書房	1975
サイエンス最前線	木村繁著	朝日イブニングニュース社	1980

よくわかる最新元素の基本と 仕組み	山口潤一郎著	秀和システム	2007
測り知れない危険	世界科学者連盟委員会著 民主 主義科学者協会国際委員会訳	法政大学出版局	1956
家庭用シェルターの設計		鹿島研究所	1962
発がん物質	杉村隆著	中央公論社	1962
放射性降下物から身を護るに は	鈴木啓司著	鹿島研究所	1962
人体内の放射性同位元素の 最大許容量と空気および水 中の最大許容濃度	山下久雄著	日本放射性同位元素協会	1964
人は放射線になぜ	近藤宗平著	講談社	1991
知っていますか? 放射線の利 用	岩崎民子著	丸善株式会社	2003

思想・哲学

書名	編集者名	出版社名	発行年
湯川秀樹	桑原武夫・井上健・小沼通二編	日本放送出版協会	1975
科学の哲学	柳瀬陸男著	岩波書店	1984
自己探求セミナー 現代思想の 最先端から見直す自己 一将来 世代に対する我々の責任との 関連を中心にして一	将来世代総合研究所	将来世代国際財団	1991
日韓で初めて語る公和問題 一 第八回公共哲学共同研究会一 (ソウル会議)	将来世代国際財団	将来世代国際財団	1999
各国別公和問題の現状と課題 II 一第二十回公共哲学共同研 究会一	将来世代総合研究所	将来世代国際財団	2000
新しい文明の提唱 一未来の世 代へ捧げる一	村田光平著	(株)文芸社	2000
21世紀の地球と人類に貢献す る東洋思想	東洋思想研究会	将来世代国際財団	2001
科学はこうして発展した一科学 革命の論理	菅野禮司著	せせらぎ出版	2002
素粒子の世界を拓く一湯川秀 樹・朝永振一郎の人と時代	湯川・朝永生誕百年企画展委 員会編集	京都大学出版会	2006
森一久(元日本原子力産業会 議副会長)オーラルヒストリー	近代日本史料研究会	政策研究大学院大学	2008
湯川秀樹とアインシュタイン	田中正著	岩波書店	2008

雑誌

書名	編集者名	出版社名	発行年
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1955
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1955
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1955
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1955
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1955
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1955
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1955
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1956
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1956
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1956

エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1957
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1958
エコノミスト	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1959
エコノミスト別冊	「週刊エコノミスト」編集部	毎日新聞社	1955
科学	岩波書店「科学」編集部	岩波書店	1954
科学	岩波書店「科学」編集部	岩波書店	1954
科学	岩波書店「科学」編集部	岩波書店	1954
科学	岩波書店「科学」編集部	岩波書店	1954
科学	岩波書店「科学」編集部	岩波書店	1955
科学	岩波書店「科学」編集部	岩波書店	1955
科学	岩波書店「科学」編集部	岩波書店	1955
科学	岩波書店「科学」編集部	岩波書店	1955
原子力調査時報No.2	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1956
原子力調査時報No.4	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1956
原子力調査時報No.16	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1957
原子力調査時報No.35	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1960
原子力調査時報No.10	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1966
原子力調査時報No.12	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1968
原子力調査時報No.18	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1969
原子力調査時報No.22	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1972
原子力調査時報No.23	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1973
原子力調査時報No.24	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1973
原子力調査時報No.27	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1975
原子力調査時報No.31	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1977
原子力調査時報No.32	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1977
原子力調査時報No.49	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1984
原子力調査時報No.49	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1984
原子力調査時報No.53	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1987
原子力調査時報No.57	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1989
原子力調査時報No.58	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1990
原子力調査時報No.59	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1990
原子力文化 No16 マンガ特別号		日本原子力文化財団	
広領域教育 No.1	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1976
広領域教育 No.2	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1976
広領域教育 No.3	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1976
広領域教育 No.4	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1977
広領域教育 No.5	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1977
広領域教育 No.6	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1977
広領域教育 No.7	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1978
広領域教育 No.8	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1978
広領域教育 No.9	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1979
広領域教育 No.10	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1979
広領域教育 No.11	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1980
広領域教育 No.14	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1980
広領域教育 No.15	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1981
広領域教育 No.17	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1982
広領域教育 No.19	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1982
広領域教育 No.21	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1983
広領域教育 No.22	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1983
広領域教育 No.24	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1984
広領域教育 No.25	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1985

広領域教育 No.27	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1986
広領域教育 No.29	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1987
広領域教育 No.30	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1987
広領域教育 No.32	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1992
広領域教育 No.39	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1993
広領域教育 No.50	広領域教育研究会	広領域教育研究会	1995
広領域教育 No.52	広領域教育研究会	広領域教育研究会	2003
広領域教育 No.54	広領域教育研究会	広領域教育研究会	2004
広領域教育 No.55	広領域教育研究会	広領域教育研究会	2004
自然	「自然」編集部	中央公論社	1948
自然	「自然」編集部	中央公論社	1949
自然	「自然」編集部	中央公論社	1950
自然	「自然」編集部	中央公論社	1951
自然	「自然」編集部	中央公論社	1952
自然	「自然」編集部	中央公論社	1953
自然	「自然」編集部	中央公論社	1954
自然	「自然」編集部	中央公論社	1955
自然	「自然」編集部	中央公論社	1956
自然	「自然」編集部	中央公論社	1957
世界	岩波書店「世界」編集部	岩波書店	1988
婦人公論	「婦人公論」編集部	中央公論社	1953

年鑑

書名	編集者名	出版社名	発行年
原子力年鑑 昭和32年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1956
原子力年鑑 昭和34年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1958
原子力年鑑 昭和36年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1960
原子力年鑑 昭和37年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1961
原子力年鑑 昭和38年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1962
原子力年鑑 昭和39年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1963
原子力年鑑 昭和40年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1964
原子力年鑑 昭和41年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1965
原子力年鑑 昭和42年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1966
原子力年鑑 昭和42年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1967
原子力年鑑 昭和43年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1968
原子力年鑑 昭和44年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1969
原子力年鑑 昭和47年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1971
原子力年鑑 昭和48年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1972
原子力年鑑 昭和50年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1974
原子力年鑑 20周年記念版	20周年記念版編集委員会	日本原子力産業会議	1976
原子力年鑑 昭和54年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1978
原子力年鑑 昭和55年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1979
原子力年鑑 昭和56年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1980
原子力年鑑 昭和57年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1981
原子力年鑑 昭和58年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1982
原子力年鑑 昭和59年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1983
原子力年鑑 昭和60年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1984
原子力年鑑 昭和61年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1985
原子力年鑑 昭和62年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	1986
原子力年鑑 2003年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	2002

原子力年鑑 2004年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	2003
原子力年鑑 2006年版	原子力年鑑編集委員会	日本原子力産業会議	2005

各種資料

書名	編集者名	出版社名	発行年
原子力資料No.2	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1956
原子力資料No.4	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1956
原子力資料No.16	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1957
日米原子力産業合同会議概要報告		日本原子力産業会議	1957
第7回日中原子力定例打合せ 概要報告		日本原子力産業会議	1958
日英・日米動力協定研究報告	日本原子力産業会議 動力協定研究会	日本原子力産業会議	1958
原子力資料No.35	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1960
日米原子力会議談議事録		日本原子力産業会議	1962
世界の原子力開発	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1965
原研十年史	原子力研究所	原子力研究所	1966
アメリカの理科教育と原子力施設を見て	日本原子力平和利用基金		1969
ウラン濃縮問題の現状	ウラン濃縮問題検討会	日本原子力産業会議	1969
ジェットノズル法によるウラン濃縮	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1969
核防条約に伴う保障措置問題調査団報告書	核防条約に伴う保障措置問題調査団	日本原子力産業会議	1970
訪ソ原子力視察団報告書	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1973
原産マンスリー	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1982
原産訪中グループ(1982)報告書	原産訪中グループ	日本原子力産業会議	1982
安定成長の中に構造変化の兆し 原子力産業の経済的な実態	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1984
端境期に悼さず原子力産業	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1986
原子力資料No.223	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1989
原子力資料No.226	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1989
原子力資料No.227	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1989
平成4年度原子力に関する意識分析調査報告書		日本原子力産業会議	1993
原産マンスリー	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1997
原子力資料No.293	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1997
原産マンスリー	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1999
NSA Commentary No.9 原子力利用の経済	原子力システム研究懇話会	日本原子力産業会議	2001
OECD/NEA加盟国の放射性廃棄物管理	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	2001
原子力システム研究懇話会しおり	原子力システム研究懇話会	日本原子力産業会議	2003
大型高速電子計算機 CDC3600 共同利用のしおり	日本原子力産業会議 電子計算機室	日本原子力産業会議	2003
第18回 日台原子力安全セミナー 報告書	日本原子力産業会議		2004
第37回原産年次大会概要報告	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	2004
減速経済下での基盤拡充-原子力産業の経済的な実態-			
次代をになう青年諸君へ 中央公論70年史	日本原子力産業会議 「70年史」編集委員会	日本原子力産業会議 中央公論社	1955
10年史	電源開発株式会社企画部	電源開発株式会社	1962

原子力開発十年史	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	1965
30年のあゆみ	財団法人 日本科学技術振興財団	日本科学技術振興財団	1989
原子力産業実態調査報告 2002年度	日本原子力産業会議	日本原子力産業会議	2004
財団法人 電力経済研究所小史 1952-2008	森一久編集	UCN会	2007
財団法人 温水養魚開発協会小史 1972-2004	森一久編集	UCN会	2008
八十年の回想	岸田純之助著	(株)講談社出版サービスセンター	1986
核と共に50年	木村一治著	築地書館	1990
ある原子物理学者の生涯	田島英三著	(株)新人物往来社	1995
映像評伝 湯川秀樹	湯川秀樹伝記映像制作委員会	山陽映画株式会社	2001
仮想・立花昭記念館	森一久 喜多尾憲助編著	UCN会	2008
原子力産業新聞409号～456号	日本原子力産業新聞	日本原子力産業会議	
新潮45 この絶望的な政治家たち		(株)新潮社	1949
これからどうなる 日本・世界・21世紀	岩波書店編集部編	岩波書店	1983
ポスト冷戦と核	今井隆吉 田久保忠衛 平松茂雄著	(株)勤草書房	1995

絶筆

世界・日本の
運命の分かれ道

森 一久

絶筆 世界・日本の運命の分かれ道

——『寅は千里の藪に棲む』年は既に始まっている

森 一久☒(UNC会最後のブログ 2010年1月12日)


京都・三十三間堂の管主が「寅年の」新年の象徴となる文字を、墨痕鮮やかに、『新』と書き示したとき、並み居る観衆は、やや度肝を抜かれたように見えた。波乱万丈の「現在」における、この「平凡」な文字の「意味深長さ」をどう観じたであろうか。冒頭の「千里の藪……」は三千年前の中国の古典『左傳』にあり、とにかく寅は考えられない位広く、深く変幻自在に、清算・変化・発展を求めて、暴れまわるとされている。いや、既に波乱の世紀は始まっている。

日本で歴史上最初の政権交代が起き、そのチェンジを求めた国民自身も途惑う(と言うより判定し難い)位の出来事が、発言が、思考様式が次々に、現れ、その幾つかは、すでに具体化し、百家争鳴の場となっている。

端的な例だが、丁度今、私の前のテレビでは、従来のNHK流の、日曜朝の典型的な官製番組が放映中。ここ何十年も、ほどよく穏当な発言してくれる「権威者」を並べた、退屈な政治討論会「日曜討論」が繰り返されてきた。それが俄かに、NHKも変身か、駐留なき日米安保体制という言葉が、行き交っている。不思議なことに、或る出席者などは、今までの正反対の発言は忘れたように、平気な顔で、討論にうまく調子を合わせて番組は目下進行中……。——これだから日本人の豹変は度し難し、信用できないと感じて見ている海外の人も多いにちがいない。

—昨日鳩山首相が記者会見で「戦後数十年外国軍の駐留が続いているのは異常、とかねて思ってはいるが、私も総理で居る間はこの意見は封印しておくつもり」と公式に発言している。

それもあつてか、県知事会が、やはり沖縄だけに米軍基地の負担を押し付けているのは問題、申し訳ないと、「普天間米軍基地の県外候補地の選定に一肌脱ごうか」という、従来無かった動きもでてきた。



以上の日本の例は、筆者などから見て、比較的まともに見える出来事を並べてみだが、無論このほかにも、支離滅裂、無原則に見える政策論や出来事も山ほど眼前で起きていることはいうまでも無いが……。

地球環境問題がもめ続ける、そこに伏在する真の流れ。

—— その中から地球・世界・人類は、今後の千年の運命を選ぶことになる
完全に同義ではないが、二十世紀が植民地解放の世紀だったとすれば、地球温暖化問題における先進国と途上国・新興国との間の対立が、何百国の首脳が一堂に会したCOPとやらで徹夜で妥協案を協議しても決着付かなかったという事実は、21世紀の世界像(の創造)に何の議論も、いわんや合意のカケラも見出せなかった、ことを意味している。

筆者は、地球温暖化問題は大海に浮かぶ氷山の小さな頭の部分に過ぎないと思う。海中の巨大な本体には次の世界像の可能性がぎっしり詰まっている。その可能性についての、各国首脳(口に出さない、あるいは未熟な)認識あるいは前認識の違いをそのままにして、国際合意など出来るわけがない。このように本当は、単なる地球温暖化と言った底の浅い問題じゃないと、意外に多くの指導者(あるいはそのスポンサー)は認識しているのではないだろうか。いや、判っているから妥協しないのか。

元々今世紀は前世紀が結果的に領土の植民地が一掃された時代であったのに対し、世界経済の植民性から脱却の時代に必然的にすでに入っているのだ。それは実は「植民」に纏わる諸々の深刻な問題を戦争や武力で解決できない、或いはしないとされた時からの、必然の成り行きである。冷戦終了後、超大国の出現とその変貌などは、本当は初めから判っていた。

地球温暖化の真相と真因を各国は忌憚なく指摘・主張する。今地球を覆う炭

酸ガスは、確かに産業革命以来先進国が、石油などの化石燃料を篡奪して安く野放図に消費した結果の集積である。勿論先進国の経済発展で途上国も若干の恩恵を受けたかも知れないが……。

その上、戦後数十年にわたり、先進国が石油資源確保のために取ってきた手段は、戦後の紛争の真因のすべてといっても過言ではない。(その中には、結果としてテロ組織の支援となったものもある。)「宗教の対立」と言えば、綺麗事に聞こえるが、とくに或宗教の信者の人間性にまで、大きなヒビを残しており、その修復を含め、それが人類最大の課題と成りつつある。


だから若し、仮に地球温暖化ガスや資源枯渇問題がないとしても、「脱石油」は避けて通れない道であると筆者は思う。

ばらばらの世界像のままでは今後の「国際合意」など「百年河清を待つ」に等しい。

以下は主要な「切り口」の若干を掲げて、今後の分析の導入部としておきたい。少々新奇な問題提起もあるので、読者の方々からのご意見を頂ければ、幸いである。

①少なくとも当分の間、途上国・新興国の経済発展に百年来の世界経済危機から脱出が賭って居るとすれば……

百年来の世界危機の対策は、各国の膨大な借金の積み上げ、供給過剰、需要不足、デフレ・スパイラル化の恐れの中で、産業経営者や団体の多くは、「おねだり」以上の政策提言をする気力も不足、わが社だけの生き残りを提案するのみに見える。世界経済の持続的発展ないし将来の「存在」の姿を描けないで居る。今見えているのは、新興国の需要への期待のみ。こんな時、途上国・新興国に炭酸ガス削減を無理に納得して貰い、先進国からの技術・経済支援で、途



上国・新興国から今後の需要や安い人件費をあてにして、「百年来の危機の清算」が出来ると考えているのだろうか。

②先進国の産業の将来展望は

先進国の中で日本だけは少々違うようだが、欧米の経営者たちの将来展望には、意外に楽観的なものが、垣間見られる。象徴的な現象は、百年危機のときの公的資金の返済を急速に実行している。(企業への政府の干渉を嫌う企業家魂には、敬意をはらうべきであろう)。

しかし問題は彼らの将来の発展像の中心に、やはり、サブプライム問題を引き起こしたと同じ手法の「金融工学イノベーション」に再び重点を戻しつつあるような兆候がある。

③技術開発を中心とする世界経済の再建の可能性と限界

日本はとくにきめの細かい技術で、自動車や鉄鋼などで世界の牽引力となって過去経済の発展に大きな寄与をつづけてきた。今後も環境、資源問題でもその役割はある程度期待できるだろう。

しかしながら、その本質から避けがたい限界を忘れてはならない。それは技術革新は必然的に省力をもたらし、経済のパイを大きくするとは限らないことである。たとえば、乗り物の改札の自動化がいかに多くの省力化(失業)を生んでいるかを見れば明らかである。(灯台や測候所の廃止も同様。)②が再び脚光を浴びる可能性を否定しきれない大きな要因となっているのかもしれない。

④世界がこれらディレンマから脱却して次の百年への展望をもつには

それは世界の先進国も途上国も新興国も、そして「転落国」?も真の危機を認識して、生存を懸けてそれぞれの力に応じてコミットせざるを得ないような、「壮大なプロジェクト」を地球人類が創案できるかどうかではないだろうか。



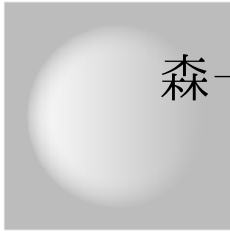
森一久 中央公論時代

回想 I



原子力の平和利用を
求め続けた生涯





森一久氏の急逝を悼む

大塚益比古

(2011年3月25日「森一久さんの思い出を語る会」での追悼文)

大正15年(1926)生まれの森一久さんは1月25日肺炎で入院し、翌月3日に帰らぬ人となった。

今から20年前、当時日本原子力産業会議の事務局長だった森さんは、原子力システム研究懇話会の設立を思い立ち、関係各位の理解を取り付けた。その間の事情は、彼の絶筆となった「懇話会の設立と今後の期待」(NSAコメンタリー、No.18)に詳しい。

そもそも森さんと原子力との関わりは広島原爆に始まる。それによって彼はご両親を含めて5人の身内を失った。彼自身は押しつぶされた実家の下から這い出せたが、外出中だった母上の行方を捜し求めて約3週間被災地を歩き来した後、西宮の次兄宅に身を寄せた。やがて高熱を発し、生死の境をさまよひ、被爆から3ヶ月後、漸く快方に向かい、翌年復学することができた。

京大の物理を卒業した森さんは、やがて原子力の平和利用の将来に強い関心を抱くようになり、例えば、有志を語らって、広く若い研究者に呼びかけて「原子力懇話会」を組織し、今で言う「夏の学校」を精進湖畔で開いた。1954年のことである。又、湯川秀樹博士が原子力委員を引き受けた折には、先生の懐刀をつとめた。その後、彼は原産会議の設立に参画し、その人柄ゆえに、橋本清之助、有澤廣巳、向坊隆といった諸先生達の信頼を得て、事務局長として長く同会議の運営に当たった。その時の苦労は「原産：半世紀のカレンダー(森一久編著)」から窺い知ることができる。

いま森さんの仕事ぶりを振り返ってみると、表舞台に立つことは殆どなかったといえる。彼は自分のために仕事をしたことはなかったし、彼の行動の裏には、つねに彼の志というものがあつたように思われる。以前から、彼は、たとえ叙勲の話が出ることはあつても、それを辞退することに決めていた節があつた。

勲章といえば、森さんはフランスから「グランド・シュバリエ・ド・ロード・
デ・メリット勲章」を、また、韓国からは「大韓民国国民勲章石榴賞」を贈ら
れている。それは国際協力に貢献したが故である。

2004年、原産会議は日本原子力産業協会に改組され、その機会に彼は副会長
を辞し、その組織から退いた。しかし、森さんの原子力に対する関心は衰えず、
我が国の原子力界の現状を憂える同士を誘ってUCN会なる組織を設けて活動
しておられた。

今となつては、ただ森さんのご冥福を祈るばかりである。

(「原子力システム研究懇話会 会員」)

森さんの時代

喜多尾憲助

悪筆

私は、1957年から1963年まで、原子力産業会議(原産)の職員として働いた。仕事は森さんの下で末田守さんと共に、まず国外情報を翻訳編集して月刊誌「原子力海外事情」を作ることであった。情報源は、原産が会員登録している

米原子力産業会議の発行誌、原子力関係雑誌、新聞の切抜きなどで、電力やメーカーの若手社員や大学の若手の研究者に勉強を兼ねて翻訳してもらい、われわれはそれを校閲し原稿を作るのである。編集のイロハは、中央公論社で科学雑誌「自然」を編集していた森さんから教わった。

海外事情の印刷は、岩波書店の出版物を手掛けていた東京神田の三陽社に依頼したが、これも森さんのツテだったと思う。月に一度、初校に手を入れて印刷屋に戻し、東京田端(?)にある同社の工場に、最終校正のため三人で出かけるのである。当時は活版印刷であるから裏文字の活字を拾う文選と呼ばれる職人が、頁単位で組み上げる。彼らの判読できない文字や活字の在庫のない文字は、ゲタと呼ぶ活字“≡”で代用して刷り上げ、二校となって出張校正のわれわれを待ち受ける。工場の2階にある部屋で、さらに校正して校了、夕食が出て仕事が終わる。しかし校正刷りを眺めていると、どうも日本語になっていない箇所や納得できない翻訳文が結構出てくる。赤字を入れて、再度直してもらおう。「初校は真っ赤で良いが、あまり繰り返し直すと、帰りがけに腹を立てた文選工が組み上げた版を頭から投げられるぜ」などと森さんから脅かされたりする。誤植は先入観があるとなかなか減らない。パッと見て誤植を発見する森さんには到底かなわなかった。だが当人はかなりのクセ字で、前後の文脈から判別しても到底読めない字もあるが、不思議と赤字が直ってくる。「僕は悪筆なので、活字を拾う方は注意する。依って誤植が少ない」と妙な強がりをつけていた。今回、森さんのメモ書きを改めて読んだが、電話を受けながらの走り書

きは別として、判読不能はそれほど多くなかった、当人の「名誉」のために特に記しておく。

先見性

原産は委員会活動をベースに政府はじめ関係方面に意見書や要望書を出した。社長クラスの方々をメンバーにした委員会があり、大学の研究者や電力などの社員をメンバーにした研究・情報交換の委員会もあった。原子力災害補償制度などの法制度の早急な整備も原子力開発促進のために必要であった。大規模な原子力災害がもたらす公衆被害は、一企業の賠償能力を越す可能性がある。その分は国家が補償しなければならない。1959年原産はこの第三者補償問題について報告書を発表した。同年その基礎となる災害規模の試算を、科学技術庁から受託した。発電炉事故によって放出される放射能・放射線が公衆に及ぼす損害の大きさを推定するものだが、森さんが幹事になり、さまざまな分野の専門家を集めて研究会を作った。この研究会で、われわれは微気象学(micrometeorology)から被害に対す損害補償金額の計算に至るまで習った。

微気象学は、地形の変化、森や建物の存在を勘定に入れて大気の運動を扱うので、原子炉から大気中に拡散する放射性煙霧の動きを調べるのに役立つ。こうした大気拡散の物理を勉強し、サットンの式や英国気象庁の式による計算方法を教わった。損害額の算定のため今日当たり前のように使っているホフマン方式なるものを知ったのもこの時である。

放射能汚染の広がりには、メンバーの私が分担し、原産が入っていた東電旧館の地下室で夏場には汗だくになりながらタイガー計算機を手で回して計算した。米国の報告書「大型原子力発電所の重大事故の理論的可能性とその影響」WASH-740(1957)」を参考にしたが、人的損害を含む計算の根拠・方法は全くわれわれ独自のものであった。また、計算の基礎となった発電炉は50万kW、わが国の地理的条件を考慮し、海岸に面し、風下方向に20kmに中都市、120kmに大都市が存在する仮想的敷地を設定した。報告書は1960年に提出したが、委託主である科学技術庁が積極的に公表しなかったため、原発の事故が大き過ぎて発表できなくなったのでは、などと勘繰られ、後日共産党の機関誌「前衛」が記事にするまで世間は知らなかった。

この仕事に関連して、森さんと私は推計学で著名であった東大医学部の増山元三郎氏を訪ねたことがある。「自然」時代の森さんの知己の方であった。森さんは、事故のいわゆる重大事故の発生頻度の評価に推計学(推測統計学)の手法を使ってみようとしていたのであろう。しかし非常に規模が大きいが、まれに起こる事故に対する確率的推測は完全には無理であることを理解したので見送ったのではないかと想像する。それはともかく、原子炉事故の安全評価に確率論的手法が一般に使われるのは、われわれの調査より10年ほど経ってからであるから、これは森さんの先見性を示すものと言えるだろう。

安全性

物理学会発行した単行本「原子力発電の諸問題」(1986)がある。森さんは“原子力安全論争の行方”と題する評論を寄稿している。安全論争が、開発側や規制当局の情報秘匿や安全規制の不十分さを攻撃し、彼等の姿勢を正す効果はあったが、具体的な成果はなかったと指摘した。また「原子力のような革新的な巨大技術は、それが閉鎖的な体制の中で開発利用される場合、安全とくに環境・公衆への安全にかかわる面で基本的な見落としあるいは独善に陥るおそれがある」とし、「原子力の安全性確保にとって、体制への過信こそ禁物である」と断じた。そしてこの体制とは、政治、規制、経営形態、研究開発、製造、運転、訓練など、すべてのシステムを指すと言っている。この論文は当初米国スリーマイルアイランド事故後の1983年に物理学会誌に寄稿したもののだが、チェルノブイリ事故を受けて補筆されたものである。

横須賀を米原子力空母が母港化するさい、米国は50年余の間、米海軍艦艇用原子炉が事故を起こしていないという内容のFact Sheetを2006年に発表した。森さんは、たまたまUCN会の事務所を訪れた私にそれ見せ、50年間だぜとしきりに繰り返した。私は、日本の港に入るならば、陸上の国内発電炉並みの安全審査を受けるのが筋だと考えていたし、保身や手柄のために、軍というものが本当のことを言うまいと思っていたので全く賛成できなかった。しかし森さんは、我が国の原発でも努力すれば、安全性を確保出来ると信じていたようであった。

三人組

かつて、原子力開発に乗り出すため財界、電力界、産業界を束ねた財団法人電力経済研究所に翻意を促すため乗り込んだ三人組、森一久、服部学、大塚益比古は、日本の原子力の民主的、自主的開発に関心ある物理・化学・工学の若手研究者のグループ(原子力談話会)を背負っていた。これら若手のすべてが、その後原子力研究に歩を進めたわけではない。しかし、日本原子力研究所における研究や組合運動に寄与し、わが国の原子力平和利用のための自主・民主・公開の三原則の実現に貢献した。原子力談話会もやがて一定の役割を終え、三人組もそれぞれの道を歩むことになる。服部学さんは東大から立教大学原子力研究所へ移って、トリガ型研究用原子炉を利用した研究や運営に携わった。2012年1月に亡くなるまで一貫して原子力の軍事利用に反対し、多くの著書を残し、所長として退職した。また横須賀の米原子力基地化に反対する市民運動に積極的に参加・発言した。大塚さんは、阪大から学術会議原子力特別委員会の幹事として原子力三原則の実現に努力した。その後電源開発株式会社に入社し原子炉物理や原子炉安全性を研究し、原子力部長となった。

電源開発の発電炉計画は森さんの言うように、9 電力の合意を得られず政府も日和見に終始したので、大塚さんが在任中に原発の建設・運転に係ることは遂になかった。(同社大間原発の建設にゴーサインが出たのは2001年のことである。)その後エネルギー総合工学研究所長を勤め、定年後は服部さんや立花昭さんらと共に核不拡散(核軍縮)研究に参加し核廃絶の運動に係った。また日本放射線防護協議会を立ち上げ、ICRP(国際放射線防護委員会)の動きに関心を持ち続けた。3.11直後の2011年7月に亡くなったが、病床で、「自分ではブレーキ役を心がけてきたけど、何の役にも立たなかったね」と言ったという。一方、原産に入った森さんは全く別の道を歩み、服部さんや大塚さんとの間に、原子力開発に対する考え方についてずれが生じていたことは否めない。私が全く個人的理由から原産を退職したときは、「やはり森さんと意見が違ったのかね」と服部さんから尋ねられたし、ずっと後になって、森さんと原子力コロキウム・原子力談話会の、いわば同志であった立花昭さんの所蔵資料をまとめたときには(「仮想・立花昭記念館」)、大塚さんから「君が手伝うなら良い」と言われたのも、こうした乖離を示していると思う。しかし森さんはこのグルー

プを原子力における自身の出自と考え、その顛末記を残して置きたいと語っていたが、残念なことにその願いは叶わなかった。

原子力文化

原子力は、物理から土木、医療に至るまで様々な科学技術の分野にまたがる。もちろん政治・経済・社会にも関係する。いわゆる核燃料サイクルは、ウラン誕生や廃棄物処分を扱うから、時間的事象でもある。原子力の総合的理解は、いわば“4次元多パラメータ解析”が必要だろう。いろいろなことに好奇心を示した森さんにとって、原子力は恰好な対象となった。ウランのレーザー濃縮施設を見ることができるとなれば、その機会を逃さない。フランス・デジョンで開かれた日仏原子力専門家会合N20の折に、その前年2003年に実証試験が終了し、解体のため閉鎖していたピエーラットの原子レーザー法濃縮施設を見学する機会をわざわざ作ってもらった。これは気化したウランにレーザーを照射してウラン235のみをイオン化、回収する装置で、金属ウランの蒸気を立てるために、加熱した鉄球を使うのがミソらしく、お供の私は森さんから「よく見ておいてくれ」と言われたその鉄球も既に錆びてバスケットのような入れ物に積み上げてあった。装置のある部屋から出るさい壁に詳細な図があったので、じっと見ていたら、慌てた案内人からいきなり照明を消されてしまった。錆びたとはいえ、やはりウラン濃縮施設であることを思い知らされた。このN20の第1回会合は1991年フランスのサクレで開かれた。以来、日仏で交互に開かれたが、森さんはよほど気に入っていたのか毎回出席したようだ。ある仏文学者によると、日仏文化サミットで例えば「文化と企業」といったテーマで議論する場合、日本人の発表は具体的な事柄から議論を起こし一般化しない。フランス人は初めから抽象的な哲学的あるいは形而上学に近いような表現として発言し、重要なことを普遍化するという。もともとフランス語そのものは、具体的なものを通して考えるという仕組みが弱いらしい。(アラン「定義集」(みすず書房1988)対談辻邦正・所雄章)わが国で原子力と文化が結びついたのは1969年である。この年、「原子力開発のメリットとデメリットを分析し、その結果を余さず積極的に公開し、公衆の理解を得る」という原産が行ってきた姿勢を、近未来の新産業社会的理想図として一層充実するためPR組織が作ら

れた。森さんは、毎日新聞の記者であった河合武さんと、原子力産業の在り方について文明論にまで及ぶ議論をした。そして生まれたのが、河合さん提案の「原子力文化」である。組織の名称は「日本原子力文化振興財団」となった。

思えば第二次世界大戦で焦土となった敗戦国日本の復興の合言葉が「文化国家」であった。森さんがフランス人とどのような“文化”論を闘わしたのか、尋ねる機会を失ったのは本当に惜しいと言わざるを得ない。

ジャーナリスト

森さんは自分でも言っていたようにジャーナリストである。森さんを「原子力のドン」と言った人がいる。それはないと思う。第一、時代はドンなど必要としなかったのではないか。

森さんは若い頃から年寄の(その頃の年寄は原子力を知らなかった)相談に乗っていた。世話役として様々な問題に係り汗をかきもした。煩がられもした。原産の中に後継者を作らなかったようだが、原発反対派を含め、多くの人と話し、知識を集め、発言し、文章を書いた。(異論があるかもしれないが)原産を役人の天下り先にしないという原産の伝統を守り、業界団体に有り勝ちな澱んだ組織にしなかった。今日の「文化国家」は哲学が薄れ、実用ばかりが華やかである。道を照らすだけが技術ではない。森さんは人の心を明るくし、人が枕を高くして寝ていられるような技術の在り方が、またそのための不断的努力が、原子力に求められていると考えていた、と言えるであろう。

(2015年1月記)

原子力に運命的に結ばれた人

菅野禮司

出会い

森一久さんとの出会いは2008年10月の湯川研究室同窓会であった。森さんの同窓会への出席はこの年唯一度だけである。それまで森さんのような大先輩がおられることを知らなかった。同窓会の終了後、原発や囲碁などのことで個人的に話をしたのが、森さんとのお付き合いが始まるきっかけとなった。森さんは大の囲碁愛好家であったこともあり、囲碁や文明論(特に原子力)を通して交流が深まっていった。頂いた『森一久オーラルヒストリー』、『原産半世紀カレンダー: 平和利用の理想像を求めて』などについて、読後感や私見を述べると、必ず丁寧な返事を頂いた。また、私の書いた科学・教育についての論考や囲碁に関するエッセイについて大いに賛同して下さった。

考え方が同じであり囲碁を打つ楽しみもあつてか、私を気に入って下さり、上京したら必ず連絡して欲しいと言われ、また森さんが関西に来られた時は私に連絡があった。その都度お会いして、食事を共にしながら語り、その後囲碁を打つ事が楽しみのようなだった。

僅か2年余りという短い期間ではあつたが、親しくして頂いたことは私にとって大変刺激となり、思い出深い貴重な時期であつた。晩年の唯一度の湯川研同窓会への出席が運命的出会いとなつたわけである。もっと早く森さんにお会いしていたらと思うと残念でならない。その間、著書・論文の交換、会話や書簡・Eメールなどによる交流を通して、私が知り感じた森さんの思想と人柄について、特に記憶に残つたことを綴る。

原子力との運命的結びつき

森さんは、1945年8月6日8時15分、広島に投下された原爆により家族5人を失い、自らも九死に一生をえた被爆者である。その人が、原子力の平和利用

とはいえ、なぜ原子力発電にかくも熱心に尽力するようになったのかと多くの人が疑問を抱いたし、その問いは今でも続いている。

原子力の平和利用として原子力発電が、日本の学術会議や政財界で提起された頃(1953年頃)、森さんたち若手研究者は「原子力懇談会」を発足させて、原子力利用の可否を議論していた。原爆の被爆国である日本での原子力利用は、それを始めるにしても、どこがどのように行うべきかを含めて慎重に検討してからにすべきであると考えていたそうである。その頃、電力経済研究所が「原子力産業利用促進について」を建議した。それに対して、原子力談話会の森さんたちは、日本での原子力利用は時期尚早であると、電力経済研究所に抗議に押しかけた。「原子カルネサンス」で述べているように、原子力利用に繋がる核分裂と相対性理論の発見はコペルニクスの天動説以上に革新的なものであるから、人間は「精神革命」を経た上で原子力時代に臨むべきだというのが、当時の森さんの考えであった。

その基本的思想は変わらなかったと思うが、電力経済研究所の橋本清之助さんに説得され、やがて原子力産業会議に参加すると、原子力に関する考え方が徐々に変わっていった。そして原子力の平和利用、特に原子力発電を積極的に推進するようになった。このことは森さんの原子力観、自然観が大きく転換したことを示すものであろう。

「人類は原子力とどう向き合うべきか」という点で、森さんの自然観は180度転換したと言っても過言ではないだろう。その転換の契機となったと思われるものがある。日比谷のプレスクラブセンタービルで、同窓会以後に最初にお会いした時、地球の地殻での元素の存在比のグラフを示し、ウランとトリウムの存在比率が特に多いことに特別の感慨を抱いて語られた。宇宙平均で見ると、地球の炭素濃度は1/6000であるのに対してウラン濃度は200倍であることを指摘し、“神が「人類よ、品格高くこの難しいエネルギーを使いこなせるかな？」と問いかけているように思える。”といわれた。後日、私は頂いたグラフを基に、地球における炭素とウランの存在比を、太陽系での元素の存在比率のデータから算出してみると、なんとウランは炭素の1/1000も在る。この数値はオーバーでしょうかと森さんに尋ねると、「いやこれは小生の計算とびったりです。ということは、今の軽水炉の使い捨て方式でも、エネルギーとしてウランは炭

素の10倍はある。再処理etcで完全利用すればその100倍(つまり炭素の1000倍)ということです」。さらに、なぜウランがこのように多く地球に存在するのか“これは神の配剤とも思えるが、その科学的理由を調べたい”との返事がきた。

また、晩年は原子力利用に関して一種の「使命感」を抱いていたように思える。ある日ペンクラブでの会話で、しみじみと述懐された。「私は被爆者として一度死に、再生してからこの歳(83歳)まで原子力利用に深く携わってきたが、私は原子力の平和利用のために一生を捧げるように運命づけられ、今日まで活かされてきたし、これからも役立つことをやれと、運命に命じられているように思われる」と。私利私欲を離れて誠実な生き方を貫き、自らの理念と信念をもって原子力と関わってこられた森さんだけに、そのときの様子と言葉には宗教的な雰囲気さえ感じられた。私は偶然数日前のラジオで、ある人が似たような運命論的な話をしていたこと思い出して、「そうかも知れませんが、私にもそのように思えます。是非これからも頑張ってください」と答えたら、嬉しそうな表情をされた。「運命づけられている」という受け身だけではなく、自らもそのような信念をもって積極的に生きてこられたから、結果として「運命」と思うようになったのではなかろうか。

このように森さんはウランやトリウムに特別な思いを抱き、原子力利用について人類の品格が問われていると信じて活動されているように思えた。

原子力産業会議の要職にあり、長年政界や財界に囲まれた世界の中にあつたから、普通の人間なら、ともすれば元の信念を曲げてその渦の中に巻き込まれがちであるが、節を曲げず初心を貫き通された。頂いた『森一久 オーラルヒストリー』を読んで、日本の原子力産業が「原子力基本法」と「平和利用三原則」に基づいて、曲がりなりにもやってこられたのは森さんの存在が大きかったことを知り感銘を受けた。政府・産業界の姿勢、安全性よりも経済性優先の施策に抗して、原子力の平和利用に徹し安全性を重視する姿勢を最後まで保ち続けた強い人格には心から敬服する。これが森さんの残された資料を整理保存しようという気持ちになった大きな理由である。

しかし、熱心に原子力の平和利用を推し進める余り、行き過ぎた点もあつたろう。原発の事故対策として、避難路をまず作る(東海村)とか、事故賠償法の制定など種々尽力はされたが、各地で発生した原発事故の評価については楽

観的なところがあったように思える。いろいろな発言や書かれたものから判断するに、原発の「安全神話」に対して批判的ではあったが、安全対策に関しては見透しに甘さや見落としがあったように思われる。特に日本での過極事故の可能性についてもっと検討すべきであった。この判断は福島原発事故が起こってからその後知恵であるが、今にして思えばその点が残念である。

晩年の無念な思い

原子力利用の推進リーダーとして長らく原子力界にあって、原子力界と「原子カムラ」の体質退廃を止められなかった。そのことに対する忸怩たる思

いを、若き日の夢が打ち砕かれた無念さと怒りともって告げていた。

“日本は50年前、(原発)開発着手の是非をめぐる国を挙げての大論争の末、自主・民主・公開の3原則を掲げた「基本法」を中心に、推進・規制の諸法規、研究機関などの整備に取り組み、各界各層の全面支持のもとに、華々しく平和利用を船出させた。

当時原子力関係者は、将来の「夢」を語りつつも、原子力の持つ危険性・困難性について真実をありのままに語った。(中略)一方、批判者の論点は核心を衝き、例えば安全性や開発の自主性・計画性の確保についての提案が、事態の改善をもたらしたのも少なくなかった。

改めて原子力の現状を俯瞰し、原子力関係者と批判者の行動様式を見ると、まことに隔世の感を禁じ得ない。関係者は捏造や隠蔽、それにガバナンスの欠如無計画性を重ね、その裏返しのように、批判者はその揚げ足取りだけで事足りの風情で、今やその多くが一種「人畜無害な」存在のように見える。”
(『原子力の原点と推進者・批判者の「変身」』 「NERIC News」 (核・エネルギー問題情報センター)No.282/2007年10月号より)

これは原子力発電を中心に、原子力の平和利用を「己が運命」と信じて積極的に推進してきた森さん自身の反省でもあったろう。いかに誠実であっても、人間は不完全である。今にして思えば、その積極的推進活動には批判される点も少なからずあろう。

原子力産業会議を退職されてからも、UCN会(Union of Unconcerned)を

設立し、原子力・環境・教育問題などに、最後まで取り組んで活躍された。晩年には、日本の原子力政策を正すべく骨のある若手研究者の研究会を組織しようとの夢を抱いておられた。それは若い頃作った若手研究者の「原子力談話会」を再現したいとの思いからであろう。UCN会も原子力界の変質を憂い、そのための道を付けるためであったのだろう。そして、究極的なウランの完全利用、すなわち、ウランを原子炉で使用した後の廃棄物を再々利用して、最後は放射性の弱い元素にまで使い尽くす技術を開発すべきだとの思いを抱いておられた。人類が将来生き延びるためには、放射能の強い使用済み核燃料廃棄物をださないこの技術の開発研究は是非とも必要であると信じていたようである。

“この完全利用の技術開発は日本が被爆国の特権ということで、世界中で日本だけがやみくもに取り組んでいるもの。数十年単位の体系的な取り組みが必要で、核兵器が廃絶されないうちは、核兵器関連にからむ機微な技術なので「日本だけは仕方ない」と世界が認めつづけてくれるが、ヒヤヒヤと私は思います(2009年4月私信)。”

だが、このプロジェクトは日本だけでは不可能であり世界的規模のものにならざるをえないので、せめてその道をつけておいて頂きたかったが、残念ながらそれから半年も経ぬうちに思い半ばに急逝された。

囲碁のこと

森さんと切り離せないことに囲碁がある。若い頃から囲碁を愛好し腕を磨いたそうである。原子力産業会議の中に囲碁の「原天会」を設立した。

自分の手柄話や自慢はほとんどされない森さんだが、囲碁に関しては自慢そうに話すものがある。初めて私がお手合わせする時、最初にいわれたことは「高川本因坊が現役の頃、三子で勝ったことがある」との自慢話であった。これには驚いた、大部強い。それでは私よりもずっと棋力が上だから三、四子置かなければならないといった。だが、高齢になられてからは棋力も落ちたのであろう、二子、または先番でも勝負になった。

普段人に接する時は温厚な人柄ではあったが、囲碁の筋や勝負にはかなりこだわり、負けず嫌いのところがあった。政治家や財界人に対して自らの思うところを貫いたように、温厚な中にも頑固なところが伺えた。

晩年、西宮の別宅を整理された時、櫃の碁盤があるから私に引き取って欲しいと言われた。使い勝手のよい碁盤で森さんが愛用されたものとのこと、私も一面持つてはいたが、森さん愛用の碁盤ならよい記念となるので有り難く頂戴した(2009年 8 月)。今もその碁盤は、森さんの添え手紙と一緒に我が家の床の間にある。

関西に来られた際に、大阪でお会いし昼食を摂った後、同人雑誌「囲碁梁山泊」の事務所「サロン・ド・ゴ」に案内し対局した。そこでの対局相手や皆さんとの対話から、「多くの人たちが真の棋道の追求に協力している様子に接し印象深く感銘した」と後日の手紙にあった。その場で「囲碁梁山泊」の購読者になり、知人に宣伝すると雑誌を数冊持ち帰られた。

最後のお別れ

最後にお会いしたのは、2009年の12月下旬に上京した折であった。例のプレスクラブで昼食を挟み、お話と囲碁対局で半日を過ごした。前立腺癌の治療で体力が少し弱っておられるようでしたが、新橋駅まで話をしながら共に歩いた。駅前でお別れの時「お互いに体を大切に、これからもまだ頑張りましょうよ」といわれた言葉がはっきりと思い出される。UCN会のブログに書かれているように、日本の現状に苦言を呈し、もう一仕事をされる意気込みでした。それなのに、それから僅か 2 ヶ月で亡くなられるとは……。

「2月3日朝8時15分に息を引き取りました、これも何かの因縁でしょうか」と奥様からお聞きした。8時15分は原爆が広島に投下された時間である。森さんは科学者の筈であるが、運命論者のようなところがあった。出会いや偶然にある種の意味を感じるとる豊かな感性の持ち主であった。

森さんの逝去はまことに残念であり惜しまれる。

(2014年11月記)

森一久さんの思い出

曾我見郁夫

森一久さんから速達便で書籍が送られてきた。そこには '09/6/4 と日付の入ったメモが添えられており、次のように記されていた。

さきほどは貴重なお話ができて有難うございました。さがしてみましたら「原産のカレンダー」が出てきましたので、送呈申し上げます。(湯川さんの代わりに、受け取っていただくような気持ちにて)。

どうぞ御一覽、御保存願えれば幸甚に存じます。 森一久拝

この日付の 4 日に、森さんとお会いしたのである。約束の時刻に内幸町のプレスセンターの喫茶室に着くと、森さんがにこやかに握手で迎えて下さった。そして昼食をはさみ、「理学の仲間と学問の話が出来るのは嬉しいですよ」、3 時間あまり話し込んだ。

その言葉の通り、話の大半は理学(広い意味で物理)に関わるものであった。まず森さんが、湯川先生に課せられたという卒業研究の説明を語り始めた。それは、場の理論の発散問題を解決するために、“微視的なスケールでは時間と空間を不連続な格子構造にする”というSnyderが提唱した難解な未完のテーマであった。私自身も、先生にSnyder論文を勧められて読み苦しんだ経験があったので「お気の毒に100年経っても解けない問題ですよ」とコメントした。それに対して、森さんも「何しろ時間も空間も創ろうとするのですから難行ですよ」と応じられ、二人で大笑いをした。

湯川先生が頻繁に森さんと会われていたことは、知っていた。原子炉の問題になると、先生から「何しろ危険な代物なんやから、森さんには、しっかり見張って貰わんとあかん」と聞かされていたからである。しかし、それだけではなく、お二人は素粒子論のことも議論し合っていたようである。そのことは「湯川さんは不連続な時空にずっと関心を持って居られましたね」と云う森さ

んの言葉からも窺い知ることができた。

森さんの質問に応える形で、素粒子論の現状をお話した。そして“発散の困難”が朝永先生の提唱した“繰り込みの手法”で、ほぼすべて解決されることを説明したのであるが、どうも、これは不満であつたらしい。間違いなく、湯川先生と森さんは“同志”であり“同類”であつたのである。もし森さんが大学の研究室に残っていたら、間違いなく先生の強力な助っ人になっていたであろう。

当然ながら、話題は核物理学に及んだ。森さんは「“ウランやトリウムのような放射性元素が地球には宇宙の平均の100倍も存在する”ことは奇跡であり、そこに“超越的な何か”を感じる」とのことであつた。そして「これらの希少資源は安全に使い切らなければなりません。それが人類の使命だと思いますよ」と断言された。これらの言葉には、広島で凄惨な被爆を経験した森さんが“安全な原子炉の開発推進に意欲を燃やし続けた数奇な運命の謎と意味が隠されている”ように、私には思われるのである。

私には、森さんに確かめたいことがあつた。それは“日本と旧ソ連邦の原子炉共同開発”のことである。コーヒーをお替りして一息ついた機会に、“チェルノブイリ黒鉛原子炉の事故の丁度10年前にロシアの友人から聞かされた話”を森さんにぶつけた。

1976年の4月、湯川先生の推薦でクリミア半島のアルシュタで開催された「非局所場理論」の国際会議に出席した。会議の前日に、主催者のプロヒンチエフ博士に誘われて、黒海を眺望する丘を散歩した。その途中、博士から全く唐突に「ソ連邦と日本の両国で軽水炉型原子炉の共同開発が進められていたこと」と「順調に進んでいた開発を中止せざるを得ない状況になったこと」を聞かされたのである。そして「開発再開の可能性にかけて1月に日本に行った機会に、学会参加の確認の電話を君にしたのです」と付け加えられた。それでも話の意味を掴めず茫然としている私に、博士は共同開発を開始した理由を真剣な面持ちで説明された。「ソ連邦の黒鉛炉は不安定であり事故が起こる危険性が高く、その炉が出し続けるプルトニウムの処理には軍さえも困り抜いていた」のである。

私が「こんなことが本当にあつたのでしょうか」と質問したのに対して、森

さんは「はい、私たちが関わりました」と断言したのである。そして「設計図は広げると大きな部屋いっぱいになりました」と言った後、ポツンと「しかし実現は出来なかったのです」とつぶやいた。「何が起こったのですか」と尋ねようとして、私は口をつぐんだ。森さんが困ったような面持ちで、私の視線から目をそらしたからである。

話し合いを終えて、地下鉄の入口で握手を交わした際に、森さんは「参考になる資料が見つければ連絡しますから」と約束してくれた。そして、その日の内に『原産半世紀のカレンダー』を見つけ出して送ってくれたのである。メモが挟まれていたのは47ページで、秘話「鉄のカーテンこじ開け、交流は始める」が記載されていた。それは1973年の土光さんを団長とする訪ソ団の記事で、残念ながら、原子炉開発の情報ではなかった。

ヤルタへのエクスカージョンのバス中で共同開発が話題になった時に、プロヒンチェフ博士は「ロシアには“禿同士の約束は破られない”という諺がある」と笑っていた。そう云えば、彼も土光さんも見事な禿げ頭であった。日ソの間で軽水炉の共同開発が行われたことは間違いない。恐らく1973年末から1975年末までの2年の間であったのであろう。それは東西の冷戦が緩んだデタントのピーク期である。絶対に間違いない。しかし、プロヒンチェフ博士と森さんの証言はあっても、客観的な物証は何もないのである。

森さんとは“涼しくなったら必ず京都で再会し、朝永・湯川先生のお墓参りをしよう”と約束を交わしていた。しかし、それから半年あまり後の2010年2月3日に、森さんは不帰の人となってしまった。京都での再会が実現できなかったことは心残りである。

よく知られているように、森さんは常に真摯に人の意見を聞き、正々堂々と自説を述べて行動した信念の人であった。この度、森さんが遺された文書類を“研究のための客観的な資料”として公開することになった。若い学者達が、将来「日本の原子炉問題の歴史」を研究する際に、この資料が役立つことを願っている。ただし、資料は決して完全なものではない。この公開を期に、散逸している文書が発見されることを期待したい。



資料整理作業に参加して

高田容土夫

生前の森さんとは一面識もなかった私が今回のこの作業に参加した直接のきっかけは、2012年3月に開かれた湯川研同窓会の場で森一久さんの遺された資料を整理・保存作業に参加する呼びかけがあったからでした。

この丁度一年前の同じ同窓会は、3.11東日本大震災の直後に行われ、震災の際の福島県の原子力発電所事故について多くの議論が行われました。その当時、福島での原子力発電事故報道の続く中で、私が不思議に思ったのは、あの事故の前日まで、新聞・テレビと言った報道機関を始め、いわゆる「世論」が「原子力発電の安全性」について一切口をつぐんだことでした。そして、この「原子力発電の安全性・経済的優位性」が「地球温暖化対策」のほとんど唯一の解決策であり、これに疑問を唱えるものは「地球環境の破壊者」であるような雰囲気であったことをすっかり忘れ去ったかのようなことでした。

私にとって、3.11は、第二次世界大戦の終戦を迎えた日本人の大人の多くが感じた「戦争遂行に加担した」後ろめたさ、「戦争反対」を言うことをためらったことへの情けなさを思い出させていました。

そして、自分自身が中学・高校の歴史の授業の中で学び、自分たちはこれを繰り返してはいけないと思っていたのにもかかわらず、その同じ過ちをしてしまったことへの懺悔と悔しさの念で一杯でした。

「原子力発電の絶対優位性宣言」の間違いとインチキさはよくわかっていながら、あの「安全宣言」の大合唱の前で抵抗らしい抵抗もせず、ただ「これはインチキだよ」とつぶやくのみであった自分の不甲斐なさを悔やむ毎日でした。

そんな時、森一久さんの資料整理の話聞いたのでした。森さんが日本の原子力発電の分野で指導的な役割を果たしておられることは聞き知っていました。日本の原子力発電が現在の状態へ進んだ経緯を明らかにすることが出来れば、なにか見えてくるものがあるのではないかということを感じました。これ

が私が「森資料整理作業」に加わった一つの理由です。

もう一つの理由は、資料・情報の保存と公開に関わることです。今からほぼ20年ほど前「戦後日本における原子核物理学の研究」についての史料を調べていました。丁度その時期に第二次世界大戦後の日本への占領軍(GHQ)文書の公開が国立国会図書館で行われ始め、その資料を閲覧し、資料の膨大さと、当時の文書類が、マイクロフィッシュの形で保存され、閲覧に供されたということに興味を覚えました。当時のデータをほぼナマの形で見ることが出来るということには大きな衝撃を受けました。

歴史をどう読むか、歴史から何を学ぶかということの難しさは十分承知してはいますが、これまでは、歴史を学ぶと言っても誰かが歴史データを取捨選択し一定の形にまとめあげたものを読むという形でしか理解してこなかったのが、ナマのデータ(もちろん生と言っても文書化されたり、映像化されたものではあるのですが)に接した時、そこに現れてくる人間像の多様さ、事態の多面性を認識すると共にこれまで整理された形で語られてきたものとは違う「何か」を感じました。それは、歴史を読み解くことの難しさと共に面白さを教えてくれました。そして、このようなことを単なる推測ではなく客観的なデータを元に行うためには、「ナマのデータ」を知ることが出来て初めて可能となると実感しました。情報を可能な限り誰にでも見ることの出来る形で保存することの重要性を知りました。残念なことに、現在の日本では、官民間問わず、情報の秘匿には熱心でも、情報の公開には不熱心という状況にあります。アメリカという国は、いろいろな問題を持った国であるとは思いますが、情報開示の件に関しては見做う必要があると思いました。現在、我が国では、情報の開示どころか、「情報隠し」にとどまらず、「情報消去」がもっぱらに行われるのが通例となっているのですから。また、紙の形で遺されているデータは、これを閲覧・整理する上でも有用なものであることは確かですが、大量のデータを多数の人が閲覧し、これを分類・分析する上では必ずしも扱いやすいものではありません。それ以上に問題なのは、紙資料の劣化の激しさがあります。とりわけ、一時代前まで多く使われていた「青焼きコピー」は非常に早く「消滅」してしまいます。このため、紙データのデジタル化が必要になってきます。先に述べた

GHQ文書はマイクロフィシュの形で提供され、その画質の悪さには辟易したものです。それでもこれを手軽にコピーし、読むことができることは非常にありがたい存在でした。幸いにも、その後の情報技術の進歩は、コピーデータを画像ファイルとして簡単に作ることが出来るようになりました。デジタルデータは複製が簡単でインターネット技術を使えば、同時に多数の人間が情報を共有出来る訳です。このため、森さん宅にある紙データをPDFファイルとしてコピーする作業を私が担当することを提案し、そのデータを複数の作業メンバーの間で共有することになりました。


エネルギー源として「原子力発電」をどう位置づけるかはまだまだ決着の付いていない問題では無いでしょうが、3.11事故の教えるものを明らかにする必要性は、今いっそう高まっています。それは、単に技術的なことではなく、そのような技術的欠陥を生み出した組織、体制（運営、研究、教育、政治、経済）を総体的に分析する必要があると思います。このようなことをするためには、これまで何が、どのように行われてきたかを具体的に分析する必要があり、そのためには過去の情報をできるだけ「生の」形で残しておくこと必要であると考え、そのためには我が国における原子力発電の歴史を明らかにする上で重要な意味を持つ森資料の保存の意味が大きいと考えたことがこのプロジェクトに参加したもうひとつの理由です。

さらに、今回の資料整理を進める中で強く感じたことがあります。それは、森さんの生き方が示す大きな信念と行動力でした。それは、森さんの広島での原爆の被爆体験に強く根ざしたものと考えられる「原子力の平和利用推進・軍事利用阻止」への使命感とも言える強い思いによるものと考えられます。また、これは森さんと同時代の若手研究者の多くが共有していたものであったことも森資料の中で知ることが出来ました。このような「時代精神」とも言えるものを作り出し支えたものがなんであったかを明らかにしたいと考えるようになってきました。

とはいえ、私がこのプロジェクトの中で行ったことは、データを整理するための材料としての「資料のデジタル化」の部分とその機械的な分類だけですが、

森さんの残された大量の文書類は、2000件を超えその処理にはコンピュータの助けが必要となりました。これには、20年ほど前に会津大学短期大学部で「情報処理」教育を担当していた時、学生と共に学んだHTML技術や各種のScript Programming が役に立ち、それ以来の私の持論である「日常的な文書処理には Little Language が最適であり、非専門家の日常業務処理ためのプログラミングという意味での“Casual Programming”の有用性」を実証できたことは望外の収穫でした。また複数のメンバー間で多くのデータを共有するシステムとしてのクラウドという存在もその有用性を学ぶことが出来たことは私にとって新しい体験でした。

今回、森資料が書籍の形で出版されるのですが、このデータができるだけ多くの人々に共有され、我が国の原子力産業のあり方、技術者養成のあり方、教育・研究のあり方について議論する材料とすることが出来ればと考えます。このためには、これまで集めたデータを更に完全なものとし、Web上のDigital Archive Systemとして構築できることを願っています。そのためには微力ながらも力を尽くしたいと考えています。



これからの原子力を考える

井上 信

湯川秀樹先生の弟子であった森一久さんは広島の被爆者であるにもかかわらず、戦後日本で原子力の平和利用が開始される頃から、日本原子力産業会議に関わり原発推進団体の要の役割を演じた人である。東京電力福島第一原子力発電所の事故後に、私の身近にいた何人かの原子力研究者から「森一久さんが生きていたらどう言っただろうか」という声を聞いた。「かずひさ」という正式名ではなく、みんな「いっきゅうさん」と呼んでいた。原子力ムラの中でもまじめな人たちにとっても森一久さんは貴重な存在であったのだろう。

森一久さんの没後、残された資料を湯川研究室の出身者達が整理して何らかの形で公表したいと、作業を開始した。私は湯川研究室出身ではなく、荒勝研究室の流れを汲む原子核物理の実験系の研究室の出身であるが、たまたま文書整理の一端を手伝うことになり、あらためて「森一久さんが生きていたらどう言うだろう」という問題を考えた。

生前は原発について「これまで大きな事故もなく運転して来ている実績を見てほしい」という言い方をしていた森一久さんが、まさか福島の事故後にも同じことを言うとは思えないが、といて自分の人生を否定するようなことも言わないような気がする。晩年には原子力業界の体質の劣化を嘆いていたかのように見えるので、おそらく自らが身を置いた原子力業界の反省の弁とともに、将来への提言をしたのではないだろうか。

これまで物理屋は原子力を理解できる分野の研究者であるにもかかわらず原子力屋から距離を置き、湯川先生が原子力委員を辞任した頃から、核兵器廃絶運動に関わるものはいたが原発問題にはあまり関わらなかった。このことが原子力業界の閉鎖性・ムラ化を進め日本の原子力の正常な発展を妨げた要因の一つかもしれないという反省の思いが、いま物理屋としての私にはある。森一久さんの思いを想像しながらも、しかし自分なりに今後の原子力について考える

日々である。以下に私見を述べて偲びとしたい。(以下敬称省略)

いま考えることの重要性

原子力は、これまで主として兵器および発電に使われてきている。北朝鮮などにおける核兵器開発の動きと東京電力福島第一原子力発電所の事故により、今後の原子力政策がどうあるべきかが、軍事利用の面でもいわゆる平和利用の面でも、これまでにない大きな課題となって来ている。いわゆる原子力の専門家ではないとはいえ、核物理学の研究者として無関心ではられないこの問題を考えてみたい。

核兵器に関しては、広島と長崎における原爆投下による被爆と、ビキニ水爆実験による漁船員の被災を経験した日本人の間では核兵器をなくしたいという気持ちが強い。しかし世界にはいわゆる核大国の他にも核兵器を保有する国もしくは保有したい国々がある。

一方、発電に関しては、日本も平和利用と称して推進してきたが、東京電力福島第一原子力発電所の事故で甚大な被害が生じたことで、今後のあり方が問われている。しかし世界的には特に新興国において今後も原発を建設したいという国もあり、これに応じて日本でも国内の原発の再稼働だけではなく、原発の輸出を図ろうとしている。

今こそ、無定見なその場かぎり対応を重ねるのではなく、長期的な視点でこれからの原子力がどうあるべきかを真摯に考える時である。

利便性と危険性ならびに制御可能性

全ての発明品には利便性と危険性がある。原子力はその二面性が極端に大きなものである。福島の事故を受けて、原子力は人間にはコントロールできないものであり、神ならぬ人類が扱うべきものではないとの主張がなされ、さらには科学一般についても否定するような傾向が見られた。しかし人類は道具を使うことで他の生き物とは異なる文明を発展させたわけで、科学や技術を否定することと人類の存在とは相容れない。

原子炉の場合、一個の中性子がウランに衝突するとき、必ず核分裂反応が起こるわけではなく、起こる確率(いわゆる反応の断面積)が決まっていて、そ

の確率を人間が変えることはできない。この意味では、人間は自然をコントロールできない。しかし、原子炉の中にある中性子の数は制御棒で制御できるので、原子炉内で起こる核分裂の数を制御することはできる。つまり制御棒が正常に動作する限り、原子炉の出力を制御することや運転を停止することはできるのである。それゆえ自動車などと同様に、原子力も人間がコントロールできるところとできないところがある。

基本課題

人類が数十年にわたって核兵器を保有し原発を使用してきた今となつては、無かった状態には戻せない。現在の状況下での原子力の利用に関する基本課題は次の3点であると私は考える。

1. 大量破壊兵器である核兵器は廃絶すべきである。
2. 事故のリスクが大きい現在の原発は廃止すべきである。
3. 安全原子力システムと使用済燃料処分技術の基礎研究を行うべきである。

核兵器の問題

原子力は近代国家体制における大国の必要基盤として登場した。近代国家は国境を定め国民を定義する。そして富国強兵を国是とする。富国を担うのが原発で強兵を担うのが核兵器である。原子力の最初の実用化は原爆であった。その後、米国はソ連との大国競争を進めるにあたり、米国への支持を集め、反核運動を沈静化するために、アイゼンハワー大統領が国連演説(Atoms for Peace)を行い、米国の統制下での原子力平和利用の技術供与を表明した。CIAは日本において読売新聞社の正力松太郎を通じて、大々的な原子力平和利用のキャンペーンを行った。最近公表された米国側の文書によると、当時米国では、この作戦は成功し日本人の反核感情は収まったと評価されていたようである。水爆実験による第五福竜丸以外の多くの漁船員の被曝実態が封印されたことも明らかになっている。

日本が原子力の平和利用に進んだのは、このような米国側の動機だけではなく、日本の政治家たちの側にも、核兵器開発が可能な原子力技術を確認したいという隠れた動機があったからだと思われる。こうした話は日本だけではなく

原子力反対の国と思われているドイツでも、近年ミュンヘンに高濃縮燃料を使う新しい研究用原子炉が建設できた裏には、研究者たちが保守的な地元の政治家に「高濃縮燃料を取り扱える技術を持つことは国防上重要である」と囁いた結果予算が獲得できたからだといわれている。

なお、当初から高速増殖炉を建設する路線を採用したことも、ウランがない

日本で資源を有効に使うという平和目的の理由だけではなく、使用済燃料の再処理能力とプルトニウム生産能力を持つことが核兵器保有能力につながるという政治家の思惑と結びついてきたためだと思われる。早期に再処理路線を採用していたために、後の核不拡散の議論の際に、核大国以外で日本は唯一の例外国として再処理が認められた。近代国家体制にあつて、これが持つ意味も重要である。

第二次大戦後、ヨーロッパでは永年の宿敵であったドイツとフランスが和解し、ヨーロッパ連合(EU)へと進化している。しかし、世界的にみれば、各国は依然として近代国家の枠組みで動いている。近代国家が国是とする富国強兵は、強い国と弱い国、富める国と貧しい国という格差がないと原理的に成り立たない概念である。湯川秀樹はこの現実を顧みて世界連邦を目指す運動を始めた。しかし、湯川の提案はおそらく100年早かった。特に中国などのいわゆる新興国といわれる国々は近代国家としての大国を目指して、まさしく富国強兵路線を突き進んでいる。アメリカもロシアも卒業できていない。平和憲法を持つ日本も世界のこうした現状の中で揺れている。しかし、絶望しないで核兵器廃絶への歩みを少しでも進める努力をすべきである。

原発廃止の問題

原発導入に当たって、東京電力にとっての不幸は、地震が少ない米国東部向けに設計されていたGEの沸騰水型軽水炉を、地震国である日本に設置することに対する配慮が全くなされないままに導入したことである。1960年日本原子力産業会議は事故の規模を試算し、事故時の賠償が国家予算に匹敵するほど膨大になるとの試算を得ていた。電力側は原発の導入を躊躇したが、政府がある程度以上の大事故については国が賠償責任を持つということを決めて、政治主導で建設が進められた。現時点の技術でも実現可能な世界最高水準の安全基準

を求めた場合、日本に現在ある原発は全て基準を満たせないであろう。誰が言い始めたのか、日本の原子力規制委員会の基準が世界で最も厳しいなどとまことしやかな説を振りまいて、再稼働を進めるのは危険である。再び今回の福島
の事故と同様な事故が発生するリスクは高い。

原発を今後も利用するのであれば、本来は、現在の軽水炉よりもっと原理的に安全な新しい原子炉を開発してから、利用すべきである。それが待てないのであれば、せめて現在の原発は全て廃止して、暫定的に、長期の全電源喪失に耐える最新式の軽水炉に置き換えるべきであろう。既存の原発の再稼働か反原発だけの選択は危険である。

現在の世論調査の結果では、2030年代に原発を廃止するという意見が多いものの、ある程度の原発は必要との意見もあるのが現実である。そこで、現実的対応としては、安全基準を満たしつつ比較的新しい少数の原発の再稼働を認めるとしても、なるべく再稼働よりは最新式のものに置き換えることを進め、現在の世論分布を参考にして2030年に10基程度が稼働している状態をめざす。その上で、その時点の世論動向を考慮して、その後の選択をするといった方針が考えられる。

安全原子力システムと使用済燃料処分の基礎研究

今後の方針としては、より革新的な安全原子力システムの基礎研究をすべきである。世界的には、高温ガス炉、トリウム溶融塩炉、加速器駆動未臨界炉、小型のカプセル型炉など、次世代炉としていくつかの方式が提案されており、開発研究がなされてもいる。これらの研究を続けることは科学者・技術者として当然行うべきことではないかと考える。自主、民主、公開の原則の下で行われるその研究成果を見た上で、電力源として原発を採用するかしないかは、市民が判断するという手順で行うべきである。

安全原子力システムの研究に不可欠なのは使用済燃料の処分方法の研究である。40年にわたる原発利用の結果、今後原発を利用しないとしても、かなりの使用済燃料が既に蓄積されている。直接処分が経済的であるとされるが、人類の歴史と同じ程度の長期間にわたって安全に埋設することが可能であるとは思われない。学会会議はより良い方法が開発されたらそれを利用できるように、

取り出し可能な形で地下に貯蔵すべきであると提言している。これは今の段階で現実的な案であると思われる。その上で、よりよい処分方法についての基礎研究を早急に開始すべきである。

長寿命の放射性物質の原子核を変換して短寿命化できれば何万年も先まで心配しなくてよくなる。埋設する場合の敷地面積も少なくできる。このため、核変換の経済性の点から高速中性子炉を利用する案や、安全性の点から加速器駆動システム(ADS)を利用する案が提案されている。ADSはヨーロッパや中国では研究が進んでいるが、日本では長らく研究が軽視され、京都大学原子炉実験所で小規模な研究が始まっているとはいえ、肝心の日本最大の研究機関である日本原子力研究開発機構(JAEA)では「もんじゅ」優先のためか、これまで後回しになっていた。福島事故後ようやくJAEAでも少しADSの研究費が認められるようになった。今後の研究の発展に期待したい。

一方、今後も原子力を利用するのであれば、ウランではなく原料としてトリウムを利用することを考えるべきである。トリウムを利用する燃料サイクルは使用済燃料中に長寿命の放射性物質が生成されにくいので、使用済燃料処分が容易になる。またトリウムサイクルでは核分裂性のウラン233を得る過程でウラン232が生じこの崩壊過程で強いガンマ線を出す物質が伴うので取り扱いにくく、また使用済燃料中にプルトニウムができにくい。これらの理由で核兵器製造には向かない燃料サイクルであるという利点もある。トリウムの多いインドでは将来的にはトリウムサイクルを採用すべく段階的に開発を進めている。欧米でもブルックヘブンの高橋博が提唱しノーベル賞受賞者であるルビアが推進しているトリウムサイクルによる加速器駆動未臨界炉の研究が進んでいる。日本には特にトリウムが多いわけではないが、世界的に偏在していないトリウムは資源確保面でもウランより有利であろう。トリウム溶融塩炉の試運転はかつて原子炉開発の初期に成功しているとはいえ、実用化には、まだ多くの解決すべき技術的課題があると考えられるので、基礎研究を着実に進めていくべきである。

なお、トリウムサイクルの、特に溶融塩炉については古川和男が亡くなるまで主張し続けたが、原子力ムラでは異端視されていた。しかし、当初から原子力政策の中心にいた伊原義徳は、最近出版されたオーラルヒストリー「日本原

子力政策史」のなかで、トリウムサイクルは研究を促進すべきものとして正当に評価している。

単なるゴミ処理事業ではなく、こうした基礎研究は目的が重要であるだけでなく、それ自身学術的にも多くの課題解決を伴うものであるから、研究者にとっても魅力あるものとなる。基礎研究は、国益を越えて国際協力が可能なものであり、人類史的にも意義あると考える。

また、そのような重要で魅力ある研究に取り組むことは今後の原子力関係の人材育成にとっても有益である。人材の育成は重要である。これまでの失態の責任がある政治家、行政、電力会社、学者、マスメディアを非難するのはよいが、現場の原子力の研究者や技術者をバッシングすることにより、若い人材がいなくなる事態はさけるべきである。

現実対応ばかりでは道を誤る。理想を掲げるだけでは現実が打開できぬ。理想を掲げることで、多少の回り道をして引き返せないような道に陥ることだけは避け、現実に対処して少しずつ進めていくことが肝心である。その道はおそらく一つではない。多くの人々の考え方に耳を傾けながら、自主、民主、公開の原則にたって今後の原子力の道を探ることが今こそ求められている。

(2014年10月21日記)



森一久氏 UCN会時代

回想Ⅱ



森一久氏の思い出



森一久君の思い出

—広島高校時代から—

石田 望

1. 出会い

昭和17(1942年)年 4月、私たちは広島高等学校へ入学した。理甲 3 組である。

広高では何故か席順がアイウエオ順に右後ろの最後尾から並んでいる。理 3 組では天野、阿波、石田……、第 2 列の右から岡、岡田、沖、越智、落合、その次にどうしたことが森がいたのである。

理由は、森が補欠入学で、入学を辞退した木村とかいう人の代わりに入学したというわけであった。何とも無神経なことで、今の学校ではこんなことが行われるとは思えないが、森君は一年間こんな状態を余儀なくされた。ちなみに私は浪一で19歳、森君は 4 修の上に早生まれなので16歳になったばかりであった。このクラスには 4 修組が結構いた。

当時は必ず何かの部活動をすることが義務付けられおり、私は陸上競技部に属していたが、森君は卓球部であったと記憶している。

理 3 にはもう一人松本静夫君がいて、天野、松本の両君とはその後長い付き合いとなる。

2. 大学進学

昭和17年入学の我々は20年 3 月卒業の筈であったが、戦争遂行のため早く人材が必要と、入学間もなく卒業年数の半年短縮が決定され、卒業は19年 9 月末に変更された。その上大学入試も廃止され、進学希望大学の学科を申告し、志望者が定員以内ならそのまま進学できた。オーバーした場合は在学中の成績によって判定され、アブレタ者はまだ一度志望校を申請することになり浪人は許されなかった。

私は 2 次で九州の数学科に入った。別に数学が好きでも良くできたわけでもなかったが、この選択は後々大変有利に働いた。森君は多分兄さんが東京の物

理に進学していた関係で、京都の物理を選び、1次で入学していたのだろう。

こうした私と森君は福岡と京都に住むことになった。当時広島は非常に食糧難であった。海外へ出征する軍人が広島の宇品から出発し、彼らに最後の食事を提供するために我々の食う分がなくなったと言われていた。ところが福岡は別天地で、学生食堂には白米があった。それに比べて京都や東京の食糧難は深刻だった。

九大には同じクラスから岡君や舟橋君が農学部に進学していた。京都の物理には先浜君が進学していて、森君と一緒にいた。

森君と原爆(これは後から聞いた話)

ピカの日、彼の家には両親と長兄夫婦とその子供、それに森君と6人がいた。彼一人が二階に、他は一階にいたようだ。家が壊れ、一階の5人は圧死したようだが、二階の彼は天井に押されてはいたが一命を取り留めていた。見ると上の方に光が見える、体を動かすと運良くスポット抜け出すことが出来た。やっと屋根裏まで行き、中から板を外して首を出してみると、周りは火の海、彼の家は川沿いだったので、川の水に首まで浸かって日の静まるのを待ち、歩き始めた方向が良かった。爆心地と逆に海田市方向に歩き北上して島根県を目指した。山陰道を東上9月半ばに神戸の次兄の家に辿り着きやっと生き延びることが出来た。次兄は武長関係の薬屋に養子に出ていて、そのついで当時としては最高の薬を与えられ3ヶ月の伏臥の末ようやく起き上がることが出来たという。京都の物理へ復学して湯川博士に師事したということである。

3.就職—東京生活の始まり

私は卒業と共に文部省統計数理研究所の助手に採用された。九大の私の指導教官北川敏雄先生が統計数理研究所を兼務していたのでその助手になったのである。その頃、統数研の増山元三郎、北川敏雄の両先生が「推計学」と称して、時代の寵児になっていて私はそのお先棒を担いだのである。

森君は卒業と共に中央公論社の雑誌「自然」の編集部において「統計」関係の取材をする機会があり私を思い出していたようだ。

私は昭和22年の大学卒業と同時に結婚して東京幡ヶ谷の莊厳寺出入りの石屋

さんの二階に間借りしていた。その石屋さんの世話で、莊厳寺が再建資金の調達のために売り出した土地を母の援助で手に入れ、住宅金融公庫に応募して家を建てることになった。さて新しい家を手に入れることになったのだが、毎月の返済金のめどがつかない。そこで思いついたのが「森君を下宿人にする」ことであった。早速森君に話を持ちかけると、彼も簡単に応じてくれ、昭和26年新居の落成と同時に彼が我が家の下宿人となったのである。

我が家の下宿人としての彼は大変親切で、当時2歳と0歳の二人の息子の入浴は彼が担当したと家内が振り返っている。

私たちの結婚が早く、同級生で既婚者はいなかったため、我が家はたまり場となり、今様梁山泊という具合であった。まず常連は天野君である。彼は森君とは丁度良い碁敵で、来るとたちまち碁が始まった。上京する級友は皆我が家に泊まった。

森君が何年くらい我が家に居たかは定かでないが、その頃は中央公論の組合で書記長を務め、差別撤廃を主張していると話していた。後に私が組合運動に没頭するようになったのは彼に一部の責任があるなどと話していた。

大分後のことになるが、彼の紹介で原子力関係の大塚益比古が我が家の下宿人となり、家内が兄嫁の妹を紹介して結婚したなどと話は続く。大塚君は戦後阪大の物理に進み、ここで伏見康治氏に師事した。

松本静夫君もこの頃よく我が家にきていて、鹿島系の会社にいたのを森君が電源開発の原子力部門に就職させ、その後を大塚君に継がせるなど、考えて見れば色々なことがあった。

4.最後の10年位の話

10年前に松本君が他界したが、その後は私と森君が中心となって、昭和17年入学理3の会を開いた。場所は森君の顔で日比谷のプレスセンターを使い、広島から小林、酒井が出てくるのに合わせて開いたものだ。メンバーとしては東京の天野、石田、石光、上田、瀧口、西中、松山、三谷、森、関西の先浜、松本、それに広島の小林、酒井でフルメンバーであったが、出席は何時も多くて6、7名というところであった。

話は変わるが、私のメルマガが2004年の開始以来続いているのを見て、森君もUCN会のホームページを作りたくなり、私が相談を受けて知り合いの専門家を紹介したことがあった。このHPも彼の没後閉鎖されてしまった。

私のメルマガについては、森君が「石田は昔は本も読まず、さっぱり勉強しない奴だった、この頃人が変わったようだ。よく勉強している。」と話していたと大塚君から聞いたことを思い出す(大塚君もこの5月に他界した)。

5. むすび

思い出すままに森君の思い出を綴ったが、思えば長い付き合いであった。数年前、私が前立腺癌だと分かった時、彼がその病気の先輩としていろいろ助言してくれたことを思い出す。私は放射線治療で前立腺癌は奇跡的に完治し、今は結腸癌の治療を受けている状態だ。私の場合老齢のため手術が出来ぬと言われ、抗癌剤の投与だけで余り進行もせず、何とか通常の生活をしている。森君は十分の注意を払いながらやはり前立腺癌の転移によって終末を迎えたようで、何とも複雑な思いである。

(2014年11月20日記)

森さん その存在に感動する

藤原章生

すべては偶然、いやすべては偶然でないのかもしれない。

私が森一久さんと出会ったのは今から8年前、2007年1月17日だった。森さんはその3年後に亡くなるので、最晩年のことだ。後に知ったのだが、その日は森さんの81歳の誕生日だった。

私は1989年に新聞記者になり、1995年以降は主に海外特派員を続け、そのころは、新聞にしては長めの特集記事を書いていた。風俗、文化、外交など時に応じ、集中的に取材をして、月に4本ほど400字詰め原稿用紙で5枚ほどの読み物を一気に書くという仕事だった。上司から「今度、湯川秀樹の生誕100年なんで、長いもの一本書いてや」と言われた私は、著作を読みあさり、湯川氏の人間性を語るエピソードを探った。人間性は、その偉業よりも、転機やちょっとしたトラブルに表れる。私は湯川氏の静かな理性的な文体、やや厭世的にも見える視点に引き込まれながらも、一点、1956年1月の原子力委員就任前後に話を絞ることにした。

原子力は門外漢だったので、叔父の秋山守・東大原子力工学科名誉教授に當時を知る人を紹介してほしいとたずねたら、真っ先に森さんの名を挙げた。実はそれ以前に何人か話を聞いていたのだが、いまひとつ面白みに欠け、引き込まれるものがなかった。

私は年に100人、多いときは300人ほどの人と対話をする。インタビューという形が主だが、大方は一期一会で、その時だけの出会いで終わる。そんな中、とても印象に残る人がいる。対話の内容や時間の長短、その人の地位、有名無名などはまったく関係がない。その人の「存在感」、科学的に何を意味するのか説明しがたいが、その姿のようなものがいつまでも残る人がいる。

森さんはそんな人だった。

そういう人と会った時は、不思議とその前後のことを細部までよく覚えてお

り、私は高揚した気分で、森さんの事務所がある東京・新橋の塩釜神社前から烏森口、JRの通路から地下の銀座線へと、駆け足で向かったのをよく覚えている。

会ってすぐに意気投合した。森さんより三周りも下の私が言うのは失礼だが、わずか 1 時間ほど、湯川さんが原子力委員を「辞めたい」と言い出した時の模様を聞いただけだったが、私は心を動かされた。

話している内容や森さんの姿、落ち着いていながらも、実に若々しく豊かな表情、頭脳明晰な人らしい理路的でありながら気さくで飾らない語り口もあつただろう。だが、それだけではない。私は森さんという存在に感動したのだ。

仕事はそこまでだったが、ほどなく森さんから連絡をもらい、以後、私たちは月に一度ほどのペースで会うようになった。森さんが晩年まで抱えていた謎、湯川博士が広島への原爆投下を事前に知っていたのか——を追うのが目的だったが、そのことばかりではなかった。「下山事件」に関する本を私に見せ、「これについてもっと調べてみる気はありませんか。この謎を探れば、日本の戦後がより明らかになると思うんです」と持ちかけてくれることもあった。広島原爆についての映画や被団協について厳しい批評をさりげなく語ることもあった。だが、日々の雑事、手近な仕事に追われていた私は、森さんから連絡を頂いても、会えないこともあり、あれよあれよという間に別れの日が来た。

私は森さんと親しくしていながら、原子力界での森さんの位置や業績をその時はよく知らず、原子力について詳しく聞くこともなかった。今からも思えば本当に残念なことだ。

2008年 3 月、森さんとの別れたとき、不思議なことがあった。その場面は、私が2014年 9 月から10月にかけて毎日新聞に連載した森さんの評伝「原子の森深く」の冒頭の部分を若干変えたものをここに転載する。〈何度目だろう。すでに10回は会っていたはずだ。私は森一久さんと東京・日比谷の帝国ホテルで待ち合わせた。

正面玄関からロビーに入ると、黒の中折れ帽に棒タイ姿の森さんがロビー脇の椅子からすっと腰を上げ、笑顔を見せた。昭和元年生まれで私の亡父より 3 つ上だが、背筋がすっと伸びている。ふさふさとした白髪で、唇の上にはうっすらと白いひげを蓄え、ダンディーという言葉が似合う人だ。筋骨のしっかりし

た体育会系ではない。やせ型の学者風。旧制高校出身の教養人で、とても上品な人だ。

「すみません。お待ちになりましたか」「いやあ、僕も今、来たところです。

あなたもいろいろ準備に忙しくて、大変でしょう」

私はその春、ローマに転勤することになっており、森さんはそれを気遣ってくれた。「水田さんは?」「いや、それがね」

その日、帝国ホテルで待ち合わせたのは、森さんの広島一中(現広島高校)の同窓生、水田泰次さんに会うためだった。水田さんは持病の検査のため、北陸から上京しており、その常宿を訪ねたのだ。「放射線の治療も受けたようなんですが、体調が思わしくなくてね」

森さんはレセプションから、水田さんの部屋に電話を入れた。しばらく話した後、「いや、どうも相当悪いみたいで」と私に受話器を渡した。水田さんの声が聞こえてきた。「ああ、藤原さんか。どうもきつくていかんわ。挨拶にも降りれんわ。すまんなあ。調査の方か? ずいぶん調べてもらったんやけどな、何も出てこんらしいんよ。悪かったなあ」

森さんと私は湯川秀樹博士にまつわる謎を調べていた。その謎を解く鍵を水田さんが握っていたが、物的証拠は出てこなかった。森さんの横顔がひどく寂しそうに見えた。

「お茶でもどうですか」「そうですね、ちょっと話しましょうか」

私たちはロビー脇の喫茶室に向かった。夕刻のせいか、テーブルは年代のさまざまな女性客でにぎわっていた。

帝国ホテルの喫茶室は天井が高く、フロアがロビーにつながっているせいか、ゆったりとした印象を与える。そこで向かい合っていると、左隣に30台半ばといった感じの勤め人風の女性が2人、右隣には60年配の女性2人がおしゃべりに興じていた。ホテルで何か会合があったのか、いずれもちよっと上品な装いをしている。

「あなたは、何にしますか」「ああ、僕はケーキセットを」「あ、ケーキですか、じゃあ、僕もそれをもらおうかな」

ほどなくウェイトレスが森さんの前にモンブランを、私の前にショートケーキを置いた。小さなフォークを使い、2人で黙ってつついていると、左隣の女

性 2 人が「まあ」といった風に顔を見合わせた。

「湯川さんの謎、なかなか解けませんね」「ええ、長いこと、忙しいあなたを巻き込んでしまって、悪い事をしました」「そんなことありませんよ。まだ、これから証拠が見つかるかもしれないじゃないですか」「なんとか、突き止めたんですがね」「ええ、きっと見つかりますよ」

森さんは紅茶をすすると、やや前かがみになり、こう聞いてきた。

「ところで、イタリアは何年くらいになりますか。3、4年ですか」「2、3年でしょうか」「そんなに短いことはないでしょう」

右隣の女性のしゃべり声に一瞬気をとられた時、「うっ」といううめき声が聞こえた。見ると、森さんが片手で鼻から下を抑え、嗚咽を漏らしている。声は出さないが、こみ上げてくるものを必死に抑えていた。普段からあまり血色のよくない森さんの顔に微かに赤みが差し、涙があふれている。

両隣の女性たちはおしゃべりをやめ、あらぬ方を見ながら、私たちの様子うかがっている。

「いや、失敬……。何だろうねえ、これは、こんなことは初めてで……。いや、みっともないところを見せてしまいました……」

手で涙を拭くと、森さんは我に返ったようにはにかんで見せたが、再び「うっ」というとまた片手で顔を覆い、しゃくりあげながら、こう漏らした。

「やあ、お袋がねえ……。お袋が、見つからないんですよ……。いくら探しても……。見つからないんですよ」

私は黙るしかなかった。両隣の席の女性たちと同じように黙り込み、森さんの姿をただ見ている。

「いや、失礼。あなたに、無様な姿を見せちゃいまして」

ようやく気を取り直した森さんはハンカチで涙をふくと、「いや、すみませんでした。じゃあ、そろそろ行きますか」と言い、さっと席を立った。自分の父親の世代の、理性を絵に描いたような人に泣かれた私は半ば呆然としていた。森さんの感情が私に乗り移ったような気分だった。

「じゃあ、ここで。イタリアでも頑張ってください。活躍を、楽しみにしていますよ」

私たちはロビーで別れた。正面玄関を出て振り返ると、中折れ帽をかぶった

森さんのシルエットがあった。昭和の紳士という風情の森さんを見たのは、それが最後だった。〉

その2年後の2010年3月、私はローマの自宅のベランダでこの時のことをはっと思いだした。そして、それまで何度も繰り返してきた問いが再び表れた。「森さんは、あの時、なぜ泣いたのか」。ほどなく、森さんの訃報が届いた。偶然と言えば偶然だ。

その2年後の12年春、帰国した私はすぐに森禮子夫人に電話し、神奈川県藤沢市のご自宅を訪ねた。森さんとの別れを話すと、禮子さんは驚いていた。「森が人前で涙を流すなんて、まずありませんでした。あの人は深い悲しみから始まっていて、本当にいろんな顔を持った人、私自身にも捕捉しがたい人でした」

話を重ねる中で禮子さんから助言があり、私は森さんのことを詳しく調べ、彼という人間、彼の人生を書いてみたいと思った。

日記からエッセー、論考まで、森さんが書いたことを読み込むことで、私は森さんの文体、語り口をつかみ、1950年代に匿名で書いている記事も、森さんの文章だと見抜けるまでになった。そして、森さんが、将来誰かがきつと読むだろうと思い、日記をつづっていたことも次第にわかってきた。それを読む者に、私を理解せよ。私の中に入り込めと言っているようにも感じた。

ジャーナリストから原子力界に転じ、たった一人で原子力の世界を動かそう、いい方向へと向かわせようと「工作員」、禮子さんに言わせれば「忍者」のように生きた森さん。

原子力界に入って早々の落胆から晩年の挫折、悔恨まで。森一久という人物を私はただ知りたいと思った。そこに「戦後日本の……」といった意味を見いだそうとは思わない。ただ、森さんという人が存在し、生きた。それだけでいい。それを書きたいと純粋に思った。

そう思わせたのは、会ったその日から、そして今も私の目の前にいる森さんの姿、帝国ホテルでの嗚咽だった。

原産時代の森一久氏

木室美生

森一久氏の思い出と書いたものの、森一久氏という表現はとても遠く感じます。私にとっては、常に、森事務局長から始まり、森専務、森副会長と日本原子力産業会議の役職と一体化したお名前でしかいまだにお呼びすることができません。それは、一原産会議職員としての接点しかなかったからです。しかし、短い間ですが、秘書として事務局内でも、比較的近くで仕事することができたことは、何ものにも代え難い経験でした。

森氏との思い出を綴るに当たり、頂いたお言葉をキーワードに進めたいと思います。

「これは、ひどい」

これは、原産会議に入るための面接でのお言葉です。

面接では、森事務局長(当時)を始め事務局次長、人事関係のかたなど数名の方が目の前におられました。どなたか忘れましたが、「試験はどうでしたか?」とお尋ねに、正直に「英語が難しかったです。」と答えたところ、それまで黙っておられた森氏が私の試験解答用紙を見て、「これは、ひどい」と。

その試験問題は、日経新聞の経済面の一部を英語にするようにというものでした。私は、英語専攻でしたが、当時、就職に有利ということで英語を専攻しただけで、まじめに勉強していませんでした。回答は、殆ど無茶苦茶状態。しかもその頃、日経新聞を読んだこともない身にとって、経済用語すら理解出来ていないという有様でした。

なのに、蓋を開けてみたら、どういう訳か採用して頂くことができました。

入ってから、森氏が英語を大変重要視されていることを身にしみて感じるようになります。

1976年当時、海外の原子力情報は、現在のように簡単に入手できるものでは

ありません。ましてや、海外情報を日本語で紹介する資料は、入手できたとしてもとても遅いか、殆ど入手できない状況でした。

森氏は、常にグローバルに将来を見据えた仕事をなさる方でした。米国で発行されている原子力情報紙「Nucleonics Week」が世界的に信頼されていることから、毎週、職員が読む会を設け、重要な情報交換の場とされていました。

原子力用語満載の同紙を読むのは、私には苦痛以外の何物でもありませんでしたが、仕事のためと、毎週出席し、順番で回ってくる当番記事をつたない日本語（日本語にもなっていない）にしておりました。

さりながら、毎週参加し続け先輩方の翻訳を聞いて、世界ではこういうことになっているのかということを知ることができました。

その「Nucleonics Week」を原産会議で日本語版を制作して、世界の原子力情報を国内で発行することとなりました。これは、森氏が同紙の女性編集長（当時）マーガレット・ライアン氏との信頼関係がなければ実現できなかったことで、原産協会となった現在も重要な事業として継続されています。

英語が苦手な森氏から「これは、ひどい」と言われた私が数年にわたり、この事業を担当することになり、その経験が自分にとって海外動向を理解する素地になり、現在の業務に役立っているというのも、今となっては、全て森氏のお導きあってのものと思っています。

「自分が偉くなったと勘違いしてはいけません」

この言葉は、私が森氏の秘書を拝命したときに、最初に言うておくことがある、と頂いたものです。

森氏は、それまで気づいていませんでしたが、政界、財界、官界の方々と日常的に情報交換をし、交渉をし、会合をしておられました。従って、そういう方々から直接、お電話がかかってくる、会合の手配をしたり、伝言を受けたり、秘書としては当たり前のことですが、日常的に行わなければなりません。そこで、森氏としては、自分がそういう人たちと同じレベルに居るものと勘違いしてはいけませんよ、とおっしゃったのです。この言葉は、今も大切に思い出します。

仕事でも、プライベートでも「やった!」と思ったときに、それは自分の実

力なのか、周囲の人たちのおかげがあったからなのか、そういうことを良く考
えるようにしなければ、と気づかされます。そして、森氏もそのように肝に銘
じてこられたのではないのでしょうか？ 常に偉そうな態度をされることなく、
細かな気配りをされていました。

原産会議に入ってまだ間もない頃に、研修としてスイスで開かれた原子力国
際展示会に出して下さったことがあります。途中、経由地のパリで一人ぼっ
ちで心細い思いをさせてはいけないと考えられたのでしょう。パリ駐在の特派
員の方に事前に連絡して下さったおかげで、本当に美味しい生牡蠣や貝類の
盛り合わせをご馳走になり、モンマルトルを案内してもらい、幸せなひととき
を過ごすことができました。この時のことは人生でも忘れられない思い出で
す。帰国してお礼を申し上げても、照れたように笑って、「それは良かった」
との一言だけ、本当にシャイな方でした。

その他、森氏との思い出としてあるのは、仕事に絡むことばかりです。例え
ば、原産会議に入って間もない頃、日米再処理交渉という難題に際して設置さ
れた「原子力国際問題等懇談会」の事務局を、森氏を中心として原産会議が務
めることとなりました。私も、担当者の末席として、座長の土光敏夫氏(当時
経団連会長)の議事進行メモを清書したり(当時はワープロがないので)、毎
月開催される会合の受付を担当していました。それこそ関係者全員が、日本の
命運を分かち大切な会合として緊張している中、トンチンカンな対応をしがち
な私に苛立たれていたと思います。時には、事務局担当の上司から突然叱られ
て立ち往生する私に、慌てないようにわかりやすくどうしたら良いのかを教え
て下さいました。このように私がこの大切な会合で、なんとか仕事できた
したら、森氏に負うところが大きかったです。

甘い物には目がない

最後に付録として、とても可愛い一面について紹介しましょう。

仕事やご自分には非常に厳しい森氏でしたが、お酒は一滴も飲めない代わり
に、実は甘い物大好きな一面がありました。殆ど毎日お昼は会合続きでした
が、ある日何もご予定がない日がありました。「何かお昼をご用意しますか？」

とお尋ねしましたら、無言のまま、お出かけになり、なんとその手には、マックシェークが。「これが食べたかったんだ。」と言いながら、お部屋へすっと入って行かれました。

また、原産会議の会長を10数年にわたり務めて頂いた有澤廣巳氏がご自宅近くの阿佐ヶ谷「うさぎや」のどら焼きを持参されると、ことのほか喜んで召し上がっておられました。そういう時の笑顔が忘れることができません。

原子力利用を通じて、日本の繁栄に貢献しようとされる強い思いと人間的な面の両方を近くで知ることができた事は、とても有り難いことです。

これからも森氏に頂いたお言葉を大切にしながら生きたいと思います。

師

津田敦子

久しぶりに新橋駅に降り、以前通いなれた道を歩いた。駅前のSLを左に見て真っすぐ柳通りを進むと、あの頃はなかった大きな通りにつきあたる。大きな通りといっても地下を築地虎ノ門トンネルといって自動車専用道路があるため、地上の新虎通りは交通量が少なく歩きやすい。早くからこの通りが計画されている事を森さんに教えて頂いていた。この界隈に60年近く通われていただけあって情報が早かった。森さんにとって、もう一つの地元のようなものだったのでしょう。駅までの道はよくお伴をして、森さんのお気に入りの果物屋さんはまだ残っていた。この道を歩くと、今も、前を森さんが歩いているような錯覚を起こしてしまう。横道に入ったところの、鼻肩だった鰻屋さんはまだ残っているのかしら、あの頃、「ずっと通って気に入っていた店が次々と閉まっちゃって、行く店が少なくなったよ」と残念そうだった。森さんは美食家でしたが、こだわりをお持ちで、味は一流でもリーズナブルなお店をよくご存じだった。関西でお育ちになったからでしょう、その辺は決して外見や流行りではなく、実を取るお考えでした。私もすっかり、美味しくても安くなくちゃねと言ってしまう。新橋の街も新しい通りと一緒に、今風のお店へと変わっていくようだ。

平成16年、森さんが原産の特別顧問になられた時、新橋5丁目のオフィスに移られた。その時の募集で森さんの下で働くことになりました。原子力の事など解らない全くの素人だったので、例えると、森さんがとても偉いお坊さんで、私は庭を掃く小坊主といったところでした。そしてそのオフィスへ、他に伊原義徳さん、遠藤哲也さん、浜崎一成さんを誘って会を開き、その会をUCN会と名付けたのです。その後、メンバーとして原禮之助さんが秘書の方と入れ、同じフロアに森さんが常務理事をされていた(財)温水養魚開発協会の方々も越してこられ、賑やかなオフィスとなりました。

UCN会で森さんは何をされたかったのか。その事をお聞きした事はありませんでしたから、私の想像になりますが、森さんが若き頃携われた「電力経済研究所」と同じように、組織存続のための事業企画などは取って行わず、常に地道な情報の分析を、メンバーそれぞれが出来ればよいと考えていらしたのではないのでしょうか。「よろず憂い人の集まり」とも名付けていました。形ではなく実を取る集まりに。ただ、原子力についてはインタビューを受けても、論文は書かれなかった。「私が書くことで色々な人に迷惑がかかるといけないので」とおっしゃって、その時は何か思いの深さを感じました。けれど原子力の現状については勉強会を開き、一線で活躍されている方に講師となって頂き、常に新しい情報に触れご自身の見解をお話になっていたと思われれます。

森さんは、色々な方面に精通されていましたので、同時進行で案件を抱えていらっしゃるって、来客も様々で、今日のお客様はどちらの関係かしら？この方との関係は？と、頭の中が整理できず毎日ジグソーパズルをしているようでした。原産の代々の秘書のひとも、お互い忙しくてメモでやり取りするだけの時もあったとか。森さんから依頼される仕事は、他のメンバーの方とは違いなかなか難しいものがありました。けれどルーティーンの作業とは違って、やりがいがあって、達成感もありました。女性に仕事への意欲を持たせて下さる方でした。ですから、女性の部下に人気があって、森さんのお誕生日に何度か、原産の職員の、元国際協力センターのセンター長で、森さんの片腕だった三石治子さん、元秘書の木室美生さん、佐々木恵さん、桐原正美さん、木藤啓子さん、(財)温水養魚開発協会の松下充さん、他に原さんの代々の秘書の河智伸子さん、井澤佳代子さん、荒川智美さんらもお誘いして、UCN会のオフィスでランチをご一緒しました。その日の来客の方に、これから私の誕生日を祝ってくれるそうでと、ちょっと自慢げに笑っていらしたお顔がとても懐かしい。ランチの会には欠席でしたが、原産の会長、理事長の秘書の白坂一美さん、森さんが力を入れていた、ニュークレオニクスウィークの担当だった福本多喜子さんには私もお世話になりました。森さんは仕事に対して真っすぐで、清廉潔白の頑として動かない堅いイメージもありましたが、反面気遣いがあって、柔軟なお考えの持ち主であったと思います。その両面がさまざまな人間を動かす力となったのでしょう。そしてたくさんの人脈を作られた。

森さんのお伴で、公益財団法人第五福竜丸平和協会の勉強会での事、待ち合わせは展示館のそばの文化館だったので、少し早めに出て展示館によってみた。江東区の夢の島にあるその建物は縦横40メートル、15メートルの大きなもので、中に入って第五福竜丸の大きさに圧倒された。遠洋漁業の漁船の大きさだ。被爆した昭和29年3月1日から昭和51年6月10日の開館まで、森さんはこの船と船員の方の調査と保存のため奔走された。この協会は今でも市民講座、展示館での有名な画家の絵画展や、コンサートを開くなど活発な活動が続いている。

文化館での勉強会で質問された方が、広島で被爆した方だった。終わった後森さんはササッとその方に近寄り、丁寧な挨拶をされ名刺を頂いていた。その姿は多くの偉業を成しとげた偉い人ではなく、広島で被爆した一市民になっていたように思った。森さんはご自分の全てと言っていいほどの時間を使って、多くの方との出会いを積み重ねてあの沢山の人脉を作られたのだと思う。そしていつも偉ぶることなく相手の目線に合わせてくださる方でした。

時が過ぎ、原産の特別顧問を退任となった時、体調を崩された。長い間の重荷をドツと下ろされたからだろうか、いいえそうではなかった。まだ言い残した事、やり残したことが沢山あって、森さんの中ではまだ力があつたのだから。同じ時奥様が病気で入院され、森さんは「私は家内の作るものでないと駄目なんですよ」とおっしゃって、ご自宅の近くの療養型の病院に入られた。そこからオフィスに通われていた。お見舞いに何をお持ちしようか考え、少しゆっくりにして頂きたかったので、普段お読みにならないような軽い本をと思い、私が好きな作家のエッセイ本を何冊もお持ちした。内容も解らないものを何冊もなんて、予想通りあまり歓迎のご様子ではなかった。でも、後で「1冊だけ置いて後は親戚の者に持って帰ってもらったんだよ、でも面白かったのでまた持ってきてもらったよ」と。全部読んでくださったのだ。小坊主としては小さくガッツポーズをしたのでした。森さんに気に入って頂けると自信があつたのです。

森さんが亡くなられて、初めてご自宅へお邪魔した時、感じた空気感は今でも忘れられない。清められたお寺のように澄んでいて、温かくて、居心地がよくて。その時「あの事が」何だったのか解った気がした。それはUCN会を立ち上げた時、その銀行口座を作るため、銀行で森さんと言葉もなく並んで椅子

に座った時、私の頭なのか、体なのか、スーと通り抜けるものがあって、その後スッと疲れがとれたような初めての不思議な感覚。何と表現したらよいか解らないが、それがご自宅へお邪魔した時に解ったのです。森さんと奥様が作り上げた家庭の空気。特に奥様が作られたもので、あの天才的森さんと一緒に生活する事の大変さ、夫と言うよりも一人の息子でしたと奥様は話される。子供を育てるように毎日毎日ベストな状態でいられるように心を配り。多忙だった頃の森さんは、それは大変だったようです。財界や政界の手ごわい人たちを動かすのですから、その精神的疲労がどれ程のものだったのか、想像がつかないほど重かったと思います。そんな時奥様は全力でしっかり受け止め、癒していらした。ただ、奥様はそれだけではなく、芸術の世界に興味の域をはるかに超えてしまった位置をお持ちだ。才能のある方なのでこの二つの世界を上手に切り替えてこなしてこられた。お二人はどちらがどちらに影響を受けたというのではなく、才能のあるお二人が会って、当たり前のように難題を解いてこられた。そんなお二人にどうしても「精進」という言葉が出てきてしまう。「あの時」の感じは、その空気が奥様から森さんを通して私に届いたのでしよう。私はこの年齢になって初めて、二人の「師」に出会えたのです。

私は昭和30年生まれ、正に「鉄腕アトム」の時代に育ちました。「鉄腕アトム」は昭和26年から雑誌に掲載され、26年は日米講和条約が交わされた年で、翌27年に電力経済研究所設立、そして、31年に日本原子力産業会議設立となるのです。子供の頃楽しみに見ていたテレビアニメ、遠い未来の事と思っていたものが、実はすでに始まっていた。そのつながりを知った時、夢は科学によって作られ、決して財力ではそれを作る事は出来ない、と強く感じた。「近頃の若い人は」という年齢になってしまったが、努力とか、誠実とか、清貧という言葉は「重いんだよね」という言葉で拒否をする。「軽い」ものが好きなようだ。けれど、どの時代であってもその気持ちは大切であって、森さんが貫かれた原子力の平和利用への思い。何とか次の世代へ繋がって行って欲しいと願います。

森さんが亡くなられた日、前日降った大雪で東京は白く清められていた。

平成になってからの事

森 禮子

昭和64年(1989)1月、昭和天皇が亡くなられ「平成」と年号が改まりました。

大葬当日は荒天で参列から戻った一久は風邪を引き込み、それ以来不調がちになりました。63歳の時です。

翌平成2年2月、出勤途中JR藤沢駅で倒れ、「一時虚血」(疲労によるもの)と診断され一応事無きを得ましたが多忙は続きその後の長男の結婚式でも列席中ずっと目を閉じたままでした。

平成5年の始め頃から種々の症状が出ましたがその都度何とか乗り越え休むことはありませんでした。が、一久の背中には肩甲骨の間に2センチ程の穴になった傷があり、原爆の時に受けたものだと言っていました。それが決って体調の悪くなる時には化膿しました。

6年4月に広島で開かれた「原子力産業会議年次大会」の時も可成りの心労があったようでその傷はいつもより赤黒く腫れて、私は薬を塗りながら“火山の噴火口”のようだと思っていました。19歳の被爆時から蓄積された原子爆弾に対する深い悲しみのマグマは事ある毎に背中の中の傷の小さな噴火口から噴出し、一久の仕事に推進力を与えていたのではないかという気がします。年次大会が終ってから一久の心境に変化が生じたようで、(今思えば“癌”の影響もあったのかも知れません)西宮に住む16歳年長の次兄に会う時間を作りたいから高槻(大阪と京都の丁度中間の所)に行くと云い出しました。その兄は一久が被爆後父、長兄夫婦を失い、母を探して市内を探し回った揚句に倒れ込み3ヶ月の闘病中親代りになった人です。

一久は後に人にも「自分は原爆の時に生まれた」と語っていたようですが次兄は云わばその奇跡的な回生を手助けしてくれたのです。次兄の年齢や一久の健康状態などから思えば無理からぬことでしたから高槻に住んでいた次男の転

勤を機にその空いた家を足場にしようと話し合いました。ところがその矢先、私は深夜庭に迷い込んだ紀州犬にふくらはぎを咬まれ12針縫う怪我をして、その計画が半年延び漸く9月から一久の希望通り週末を高槻で過ごすことが実現しました。そして、その4ヶ月後。

平成7年1月17日阪神・淡路大震災!一久71歳の誕生日。前夜土曜日西宮に兄に会いに行き、泊って行けと云われたが帰って来て眠った未明。飛び起きて、兄の家を見に行くという人に握り飯を10個作って持たせ送り出しましたが、それから10時間何の連絡もなく、ひたすら無事を祈るだけ。電車は勿論動かず、偶然西宮ナンバーのタクシーを見付け、行ける道を迂回し、辿り着いて避難先の小学校で一と足先に来た娘夫婦に引き取られたことを知り一と安心。自分が朝から飲まず食わずだったことも忘れて握り飯全部を避難していた人達に渡したと、高槻に戻って来たのは、もう深夜に近い頃でした。お誕生日だからと買って置いた苺を食べる人を見ながら、私は何も云えませんでした。あの原爆の後、必死に母親を探し廻った記憶が甦えらなかつた筈はないだろうと思ったからです。その後は高槻の家が兄夫婦の役に立ち、我々夫婦も週末に通うことを続けました。その間通常の数値をはるかに超えた前立腺癌(余命5年と云われた)の治療法も放射線照射でということになって余程の覚悟をしたものと思われませんが外見からはうかがえませんでした。

平成9年韓国政府から「大韓民国国民勲章『石榴章』を授与する」という報せがあり、大田での受章式に行きました。

平成11年中国・西安の草堂寺と広島の菩提寺国前寺との「友好調印」を取りまとめました。両寺にある法華経訳者の鳩魔羅什像の縁に由るもので両寺上人の訪中・訪日を経て実現されたものでした。

平成15年8月に狭心症が見付き冠動脈にステントを埋めこみました。

平成16年、昭和31年から関わった「日本原子力産業会議」を退きましたが直後旧知の方々と「UCN会」を立ち上げ50年来のまま新橋まで通い続けました。

18年私は十二指腸潰瘍・結腸癌と診断されて10月に手術。同時期に一久はヘルペスを発症して入院することになり、年末は夫婦別々の病院で過ごしました。

19年年明けからはお互いの通院の時には付き添うようになり、一久は事務所へ行かぬ日は家で原稿を書くことが多くなりました。そんな頃、「現代日本史

刊行会」の伊藤隆先生が他の方々取材を通じて「森一久」に興味を持たれ、「オーラル・ヒストリー」を作って下さることになりそれを通じて私の知らない森一久を知ることになったことを感謝しております。

平成22年1月17日、一久84歳の誕生日でした。「『ふきのとう』というのはどんな花か」と云うので「2月半ば頃になると庭にも出てくるけれどどうして」と問い返すと「1月17日の花は『ふきのとう』だとラジオで云っていた」。50年余りも住んでいる家ですが庭のことなど殆ど見たことも無かったのです。少し余裕が出来たのかしらと思いました。

20日11時頃になって「事務所へ行く」と云いました。18日にガンセンター19日に私の病院へ行った後でしたので疲れている筈なのと思い乍ら、「送りましょうか」と云うと、「大丈夫」と出掛けました。が、12時過ぎに電話があり、「新橋駅で転んだ、これから家に帰る」。昨年11月に癌が背骨に転移したと知らされた時「くれぐれも転ばないように」と注意されたことが頭をよぎり不安になりました。車椅子のままタクシーで帰宅、念の為に脳外科の診療を受けましたが「異状はないから2、3日安静にしていなさい」と云われて、でもその2、3日の間に身体にだんだん力が入らなくなり支えても立てなくなりました。25日長男がガンセンターに連絡、嫌がる人をなだめて救急車で築地まで。待ち構えて下さった先生方の診断は肺炎。両肺が真っ白でした。酸素マスクをして毎朝レントゲンを撮り、抗生物質と栄養剤の点滴。マスクを邪魔にして外したがるので片時も目を離すことが出来ませんでした。

入院して丁度10日目の平成22年2月3日、一久の魂は現実の世界を離れました。季節は違いますが時刻は朝の8時15分。19歳の夏休みに京都から広島に帰省し、父母と並んで眠った翌日、広島は地獄になりました。どう想像しようとも及ぶことではありません。一瞬呻いた父の声を聞き身体の上へのしかかった瓦礫や柱を押しつけてやっとのことで抜けだし、母の不在に気付いた。

後に「原爆の落ちた時に生まれた」と語るようになった人が生を閉じたのは正にその時刻であったのは全くの事実なのです。

31歳から84歳で亡くなるまでの半世紀に亘る年月を原子力に関わり続けるこ

とになったのは底知れぬ破壊力を待った「原子爆弾」として人間の前に現れた原子力の嘆きを感じ取った故ではなかろうかと私は思っております。どんな状態になっても立ち直って真っ直ぐに「平和利用」へという念を貫き通そうとする姿に鬼気を感じたこともありましたから。

原子力の力を(死へではなく生の方向へ)と願い「平和利用」といっても単なる利用ではなく自然への畏敬を含むことが根本的なのだということでしょうか。

「平成」という年号の下にあっても、災害・事故・事件で世間は煮え滾っています。平和になることを実現させるのは人間の精神の在り方に依るのでしょう。1月17日の「ふきのとう」の花言葉は「大望」なのだそうです。目に見える身体は失っても一久は存在していると感じています。2月3日は父恒三(つねそう)氏の誕生日で翌日からは春。我が家の庭のふきのとうもそろそろ目覚める頃なので探し当てたに違いない母の分も供えようと思っています。

一久は喜んでくれるでしょうか、遺影は微かな笑みを浮かべているようすが……。

森一久は湯川先生始め多くの方々との不思議なご縁を頂いて生きて来ました。

今回、資料目録を作成して下さった湯川研究室同窓会の菅野先生、長時間に涉って多くの資料を整理して下さい、高田先生、年譜を編んで下さった元原子力産業会議の喜多尾様、その間何かとご協力下さった井上先生、曾我見先生。毎日新聞社の藤原様、亦、折に触れその都度お心を寄せて下さった方々、森一久を知り、関心をお持ち下さる方々、皆様に心から感謝を致しております。有難うございました。

(平成27年1月記)

あとがき

森一久氏が亡くなられた翌年2011年の湯川研究室同窓会の後、メンバー2、3人の間で森氏の残された資料のことが話題になった。日本の原子力史として、秘話を含めて未公表の貴重な資料が含まれているであろうと想像した。氏の活動の場であった原子力産業協会(元の産業会議)は、その資料を整理して残す企画はないと聞いた。そこで、菅野が森夫人にお会いしたとき、資料をどうされるのかお尋ねしたところ、資料として活かすことができるなら保存したいが、その具体策はまだないと言われた。それがきっかけとなり、後日森夫人とお話して、いつの間にか私たち湯川門下の後輩(曾我見、高田)がその任を負うようになった。だが、私たちにはいささか荷が重いので、原産時代の協力者であった喜多尾と、原子核実験の専門家であり森氏との面識もあった井上、また森氏の評伝を纏めつつある毎日新聞の藤原もこの編集に参加することになった。さらに原産時代とUCN会時代の森氏の元秘書、木室さんと津田さんには編集に当たり種々ご協力を頂いた。

こうして、漸く森一久氏の遺された資料をこのような形式で纏めることができた次第である。この資料集が後日活用されるであろうことを期待している。

☒

(森一久資料編集会一同)

森一久資料編集会名簿(アイウエオ順)

井上 信: 京都大学名誉教授、元京都大学原子炉実験所長

喜多尾憲助: 放射線医学総合研究所名誉研究員、元原子力産業会議

菅野 禮司: 大阪市立大学名誉教授、湯川研究室卒業

曾我見郁夫: 京都産業大学名誉教授、湯川研究室卒業

高田容士夫: 会津大学短期大学部名誉教授、湯川研究室卒業

藤原 章生: 毎日新聞編集委員

森一久資料編集会